

# Oracle® Smart View for Office

## User's Guide

リリース 11.1.2.5.400

## 著作権情報

Oracle® Smart View for Office User's Guide, 11.1.2.5.400

Copyright © 2004, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

著者: EPM 情報開発チーム

OracleおよびJavaはOracle Corporationおよびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

Intel, Intel Xeonは、Intel Corporationの商標または登録商標です。すべてのSPARCの商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc.の商標または登録商標です。AMD, Opteron, AMDロゴ、AMD Opteronロゴは、Advanced Micro Devices, Inc.の商標または登録商標です。UNIXは、The Open Groupの登録商標です。

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

### U.S. GOVERNMENT END USERS:

Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション(人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む)への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する場合、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性(redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したこと起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

# 目次

ドキュメントのアクセシビリティについて .....	13
ドキュメントのフィードバック .....	14
<b>第1章. Smart Viewの概要 .....</b>	<b>15</b>
概要 .....	15
Smart Viewのコンポーネント .....	16
リボン .....	16
Smart Viewパネル .....	17
このガイドについて .....	17
<b>第2章. データ・ソース接続の管理 .....</b>	<b>19</b>
接続 .....	19
共有接続とプライベート接続 .....	19
データ・ソースへの接続 .....	20
データ・ソースからの切断 .....	21
共有接続の作成 .....	21
プライベート接続の作成 .....	22
プライベート接続ウィザードの使用 .....	22
クイック接続方法の使用 .....	22
共有接続のプライベート接続としての保存 .....	23
プライベート接続のURL構文 .....	24
接続の変更 .....	26
プライベート接続の変更 .....	27
Officeドキュメント内の接続の変更 .....	27
<b>第3章. デイメンションとメンバー .....</b>	<b>31</b>
デイメンションとメンバーについて .....	31
デイメンションおよびメンバーの命名の制限 .....	31
メンバー・セレクタからのメンバーの選択 .....	32
POVツールバーからのメンバーの選択 .....	35
EssbaseでのPOVツールバーの表示 .....	36
EssbaseにセルベースのPOVを使用したメンバーの選択 .....	38
フリーフォーム・モードでのメンバーの入力 .....	39
属性によるフィルタ .....	40
サブセットによるフィルタ .....	40
期間累計メンバーの選択 .....	41
メンバー・セレクタでのメンバー名の表示の定義 .....	41
メンバー名の重複 .....	42
メンバー・パースペクティブ .....	43
別名および別名表 .....	44
別名表の選択 .....	44
現在のワークシートまたは接続の別名表を選択できます。 .....	44
接続の別名表の選択 .....	44
別の別名表からの別名 .....	45

グリッドでのメンバー名とその別名の表示 .....	45
「メンバー・セレクタ」でのメンバーの表示 .....	46
メンバー情報 .....	46
POVマネージャ .....	46
デフォルトまたはバックグラウンドPOVのメンバーの選択 .....	47
POVのコピーと貼付け .....	48
POVの削除 .....	48
<b>第4章. データおよびデータ・セル .....</b>	<b>49</b>
データの取得 .....	49
データの送信オプションの使用 .....	50
データの送信オプションについて .....	50
データの送信 .....	51
リフレッシュなしのデータの送信 .....	51
データ範囲の送信 .....	52
データの計算 .....	52
Financial ManagementおよびHyperion Enterpriseでのデータの計算 .....	53
Essbaseでのデータの計算 .....	53
データの集計 .....	53
通貨の処理 .....	54
Financial ManagementおよびHyperion Enterpriseでの通貨の換算 .....	54
Planningでの通貨の変更 .....	54
データ・セルでの値の調整 .....	55
データ・パースペクティブ .....	55
ドリルスルー・レポート .....	57
リンク・レポート・オブジェクト .....	58
データ・セルへのリンク・レポート・オブジェクトの添付 .....	58
データ・セルからのリンク・レポート・オブジェクトの起動 .....	59
リンク・パーティション .....	59
セル・コメント .....	60
Planningでのセル・コメント .....	60
Financial Managementでのセル・コメント .....	61
Essbaseのセル・コメント .....	62
Essbaseセル・コメントの有効化 .....	62
シート内のEssbaseセル・コメントの表示 .....	63
Essbaseセル・コメントの編集 .....	63
Essbaseセル・コメントの削除 .....	66
添付ファイル .....	68
セルの履歴 .....	69
<b>第5章. アド・ホック分析 .....</b>	<b>71</b>
アド・ホック分析について .....	71
アド・ホック分析の開始 .....	71
アド・ホック・グリッドでのExcel式の保存 .....	72
アド・ホック・グリッドのフォーマット .....	73
Smart Viewフォーマットの使用 .....	73
Excelフォーマットの使用 .....	73

ズーム・インおよびズーム・アウト .....	74
ズーム・イン .....	74
ズーム・アウト .....	75
デフォルト・ズーム・レベルの設定 .....	75
ズーム時に表示するメンバーの選択 .....	76
ダブルクリックによるズームの有効化 .....	76
ズームとフォーマット .....	76
式を含むセルでのズーム操作 .....	77
ピボット .....	77
行と列の間のディメンションのピボット .....	78
グリッドとPOVツールバーの間のディメンションのピボット .....	79
選択したメンバーのグリッドからの除去 .....	79
行と列の挿入 .....	80
繰返しメンバーの表示および抑制 .....	80
ワークシート上の複数のグリッド .....	82
複数グリッド・ワークシートの作成 .....	82
アド・ホック・ワークシートの複数グリッド・ワークシートへの変換 .....	83
複数グリッド・ワークシートでの接続の変更 .....	83
Essbaseの複数グリッド・ワークシート上のPOV .....	83
複数のグリッドの例: バタフライ・レポート .....	83
レポートおよびアド・ホック・グリッドのカスケード .....	84
代替変数 .....	85

## 第6章. データ・フォーム ..... 87

Excelでのフォームの操作 .....	87
Excelでフォームを開く .....	87
フォームでのExcel式 .....	88
ユーザー変数の操作 .....	88
Planningフォーム .....	89
Smart ViewでのPlanningフォームの動作 .....	89
アド・ホック・グリッドをフォームとして保存 .....	90
Planningフォームでのアド・ホック分析の実行 .....	90
Financial Managementデータ・フォーム .....	90
Financial Managementメンバーについて .....	91
Financial Managementメンバーの追加 .....	91
Financial Managementのリンク・フォームの使用方法 .....	91

## 第7章. Smart Viewの一般的な操作 ..... 93

Smart Viewの操作 .....	93
「元に戻す」と「やり直し」の使用法 .....	93
プロバイダ別の「元に戻す」のサポート .....	94
Essbaseの「元に戻す」のサポート .....	94
Financial Managementの「元に戻す」のサポート .....	96
Planningの「元に戻す」のサポート .....	98
元に戻す処理とやり直し処理の数の指定 .....	99
コピーと貼付け .....	99
コピーしたワークシートへのメタデータのインポート .....	99

コンテンツのコピー、貼付けおよびリフレッシュ .....	100
Excel、Word、およびPowerPoint間でのデータのコピー .....	101
自動列幅調整の有効化 .....	102
シート情報 .....	102
プロバイダによるシート情報サポート .....	103
Essbaseのシート情報サポート .....	104
HFMのシート情報サポート .....	104
Planningのシート情報サポート .....	105
ドキュメント・コンテンツ .....	106
共有ワークブック .....	114
Smart Viewで大きいワークブックを開く .....	114
ヘッダーおよびフッターへのPOVメンバーの印刷 .....	115
Smart Viewの使用可能/使用不可 .....	115
Smart View内でのSmart Viewの使用不可 .....	115
Microsoft OfficeでのSmart Viewの使用可能/使用不可 .....	115

## 第8章. スマート・クエリー ..... 117

スマート・クエリーについて .....	117
スマート・クエリーの作成 .....	117
セットの定義 .....	117
セットのフィルタの定義 .....	119
スマート・クエリーの構築 .....	119
スマート・クエリーの完了 .....	121
スマート・クエリーを開く .....	122
コピーと貼付け .....	122
Excelでのスマート・クエリー定義のコピー .....	122
スマート・クエリーのセットおよびフィルタのコピー .....	123
WordおよびPowerPointへのスマート・クエリー・レポートのコピー .....	123
スマート・クエリー定義の共有 .....	123

## 第9章. スマート・スライス ..... 125

スマート・スライスについて .....	125
スマート・スライスを使用したレポートの作成 .....	125
レポートまたはレポート・オブジェクトの削除 .....	128
スライダ .....	128
1つの問合せからのスライダの作成 .....	128
結合問合せからのスライダの作成 .....	128
スマート・スライス、アド・ホック分析、およびフォーム .....	129
スマート・スライスの作成 .....	129
スマート・スライスのデータ境界の設定 .....	129
スマート・スライスのプリファレンスの設定 .....	130

## 第10章. クエリー・デザイナーおよびMDX問合せ ..... 131

クエリー・デザイナー .....	131
問合せの作成 .....	131
問合せの編集およびレポートの再実行 .....	132
データのフィルタ処理 .....	133

クエリー・デザイナーでの時間関連データの分析 .....	133
MDX問合せ .....	134
<b>第11章. タスク・リスト .....</b>	<b>135</b>
タスク・リスト .....	135
Smart Viewパネルからのタスクの操作 .....	135
タスク・リストを開く .....	135
タスク・リストの表示 .....	136
タスクの実行 .....	136
タスクの完了 .....	136
タスク・リスト・レポートの作成 .....	137
タスク・リストとMicrosoft Outlookの統合 .....	137
<b>第12章. Smart ViewおよびPlanning .....</b>	<b>139</b>
Planningの承認 .....	139
プランニング・ユニットのステータスの変更 .....	139
プランニング・ユニットの検索 .....	140
プランニング・ユニットの移動パス .....	141
プランニング・ユニットの注釈 .....	142
不在時のアシスタント .....	142
Planningのジョブ・ステータスのモニタリング .....	142
Planningでのページの検索 .....	143
バージョンのコピー .....	143
複合フォーム .....	144
Planningビジネス・ルールの操作 .....	144
Excelでのビジネス・ルールの起動 .....	144
実行時プロンプトへの入力 .....	145
「フォームの計算」および「通貨の計算」ビジネス・ルールの実行 .....	146
データの分散 .....	146
期間に対するデータの分散 .....	146
特定セルをロックしたデータの分散 .....	147
グリッド分散を使用した値の分散 .....	147
一括割当てを使用した値の分散 .....	148
メンバー式 .....	149
サポート詳細 .....	149
サポート詳細の追加 .....	150
サポート詳細の階層における作業 .....	150
サポート詳細の表示または変更 .....	151
サポート詳細とEssbaseの同期 .....	151
Planningのプリファレンスの設定 .....	152
PlanningへのネイティブExcelフォーマットの保存 .....	152
PlanningフォームでのExcelフォーマットの保存 .....	152
Smart Viewでのフォーマットの表示 .....	153
フォーマットのクリア .....	154
アド・ホック・グリッドからのExcelフォーマットの保存 .....	154
サポートされているネイティブExcelフォーマット .....	154
ネイティブExcelフォーマットおよびPlanningフォームの操作のガイドライン .....	155

オフライン作業 .....	156
フォームのオフライン化 .....	156
オフラインでのフォームの操作 .....	157
Planningサーバーに対するデータの同期 .....	158
オフラインのフォーム定義およびデータのリフレッシュ .....	158

## 第13章. Smart ViewおよびOracle Planning and Budgeting Cloud Service ..... 161

Planningの承認 .....	161
プランニング・ユニットのステータスの変更 .....	161
プランニング・ユニットの検索 .....	162
プランニング・ユニットの移動パス .....	163
プランニング・ユニットの注釈 .....	164
不在時のアシスタント .....	164
Planningのジョブ・ステータスのモニタリング .....	164
Planningでのページの検索 .....	165
バージョンのコピー .....	165
複合フォーム .....	166
Planningビジネス・ルールの操作 .....	166
Excelでのビジネス・ルールの起動 .....	166
実行時プロンプトへの入力 .....	167
「フォームの計算」および「通貨の計算」ビジネス・ルールの実行 .....	168
データの分散 .....	168
期間に対するデータの分散 .....	168
特定セルをロックしたデータの分散 .....	169
グリッド分散を使用した値の分散 .....	169
一括割当てを使用した値の分散 .....	170
メンバー式 .....	171
サポート詳細 .....	171
サポート詳細の追加 .....	171
サポート詳細の階層における作業 .....	172
サポート詳細の表示または変更 .....	173
サポート詳細とEssbaseの同期 .....	173
Planningのプリファレンスの設定 .....	173
PlanningへのネイティブExcelフォーマットの保存 .....	174
PlanningフォームでのExcelフォーマットの保存 .....	174
Smart Viewでのフォーマットの表示 .....	175
フォーマットのクリア .....	176
アド・ホック・グリッドからのExcelフォーマットの保存 .....	176
サポートされているネイティブExcelフォーマット .....	176
ネイティブExcelフォーマットおよびPlanningフォームの操作のガイドライン .....	177

## 第14章. Smart ViewとReporting and Analysis ..... 179

Reporting and Analysisドキュメントのインポート .....	179
ドキュメントの編集およびリフレッシュ .....	180
Reporting and Analysisドキュメントのリフレッシュ .....	181
Financial ReportingとWeb Analysisのインポート・フォーマット .....	182
Interactive Reportingドキュメントのインポート .....	183



ExcelへのInteractive Reportingドキュメントのインポート .....	184
WordおよびPowerPointへのInteractive Reportingドキュメントのインポート」 .....	185
Interactive Reportingドキュメントの編集 .....	185
Financial Reportingドキュメントのインポート .....	186
ExcelへのFinancial Reportingドキュメントのインポート .....	187
WordおよびPowerPointへのFinancial Reportingドキュメントのインポート .....	190
Financial Reportingドキュメントの編集 .....	192
PowerPointドキュメントでのテンプレートの作成 .....	193
PowerPointテンプレートのリフレッシュ .....	194
Production Reportingドキュメントのインポート」 .....	194
ExcelへのProduction Reportingジョブのインポート .....	194
WordおよびPowerPointへのProduction Reportingジョブのインポート」 .....	195
WordおよびPowerPointへのProduction Reportingジョブ出力のインポート .....	196
Production Reportingジョブの編集 .....	196
Web Analysisドキュメントのインポート」 .....	197
Web Analysisドキュメントまたはドキュメント・オブジェクトのインポート .....	197
Web Analysisドキュメントの編集 .....	199
スマート・タグを使用した、Reporting and Analysisドキュメントのインポート .....	199

## 第15章. Smart ViewおよびOracle BI EE ..... 201

Oracle BI EEとSmart Viewについて .....	201
Smart ViewのOracle BI EEの機能およびコンポーネント .....	201
Oracle BI EE拡張機能の有効化 .....	202
Oracle BI EEのWindowsシステム・ロケールの操作 .....	202
複数のOracle BI EEデータ・ソースへの接続 .....	203
Oracle BI EEカタログ .....	204
Oracle BI EEの分析、ビューおよびダッシュボードの操作 .....	206
サポートされているOracle BI EEのビューおよびオブジェクト・タイプ .....	206
表とピボット・テーブルの挿入 .....	208
グラフの挿入 .....	212
サポートされているOracle BI EEのチャートおよびオブジェクトのタイプ .....	214
サポートされていないOracle BI EEのチャートおよびオブジェクトのタイプ .....	215
複合ビューの挿入 .....	215
ダッシュボードの挿入 .....	216
プロンプトの操作 .....	216
ページ・プロンプトの操作 .....	219
ビューのリフレッシュ・プリファレンスの指定 .....	221
ビューのリフレッシュ .....	221
ビューのマスキング・データ .....	223
Oracle BI EEオブジェクトのプロパティの表示 .....	226
Officeアプリケーション間でのOracle BI EEオブジェクトのコピーと貼付け .....	227
BIアンサーでの分析の編集 .....	228
Oracle BIからOfficeへのビューのコピーおよび貼付け .....	228
ビューの編集 .....	228
編集が可能および不可能な対象 .....	228
PowerPointに挿入されたピボット・テーブルの編集 .....	229
その他のガイドライン .....	229
「ビュー・デザイナー」を使用したビューの操作 .....	229

ビュー・デザイナの起動 .....	230
ビュー・タイプおよび表示スタイルの定義 .....	231
ビュー・レイアウトの定義 .....	233
「ビュー・デザイナ」でのビューに対するフィルタ式の定義 .....	234
フィルタ演算子 .....	237
ビューの発行 .....	239
「ビュー・デザイナ」で作成したビューの編集 .....	240
ビューの編集について .....	240
ビューの編集のガイドライン .....	241
編集するビューへのアクセス .....	241
ビューが作成された場所の特定 .....	242
ビューの編集 .....	242
「ビュー・デザイナ」で作成したビューのデータのリフレッシュ .....	243

## 第16章. Smart Viewのオプション ..... 245

Smart Viewのオプションの設定 .....	245
グローバル・オプションとシート・レベル・オプション .....	245
グローバル・オプション .....	245
シート・オプション .....	246
メンバー・オプション .....	247
Planningフォームおよびアド・ホックでサポートされているメンバー・オプション .....	250
Financial Managementフォームおよびアド・ホックでサポートされているメンバー・オプション .....	251
Essbaseアド・ホックでサポートされているメンバー・オプション .....	252
データ・オプション .....	252
Planningフォームおよびアド・ホックでサポートされているデータ・オプション .....	255
Financial Managementフォームおよびアド・ホックでサポートされているデータ・オプション .....	256
Essbaseアド・ホックでサポートされているデータ・オプション .....	257
詳細オプション .....	258
フォーマット・オプション .....	261
Planningフォームおよびアド・ホックでサポートされているフォーマット・オプション .....	264
Financial Managementフォームおよびアド・ホックでサポートされているフォーマット・オプション .....	265
Essbaseアド・ホックでサポートされているフォーマット・オプション .....	265
セルのスタイル .....	266
Planningフォームおよびアド・ホックでサポートされているセルのスタイル・オプション .....	267
Financial Managementフォームおよびアド・ホックでサポートされているセルのスタイル・オプション .....	267
Essbaseアド・ホックでサポートされているセルのスタイル・オプション .....	268
拡張機能 .....	268
サポートされている拡張機能 .....	269
拡張機能の有効化および無効化 .....	270
使用可能な拡張機能の最初のチェック .....	270
拡張機能のインストール .....	271
拡張機能の更新 .....	271
拡張機能のインストールのロギングの有効化 .....	272
拡張機能のダウンロードのデフォルトURLのオーバーライド .....	272
拡張機能のアンインストール .....	273

<b>第17章. 関数</b> .....	<b>275</b>
関数の使用方法 .....	275
関数の作成 .....	276
関数ビルダーでの関数の作成 .....	276
関数の手動作成 .....	283
関数の実行 .....	285
関数内のリンクの修正 .....	285
HsGetValue関数のコピーと貼付け .....	285
関数の説明 .....	287
HsGetValue .....	287
HsSetValue .....	288
HsGetSheetInfo .....	289
HsCurrency .....	290
HsDescription .....	291
HsLabel .....	292
HsGetText .....	293
HsSetText .....	295
HsGetVariable .....	296
スマート・タグを使用した関数へのアクセス .....	297
一般的な関数エラー・コード .....	297
<b>第18章. フリー・フォーム・モード</b> .....	<b>299</b>
フリーフォーム・モードについて .....	299
フリーフォームのガイドライン .....	299
フリー・フォーム・グリッドの例 .....	300
簡易グリッド .....	301
列ディメンション .....	301
スタック・ディメンション .....	302
フリーフォーム・グリッドのコメント .....	303
空白の行および列のコメント .....	304
複雑なコメントを含むグリッド .....	304
コメントの無効な配置 .....	305
グリッドの境界の内側と外側のコメント .....	305
フリー・フォーム・グリッドの式 .....	306
フリー・フォーム・グリッドの属性ディメンション .....	307
フリー・フォーム・レポートの作成 .....	308
フリーフォーム・モードでの属性ディメンションの取得 .....	308
非対称レポートの作成 .....	309
予期しない動作の原因となるアクション .....	310
<b>第19章. Smart View診断</b> .....	<b>311</b>
Smart View診断について .....	311
Smart Viewリボンの診断グループの表示 .....	311
診断機能のカスタマイズ .....	312
Smart View診断ツールの使用 .....	313
診断フォルダの消去 .....	315

<b>付録A. Smart Viewの管理タスク .....</b>	<b>317</b>
拡張機能のインストールおよび更新の管理 .....	317
拡張機能のインストールおよび更新について .....	317
手動更新の拡張機能の構成 .....	318
手動更新の定義されたXML .....	321
手動更新のXMLの例 .....	322
自動更新の拡張機能の構成 .....	323
自動更新の定義されたXML .....	324
自動更新のXMLの例 .....	325
XMLファイルからの共有接続へのアクセス .....	325
ローカルで、またはWebサーバー上でのヘルプのインストールと構成 .....	333
<b>付録B. Smart Viewでの他のアプリケーションの使用法 .....</b>	<b>339</b>
Crystal Ball EPM .....	339
Crystal Ball EPMワークブックの操作 .....	339
ツールバー操作 .....	340
Smart ViewおよびSpreadsheet Add-in .....	340
関数の移行 .....	341
ワークブックの変換 .....	341
1つのワークブックの変換 .....	342
複数のワークブックの変換 .....	342
関数の接続の移行 .....	342
<b>付録C. 情報の検索 .....</b>	<b>345</b>
Smart Viewのアクセシビリティ .....	345
Smart ViewのVBA関数 .....	345
データ・ソースおよびその他の製品 .....	345
Oracle User Productivity Kitの使用 .....	345
<b>付録D. 制限事項 .....</b>	<b>347</b>
全般 .....	347
Essbase .....	348
Planning .....	349
Financial Management .....	350
FDM .....	350
<b>用語集 .....</b>	<b>351</b>

---

# ドキュメントのアクセシビリティについて

---

Oracleのアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility ProgramのWeb サイト <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc> を参照してください。

## Access to Oracle Support

Oracleサポート・サービスでは、My Oracle Supportを通して電子支援サービスを提供しています。詳細情報は <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info> か、聴覚に障害のあるお客様は <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs> を参照してください。

---

# ドキュメントのフィードバック

---

このドキュメントへのフィードバックをお送りください: [epmdoc\\_ww@oracle.com](mailto:epmdoc_ww@oracle.com)

次のソーシャル・メディア・サイトでEPM情報開発をフォローできます:

LinkedIn - [http://www.linkedin.com/groups?gid=3127051&goback=.gmp\\_3127051](http://www.linkedin.com/groups?gid=3127051&goback=.gmp_3127051)

Twitter - <http://twitter.com/hyperionepminfo>

Facebook - <http://www.facebook.com/pages/Hyperion-EPM-Info/102682103112642>

Google+ - <https://plus.google.com/106915048672979407731/#106915048672979407731/posts>

YouTube - <http://www.youtube.com/user/OracleEPMWebcasts>

# 1

## Smart Viewの概要

### この項の内容:

概要 .....	15
Smart Viewのコンポーネント .....	16
リボン .....	16
Smart Viewパネル .....	17
このガイドについて .....	17

### 概要

Oracle Smart View for Officeでは、オンプレミス・プロバイダおよびOracle Planning and Budgeting Cloud Servicesの両方のデータ・ソースを操作できます。

Smart Viewを使用することで、Microsoft Excel、Word、OutlookおよびPowerPointを使用して、様々なデータ・ソースからのデータを表示、インポート、操作、配布、共有できます。

### オンプレミス・プロバイダ用のSmart View

Smart Viewオンプレミスは、次のデータ・ソースに対するMicrosoft Office共通のインタフェースになります:

- Oracle Essbase
- Oracle Hyperion Financial Management
- Oracle Hyperion Planning
- Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace
- Oracle Hyperion Reporting and Analysis
- Oracle Hyperion Financial Close Management
- Oracle Hyperion Enterprise(R)

また、Smart Viewオンプレミスでは、複数の拡張機能がサポートされています。詳細は、[268ページの拡張機能](#)を参照してください。

### Oracle Planning and Budgeting Cloud Service用のSmart View

Smart Viewは、Oracle Planning and Budgeting Cloud Serviceに対するOffice共通のインタフェースにもなります。Oracle Planning and Budgeting Cloud Serviceに接続されたSmart Viewでは、次のデータ・ソースおよび拡張機能を使用できます:

- Planning
- Oracle Hyperion Financial Reportingの拡張機能
- 予測プランニング拡張機能
- プランニング管理拡張機能

このガイドでは、Planning for Oracle Planning and Budgeting Cloud Serviceについても説明しています。前述の拡張機能は、それぞれのガイドで説明されています(詳細はOracle Cloudヘルプ・センターを参照)。

また、このガイドにおいて、Financial Reportingへの参照は、オンプレミスおよびOracle Planning and Budgeting Cloud ServiceバージョンのFinancial Reportingの両方に適用されます。

## Smart Viewのコンポーネント

Oracle Smart View for Officeの基本コンポーネントはリボンとSmart Viewパネルで、データ・ソースへの接続やSmart View機能へのアクセスが可能です。

表示されるコンポーネントは、開いているMicrosoft Officeアプリケーションによって異なります。

## リボン



注:

Smart Viewは、Microsoft Office 2007以降のリボン構造で最適に機能するように設計されています。

OfficeアプリケーションでSmart View機能にアクセスするには、リボンのコマンドを使用します。Smart Viewのリボンは常に存在し、Smart Viewの共通操作と、Reporting and Analysisの操作に関するコマンドが含まれています。Reporting and AnalysisまたはFinancial Close Management以外のデータ・ソースに接続すると、対応するデータ・ソースのリボンも表示されます。各リボンには、そのデータ・ソースとモードでサポートされているコマンドのみが表示されます。Planning、Financial Management、およびHyperion Enterpriseでは、アド・ホック分析に切り替えると( [71ページの第5章](#)参照)、データ・ソースのリボンがそのアド・ホックバージョンにより置き換わります。リボンは次のとおりです:

- **Smart View**
- Essbase
- **Planning**
- **Planning**アド・ホック
- **HFM** (Financial Management )
- **HFM**アド・ホック
- **Enterprise** (Hyperion Enterprise)
- **Enterprise**アド・ホック
- **Oracle BI EE**



- **その他:** 管理者がSmart Viewシステムを拡張機能付きでインストールおよび構成した場合は、その他のリボンがある場合があります。たとえば、スマート・クエリーやOracle Hyperion Disclosure Managementなどです。

## Smart Viewパネル

Smart Viewパネルからは、データ・ソース接続の管理、データおよびタスクのリストへのアクセス、レポートの作成を実行できます。

Oracle Crystal Ball Enterprise Performance Managementワークブックを開く(Crystal Ball EPMまたは関連製品のライセンスがある場合)こともできます。

Smart ViewパネルはSmart Viewのリボンから開かれ、デフォルトではMicrosoft Officeアプリケーションの右側に表示されます。タイトル・バーの下矢印から、Smart Viewパネルを移動、サイズを変更、閉じることができます。

Smart Viewパネルには次のペインが含まれます:

- **ホーム** - 共有接続およびプライベート接続へのリンクと最後に使用した項目(アド・ホック・グリッド、フォーム、タスク)のリストが表示されるパネルで、この項目をクリックすると接続を確立できます。
- **共有接続** - Oracle Hyperion Shared Servicesから使用できる接続のドロップダウン・メニューと、現在選択されている接続のコンテンツのツリー表示です。
- **プライベート接続** - ローカル・コンピュータに保存されている使用可能な接続のドロップダウン・メニューと、現在選択されている接続のコンテンツのツリー表示です。ここでURLを入力してデータ・ソースに直接接続することもできます。
- **タスク・リスト** - タスクの管理が可能なタスクのツリー・リストです。このペインが開くのは、「共有接続」または「プライベート接続」からタスク・リストを選択したときのみです。
- **アクション・パネル** - 共有接続、プライベート接続またはタスク・リストのツリー・リストでの選択に基づき使用可能な操作のリストです。
- **ドキュメント・コンテンツ** - 現在のOfficeドキュメントに存在する接続とコンテンツのビューを提供する、Smart Viewパネルのタスク・ペインです。
- **その他** - 管理者がSmart Viewシステムを拡張機能付きでインストールおよび構成した場合は、その他のパネルが存在する場合があります; たとえば、スマート・クエリーやCrystal Ball EPMワークブックなどです。

## このガイドについて

このガイドには、オンプレミス・プロバイダおよびOracle Planning and Budgeting Cloud Serviceプロバイダの両方に該当する情報が記載されています。

このガイド全体をとおして、特に記載がないかぎり:

- 次の例外を除き、Planningへの参照は、オンプレミスのPlanningおよびPlanning for Oracle Planning and Budgeting Cloud Serviceの両方に有効です:

トピックの冒頭には、サポートされているデータ・ソースがリストされていますが、オンプレミスのPlanningはPlanningと記載されています; Planning for Oracle Planning and Budgeting Cloud Serviceは、Oracle Planning and Budgeting Cloud Serviceと記載されています。

- Financial Reportingへの参照は、オンプレミスのFinancial ReportingおよびFinancial Reporting for Oracle Planning and Budgeting Cloud Serviceの両方に有効です。

# 2

## データ・ソース接続の管理

この項の内容:

接続 .....	19
共有接続とプライベート接続 .....	19
データ・ソースへの接続 .....	20
データ・ソースからの切断 .....	21
共有接続の作成 .....	21
プライベート接続の作成 .....	22
接続の変更 .....	26

### 接続

データ・ソースへの接続や接続の管理、さらにグリッド、フォームおよびタスク・リストのオープンをすべてSmart Viewパネルから行えます。

Smart Viewを管理者がどのように構成したかに応じて、データ・プロバイダおよびOfficeアプリケーションを変更するときに、ユーザー名とパスワードの入力が必要な場合と不要な場合があります。

### 共有接続とプライベート接続

データ・ソースへの接続には、共有接続またはプライベート接続を使用します。

#### • 共有接続

共有接続は次のいずれかです:

- 中央サーバーの場所からアクセスし、複数のユーザーがSmart Viewパネルから使用できます。
- 各Smart Viewクライアント・マシン上またはWebアプリケーション・サーバー上のシステム管理者が作成したXMLファイルに格納されます。ユーザーはSmart ViewパネルからXMLファイルを使用できるようになります。

ユーザーは、共有接続の追加、編集または名前変更を行えませんが、共有接続をプライベート接続として保存し、編集および名前変更することができます。

#### • プライベート接続

プライベート接続とは、共有接続をローカル・コンピュータに保存する、または共有接続に構成されていないプロバイダへのURLを入力することにより作成する接続です。プライベート接続は、作成するとアクティブな接続になります。

# データ・ソースへの接続


次の例外を除き、ワークシートごとに接続できるデータ・ソースは1つのみです:

- Essbase - [83ページの複数グリッド・ワークシートでの接続の変更](#)で説明されているように、1つのワークシートで複数のEssbaseデータベースに接続できます
- Oracle Business Intelligence Enterprise Edition - [203ページの複数のOracle BI EEデータ・ソースへの接続](#)で説明されているように、1つのシートで複数のOracle Business Intelligenceカタログに接続できます

▶ データ・ソースに接続するには:

1. Smart Viewのリボンで、「パネル」をクリックします。

2.

Smart Viewホームから、または  の横の矢印をクリックしたときに表示されるメニューから、次のいずれかを実行します:


- 「共有接続」を選択して、「共有接続」パネルを開き、ドロップダウン・メニューからデータ・ソースを選択します。選択したデータ・ソースに使用可能な接続がツリー・リストに表示されます。




注:

Oracle Planning and Budgeting Cloud Serviceにアクセスする場合は、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspaceのログイン画面が表示されます。Oracle Cloudアイデンティティ・サービス・ドメインの資格証明とアイデンティティ・ドメインを入力し、ドロップダウン・メニューからデータ・ソースを選択します。[20ページのステップ 4](#)に進みます。

使用するURL構文の例は、[21ページの共有接続の作成](#)を参照してください。

- 「プライベート接続」をクリックして、「プライベート接続」パネルを開き、ドロップダウン・メニューから接続を選択します。
  - 「プライベート接続」をクリックします。フィールドにURLを入力し、[Enter]キーを押します。使用するURL構文の例は、[22ページのプライベート接続の作成](#)を参照してください。
  - 「最近使用」の下にある接続名をクリックします。  をクリックすると、アイテムをこのリストに固定できます。
3. 「データ・ソースに接続」で、そのデータ・ソース用のユーザー名およびパスワードを入力します。
4. Smart Viewパネルのツリー・リストで、開くアイテム(フォーム、アド・ホック・グリッド、スマート・スライス、タスク・リストまたはカタログ)をダブルクリックします。

アイテムはグリッドで開くとツリー・ビューで簡単に見つけられるようになります。  の横にある矢印をクリックして、「ワークシート接続の検索」を選択します。

## 注意


次の項目は、Oracle Essbaseのみに適用されます:

- 同じサーバー上の別のアプリケーションに接続する場合でも、外部認証が使用不可の場合は、セキュリティ上の理由から接続のたびにユーザー名とパスワードを指定する必要があります。
- Essbaseデータベースに接続されると、データベースに関連付けられているデータベース・ノートを表示できるようになります。データベース・ノートを表示するには、Smart Viewパネルで、Essbaseデータベースの名前を右クリックして、「データベース・ノート」を選択します。これらのデータベース・ノートは、Smart Viewからは編集できません。データベース・ノートは、VBA関数HypGetDatabaseNoteを使用してVBAに実装できます(*Oracle Smart View for Office開発者ガイド*を参照)。

## データ・ソースからの切断

現在の接続またはすべての接続から切断できます。

▶ 現在の接続のみから切断するには:

1. Smart Viewパネルのツリー・リストで、現在開いている接続を選択します。
2. オプション: この接続を簡単に検索するには、の横にある矢印をクリックし、「ワークシート接続の検索」を選択します。
3. 右クリックして「切断」を選択します。

現在の接続から切断しても、シングル・サインオン(SSO)は無効になりません。

▶ 接続されているすべての共有接続およびプライベート接続から切断するには:

1. Smart Viewパネルで、をクリックします。
2. 「すべて切断」を選択します。

これを選択するとSSOが無効になり、次回接続するときには再度ログインが必要になります。

## 共有接続の作成

Smart View管理者によって提供される接続URLを使用して、共有接続を作成します。

接続URL情報がある場合、このトピックの手順を完了できます。

▶ Smart Viewで共有接続を作成するには:

1. Smart Viewのリボンから、「オプション」をクリックします。
2. 「オプション」ダイアログ・ボックスで、「詳細」タブを選択します。
3. 「共有接続URL」テキスト・ボックスに、Smart View管理者によって提供される接続URLを入力します。

URL構文は次のとおりです:

```
http://<server>:<port>/workspace/SmartViewProviders
```

各データ・ソースで必要なURL構文の完全なリストは、[24ページのプライベート接続のURL構文](#)を参照してください。

4. 「OK」をクリックして、「オプション」ダイアログ・ボックスを閉じます。
5. [20ページのデータ・ソースへの接続](#)の手順に従って接続します。

## プライベート接続の作成

次の方法でプライベート接続を作成できます:


[22ページのプライベート接続ウィザードの使用](#)

[22ページのクイック接続方法の使用](#)

[23ページの共有接続のプライベート接続としての保存](#)

## プライベート接続ウィザードの使用

▶ ウィザードを使用してプライベート接続を作成するには:

1. Smart Viewのリボンで、「パネル」をクリックします。
2. Smart Viewパネルから、の横にある矢印をクリックして、「プライベート接続」を選択します。
3. アクション・パネルで、「新規接続の作成」をクリックして、接続の追加ウィザードを表示します。

または、の隣の矢印をクリックし、「新規接続の作成」を選択します。

4. 「接続の追加 - URL」で、プライベート接続のURLを入力し、「次」をクリックします。

[24ページのプライベート接続のURL構文](#)の構文のガイドラインに従います。


5. 「接続の追加 - アプリケーション/キューブ」で、操作するアプリケーションおよびデータベースに移動してそれを選択し、「次」をクリックします。
6. 「接続の追加 - 名前/説明」で、接続のわかりやすい名前およびオプションの説明を入力します。
7. 「終了」をクリックします。
8. **オプション:** プライベート接続を選択するには、Smart Viewパネルの「接続」テキスト・ボックスのドロップダウン矢印をクリックします。

プライベート接続はプロバイダ・タイプ別にリストされます。

## クイック接続方法の使用

URLがわかれば、クイック接続方法を使用してプライベート接続を作成できます。通常、URLはSmart View管理者によって提供されます。

▶ クイック接続方法を使用してプライベート接続を作成するには:


1. Smart Viewのリボンで、「パネル」をクリックします。
2. Smart Viewパネルから、の横にある矢印をクリックして、「プライベート接続」を選択します。

3. テキスト・ボックスに、接続先データ・ソースのURLまたはローカル・ストレージ・ディレクトリを入力します。

図1 クイック接続の作成時にURLを入力するテキスト・ボックス




様々なデータ・ソースのURL構文は、[24ページのプライベート接続のURL構文](#)にリストされています。使用するURLについては、システム管理者に問い合わせてください。

4.  をクリックします。
5. Smart Viewパネルのツリーを展開し、操作するアプリケーションおよびデータベースに移動します。

ログインするよう求められたら、ログイン資格証明を入力します。

## クイック接続のリストの削除

クイック接続のリスト全体を削除するには、 の隣の矢印をクリックし、「クイック接続URLエントリのクリア」を選択します。

## 共有接続のプライベート接続としての保存

管理権限なしに共有接続を作成することはできませんが、共有接続がプライベート接続に対して使用可能である場合、プライベート接続として保存できます。

- ▶ 共有接続からプライベート接続を作成するには:
1. 「共有接続」ツリー・リストから、プライベート接続として保存するアイテムを選択します。
  2. アクション・パネルで、「プライベート接続への追加」を選択します。

このオプションは、選択したアイテムをプライベート接続として保存可能である場合のみ使用可能です。

3. オプション: 「プライベート接続として保存」で、接続の名前と説明を編集します。
4. 「OK」をクリックします。

接続名が次の場所に表示されます:

- 「共有接続」ツリー・リストに小さい矢印でプライベートとして示される
  - 「プライベート接続」ドロップダウン・メニュー
5. 現在のワークシートが確実に新しく作成したプライベート接続に接続されるようにするには、Smart Viewのリボンで「接続」、アクティブ接続の順にクリックし、新規接続名の横にあるチェック・ボックスを選択します。

または、Smart Viewの操作を実行する(たとえば、アクション・パネルで、「アド・ホック分析」を選択する)と、自動的に接続されます。

## プライベート接続のURL構文

このトピックでは、プライベート接続の作成に必要な構文をリストします。

オンプレミス:

- Financial Management:

○Financial Management 11.1.2.4.x以降:

```
http(s)://  
servername  
:  
port  
/hfmadf/../../hfmadf/officeprovider
```

○Financial Management 11.1.2.3.x以前:

```
http(s)://  
servername  
:  
port  
/hfmofficeprovider/hfmofficeprovider.aspx
```

- Hyperion Enterprise:

```
http://  
servername  
:  
port  
/heofficeprovider/heofficeprovider.aspx
```

- Planning:

```
http(s)://  
servername  
:  
port  
/HyperionPlanning/SmartView
```

- Essbase:

```
http(s)://
```



```
servername  
:  
port  
/aps/SmartView
```

- Reporting and Analysis:

```
http(s)://  
servername  
:  
port  
/raframework/browse/listXML
```

- Financial Close Management:

```
http://  
servername  
:  
port  
/fcc/servlets/smartview/fcmsvservlet
```

- Oracle Hyperion Strategic Finance:

```
http://  
servername  
:  
port  
/StrategicPlanning/SmartView
```

- Oracle BI EE:

```
http://  
servername  
:  
port  
/analytics/jbips
```

Oracle Planning and Budgeting Cloud Service:

- Planning for Oracle Planning and Budgeting Cloud Service

```
http(s)://  
servername  
:  
port  
/HyperionPlanning/SmartView
```

- レポート設定

```
http(s)://  
servername  
:  
port  
/raframework/browse/listXML
```

## 接続の変更

接続の変更は、プライベート接続の変更またはOfficeドキュメント内の個別のエンティティの接続情報の変更の2つの方法で行えます。

- **プライベート接続を変更します。**プライベート接続を変更して、接続に関連付けられたすべてのデータ・プロバイダのサーバー、アプリケーションまたはデータベース情報を変更できます。

接続情報は、接続されているか否かにかかわらず変更できます。

たとえば、プライベート接続を使用してテスト環境で操作できます。本番環境に移行する準備ができれば、そのプライベート接続のサーバー情報を変更して、新しい環境にアクセスします。

この手順は、[27ページのプライベート接続の変更](#)で説明します。

- **ドキュメント内の個別のエンティティ接続情報を変更します。**「ドキュメント・コンテンツ」パネルを使用して、ドキュメント内の個別のエンティティの接続情報を変更できます。シートごとに接続を変更できます。または、複数のエンティティを含むシートで、1つ以上の個別のエンティティのサーバー接続を変更できます。

たとえば、Oracle Business Intelligence Enterprise Editionへの接続中に、10個のグラフを含む複合ビューを挿入したとします。3つのグラフに異なるOracle BI EEサーバーからデータをプルするを考えます。「ドキュメント・コンテンツ」パネルを使用して、3つの各グラフの接続情報を変更し、新規のOracle BI EEサーバーを指定できます。

この手順は、[27ページのOfficeドキュメント内の接続の変更](#)で説明します。





注:

接続情報を変更する際、指定する新規のデータ・ソースには、前のデータ・ソースのすべてのディメンションとメンバーが含まれている必要があります。新規データ・ソースに欠落しているディメンションまたはメンバーがある場合、リフレッシュ時にエラーが発生します。

## プライベート接続の変更

プライベート接続を変更するには、接続の編集ウィザードを使用します。

▶ プライベート接続を変更するには:

1. Smart Viewのリボンで、「パネル」をクリックします。
2. Smart Viewパネルから、の横にある矢印をクリックして、「プライベート接続」を選択します。
3. テキスト・ボックス内の矢印をクリックして、変更するプライベート接続を選択し、をクリックします。

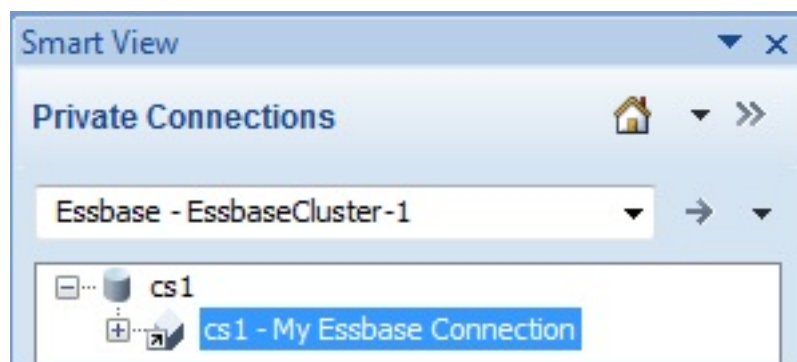


注:

プライベート接続にすでに接続されていても、その接続を変更できます。

4. Smart Viewパネルで、ツリーを展開して接続名に移動し、選択します。

図2 Smart Viewパネルの展開されたツリーと選択された接続名



5. アクション・パネルで「接続の変更」を選択します。

または、プライベート接続名を右クリックして「接続の変更」を選択します。

6. 「接続の編集 - URL」ページで、必要に応じてURLを編集し、「次」をクリックします。

オプションで、「デフォルト接続として設定」チェック・ボックスを選択し、「次」をクリックします。

7. 「接続の編集 - アプリケーション/キューブ」ページで、ツリーの新規アプリケーションとキューブに移動して選択し、「次」をクリックします。

または、「拡張設定」チェック・ボックスを選択し、「サーバー」、「アプリケーション」および「キューブ/データベース」テキスト・ボックスに新規接続情報を手動で入力し、「次」をクリックします。

8. 「接続の編集 - 名前/説明」ページで、必要に応じて接続名と説明を変更して、「終了」をクリックします。

## Officeドキュメント内の接続の変更

「ドキュメント・コンテンツ」ペインから、Officeドキュメント内のSmart Viewオブジェクトの接続を変更できます。これは、異なるサーバーを指定する部門間でOfficeドキュメントを共有する場合や、テスト環境から本番環境に移行する際に便利です。

同じ接続情報を共有するドキュメント内のすべてのエンティティ(特定サーバーの同じアプリケーションやデータベースを指すすべてのワークシートやグリッドなど)の接続プロパティを変更できます。また、シートごとに接続情報を変更することも可能です。

▶ 「ドキュメント・コンテンツ」ペインから接続を変更するには:

1. 「ドキュメント・コンテンツ」ペインで、ドロップダウン・リスト・ボックスからアクションを実行します:
  - 選択したドキュメントからシートを選択します
  - 特定の接続を選択します
  - 「すべての接続」を選択します
2. ペイン下部の「接続の変更」リンクを選択します。

あるいは、接続名またはシート名を右クリックして、「接続の変更」を選択します。また、次のようにして接続を変更することも可能です:

- ワークブック内の全シートの接続を変更するには、「ドキュメント・コンテンツ」で最上位レベルのツリー・ノードの接続名を選択します
- 特定シートの接続を変更するには、特定のシート・レベルのツリー・ノードで接続名を選択します

ウィザードの「接続の編集 - URL」ページが表示されます。

3. 「URL」ドロップダウン・リストで、既存の接続を選択するか、新しい接続URLを入力します。
4. 「次へ」をクリックして、「接続の編集 - アプリケーション/キューブ」で「サーバー」を展開し、プロバイダの要求に応じて、接続先のアプリケーションおよびデータベースに移動します。

または、「拡張設定」チェック・ボックスを選択し、プロバイダの要求に応じて、「サーバー」、「アプリケーション」および「キューブ/データベース」に手動で情報を入力します。

たとえば、29ページの図 3には、Essbaseアプリケーションおよびデータベースに接続するためのエントリが表示されます。

図3 接続の編集 - アプリケーション/キューブの拡張設定

Select the application you want to add to the connection. Use 'Advanced Setup' to manually enter connection properties. To select a different server, click Back and enter a new URL

Server: EssbaseCluster-1

Application: Sample

Cube/Database: Basic

Advanced Setup

< Back Finish Cancel Help

5. 「終了」をクリックします。

変更された接続情報は、ワークブックを保存するときに保存されます。



# 3

## ディメンションとメンバー

### この項の内容:

ディメンションとメンバーについて .....	31
ディメンションおよびメンバーの命名の制限 .....	31
メンバー・セレクトタからのメンバーの選択 .....	32
POVツールバーからのメンバーの選択 .....	35
EssbaseでのPOVツールバーの表示 .....	36
EssbaseにセルベースのPOVを使用したメンバーの選択 .....	38
フリーフォーム・モードでのメンバーの入力 .....	39
属性によるフィルタ .....	40
サブセットによるフィルタ .....	40
期間累計メンバーの選択 .....	41
メンバー・セレクトタでのメンバー名の表示の定義 .....	41
メンバー名の重複 .....	42
メンバー・パースペクティブ .....	43
別名および別名表 .....	44
メンバー情報 .....	46
POVマネージャ .....	46

## ディメンションとメンバーについて

ディメンションは、ビジネス・データを整理して値の取得と保存ができるようにするために使用するデータ・カテゴリです。ディメンションには通常、内部でグループ化された関連メンバーの階層が含まれています。たとえば、年ディメンションには、四半期や月など期間ごとのメンバーが含まれています。

グリッドのメンバーは、データ・ソースのリボンにある「メンバー選択」ダイアログ・ボックスから、またはPOVツールバーから選択するか、フリーフォーム・モードを使用してメンバー名を入力します。

## ディメンションおよびメンバーの命名の制限

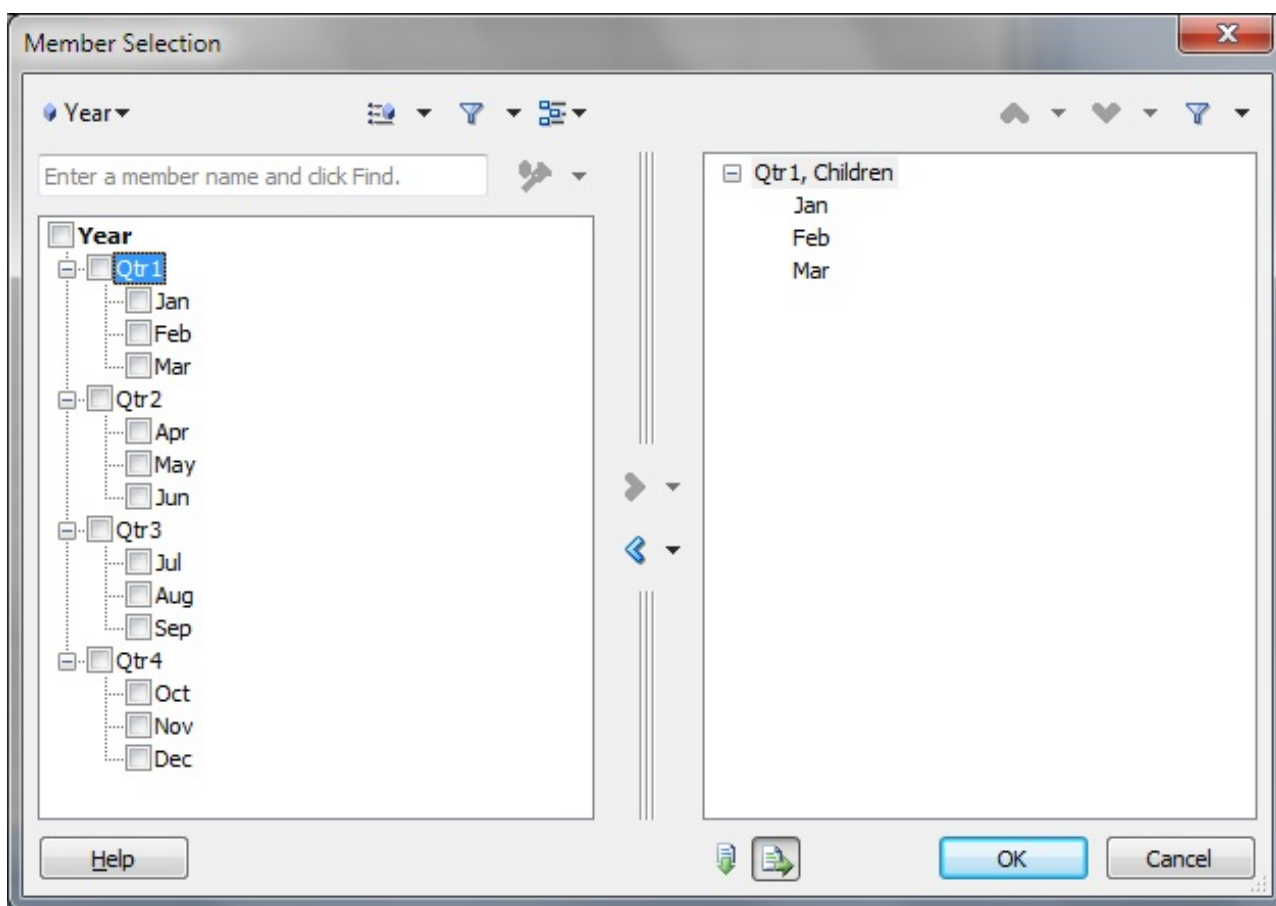
Smart Viewのセル関数( [275ページの第17章「関数」](#)参照)を使用する場合、メンバー名、ディメンション名、変数名にハッシュ記号(#)やセミコロン(; )を使用しないでください。これらの文字は、Smart Viewのセル関数でデリミタとして予約されています。

## メンバー・セレクタからのメンバーの選択

Smart Viewでメンバーを選択する用途には、アド・ホック・グリッド、関数、POVマネージャでの使用や、Planningフォームのオフライン化での使用があります。「メンバー選択」ダイアログ・ボックスには、これら使用する場面によって少しずつ異なるバリエーションがあり、オプションによっては使用できないものもあります。1つのディメンションのメンバーを一度に選択できます。

32ページの図 4は、「年」ディメンションとそのメンバーが例として表示された「メンバー選択」ダイアログ・ボックスを示しています。



図4 「メンバー選択」ダイアログ・ボックス




▶ メンバーを選択するには:

1. 選択したディメンションで使用可能なメンバーのツリー・リストを含む「メンバー選択」ダイアログ・ボックスを表示するには、次のいずれかを行います:
  - グリッドのディメンションまたはメンバーを選択し、「アド・ホック」データ・ソースのリボンから、「メンバー選択」をクリックします。
  - メンバーの選択が可能な「開く」ダイアログ・ボックスで、「メンバー選択」をクリックします。
  - 空のワークシートで、Smart Viewパネルから、キューブ名を右クリックして「メンバー選択」を選択します。このメソッドを使用して、関数と参照のメンバーを選択します( 275ページの第17章「関数」を参照)。
  - Oracle Hyperion Planningフォームでユーザー変数をクリックします。



- Oracle Hyperion Financial Managementフォームで、選択可能なディメンション、行または列をクリックします。
2. 「メンバー選択」でディメンションを変更するには、「ディメンション・セレクタ」ボタン(たとえば、)をクリックして、ディメンションを選択します。
3. オプション: ツリー・リストで特定のメンバーを検索するには、検索フィールドにメンバー名を入力して、をクリックします。

Essbaseでは、アスタリスク(\*)または疑問符(?)をワイルド・カードとして使用します。

4. オプション: の矢印をクリックし、「メンバー選択」ダイアログ・ボックスの右側のペインとグリッドやフォームの両方でメンバーを表示する基準を変更するオプションを選択します:

• **Planning, Oracle Planning and Budgeting Cloud Service:**

- 階層 - メンバーを標準の階層フォーマットで表示します。
- 代替変数 - 「プリファレンス」ダイアログ・ボックスの「ユーザー変数」タブで選択された内容に基づいてメンバーを表示します。



注:


Planningフォームのユーザー変数から「メンバー選択」にアクセスすると、「代替変数」オプションが表示されます。

• **Financial Management:**

- 階層 - メンバーを標準の階層フォーマットで表示します。
- メンバー・リスト - システム生成またはユーザー生成のいずれかのメンバー・リストによってメンバーが表示されます。システム生成のメンバー・リストは、大カッコを使用して指定することにご注意ください(例: [メンバー・リスト名])。


• **Essbase:** 次のオプションを選択します:

- 階層 - メンバーを標準の階層フォーマットで表示します。
- 属性 - メンバーを属性別に表示します。[40ページの属性によるフィルタ](#)を参照してください。
- サブセット - 一連の条件に基づいてメンバーのサブセットを表示します。[40ページのサブセットによるフィルタ](#)。
- 動的時系列 - 累積計算の基礎となる最新期間別にメンバーを表示します。[41ページの期間累計メンバーの選択](#)を参照してください

5. オプション: ツリー・リストで特定のメンバーまたはメンバー・グループを検索するには、をクリックして、次のフィルタのいずれかを選択します(フィルタ・オプションはデータ・ソース・タイプによって異なる可能性があります):

- 「子」は、選択したメンバーの子のみを選択します
- 子を含むは、選択したメンバー、およびその子のみが含まれます
- 「子孫」は、選択したメンバーのすべての子孫を選択します

- ・ 子孫を含むは、選択したメンバー、およびそのすべての子孫が含まれます
  - ・ 「兄弟」は、選択したメンバーのすべての兄弟を選択します
  - ・ 兄弟を含むは、選択したメンバー、およびそのすべての兄弟が含まれます
  - ・ 「親」は、選択したメンバーの親のみを選択します
  - ・ 親を含むは、選択したメンバー、およびその親のみが含まれます
  - ・ 「祖先」は、選択したメンバーのすべての祖先を選択します
  - ・ 祖先を含むは、選択したメンバー、およびそのすべての祖先が含まれます
  - ・ 「基本」は、階層の最下位レベルの階層メンバーのみを選択します
  - ・ レベルは、メンバー階層の1レベルを選択する「レベル」を表示します。
  - ・ 「レベル0子孫」は、選択した中で子のないメンバーのすべての子孫を表示します
  - ・ 世代は、メンバー階層の1世代を選択する「世代」を表示します。
  - ・ **UDA**は、ユーザー定義属性(管理者が定義した場合にのみ使用可能)を選択する「**UDA**」を表示します。
6. オプション: 「メンバー選択」ダイアログ・ボックスのメンバーの表示オプションおよび選択オプションを選ぶに

は、をクリックしてアクションを実行します:

- ・ 適用するメンバーの隣にあるチェック・ボックスにチェック・マークを入れるには、「子のチェック」、「子孫のチェック」または「基本メンバーのチェック」を選択します。
- ・ すべてのチェック・マークをクリアするには、「チェックのクリア」を選択します。
- ・ デイメンションを展開または縮小した状態で表示するには、「すべて展開」または「すべて縮小」を選択します。
- ・ **Essbaseのみ**: メンバーに関する情報を表示するには、メンバーを選択し、「メンバー情報」を選択します。
- ・ 「メンバー選択」ダイアログ・ボックスのメンバーに別名表を適用するには、「別名表」を選択して、別名表を選択します。



「メンバー選択」ダイアログ・ボックスで行った別名表の選択は、そのダイアログ・ボックスにのみ適用され、Officeドキュメントのグリッドには適用されないことに注意してください。

7. 「メンバー」で、使用するメンバーを選択します。

8. をクリックします。

メンバーは、右側のペインでメンバー・ツリー・リストから選択ツリー・リストに移動されます。

9. オプション: 空のワークシートで初めてメンバー選択を行う場合は、次のいずれかのボタンを選択します:

- ・ を選択して、選択したメンバーを列に縦に表示します
- ・ を選択して、選択したメンバーを行に横に表示します

10. 「OK」をクリックします。

選択したメンバーがグリッドに表示されます。

11. リボンから「リフレッシュ」をクリックすると、データは選択したメンバーに対応して更新されます。

## POVツールバーからのメンバーの選択

POVとは、データ・ソース接続におけるディメンションのデフォルトの開始点です。POVツールバーから、グリッドに追加する各ディメンションのメンバーとフィルタを選択し、グリッドに、またはグリッドからメンバーを移動できます。

各接続に関連付けられるのは1つのPOVのみですが、ワークブックの複数のワークシートに対する1つの接続で、異なるPOVを設定することは可能です。

POVは、[46ページのPOVマネージャ](#)の説明に従って管理できます。



注:

Financial Managementには、デフォルトでユーザーの視点が表示されます。詳細は、『*Oracle Hyperion Financial Management ユーザー・ガイド*』を参照してください。

Essbaseのリボンでは、「POV」ボタンの操作は異なります。[36ページのEssbaseでのPOVツールバーの表示](#)を参照してください。

Essbase接続については、[36ページのEssbaseでのPOVツールバーの表示](#)を参照してください。

## POVツールバーからグリッドへのメンバーとディメンションの配置

▶ POVツールバーからディメンションとメンバーを選択するには:

1. 次のいずれかの操作を行います:

- POVツールバーでメンバーの名前を対応するディメンションの上に入力して、POVツールバーで「リフレッシュ」をクリックします。
- POVツールバーでディメンションの横にある下矢印をクリックし、[32ページのメンバー・セレクトタからのメンバーの選択](#)の説明に従ってメンバーを選択します。

2. POVツールバーでメンバーの横にある下矢印を右クリックし、それをグリッドにドラッグします。

メンバーまたはディメンションを編集するためにPOVツールバーに移動するには、そのセルを右クリックしてPOVツールバーにドラッグします。

3. 必要に応じて繰り返して、グリッドに追加するすべてのディメンションとメンバーを配置します。

4. これらのPOV選択をワークシートに保存するには、ワークシートの保存前にリフレッシュする必要があります。

## POVツールバーの非表示

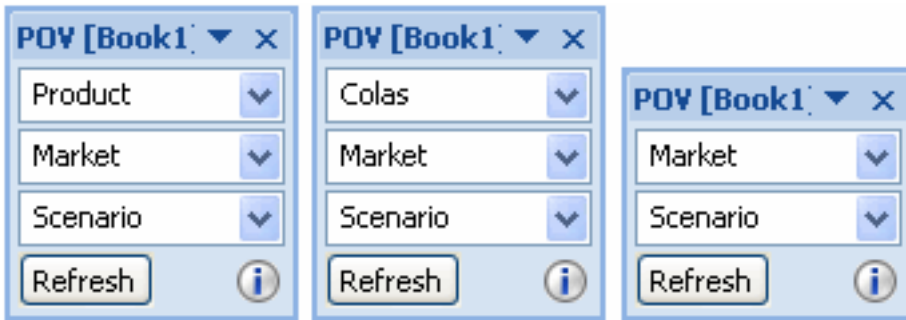
POVツールバーでの作業を終了後、再び必要になるまで非表示にしておくことができます。POVツールバーを非表示にするには、データ・ソースのリボンで「POV」をクリックします。「POV」ボタンにより、POVツールバーの表示と非表示が切り替わります。

## 例

[36ページの図 5](#)には、左から右に、次の条件でPOVが表示されます:

- 「Product」、「Market」および「Scenario」はPOVの開始ディメンションです。
- Colasは、Productのメンバーとして選択されています(ディメンションから一度に複数のメンバーを選択できません)。
- Colasはグリッドに移動されています(ディメンションを編集するために戻すこともできます)。

図5 POV



## EssbaseでのPOVツールバーの表示



注:

このセクションの情報は、Essbase 11.1.2.1.102以降の接続にのみ適用されます。前のリリースのEssbaseを使用している場合、POVボタンは [35ページのPOVツールバーの非表示](#) に記述されているように動作します。

Essbaseでは、グリッドにすべてのメンバーを表示してPOVツールバーを非表示にするか、POVメンバーを含むPOVツールバーを表示するかを選択できます。

デフォルトでは、すべてのメンバーがグリッドに表示され、POVツールバーは非表示になっています。このモードでは、他のメンバーやデータ・セルと同じようにPOVメンバー・セルをフォーマットして、リボンからメンバーを選択できます。

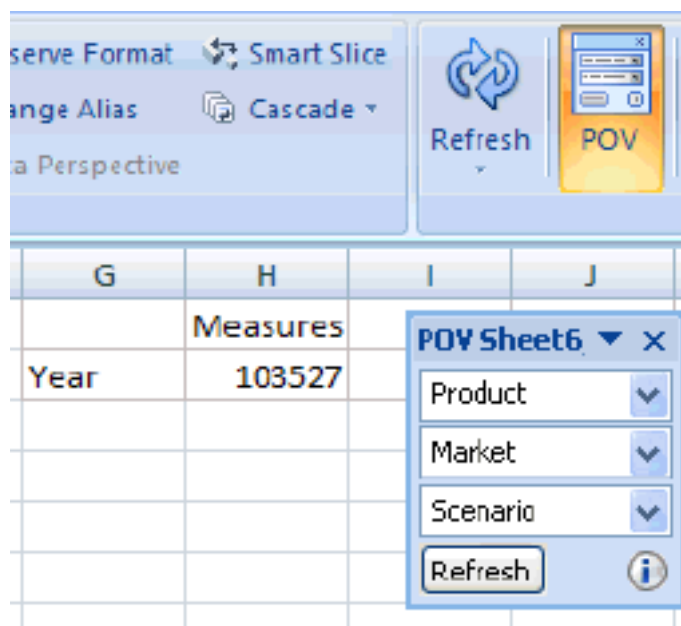
POVメンバーを含むPOVツールバーを表示する場合、POVツールバーを使用してメンバーを選択し、それらのメンバーを [35ページのPOVツールバーからのメンバーの選択](#) の説明に従ってグリッドに移動またはグリッドから移動することができます。

▶ POVツールバーを表示するには:

1. 「Essbase」リボンを選択します。
2. 「POV」ボタンをクリックします。

[37ページの図 6](#)では、POVツールバーがグリッドに表示されています。「メジャー」と「年」がグリッドに表示され、POVメンバー「製品」、「市場」および「シナリオ」がPOVツールバーに表示されています。

図6 POVツールバーの表示



▶ POVツールバーを非表示にし、グリッドにすべてのメンバーを表示するには

1. 「Essbase」リボンを選択します。
2. 「POV」ボタンをクリックして、オフに切り替えます。

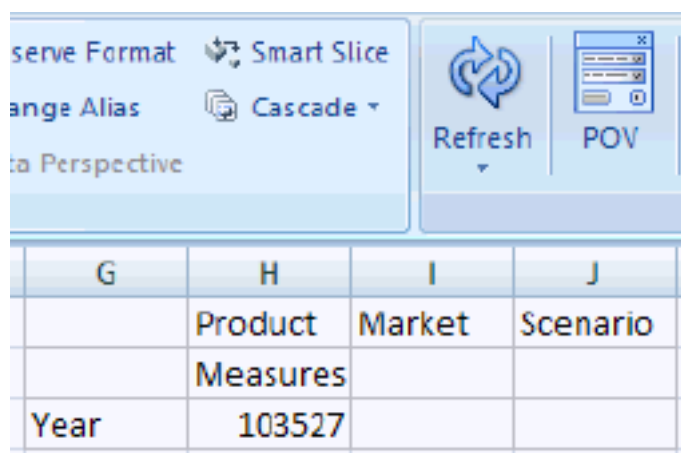


注:

複数のグリッドを含むワークシートでは、「POV」ボタンは使用不可です。複数グリッドのワークシートでは、POVツールバーは非表示で、すべてのメンバーがグリッドに表示されます。

37ページの図7では、「POV」ボタンはオフで、POVツールバーは非表示になっており、すべてのメンバーがグリッドに表示されています。

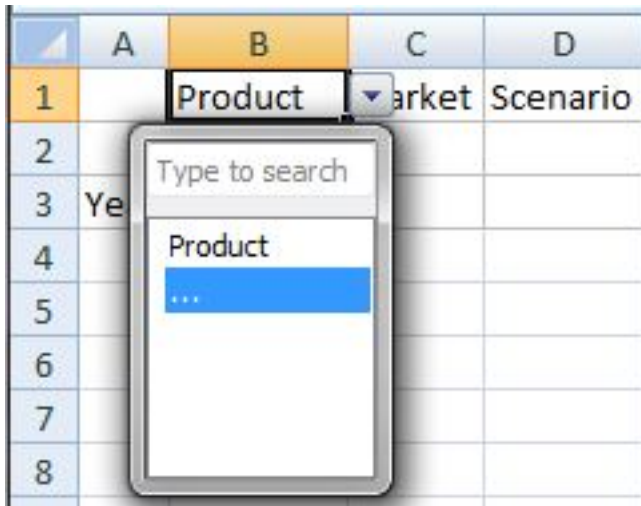
図7 すべてのメンバーをグリッドに表示



## EssbaseにセルベースのPOVを使用したメンバーの選択

POVツールバーを使用せずに、Essbaseグリッドのページ・ディメンションの行のセルからメンバーを直接選択できます。セルベースのPOVは、ページPOVディメンションのセルをクリックし、セルの右側に表示される下矢印を選択すると使用でき、POVツールバーと同じように動作します。

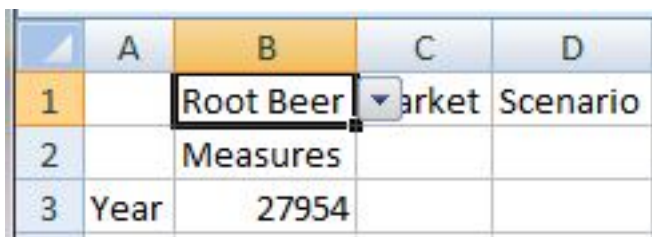
図8 ディメンションのセルの選択と下矢印のクリック



ドロップダウンに表示される省略記号(...)をクリックし、「メンバー選択」ダイアログ・ボックスでメンバーを選択して、「OK」をクリックします。ここで、ディメンションのセルを再度見てください。選択した最初のメンバーがディメンションのセルに表示され、セルベースのPOVの下矢印をクリックして他のメンバーを選択するとそのメンバーが使用可能になります。選択するたびに、「リフレッシュ」をクリックして更新されたデータを表示します。

たとえばProductディメンションに対してSample Basicアプリケーションおよびデータベースを使用して、「メンバー選択」ダイアログ・ボックスで「Root Beer」、「Cream Soda」および「Fruit Soda」を選択すると、38ページの図9に示すように「Root Beer」がディメンションのセルに表示されます。「リフレッシュ」をクリックしてRoot Beerのデータを表示します。

図9 セルベースのPOVを使用したProductディメンションPOVのRoot Beerへの変更

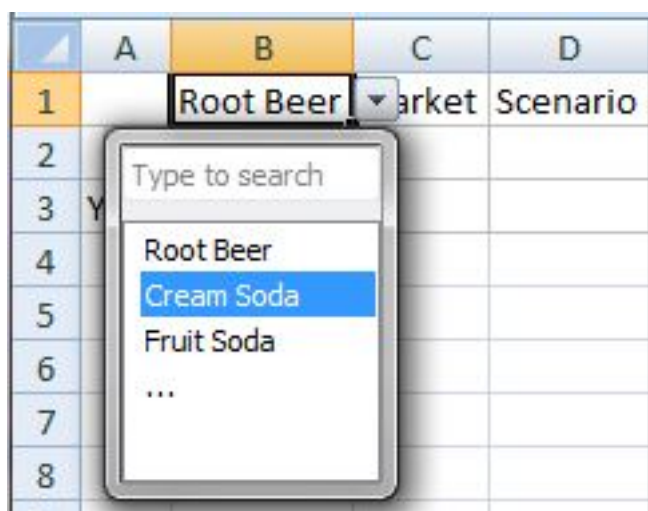


	A	B	C	D
1		Root Beer	Market	Scenario
2		Measures		
3	Year	27954		

ここで、セルベースのPOVの矢印をクリックして、別の項目、たとえばCream Sodaを選択します (39ページの図10)。



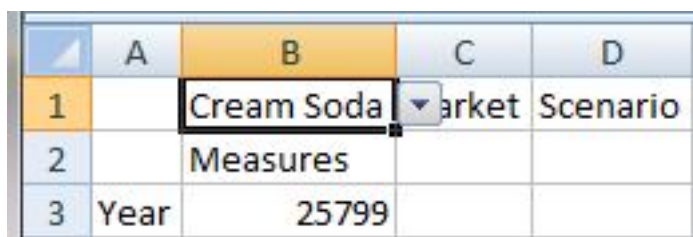
図10 セルベースのPOVを使用したPOVのCream Sodaへの変更



	A	B	C	D
1		Root Beer	arket	Scenario
2				
3	Y			
4				
5				
6				
7				
8				

「リフレッシュ」をクリックしてデータを更新します。データが変更されています( 39ページの図 11)。

図11 リフレッシュされたCream Sodaのデータ



	A	B	C	D
1		Cream Soda	arket	Scenario
2		Measures		
3	Year	25799		

セルベースのPOVドロップダウンの検索フィールドにメンバー名を直接入力することもできます。この場合、一度に選択できるメンバーは1つのみです。「リフレッシュ」をクリックして更新されたデータを表示します。POVを変更するには、その都度、別のメンバー名を検索フィールドに入力します。

Essbaseリボンの「POV」ボタンを切り替えると、引き続きPOVツールバーをこれまでどおり使用できます。選択した場所に関係なく、セルベースのPOVとPOVツールバーの選択項目は自動的に同期されます。別の別名表に変更すると、セルベースのPOVに正しい別名の値が移入されます。



注:

この機能を使用できるのは、EssbaseおよびOracle Hyperion Provider Services 11.1.2.1.102以降がインストールされている場合のみです。

## フリーフォーム・モードでのメンバーの入力

データベースのディメンションとメンバーを詳しく把握している場合、フリーフォーム・モードを使用して、これらの名前を直接セルに入力できます。フリーフォーム・モードでは、現在のグリッドに関連付けられている別名表からの別名を使用できます。別の別名表の別名を入力すると、現在の別名表の別名に戻されます。

データ・ソースへの接続後、次のようにメンバー名を入力できます。

- メンバー名を空白のセルに入力します
- セル内のメンバー名を、同じディメンションの別のメンバーに置き換えます

POV、メンバー選択およびフリーフォーム・グリッドでのその他のアド・ホック操作も引き続き使用できます。299ページの第18章「フリー・フォーム・モード」を参照してください。

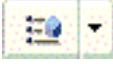
## 属性によるフィルタ

データ・ソース・タイプ: Essbase

属性メンバーを含むディメンションでは属性によるフィルタが可能です。

▶ 属性によってフィルタするには:

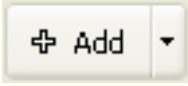
1. グリッドの属性ディメンションを選択し、32ページのメンバー・セレクトタからのメンバーの選択の説明に従って「メンバー選択」を開きます。

2.  をクリックし、「属性」を選択します。

3. 「属性」から、 をクリックします。

4. 「ディメンション」の「サブセット」から、ディメンションを選択します。たとえば、「Ounces」を選択します。

5. 「メンバー」で、属性メンバーを選択します。たとえば、「Ounces\_16」を選択します。

6.  をクリックして、属性を表示します。

7. オプション: 表示された属性を変更するには、「ディメンション」および「属性」の選択項目を変更して、「設定」をクリックします。

8. 「OK」をクリックします。

選択した項目が「メンバー選択」のツリー・リストに表示され、その中からグリッドに追加する項目を選択できます。

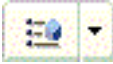
## サブセットによるフィルタ

データ・ソース・タイプ: Essbase

属性メンバーを含むディメンションの場合、属性を選択してその条件を設定し、これらの条件を満たすメンバーのみを表示できます。

▶ 条件によってフィルタするには:

1. グリッドの属性メンバーを選択し、32ページのメンバー・セレクトタからのメンバーの選択の説明に従って「メンバー選択」を開きます。

2.  をクリックし、「サブセット」を選択します。

3. 「ディメンション」の「サブセット」から、属性ディメンションを選択します。たとえば、「Ounces」を選択します。

4. 「メンバー」で、属性メンバーを選択します。たとえば、「True」を選択します。

5.  をクリックします。

6. 「ディメンション」で、別の属性ディメンションを選択します。たとえば、「Pkg Type」を選択します。



7. 「メンバー」で、別の属性メンバーを選択します。たとえば、「Bottle」を選択します。

8.  をクリックします。

AND条件文が作成されます。たとえば、[True] AND [Bottle]などです。

9. オプション: 条件文を変更するには、AND条件文をハイライト表示して「演算子」を選択し、「AND」または「OR」を選択します。

10. オプション: 他の属性を選択し、「追加」、「ルート」の順に選択することで、条件をネストします。

11. 「OK」をクリックします。

選択した項目が「メンバー選択」のツリー・リストに表示され、その中からグリッドに追加する項目を選択できます。

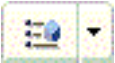
## 期間累計メンバーの選択


データ・ソース・タイプ: Essbase

時間ディメンションでは、「動的時系列」メンバーと呼ばれる期間累計メンバーを設定できます。たとえば、8月末の年次累計データを表示するには、1月から8月までのデータを含む「動的時系列」メンバーを設定します。

▶ 「動的時系列」メンバーを選択するには:

1. グリッドの時間ディメンションを選択し、[32ページのメンバー・セレクタからのメンバーの選択](#)の説明に従って「メンバー選択」を開きます。

2.  をクリックし、「動的時系列」を選択して、使用可能な時系列メンバーをメンバー・ツリー・リストに表示します。

3.  をクリックします。

4. 「DTSメンバーの選択」から、累計計算を実行する最新の期間を選択します; たとえば、**Aug**です。

5. 「OK」をクリックします。

6. オプション: 必要に応じて [41ページのステップ 3](#)から [41ページのステップ 5](#)を繰り返して、他の動的時系列メンバーを追加します。

7. 「OK」をクリックします。

時系列メンバーが、この例のように**Y-T-D(Aug)**としてグリッドに表示されます。リフレッシュすると、8月までの年次累計データが表示されます。

## メンバー・セレクタでのメンバー名の表示の定義

データ・ソース: Financial Management, Planning, Oracle Planning and Budgeting Cloud Service, Hyperion Enterprise

「メンバー名の表示」オプションを選択して、「メンバー選択」ダイアログ・ボックスにメンバー名がどのように表示されるかを変更できます。

このオプションを使用すると、シートでのメンバーの表示方法とは異なる方法で「メンバー選択」ダイアログ・ボックスにメンバーを表示できます。

「メンバー選択」ダイアログ・ボックスで行う選択は、ワークシートでのメンバーの表示方法に影響しません。シート内のメンバーは、「メンバー・オプション」タブの「オプション」ダイアログ・ボックスの「メンバー名の表示」フィールドで選択した設定に従って表示されます。

たとえば、接続しているプロバイダで説明の使用が許可されている場合、「オプション」ダイアログ・ボックスの「メンバー名の表示」フィールドを使用して、ワークシートでメンバー名をその説明とともに表示するように選択できます。次に、「メンバー選択」ダイアログ・ボックスでメンバー名をその説明なしで表示するように選択できます。



注:

Essbaseプロバイダの場合、別名表を使用して、メンバー名の表示を変更します。46ページの「メンバー・セレクタ」でのメンバーの表示を参照してください。

▶ メンバー名の表示方法を定義するには:

1. 32ページのメンバー・セレクタからのメンバーの選択の説明に従って、「メンバー選択」ダイアログ・ボックスを表示します。
2. デイメンションを変更するには、ダイアログ・ボックスの左上にある「デイメンション・セレクタ」ボタンをクリックしてデイメンションを選択します。
3. 「オプション」ボタンをクリックして「メンバー名の表示」を選択し、オプションを選択します:
  - 「メンバー名のみ」を選択すると、修飾名が表示されます。
  - 「メンバー名および説明」を選択すると、修飾名と説明(別名)が同じセルに表示されます。
  - 「説明のみ」を選択すると、別名のみが表示されます(Financial Management, PlanningおよびOracle Planning and Budgeting Cloud Serviceデータ・ソースのみ)



注:

フリーフォーム・モードで「説明のみ」を選択した場合は、最初は修飾名が表示されます。手作業でコメントを追加、除去、または編集してリフレッシュすると、別名が表示されます。

「メンバー・セレクタ」に表示されるメンバー名は、選択内容に応じて変わります。

## メンバー名の重複

データ・ソース・タイプ: Essbase

異なるメンバーに同じ名前が付けられていることがあります。たとえば、データベースに、1つはニューヨーク市、もう1つはニューヨーク州の、2つの"ニューヨーク"という名前のメンバーが存在することがあります。グリッドではどちらのメンバーも"ニューヨーク"と表示できますが、両者を区別する場合は、名前のかわりに修飾名を表示できます。修飾名には、[Market]. [New York]など、メンバー名と、そのメンバーを一意に定義するレベルまでの祖先の名前が含まれます。

▶ 重複するメンバーの修飾名を表示するには:

1. Smart Viewのリボンから、「オプション」を選択し、左側のパネルで「メンバー・オプション」を選択します。
2. 「メンバー名の表示」ドロップダウン・メニューから、個別のメンバー名を選択します。

3. 「OK」をクリックします。
4. グリッドをリフレッシュします。

グリッドで重複するメンバーが、修飾名で表示されます。この例では、ニューヨーク市は[East].[New York]と表示されます。ニューヨーク州はEast、West、Southの兄弟として、[Market].[New York]と表示されます。

	Period
	Stereo
[East].[New York]	15647
Boston	15644
Chicago	15285
East	46576
West	62839
South	24565
[Market].[New York]	22645
Market	133980

## メンバー・パースペクティブ

データ・ソース・タイプ: Essbase


可変属性フィルタを使用してメンバーを選択している場合に、可変属性のメンバー・パースペクティブを指定できます。



注:

メンバー・パースペクティブは、Smart Viewシステムでは使用可能にできません。メンバー・パースペクティブのオプションは、管理者が使用可能にし、構成します。

▶ メンバー・パースペクティブを指定するには:

1. 「メンバー選択」の「フィルタ」で、「可変属性」を選択します。
2.  「フィルタ引数」で、
3. 属性を指定してパースペクティブを設定し、「OK」をクリックします。
4. 「可変属性の引数」(「可変属性」の下)で、省略記号ボタンをクリックします。
5. 「サブセット」の「ディメンション」で、属性ディメンションを入力します。
6. 「メンバー」に属性メンバーを入力し、「設定」をクリックします。
7. 「OK」をクリックします。
8. 「可変属性の引数」の「パースペクティブ」で、省略記号ボタンをクリックします。
9. 「パースペクティブ」で、次のいずれかを選択します:

- 「スナップショット」。可変属性に関連付けられている基本ディメンションのメンバーを識別する、一連の独立ディメンション・メンバー。ここでは、開始ダブルと終了ダブルは同じです。

- ・「**範囲**」。独立ディメンション・メンバーの確定範囲。範囲は、連続する独立ディメンション(たとえば"Year")に対してのみ指定できます。個別の独立ディメンションの場合は、1つの選択のみ行うことができます。

10. 「OK」をクリックします。

## 別名および別名表

データ・ソース・タイプ: Essbase、Planning、Oracle Planning and Budgeting Cloud Service、Financial Management



注:

Financial Managementでは、別名は"説明"と呼ばれます。

別名は、データベース・メンバー名の代替名です。データベース・メンバー名は多くの場合、ストック番号や製品コードで、別名はより記述的に指定できます。たとえば、Sample Basicデータベースでは、データベース・メンバー100の別名はColaです。別名は、データベースの一部として、別名表に保管されます。ディメンションは、複数の別名表に関連付けることができます。

現在のワークシートまたは接続の別名表を選択できます。

## 別名表の選択

データベースで複数の別名表が作成されている場合、現在のワークシートまたはプライベート接続の別名表を選択できます。

### 現在のワークシートまたは接続の別名表を選択できます。

ここで選択する別名表は現在のワークシートにのみ適用され、将来の接続には適用されません。

▶ 現在のワークシートの別名表を選択するには:

1. ワークシートから、データ・ソースに接続します。
2. Essbaseまたはアドホック・リボンから「**別名の変更**」を選択すると、使用可能な別名表のリストが表示されます。
3. ワークシートの別名表を選択します。

新しい別名表が自動的に適用されます。

## 接続の別名表の選択

別名表を選択できるのは、プライベート接続のみです。共有接続の別名表を選択する場合は、まず共有接続をプライベート接続として保存します。[23ページの共有接続のプライベート接続としての保存](#)を参照してください。

プライベート接続に選択された別名表は変更されるまで永久的であり、この接続を使用するたびに使用されます。

▶ 接続の別名表を選択するには:

1. ワークシートから、データ・ソースに接続します。
2. Smart Viewパネルのプライベート接続で、接続名を右クリックして「別名表の設定」を選択します。
3. 接続の別名表を選択します。

次回接続を開くときに、新しい別名表が適用されます。

## 別の別名表からの別名

データ・ソース・タイプ: Essbase

現在のグリッドに関連付けられていない別名表から名前を入力すると、リフレッシュ後に、現在のグリッドに関連付けられている別名表から対応する別名が表示されます。たとえば、ロング名別名に関連付けられているグリッドにQtr1と入力すると、リフレッシュ後に、Quarter1が表示されます。

## グリッドでのメンバー名とその別名の表示

データ・ソース・タイプ: Essbase

Essbaseデータ・ソースに接続されている場合、メンバー名と現在選択されている別名表からの別名を同じ行に表示できます。



注:

この機能は行メンバーにのみ適用され、列メンバーには適用されません。

▶ メンバー名と別名の両方を表示するには:

1. Smart Viewのリボンから、「オプション」を選択し、左側のパネルで「メンバー・オプション」を選択します。
2. 「全般」の「メンバー名の表示」で、「メンバー名と別名」を選択します。

行メンバーについて、メンバー名と対応する別名が表示されます。次の例では、Productデータベース・メンバー名が列Aに、その別名が列Bに表示されています。

	A	B	C
1			Year
2			Measures
3	100	Colas	28473
4	200	Root Beer	27954
5	300	Cream Soda	25799
6	400	Fruit Soda	21301
7	Diet	Diet Drinks	28826
8	Product	Product	103527

## 「メンバー・セレクト」でのメンバーの表示

データ・ソース・タイプ: Essbase

「メンバー・選択」ダイアログ・ボックスのEssbaseメンバー名に別名を表示できます。

▶ 「メンバー・セレクト」にメンバー名を表示するための別名表を選択するには:

1. [32ページのメンバー・セレクトからのメンバーの選択](#)の説明に従って、「メンバー・選択」ダイアログ・ボックスを表示します。
2. デイメンションを変更するには、ダイアログ・ボックスの左上にある「デイメンション・セレクト」ボタンをクリックし、次にデイメンションを選択します。
3. 「オプション」ボタンをクリックして「別名表」を選択し、リストから別名表を選択します。

「メンバー・セレクト」に表示されるメンバー名は、選択内容に応じて変わります。

## メンバー情報

データ・ソース・タイプ: Essbase, Financial Management

グリッド上に、任意のメンバーの詳細情報を表示できます。

▶ メンバー情報を表示するには:

1. グリッドでメンバーを選択します。
2. データ・ソース・アド・ホックのリボンから、「メンバー情報」を選択します。

情報が次のタブに表示されます。メンバーおよび接続に適用できるタブのみが表示されます。

- **情報:** デイメンション、レベル、世代など、メンバーに関する一般情報のリスト
  - **別名:** メンバーに関連付けられている別名表および対応する別名のリスト
  - **属性:** メンバーに関連付けられている属性のデイメンション、メンバーおよびタイプの表
  - **式:** メンバーに関連付けられている式
  - **コメント:** メンバーに関連付けられているコメントのリスト
  - **ユーザー定義属性:** ユーザー定義属性のリスト(管理者によって定義されたメンバーの属性)
3. **オプション:** Excelファイルに情報を保存するには、「保存」を選択します。
  4. 「閉じる」をクリックします。

## POVマネージャ

データ・ソース・タイプ: Essbase, Planning, Oracle Planning and Budgeting Cloud Service, Financial Management

POV (視点)は、フォーム、アド・ホック・グリッドおよび関数の開始点です。Smart ViewでPOVマネージャを使用すると、フォームおよびアド・ホック・グリッドのデフォルトPOV (Essbase, Planning, Oracle Planning and Budgeting Cloud Service)、および関数のバックグラウンドPOV (すべてのデータ・ソース)を変更できます。

POVマネージャで実行できる操作は、次のとおりです:

- デフォルトPOVのメンバーの選択、およびデフォルトPOVの編集(Financial Managementには適用できません)
- 関数のバックグラウンドPOVのメンバーの選択
- POVをワークブックに保存
- POVのコピー、および別のワークシートまたはワークブックへの貼付け
- POVの編集
- POVの削除(Financial Managementには適用できません)



注:

Financial Managementの場合、最後にリフレッシュされたPOV (Financial Management Webインタフェース内またはSmart View内)がデフォルトPOVになり、フォームまたはアド・ホック・グリッドにアクセスする際にSmart Viewで使用されます。

また、Financial Managementでは、POVマネージャは、関数のバックグラウンドPOVの設定にのみ使用できます。

## デフォルトまたはバックグラウンドPOVのメンバーの選択

データ・ソース・タイプ: Essbase, Planning, Oracle Planning and Budgeting Cloud Service, Financial Management

POVマネージャでは、次のようにメンバーを選択できます:

- 指定された接続のアド・ホック・グリッドのデフォルトPOVとして使用するため
- 関数使用時のディメンションのバックグラウンドPOVとして

アド・ホックPOVのメンバーは1,000以下にすることをお勧めします。

アド・ホック・グリッドでの作業を開始する前に、POVのメンバーを選択するか、POVを編集します。

▶ デフォルトPOVのメンバーを選択するには:

1. Smart Viewのリボンから、「関数」、「POVの管理」の順に選択します。
2. POVのリストを展開します。
3. 「アクティブ」POVリストで、POVを変更するアクティブな接続を選択します。
4. 「メンバー・セレクタ」をクリックし、POVに使用するメンバーを選択します。[32ページのメンバー・セレクタからのメンバーの選択](#)を参照してください。

POVマネージャでは、ディメンションごとに1つのメンバーのみを選択できます。別名を使用している場合は、選択したメンバーが失われます。

5. 「閉じる」をクリックします。
6. ワークシートをリフレッシュするには、「リフレッシュ」を選択します。
7. ワークブックにPOVを保存するには、ワークブックを保存します。





注:

アド・ホック・グリッドで作業を開始した後、[32ページのメンバー・セレクトタからのメンバーの選択](#)の説明に従ってメンバーを選択または変更します。

## POVのコピーと貼付け

データ・ソース・タイプ: Essbase、Planning、Oracle Planning and Budgeting Cloud Service、Financial Management

両方のワークブックのデータ・ソースが完全に同じである場合、POVマネージャを使用してワークブック間でPOVをコピーして貼り付けることができます。コピーしたPOVは接続されていないワークシートに貼り付ける必要があります。それ以外の場合、POVは効力を持ちません。

▶ POVをコピーして貼り付けるには:

1. Smart Viewのリボンから、「関数」、「POVの管理」の順に選択します。
2. POVマネージャの左側のウィンドウで「アクティブ」を展開して、コピーするアプリケーション接続を選択します。
3. POVマネージャのツールバーで、「メンバー・セレクトタ」をクリックしてPOVのメンバーを選択します。
4. ワークブックを保存します。
5. POVマネージャのツールバーで、「コピー」をクリックします。
6. POVマネージャの左側のウィンドウで、「保存済」を展開して、POVに貼り付けるワークブックおよびワークシート(空白かつ未接続である必要があります)を選択します。
7. 「貼付け」をクリックします。
8. コピーしたPOVを含むワークシートをリフレッシュします。

## POVの削除

データ・ソース・タイプ: Essbase、Planning、Oracle Planning and Budgeting Cloud Service

▶ ワークブックに保存されているPOVを削除するには:

1. Smart Viewのリボンから、「関数」、「POVの管理」の順に選択します。
2. POVのリストを展開します。
3. 「POV」ドロップダウン・リストから、削除するPOVを含むワークシートを選択します。
4. 削除するPOVを選択します。
5. 「削除」をクリックします。
6. 「閉じる」をクリックします。
7. ワークシートをリフレッシュするには、「リフレッシュ」を選択します。



# 4

## データおよびデータ・セル

この項の内容:

データの取得 .....	49
データの送信オプションの使用 .....	50
データの計算 .....	52
データの集計 .....	53
通貨の処理 .....	54
データ・セルでの値の調整 .....	55
データ・パースペクティブ .....	55
ドリルスルー・レポート .....	57
リンク・レポート・オブジェクト .....	58
リンク・パーティション .....	59
セル・コメント .....	60
添付ファイル .....	68
セルの履歴 .....	69

### データの取得

データ・ソース・タイプ: すべて

Excelでは、Smart Viewリボンの「リフレッシュ」アイコン( 49ページの図 12)を使用して、現在のワークシートまたはワークブックの全ワークシートのデータを取得およびリフレッシュできます。

図12 「リフレッシュ」アイコン



接続されているデータ・プロバイダに応じて、「リフレッシュ」アイコンは、リフレッシュ・オプションを含む分割ボタンまたは単純な1機能の「リフレッシュ」ボタンのいずれかになります。

▶ 「リフレッシュ」を使用するには、次のオプションを選択します:

- 現在のワークシート全体をリフレッシュするには、任意のリボンから「リフレッシュ」をクリックします。

WordまたはPowerPointで「リフレッシュ」をクリックすると、文書またはプレゼンテーションにコピーされたすべてのデータ・ポイントがリフレッシュされます。



注:

複数のグリッドを含むEssbaseワークシートでは、選択したセル範囲のみをリフレッシュすることもできます( [82ページのワークシート上の複数のグリッド](#)を参照してください)。

- **Oracle BI EEの場合のみ:** 現在のワークシート全体のコンテンツをクリアし、最新のメンバーとデータで置換するには、「リフレッシュ」の下矢印をクリックして、「置換およびリフレッシュ」を選択します。
- 現在のワークブックのすべてのワークシートをリフレッシュするには、「リフレッシュ」の下矢印をクリックし、「すべてのワークシートのリフレッシュ」を選択します。

## データの送信オプションの使用

### サブトピック

- [データの送信オプションについて](#)
- [データの送信](#)
- [リフレッシュなしのデータの送信](#)
- [データ範囲の送信](#)

## データの送信オプションについて

データ・ソース・タイプ: すべて

変更されたデータをフォームおよびアド・ホック・グリッドから送信することにより、データ・ソースのデータのすべてのタイプを更新できます。切断中に変更した場合、再接続した後に変更を送信できます。

Smart Viewには、次のデータの送信オプションがあります:

- [データの送信\(51ページ\)](#)
- [リフレッシュせずにデータを送信\(51ページ\)](#)
- [データ範囲の送信\(52ページ\)](#)

## データの送信オプションのガイドライン

- 「データの送信」オプションを使用する場合:
  - 11.1.2.1.102以降のEssbaseリリースに接続している場合、フリー・フォーム・モードで最初にリフレッシュせずにデータを送信できます。
  - 11.1.2.1.102より前のPlanningアド・ホック、Financial Managementアド・ホック、またはEssbaseリリースに接続している場合、フリー・フォーム・モードでは、データを変更する前に、グリッドをリフレッシュする必要があります。
- 「リフレッシュせずにデータを送信」および「データ範囲の送信」オプションを使用すると、Smart Viewをインストールしていないユーザーが変更したセルのセル・データを送信できます。

- 複数のグリッドをサポートするワークシートでは、一度に1つのグリッドでのみ「データの送信」コマンドを実行できません。

一度に複数のグリッドでデータを送信しようとした場合、つまり、複数のグリッドでセル範囲を選択した場合、Excelによって戻された最初の範囲が、選択されたグリッドの判断に使用され、そのグリッドでのみ送信が実行されます。

- フォームからデータを送信する場合:

- Planning、Financial ManagementまたはHyperion Enterpriseのフォームでは、セルまたはセル範囲をロックして、データがリフレッシュまたは送信されるまでデータを保護できます。Financial Managementでは、セルをロックしても実際のデータ・キューブはロックされません。ロックされるのはフォームのセルのみです。データをリフレッシュまたは送信すると、セルのロックは解除されます。
- 一部のセルがすでにフォーム定義に存在しない場合もあります。この動作は、フォームの定義またはアクセス権を変更した場合や、行または列を抑制した場合に起きる可能性があります。そのような場合は、フォームの新しい定義に存在する書込み可能なセルのみが保存されます。この動作は、オンライン・モード、オフライン・モードにかかわらず、セルとサポート詳細の両方の変更に適用されます。
- フォームでの作業中に「データの送信」をクリックした場合、実際には、POVツールバーで選択されている最新のPOVにデータが書き込まれています。POVを変更するたびに、リフレッシュを実行することをお勧めします。リフレッシュによりシートのデータが更新され、最新のPOV変更が反映されます。

## データの送信

データ・ソース・タイプ: すべて

- ▶ データを送信するには:

1. データ・ソースに接続します。
2. オプション: 変更されたセルを識別するには、[266ページのセルのスタイル](#)の説明に従い、ダーティ・セルにセル・スタイルを設定します。
3. **Essbaseのみ:** Essbaseプロバイダ・リボンから11.1.2.1.102より前のEssbaseリリースをフリー・フォーム・モードで操作している場合、「リフレッシュ」を選択します。
4. 必要に応じてデータを変更します。
5. 任意のリボンから「データの送信」を選択します。

ワークシート上のすべてのダーティ・セルが送信されます。



注:

ワークシート上の複数のグリッドを操作する場合、[50ページのデータの送信オプションのガイドライン](#)を参照してください。

## リフレッシュなしのデータの送信

データ・ソース・タイプ: Essbase、Planningアド・ホック、Financial Managementアド・ホック

- ▶ 最初にリフレッシュせずにデータを送信するには:

1. データ・ソースに接続します。

2. オプション: 変更されたセルを識別するには、[266ページのセルのスタイル](#)の説明に従い、ダーティ・セルにセル・スタイルを設定します。
3. 必要に応じてデータを変更します。
4. プロバイダ・リボンから、「データの送信」、「リフレッシュせずにデータを送信」の順に選択します。

セルがダーティであるか否かにかかわらず、シート上のすべてのセルのデータが送信されます。



注:

ワークシート上の複数のグリッドを操作する場合、[50ページのデータの送信オプションのガイドライン](#)を参照してください。

## データ範囲の送信

データ・ソース・タイプ: Essbase、Planningアド・ホック、Financial Managementアド・ホック

連続または非連続の単一セルまたはセル範囲を送信できます。

▶ データを送信するには:

1. データ・ソースに接続します。
2. 必要に応じてデータを変更します。

または、Smart Viewを所有しておらず、ワークシートを変更したユーザーから受領したワークブックを開く場合もあります。Smart Viewは、このようなセルをダーティであると検出できないため、どのセルが変更または追加されたかをそのユーザーによって通知してもらう必要があります。

3. オプション: 変更されたセルを識別するには、[266ページのセルのスタイル](#)の説明に従い、ダーティ・セルにセル・スタイルを設定します。
4. 送信するデータ範囲を選択します。

連続または非連続の単一セルまたはセル範囲を選択できます。

5. プロバイダ・コンテキスト・リボン(例:「**Planning**アド・ホック」リボン)から、「送信」、「データ範囲の送信」の順に選択します。

選択したセルのセル・データのみが送信されます。選択したセルの範囲外でシートにダーティ・セルがある場合、変更された値は送信されず、これらのセルはプロバイダで最後に格納されたときの値に戻されます。



注:

ワークシート上の複数のグリッドを操作する場合、[50ページのデータの送信オプションのガイドライン](#)を参照してください。

## データの計算

新しいまたは変更されたデータを送信した後、データベースでデータを計算してその変更を反映する必要があります。データの計算のオプションはデータ・ソースにより異なります。データを計算するには、データへのセキュリティ・アクセス権が必要です。

Planningフォームにおけるビジネス・ルールの計算の詳細は、146ページの「フォームの計算」および「通貨の計算」ビジネス・ルールの実行を参照してください。

## Financial ManagementおよびHyperion Enterpriseでのデータの計算

データ・ソース・タイプ: Financial Management、Hyperion Enterprise

▶ データを計算するには:

1. データを計算するセルまたはセル範囲を選択します。
2. データ・ソースまたはデータ・ソース・アド・ホックのリボンから「計算」を選択し、次のいずれかのオプションを選択します:
  - 選択したセルを計算するには、「計算」を選択します。
  - セル・ステータスにかかわらず選択したすべてのセルに強制的に計算を実行するには、「計算」、「強制計算」の順に選択します。

## Essbaseでのデータの計算

データ・ソース: Essbase

Essbaseで、データベースを計算する計算スクリプトを選択します。計算スクリプトは特定のシステム向けに管理者が作成します。

▶ 計算スクリプトを選択するには:

1. Essbaseのリボンから、「計算」を選択します。  
「計算スクリプト」ダイアログ・ボックスを開きます。
2. 「キューブ」の下で、このアプリケーションが属するデータベースのリストからデータベースを選択します。
3. 「計算スクリプト」で、スクリプトを選択します。
4. 「起動」をクリックします。

ステータス・メッセージにより、計算が成功したかどうかを示されます。計算に失敗した場合は、Essbase管理者に問い合せてください。

## データの集計

データ・ソース・タイプ: Financial Management、Hyperion Enterprise

集計とは、従属エンティティのデータを、親エンティティに集約することです。データを集計するには、そのデータへのセキュリティ・アクセス権を持ち、集計のセキュリティの役割を割り当てられている必要があります。すべてのデータを集計するには、すべて集計のセキュリティの役割を割り当てられている必要があります。

▶ データを集計するには:

1. 集計を実行するセルまたはセル範囲を選択します。
2. データ・ソース・アド・ホックのリボンから「集計」を選択し、次のいずれかのオプションを選択します:
  - 「集計」は、選択したエンティティのデータを集計します。
  - 「すべて集計」は、データが含まれているかどうかにかかわらず、すべてのエンティティのデータを集計します。
  - 「データを含むすべてを集計」は、選択したエンティティを、データが含まれている場合にのみ集計します。
  - 「コントリビューションの計算」は、すべての従属エンティティのコントリビューション値を計算します。
  - 「コントリビューションの強制計算」は、選択したすべてのコントリビューション値について、計算を強制実行します。

## 通貨の処理

### Financial ManagementおよびHyperion Enterpriseでの通貨の換算

データ・ソース・タイプ: Financial Management, Hyperion Enterprise

通貨の換算は、Financial Managementではデータの換算と呼ばれます。エンティティの入力通貨から、アプリケーションで定義された任意の通貨にデータを換算できます。通貨は、親子エンティティの組合せとは関連付けられないため、連結プロセスとは別個に、必要に応じてデータを換算できます。

- ▶ アド・ホック・グリッドでは、データへのセキュリティ・アクセス権を持っている場合、ある通貨から別の通貨に値を変換または換算できます。データを換算するには:
  1. セルまたはセルの範囲を選択します。
  2. データ・ソース・アド・ホックのリボンから「計算」を選択し、次のいずれかのオプションを選択します:
    - 選択したセルを換算するには、「換算」を選択します。
    - 選択したすべてのセルを強制的に換算するには、「換算の強制」を選択します。

### Planningでの通貨の変更

通貨換算が使用可能になっているフォームでは、セルの基本通貨以外の通貨でデータを入力できます。現地通貨として、ドロップダウン・リストの通貨を指定できます。



注:

エンティティの基本通貨をオーバーライドするためには、セルが現地通貨建てで表示されており、そのバージョンがボトムアップである必要があります。また、アプリケーションが複数通貨に対応したアプリケーションであり、フォームが複数通貨をサポートしている必要があります。

- ▶ 基本通貨以外の現地通貨でセルにデータを入力するには:
  1. フォームで、セルの現地通貨メンバーを選択します。

2. オプション: 通貨コードを参照するには、「表示」、「通貨」の順に選択します。

「使用可能な通貨」に、アプリケーションの通貨が表示されます。操作する通貨の通貨コードをメモし、ウィンドウを閉じます。

3. 右の列、HSP\_InputCurrencyで、データ・セルに新しい通貨コードを入力します。

データ・セルに通貨コードを入力することで、エンティティの基本通貨がオーバーライドされます。

4. 「送信」をクリックして、新しい通貨コードをPlanningサーバーに送信します。
5. 左の列、HSP\_InputValueに、データ・セルの通貨値を入力します。
6. 「フォームに関する規則」をクリックして、新しい通貨値を計算して保存するための「通貨の計算」ルールを選択します。

フォームの保存時に「通貨の計算」計算スクリプトが実行されるように設定されており、フォームで複数通貨が使用可能になっている場合は、選択した通貨コードの通貨でデータ値が表示されます。

## データ・セルでの値の調整

データ・ソース・タイプ: すべて

セルに数値データが含まれている場合は、1つ以上のデータ・セルの値を、指定した数値またはパーセンテージによって調整できます。Excelの式を含むセルの値を調整する場合、調整した値により式が上書きされます。

▶ データ値を調整するには:

1. 調整する値を含むデータ・セルをクリックします。
2. データ・ソースのリボンから、「調整」を選択します。
3. 「データの調整」で、次のいずれかのオプションを選択し、セルの値を調整する数値またはパーセンテージを入力します。
4. 「データの調整」をクリックします。

## データ・パースペクティブ

データ・ソース・タイプ: Essbase



注:

データ・パースペクティブは、Smart Viewシステムでは使用可能にできません。データ・パースペクティブのオプションは、管理者がOracle Essbase Administration Servicesで使用可能にし、構成します。

データ・パースペクティブにより、独立した連続および個別ディメンションとの関連で異なるディメンション属性である可変属性のデータの表示に使用する視点を指定できます。たとえば、コーラ製品が年間を通じて複数の異なる地域の市場で缶と瓶の両方で販売されるとします。パッケージ(缶または瓶)が市場によって異なる場合、または1年の間に一方のタイプからもう一方のタイプに変更される場合、パッケージ・タイプは可変属性です。コーラに関連付けられているデータは、1年のうちの時期と市場によって異なります。



▶ データ・パースペクティブを指定するには:

1. **Essbase**のリボンから、「データ・パースペクティブ」を選択します。
2. 「パースペクティブ」の「選択」で、オプションを選択します(オプションの例については、[56ページのデータ・パースペクティブの実例](#)を参照してください)。
  - ・「現実」は、パースペクティブのないデータを表示します。
  - ・「最後」は、連続する独立した各ディメンションの最後のレベル0メンバーのデータを表示します。たとえば、Yearが連続ディメンションで、DecemberがYearの最後のメンバーの場合は、Decemberのデータが表示されます。
  - ・「開始」は、連続する独立した各ディメンションの最初のレベル0メンバーのデータを表示します。たとえば、Yearが連続ディメンションで、JanuaryがYearの最初のメンバーの場合は、Januaryのデータが表示されます。
  - ・「カスタム」は、連続メンバーと個別メンバーの両方を指定する場合に使用します。このオプションでは、ドロップダウン・リストから「可変属性」を選択します。次に、「独立ディメンション」にリストされているディメンションについて、「メンバー」でメンバーを選択します。「ディメンションのみ設定」を選択した場合は、すべての可変属性のすべての独立ディメンションが表示され、共通のパースペクティブをすべてに適用できます。
3. 「OK」をクリックし、グリッドをリフレッシュします。

## データ・パースペクティブの実例

缶と瓶で販売されるコーラの例では、管理者がコーラのパッケージ・タイプに次の属性を指定して、コーラが1年間にテキサスとカリフォルニアの市場でどのように販売されたかを反映しました:

- ・ 缶: カリフォルニア、1月-12月
- ・ 缶: テキサス、6月-12月
- ・ 瓶: テキサス、1月-6月

[56ページの図 13](#)に、「現実」パースペクティブを示します。カリフォルニアとテキサスについて示されているデータは、年全体のデータです。瓶はカリフォルニアでは販売されていないため、データは戻されません(ここでは#Meaninglessで示されています)。

図13 データ・パースペクティブ: 現実

	A	B	C	D
1		California	Texas	Market
2	Bottle	#Meaningless	405	405
3	Can	1587	234	1821
4	Pkg Type	1587	639	2226

[56ページの図 14](#)に、「最後」パースペクティブを示し、カリフォルニアとテキサスの缶のデータを表示します。瓶はテキサスでは1月から6月にのみ販売されているため、瓶のデータはありません。

図14 データ・パースペクティブ: 最後

	A	B	C	D
1		California	Texas	Market
2	Bottle	#Meaningless	#Meaningless	#Meaningless
3	Can	1587	234	1821
4	Pkg Type	1587	234	1821



57ページの図 15に、「開始」パースペクティブを示し、1月のデータを表示します。1月にテキサスでは瓶が販売されていますが、缶は販売されていないため、瓶のデータのみ表示されています。1月にカリフォルニアでは缶が販売され、瓶は販売されていないため、瓶のデータのみ表示されています。

図15 データ・パースペクティブ: 開始

	A	B	C	D
1		California	Texas	Market
2	Bottle	#Meaningless	639	639
3	Can	1587	#Meaningless	1587
4	Pkg Type	1587	639	2226

## ドリルスルー・レポート

データ・ソース・タイプ: Essbase、Planning、Oracle Planning and Budgeting Cloud Service、Financial Management

データベースの詳細データにドリルスルーするには、次の操作を実行します:

- Smart Viewを介してPlanningまたはFinancial Managementに接続している場合は、Smart Viewのドリルスルー機能を使用して、PlanningまたはFinancial ManagementアプリケーションからOracle Hyperion Financial Data Quality Management、Enterprise EditionまたはOracle Hyperion Financial Data Quality Managementのデータ・ソースにある詳細データまでドリルスルーできます。
- Oracle Essbase Administration Servicesで作成したアプリケーションの場合は、Oracle General Ledgerにドリル・スルーできます。
- Oracle Essbase Studioで作成したアプリケーションの場合は、リレーショナル・データベースにドリルスルーできます。ドリルスルー・レポートにアクセスするためのユーザー名およびパスワードを要求できます。管理者が構成したURLにドリルスルーすることもできます。

管理者により事前定義されたドリルスルー・レポートを、ユーザーは指定された個々のメンバー・セルおよびデータ・セルから使用できます。1つのセルを複数のドリルスルー・レポートと関連付けることができます。ドリルスルー・レポートを含むセルは、グリッドでセル・スタイルごとに示すことができます。

266ページのセルのスタイルを参照してください。

ドリルスルー・レポートに表示されるデータは動的です。



注:

ドリルスルーには別名表を使用できません。メンバー名を使用する必要があります。

▶ ドリルスルー・レポートにアクセスするには:

1. ドリルスルー・レポートに関連付けられているメンバーまたはデータ・セルを選択します。

セルの上にマウスを置いたときに使用可能なドリルスルー・レポートのリストを表示する場合は、「オプション」ダイアログ・ボックスの「詳細」ページで「ドリル・スルー・レポートのツールチップの表示」を選択します。

2. データ・ソースのリボンで「ドリルスルー」を選択し、セルに関連付けられているレポートのリストを表示します。
3. リストからレポートを選択します。

4. **Essbaseのみ:** 必要に応じて、ユーザー名およびパスワードを入力します。



注:

「ユーザー名」および「パスワード」フィールドは、ドリルスルー・レポートへのアクセスに必要な場合のみ表示されます。ユーザー名およびパスワードが不要な場合、これらのフィールドは表示されません。

5. 「**起動**」をクリックします。

## リンク・レポート・オブジェクト

データ・ソース・タイプ: Essbase

リンク・レポート・オブジェクトとは、Essbaseデータベース内のデータ・セルにリンクされるセル・ノート、外部ファイルまたはURLのことであり、Smart ViewユーザーがExcelで取得できます。

セルのスタイルを設定して( [266ページのセルのスタイル](#)を参照)、リンク・レポート・オブジェクトに関連付けられているセルを識別できます。


[59ページのリンク・パーティション](#)も参照してください。

## データ・セルへのリンク・レポート・オブジェクトの添付

1つまたは複数のリンク・レポート・オブジェクトをデータ・セルに添付できます。

▶ リンク・レポート・オブジェクトをデータ・セルに添付するには:

1. データ・セルを選択します。
2. Essbaseのリボンから、「リンク・オブジェクト」を選択します。
- 3.

「リンク・レポート・オブジェクト」から  をクリックして、次のいずれかを選択します:

- 「セル・ノート」を選択すると、データ・セルに注釈を添付できます
- 「ファイル」を選択すると、データ・セルに外部ファイルを添付できます
- 「URL」を選択すると、データ・セルにURLを添付できます

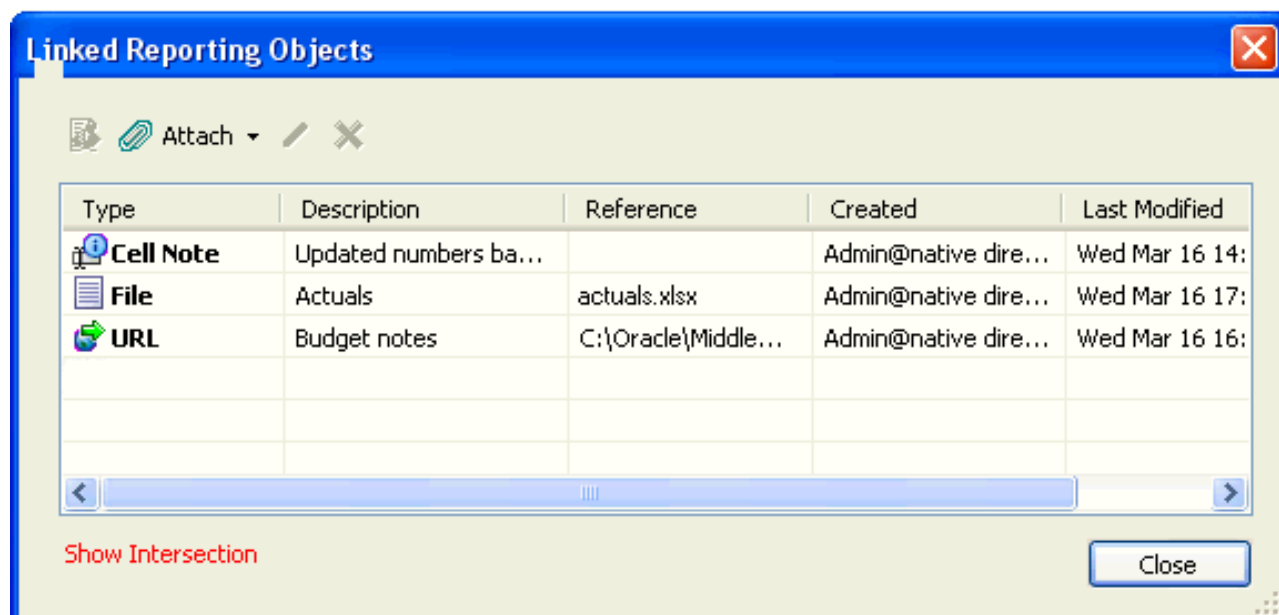
選択内容に対応するダイアログ・ボックスが表示されます。

4. 次の情報を入力します:



- **セル・ノート:** ノートのテキストを入力します。「閉じる」をクリックします。ノートの最初のいくつかの単語が「リンク・レポート・オブジェクト」リストの「説明」列に表示されます。
- **ファイル:** 「参照」ボタンを使用して、データ・セルに添付するファイルに移動します。ファイルの簡単な説明を追加できます。「閉じる」をクリックします。
- **URL:** 「URL」に、Webサイト、ネットワークまたはローカル・ディレクトリ、ネットワークまたはローカル・ディレクトリ内のドキュメントのURLを入力します。URLの簡単な説明を追加できます。「閉じる」をクリックします。

5. 必要に応じて手順を繰り返して、他のリンク・レポート・オブジェクトを添付します。

作成したオブジェクトが、次に示すように「リンク・レポート・オブジェクト」リストに表示されます:




6. グリッドをリフレッシュして、セル・スタイル(指定されている場合)をセルに適用します。

リンク・レポート・オブジェクトを編集または削除するには、「編集」ボタン  または「削除」ボタン  を使用します。オブジェクトを除去すると、データベースから除去されます。

## データ・セルからのリンク・レポート・オブジェクトの起動

▶ リンク・レポート・オブジェクトをデータ・セルから起動するには:

1. 起動するリンク・オブジェクトに関連付けられているデータ・セルを選択します。
2. Essbaseのリボンから「リンク・オブジェクト」を選択して、「リンク・レポート・オブジェクト」を表示します。
3. 「リンク・レポート・オブジェクト」から、起動するリンク・オブジェクトを選択します。

4.  をクリックします。リンク・レポート・オブジェクトが次のように起動します:

- セル・ノートが「セル・ノート」ダイアログ・ボックスに表示されます。
- ファイルが開かれます。
- URLオブジェクトがデフォルトのWebブラウザに開かれます。
- リンク・パーティション— [59ページのリンク・パーティション](#)を参照してください


## リンク・パーティション

データ・ソース・タイプ: Essbase

リンク・パーティションは、データ・セルによって2つのデータベースに接続します。リンク・パーティションに関連付けられているデータ・セルを使用して、現在のグリッドに接続されているデータベースから2つめのデータベースに移動できま

す。2つのデータベースはディメンションが異なる可能性があるため、データが異なるコンテキストで表示されることがあります。リンク・パーティションを起動すると、リンクされたデータベースのディメンションを表示する新しいスプレッドシートが開きます。ここから、リンクされたデータベースのディメンションにドリル・ダウンできます。

▶ リンク・パーティションを起動するには:

1. リンク・パーティションに関連付けられているデータ・セルを選択します。
2. Essbaseのリボンから、「リンク・オブジェクト」を選択します。
3. 「リンク・レポート・オブジェクト」から、リンク・パーティションを選択します(リストに「リンク」と表示されています)。
4.  をクリックします。

リンク・パーティションが新しいスプレッドシートで起動します。このスプレッドシートから、リンクされたデータベースのデータにドリル・ダウンできます。

## セル・コメント

**データ・ソース・タイプ:** Essbase、Planning、Oracle Planning and Budgeting Cloud Service、Financial Management

コメントは、Essbase、Financial Management、PlanningおよびOracle Planning and Budgeting Cloud Service内のデータ・セルに追加できます。

## Planningでのセル・コメント


**データ・ソース・タイプ:** Planning、Oracle Planning and Budgeting Cloud Service

データ・セルごとに1つまたは複数のコメントを追加できます。各データ・セルには、複数のユーザーのコメントを格納できます。管理者から割り当てられた権限レベルに応じて、データ・セルで次のいずれかの操作を実行できます:

- コメントを追加します。
- 自分や他のユーザーが追加したコメントを表示します。
- 入力したコメントを削除します。他のユーザーによって追加されたコメントは削除できません。

コメントを含んでいるセルは、セルのスタイルに関連付けることができます( [266ページのセルのスタイル](#)を参照)。


▶ データ・セルにコメントを追加するには:

1. アド・ホック・グリッドで、1つのデータ・セルまたはデータ・セルの範囲を選択します。
2. PlanningまたはPlanningアド・ホックのリボンから、「セルのアクション」、「コメント」の順に選択します。
3. 「コメント」で、 をクリックします。
4. [60ページのステップ 1](#)でセルの範囲を選択した場合は、一度に1つのセルに対するコメントを入力するか、選択したすべてのセルにコメントを適用できます。
  - 1つのセルのコメントを入力するには、ドロップダウン・メニューからセルを選択します。
  - 選択したすべてのセルに対するコメントを入力するには、「**選択したセルすべてに適用**」を選択します。
5. 右側のフィールドにコメントを入力します。コメントを書式設定する場合は、HTMLタグを使用します。

6.  をクリックしてコメントを保存します。

コメントはコメント・フィールドの左側にあるコメントのリストに表示されます。このリストには、すべてのユーザーが入力したコメントがあります。

7. 「OK」をクリックします。

8. オプション: コメントを削除するには、 をクリックします。自分が入力したコメントのみを削除できます。

## Financial Managementでのセル・コメント

アド・ホック・グリッド、フォーム、スマート・スライスおよびクエリー・デザイナのセルには、複数のコメントを含めることができます。セル内のコメントは、Financial Managementで定義されたラベルによって区別されます。Smart Viewでは、ラベルを作成できません。

これらの定義済みラベルから選択し、Smart Viewに追加して表示します。ラベルを編集または削除することはできませんが、コメントは編集および削除できます。

### セル・コメントの表示および追加

- ▶ Financial Managementでセル・コメントの表示または追加を行うには:

1. グリッドのセルを選択します。
2. リボンから、「セル・コメント」を選択します。

セルに現在関連付けられているコメントが、「セル・コメント」リストに表示されます。

3. コメントを追加するには、「セル・コメント」でドロップダウン・メニューからラベルを選択します。

4.  をクリックします。

選択したセル・テキスト・ラベルがラベルのリストに追加されます。



5. 「セル・テキスト」の下にあるフィールドをクリックし、コメントを追加します。
6. 必要に応じて繰り返して、他のラベルを追加します。
7. 「OK」をクリックします。

リストのラベルが、新たにセルに関連付けられます。

### セル・コメントの編集および削除

- ▶ Financial Managementでセル・コメントを編集または削除するには:

1. グリッドのセルを選択します。
2. HFMのリボンから、「セル・コメント」を選択します。
3. 「セル・コメント」からリスト内のコメントを選択して、次のいずれかを実行します:

• コメントを編集するには、 を選択します。編集後に、 をクリックします。

- セルからコメントを削除するには、「削除」ボタンを選択します。コメントがリストから除去されます。コメントを除去しても、選択したセルから除去されるだけで、ドロップダウン・メニューの選択肢としては残ります。

4. 「OK」をクリックします。



注:

Financial Managementでは、関数HsSetTextおよびHsGetTextを使用してデータ・ソースとの間でセル・テキストを送受信できます。275ページの第17章「関数」を参照してください。

## Essbaseのセル・コメント

### サブトピック

- Essbaseセル・コメントの有効化
- シート内のEssbaseセル・コメントの表示
- Essbaseセル・コメントの編集
- Essbaseセル・コメントの削除

Essbaseプロバイダに接続されている場合、セル・コメントが、グリッド上の無効なメンバーを検出する手段になります。また、セル・コメントには、グリッドの外で入力されたテキスト、たとえば、シート上のユーザー自身のノートが表示されます。Essbaseでセル・コメントを有効化すると、グリッド内の無効なメンバーを迅速かつ簡単に特定したり、シートで作成した関連ノートを見つけたりできます。

たとえば、サーバー上のEssbaseデータベースで、"Oregon Coast"という名前のメンバーが"Oregon"に名前変更されました。Smart Viewはこの変更を追跡し、セル・コメントをコールアウトするセル・スタイルが定義されている場合、この変更を表示します。このため、変更にすぐに気づき、グリッドで修正できます。

Essbaseのセル・コメントを操作するには、Smart Viewの「オプション」で、「拡張コメント処理」と「セル・スタイルの使用」を有効化し、オプションでコメントの独自のセル・スタイルを定義します。その後、シート上のコメント付きセルを簡単に識別し、選択して「コメントの編集」ダイアログ・ボックスで操作できます。

## Essbaseセル・コメントの有効化

▶ Essbaseでセル・コメントを有効化するには:

- 「オプション」ダイアログ・ボックスで、次のタスクを実行します:
  - 「メンバー・オプション」で、「拡張コメント処理を有効にする」を選択します。



注:

「拡張コメント処理を有効にする」オプションを有効化するには、「アドホック操作の式とコメントを保存(ピボットを除く)」オプションを選択する必要があります。

- 「フォーマット」で、「セル・スタイルの使用」を選択します。
- 「セルのスタイル」で、「共通」を展開し、「コメント・セル」の隣にあるチェック・ボックスを選択します。次に、「コメント・セル」を右クリックして、セル・コメントを含むセルの「フォント」、「背景」または「枠線」を定義します。



2. 「OK」をクリックします。

オプションで、「OK」ボタン内の矢印をクリックして、「デフォルト・オプションとして保存」または「すべてのシートに適用」のいずれかを選択します。これらのオプションは、245ページの第16章「Smart Viewのオプション」の「シート・オプション」で説明します。

63ページのシート内のEssbaseセル・コメントの表示の手順に進む準備が完了しました

## シート内のEssbaseセル・コメントの表示

- ▶ シート内のEssbaseセル・コメントを表示するには:
  1. 62ページのEssbaseセル・コメントの有効化の手順が完了していることを確認してください
  2. グリッドを含むワークブックを開き、Essbaseプロバイダに接続し、「リフレッシュ」をクリックします。
  3. シートで、Essbaseコメントを含むセルを確認してください。

63ページの図 16の例で、セルC5は、基礎となるEssbaseデータベースでメンバー名が変更されたため、コメントとしてマークされています。コメント・スタイルは、このメンバーに注意する必要があることを示しています。

また、シート内の2つ目のコメントは、Oregon Coastメンバー名をOregonに変更する必要があることを示しています。このコメントは、メンバー名がサーバーで変更されており、グリッドでメンバーを手動で更新する必要があることを示します。

図16 セル・コメントでマークされたセルが表示されたグリッド

	A	B	C	D	E	F
1				Scenario		
2				Measures		
3	Qtr1	Colas	East	3531		
4			California	341		
5			Oregon Coast			Change to Oregon
6			Washington	170		
7			Utah	342		
8			Nevada	4		
9			West	1042		

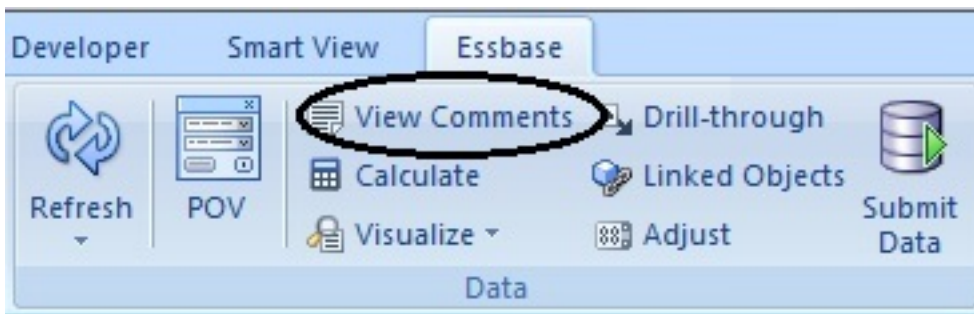
4. 63ページのEssbaseセル・コメントの編集または 66ページのEssbaseセル・コメントの削除に進みます。

## Essbaseセル・コメントの編集

62ページのEssbaseセル・コメントの有効化の手順が完了していることを確認してください。

- ▶ Essbaseセル・コメントを編集するには:
  1. グリッドを含むワークブックを開いていない場合は開き、Essbaseプロバイダに接続し、「リフレッシュ」をクリックします。
  2. Essbaseのリボンで「コメントの表示」をクリックします。

図17 Essbaseリボンの「コメントの表示」コマンド

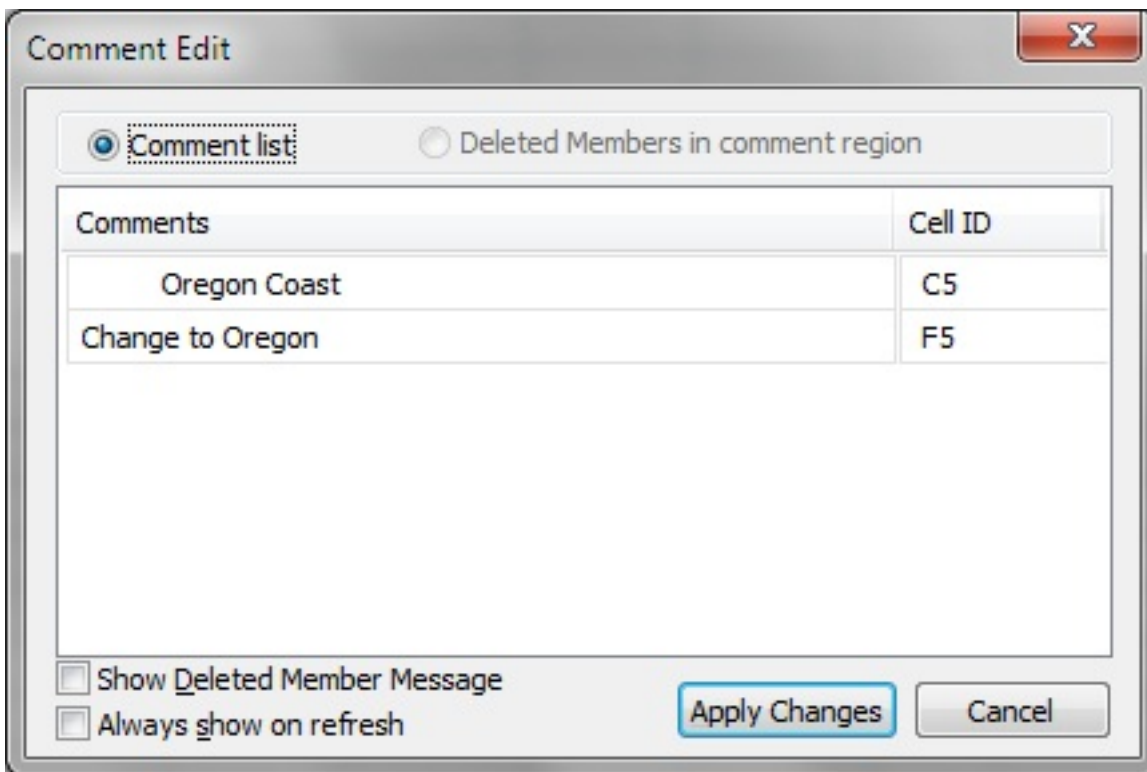


ヒント:

「コメントの表示」コマンドは、コメントがシートにある場合のみ有効化されます。

「コメントの編集」ダイアログ・ボックスが起動されます。64ページの図 18 内の例には、シート内の編集可能な2つのコメントが示されています。

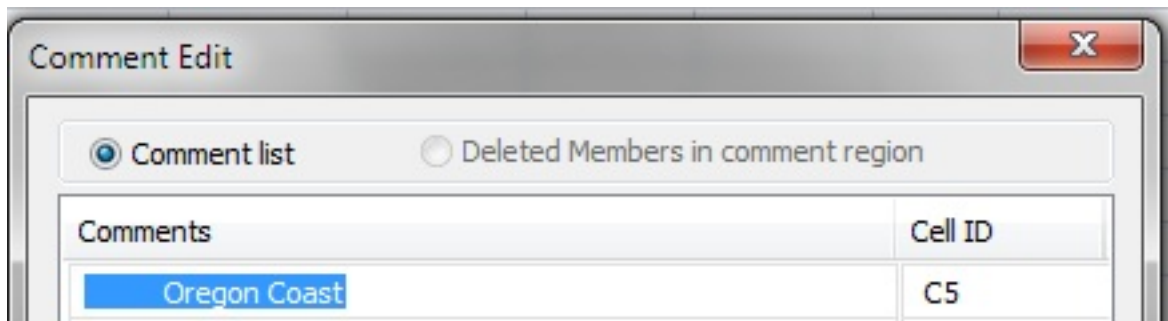
図18 「コメントの編集」ダイアログ・ボックス



3. 行内のテキストを編集するには、まず、行内をクリックして編集可能なテキストを強調表示します。たとえば、65ページの図 19に示すように"Oregon Coast"行内をクリックして強調表示します。

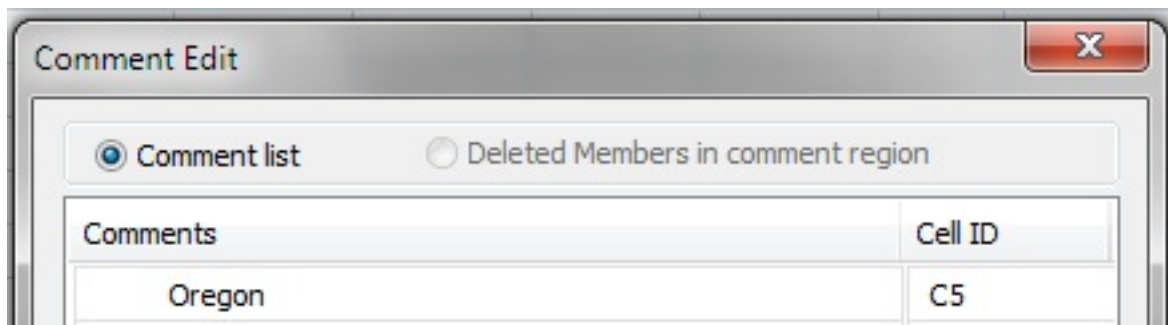


図19 「コメントの編集」ダイアログ・ボックス内の強調表示された編集可能な行



4. 必要に応じてテキストを編集します。この例では、"Oregon Coast"を"Oregon"に変更します。

図20 「コメントの編集」ダイアログ・ボックス内の変更後のテキスト



5. 「変更の適用」をクリックして、グリッド内の変更を確認してください。

65ページの図 21で、セルC5はコメント付きのセルのまま表示され、シートをリフレッシュするまでこの状態です。

図21 「変更の適用」をクリックした後のグリッド、コメント付きのままのセルC5

	A	B	C	D	E	F
1				Scenario		
2				Measures		
3	Qtr1	Colas	East	3531		
4			California	341		
5			Oregon			Change to Oregon
6			Washington	170		
7			Utah	342		
8			Nevada	4		

6. 「リフレッシュ」をクリックすると、コメント・スタイルがクリアされます。

図22 リフレッシュ後のグリッド。セルC5内のセル・スタイルがクリアされました。メンバーはサーバーと同期しています

	A	B	C	D	E	F
1				Scenario		
2				Measures		
3	Qtr1	Colas	East	3531		
4			California	341		
5			Oregon	185		Change to Oregon
6			Washington	170		
7			Utah	342		
8			Nevada	4		

## Essbaseセル・コメントの削除

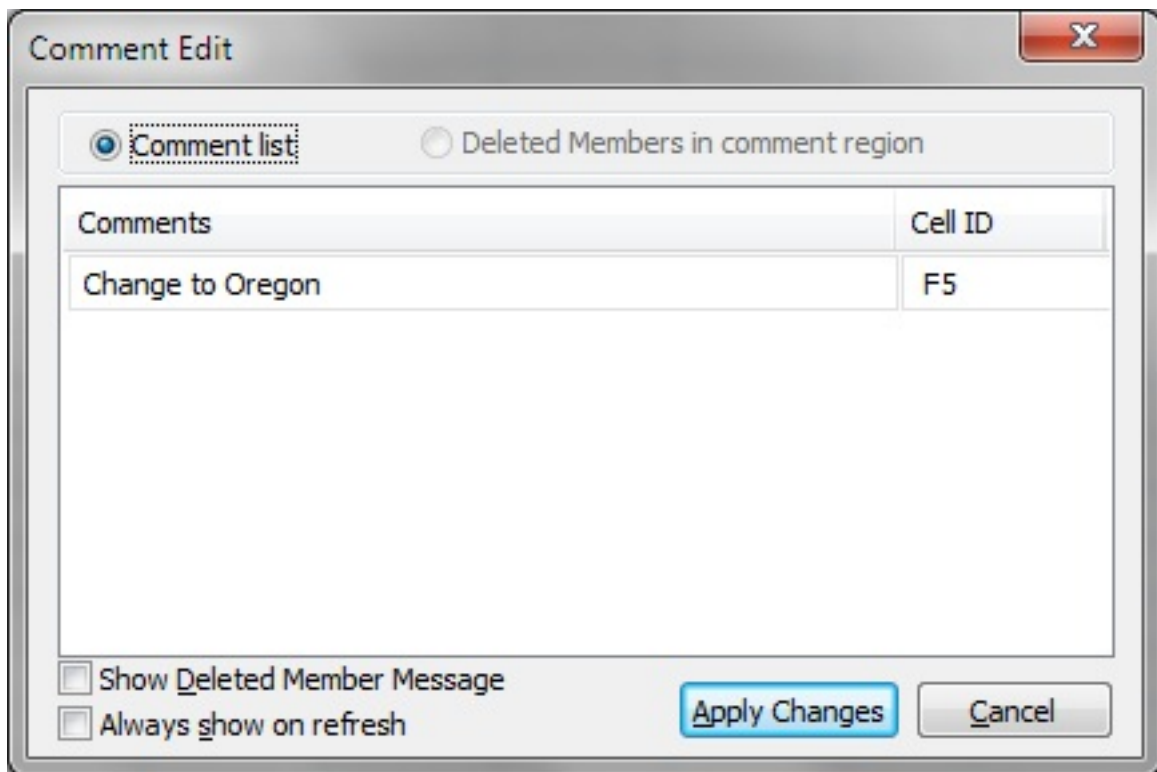
62ページのEssbaseセル・コメントの有効化の手順が完了していることを確認してください。

▶ Essbaseセル・コメントを削除するには:

1. グリッドを含むワークブックを開いていない場合は開き、Essbaseプロバイダに接続し、「リフレッシュ」をクリックします。
2. Essbaseリボン内の「コメントの表示」をクリックします( 64ページの図 17を参照)。

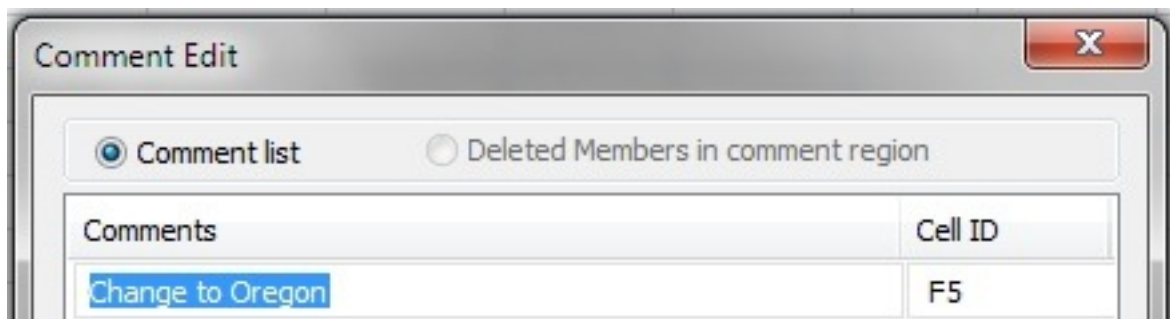
「コメントの編集」ダイアログ・ボックスが起動されます。67ページの図 23 内の例には、シート上の削除可能な1つのコメントが示されています。

図23 「コメントの編集」ダイアログ・ボックス



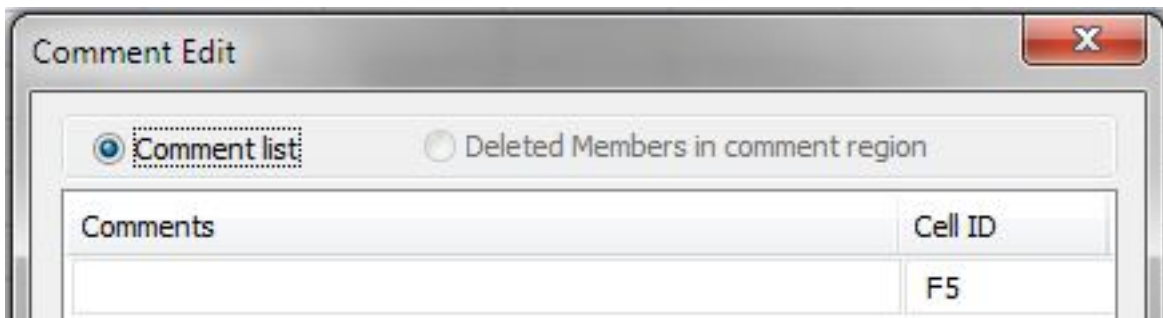
3. コメント全体を削除するには、まず、行内をクリックして編集可能なテキストを強調表示します。たとえば、67ページの図 24に示すように"Oregon Coast"行内をクリックして「削除」キーを押します。

図24 強調表示された削除可能なセル・コメント



削除後、「コメント」列のテキストは削除されますが、セルIDは表示されたままです( 68ページの図 25を参照)

図25 削除されたセル・コメント、セルIDの表示残り



4. 「変更の適用」をクリックして、シート内の変更を表示してください。

68ページの図 26で、セルF5はコメント付きのセルのまま表示され、シートをリフレッシュするまでこの状態です。

図26 「変更の適用」をクリックした後のシート、コメント付きのままのセルF5

	A	B	C	D	E	F
1				Scenario		
2				Measures		
3	Qtr1	Colas	East	3531		
4			California	341		
5			Oregon	185		
6			Washington	170		
7			Utah	342		
8			Nevada	4		

5. 「リフレッシュ」をクリックすると、コメント・スタイルがクリアされます。

図27 リフレッシュ後のグリッド。セルF5内のセル・スタイルがクリアされました

	A	B	C	D	E	F
1				Scenario		
2				Measures		
3	Qtr1	Colas	East	3531		
4			California	341		
5			Oregon	185		
6			Washington	170		
7			Utah	342		
8			Nevada	4		

## 添付ファイル

データ・ソース・タイプ: Planning, Oracle Planning and Budgeting Cloud Service






ドキュメントは、URLを使用して個々のデータ・セルに添付できます。各データ・セルには、1人以上のユーザーによって添付された複数のドキュメントを含めることができます。管理者から割り当てられた権限レベルに応じて、データ・セルで次のいずれかの操作を実行できます:

- ドキュメントを添付します。
- 自分や他のユーザーが添付したドキュメントを表示します。
- 添付したドキュメントを編集および削除します。他のユーザーが添付したドキュメントは編集または削除できません。

添付ファイルを含むセルは、セル・スタイルに関連付けることができます。


[266ページのセルのスタイル](#)を参照してください。

▶ データ・セルにドキュメントを添付するには:

1. Planningアド・ホック・グリッドで1つのセルまたはデータ・セル範囲を選択します。
2. PlanningまたはPlanningアド・ホックのリボンから、「セルのアクション」、「添付ファイル」の順に選択して「添付ファイル」ダイアログ・ボックスを表示します。
3. [69ページのステップ 1](#)でセルの範囲を選択した場合は、一度に1つのセルにドキュメントを添付するか、選択したすべてのセルに同じドキュメントを添付できます。
  - 1つのセルのドキュメントを添付するには、ドロップダウン・メニューからセルを選択します。
  - 選択したすべてのセルに1つのドキュメントを添付するには、「**選択したセルすべてに適用**」を選択します。
4.  を選択します。
5. 「説明」の下のセルをクリックして、簡単な説明を追加します。
6. 「参照」の下のセルをクリックして、添付するドキュメントのURLを入力します。
7. 必要に応じて手順を繰り返して、添付ファイルを追加します。
8. 添付ファイルの選択を保存するには、 をクリックします。
9. オプション: 「参照」エントリを編集するには、 をクリックし、参照を編集してから、 をクリックします。
10. オプション: 添付ファイルを削除するには、リスト内の添付ファイルを選択し、 をクリックします。
11. 「閉じる」をクリックします。

## 添付ファイルの起動

▶ 添付ドキュメントを新しいブラウザで起動するには:

1. 添付ファイルが含まれるセルを選択します。
2. PlanningまたはPlanningアド・ホックのリボンから、「セルのアクション」、「添付ファイル」の順に選択します。
3.  をクリックします。

## セルの履歴

データ・ソース・タイプ: Planning, Oracle Planning and Budgeting Cloud Service

データ・セルまたはデータ・セルの範囲に加えられた変更の履歴を表示できます。リストされた変更ごとに、変更を行ったユーザー、変更日、古い値および新しい値が表示されます。



---

注:

セル履歴は、(『Oracle Hyperion Planning管理者ガイド』で説明されているように) Planning管理者によってデータ監査が有効化されている場合にのみ使用できます。

---

▶ セルの履歴を表示するには:

1. Planningアド・ホック・グリッドで1つのデータ・セルまたはセル範囲を選択します。
2. **Planning**アド・ホックのリボンから、「セルのアクション」、「セルの履歴」の順に選択して「変更履歴」画面を表示します。
3. [70ページのステップ 1](#)で複数のセルを選択した場合は、「変更履歴」のドロップダウン・メニューから一度に1つのセルを選択して、その履歴を表示します。

# 5

## アド・ホック分析

### この項の内容:

アド・ホック分析について .....	71
アド・ホック分析の開始 .....	71
アド・ホック・グリッドでのExcel式の保存 .....	72
アド・ホック・グリッドのフォーマット .....	73
ズーム・インおよびズーム・アウト .....	74
ピボット .....	77
選択したメンバーのグリッドからの除去 .....	79
行と列の挿入 .....	80
繰返しメンバーの表示および抑制 .....	80
ワークシート上の複数のグリッド .....	82
レポートおよびアド・ホック・グリッドのカスケード .....	84
代替変数 .....	85

## アド・ホック分析について

アド・ホック分析では、Smart View機能をExcelスプレッドシートと使用して、メンバーの選択、関数の使用、レポートを設計するためのフォーマットを含む様々な操作を実行することにより、データを取得および分析します。

アド・ホック分析は、Essbase、Planning、Oracle Planning and Budgeting Cloud Service、Hyperion EnterpriseおよびFinancial Managementで実行できます。

## アド・ホック分析の開始

**データ・ソース・タイプ:** Essbase、Planning、Oracle Planning and Budgeting Cloud Service、Hyperion Enterprise、Financial Management

プロバイダに接続し、「アド・ホック分析」オプションを選択すると、そのプロバイダのアド・ホック・リボンが表示され、そのリボンからアド・ホック機能を使用できるようになります。





注:

Essbaseでは、Essbaseに接続すると表示されるEssbaseのリボンから、すべてのアド・ホック機能を使用できます。

また、Essbaseのアド・ホック分析を開始すると、「デフォルト」という名前の別名表がデフォルトで選択されることに注意してください。

▶ アド・ホック分析を開始するには:

1. Smart Viewパネルの「最近使用」、「共有接続」または「プライベート接続」から、次のいずれかを選択します:

- スマート・スライス
- フォーム
- キューブまたはプラン・タイプ

2. アクション・パネルで、「アド・ホック分析」を選択します。

または、Smart Viewパネルでオブジェクトを右クリックして、「アド・ホック分析」を選択します。

データ・プロバイダのリボンが表示されます。



ヒント:

「有効なデータ行がないため、アド・ホック・グリッドを開けません。」というようなエラーが表示される場合は、「オプション」ダイアログ・ボックスの「データ・オプション」タブにある抑制オプションをクリアする必要があります。すべての「行の抑制」および「列の抑制」オプションがクリアされ、「欠落ブロックの抑制」オプションがクリアされていることを確認してください。

3. リボン・ボタンを使用して、現在のワークシートでアド・ホック分析を実行します。

データベースのディメンションとメンバーを詳しく把握している場合には、ディメンション名とメンバー名を直接セルに入力してフリーフォーム・モードを使用し、アド・ホック・グリッドの設計と作成を行うことができます。[299ページの第18章「フリー・フォーム・モード」](#)を参照してください。

## アド・ホック・グリッドでのExcel式の保存

Excel式をアド・ホック・グリッドのメンバー・セルやデータ・セルに関連付け、そのようなセルを識別できるようにセルのスタイルを設定できます。

[266ページのセルのスタイル](#)を参照してください。

デフォルトでは、アド・ホック操作の実行時に式は保存されます(「ピボット」は除く)。問合せを高速に実行するために、式およびコメントの保存を使用不可にすることができます。ただし、このオプションを選択すると、アド・ホック操作の実行時に式は上書きされます。

▶ アド・ホック・グリッドで式の保存を指定するには:

1. Smart Viewのリボンから、「オプション」を選択し、左側のパネルで「メンバー・オプション」を選択します。
2. 次のいずれかの操作を行います:



- ・ アド・ホック・グリッドで式を保存するには、「アドホック操作の式とコメントを保存(ピボットを除く)」を選択します。
- ・ 式の保存を使用不可にするには、「アドホック操作の式とコメントを保存(ピボットを除く)」の選択を解除します。この操作は、式を保存する必要がなく、問合せを高速に実行したい場合にのみ行います。



注:

「アドホック操作の式とコメントを保存(ピボットを除く)」は「メンバー・オプション」に表示されますが、選択内容はメンバーとデータ・セルの両方の式に適用されます。

3. 「OK」をクリックします。

## アド・ホック・グリッドのフォーマット

Smart ViewまたはExcelでグリッド・フォーマットを制御できます。

### Smart Viewフォーマットの使用

Smart Viewフォーマットは、「オプション」ダイアログ・ボックスの「セルのスタイル」および「フォーマット」ページで行われたフォーマットの選択で構成されます。

▶ Smart Viewフォーマット・オプションを設定するには:

1. Smart Viewのリボンから、「オプション」をクリックします。
2. セルのスタイルを設定するには、「オプション」から、左側のパネルで「セルのスタイル」を選択します。

セルのスタイルは、メンバーおよびデータ・セルの特定のタイプを示します。

詳細は、[266ページのセルのスタイル](#)を参照してください。

3. 他のSmart Viewフォーマット・オプションを設定するには、左側のペインから「フォーマット」を選択します(このページの「[Excelフォーマットの使用](#)」はSmart Viewフォーマット・オプションではありません)。

オプションの説明については、[245ページの第16章「Smart Viewのオプション」](#)を参照してください。

4. 「OK」をクリックします。

▶ Smart Viewフォーマットの選択を、ズームで作成されたデータ・セルに適用するには:

1. グリッドから、フォーマットされたデータ・セルを選択します。
2. 「Essbase」、「Planningアド・ホック」または「Oracle Hyperion Enterprise(R)」リボンを選択し、「フォーマットの保存」を選択します。

### Excelフォーマットの使用

Excelフォーマットを使用する場合、条件付きフォーマットを含むフォーマット選択は、リフレッシュするか、アドホック操作を実行すると、グリッドに適用し、保持することができます。

Excelのフォーマットを使用する場合は、Smart Viewは、ユーザーのグリッド操作に基づいたセルの再フォーマットを行わず、また、ユーザーがデータ値を変更したときにセルをダーティ・セルとしてマークしません。Smart Viewは、操作と操作の間はワークシートのフォーマットを保持します。

高度にフォーマットされたレポートについては、一般にExcelフォーマットの使用が推奨されます。また、データ・ソースのアプリケーション固有の色がExcelの色パレットでサポートされていない場合は、Excelフォーマットを使用する必要があります。

▶ アド・ホック・グリッドでExcelフォーマットを使用するには:

1. Smart Viewのリボンから、「オプション」を選択します。
2. 「オプション」から、左側のペインで「フォーマット」を選択します。
3. 「Excelフォーマットの使用」を選択します。
4. オプション: 親セルのフォーマットをズームイン・セルにコピーするには、「操作時にフォーマットを移動」を選択します。このオプションを選択すると、ピボット時にフォーマットもメンバーと一緒に移動します。
5. 「OK」をクリックします。

## Excelフォーマットとマージされたセル

アド・ホック操作(ピボットを除く)中にマージされたセルのフォーマットを保存するには、「Excelフォーマットの使用」とアドホック操作の式とコメントを保存の両方のオプションを選択する必要があります。

アド・ホック操作(ピボットを除く)中にマージされたセルのフォーマットをレプリケートするには、「Excelフォーマットの使用」、アドホック操作の式とコメントを保存、および「フォーマットの充てん」のすべてのオプションを選択する必要があります。

## ズーム・インおよびズーム・アウト

データ・ソース・タイプ: Essbase、Planning、Oracle Planning and Budgeting Cloud Service、Financial Management、Hyperion Enterprise

グリッドのメンバーをズーム・インして、その子および子孫のデータを表示できます。

Essbase接続では、次のデータをズームして表示することもできます。

- 選択したメンバーと同じレベル、同じ世代または兄弟レベルのメンバー
- 選択したメンバーの式によって定義されたメンバー

## ズーム・イン

Essbaseでは、セルの範囲にズーム・インできます。他のデータ・ソースでは、一度に1つのセルにズーム・インできません。

### デフォルト・レベルへのズーム・イン

[75ページのデフォルト・ズーム・レベルの設定](#)に記載されているとおりに指定されたデフォルト・ズーム・レベルにズーム・インするには、次のいずれかを実行します:

- メンバーを選択して、データ・ソースのリボンで「ズーム・イン」をクリックします。Essbaseでは、メンバーの範囲を選択できます。
- メンバーをダブルクリックします(ダブルクリックによるズームが使用可能である必要があります。[76ページのダブルクリックによるズームの有効化](#)を参照してください)。

## 選択したレベルへのズーム・イン

▶ 選択したレベルにズーム・インするには:

1. メンバーを選択します。

Essbaseでは、メンバーの範囲を選択できます。

2. データ・ソースのリボンから、「ズーム・イン」の横にある下矢印をクリックして、次のいずれかのオプションを選択します。

- 「次のレベル」を選択すると、選択したメンバーの子のデータが取得されます
- 「すべてのレベル」を選択すると、選択したメンバーのすべての子孫のデータが取得されます。
- 「最下位レベル」を選択すると、ディメンション内の最下位レベルのメンバーのデータが取得されます。
- 「同一レベル」を選択すると、選択したメンバーと同じレベルのすべてのメンバーのデータを取得できます (Essbaseのみ)
- 「兄弟レベル」を選択すると、選択したメンバーの兄弟のデータを取得できます (Essbaseのみ)
- 「同世代」を選択すると、選択したメンバーと同じ世代のすべてのメンバーのデータを取得できます (Essbaseのみ)
- 「式」を選択すると、選択したメンバーの式で定義されたすべてのメンバーのデータを取得できます。式は、メンバーの等式または親への集計です (Essbaseのみ)



注:

ページ・ディメンションにズーム・インすると、ページ・ディメンションは行ディメンションにピボットされます。

## ズーム・アウト

ズーム・アウトすると、[75ページのデフォルト・ズーム・レベルの設定](#)に記載されているとおりに指定された「ズーム・イン・レベル」オプションに従って、ビューが縮小します。

▶ ズーム・アウトするには:

1. メンバーを選択します。

Essbaseでは、メンバーの範囲を選択できます。

2. データ・ソースのリボンから、「ズーム・アウト」をクリックします。

## デフォルト・ズーム・レベルの設定

ズーム操作のデフォルト・レベルを指定できます。この設定は、「ズーム・イン」ボタンおよびダブルクリックによるズーム(使用可能な場合)に適用されます( [76ページのダブルクリックによるズームの有効化](#)を参照)。

▶ 「ズーム・イン」のデフォルト・レベルを設定するには:

1. Oracle Smart View for Officeのリボンから「オプション」を選択し、左側のパネルで「メンバー・オプション」を選択します。
2. 「ズーム・イン・レベル」ドロップダウン・メニューから、[74ページのズーム・イン](#)に記載されているレベルを選択します。

3. 「OK」をクリックします。

## ズーム時に表示するメンバーの選択

オプションを設定して、ズーム・インおよびズーム・アウト時に保持および表示するメンバーを指定できます。

▶ ズームのメンバー表示オプションを設定するには:

1. Smart Viewのリボンから、「オプション」を選択し、左側のパネルで「メンバー・オプション」を選択します。
2. 「メンバーの保持」で、次を選択します:
  - 「**選択を含める**」を選択すると、選択したメンバーと、ズームの結果として取得されたメンバーの両方が表示されます。たとえば、選択したメンバーQtr1にズーム・インすると、Jan、Feb、MarおよびQtr1のデータが取得されます。選択されていない場合、ズームの結果として取得されたメンバー、Jan、FebおよびMarのみが表示されます。
  - 「**選択したグループ内**」を選択すると、選択したセル・グループのみにズーム・インし、選択していないセルはそのままになります。この設定は、グリッドの下に行として、またはグリッドを超えて列として、複数のディメンションがある場合にのみ有効です。(この設定は、「**選択項目のみ保持**」および「**選択項目のみ除去**」にも適用されます。)
  - 「**選択されていないグループの除去**」を選択すると、選択したメンバー、およびズームの結果として取得されたメンバーを除くすべてのディメンションとメンバーが除去されます。
3. 「OK」をクリックします。

## ダブルクリックによるズームの有効化

ダブルクリックでアド・ホック操作を使用できるようになっている場合、メンバー・セルをダブルクリックして、デフォルトのズーム・レベルへのズーム・インおよびズーム・アウトを行うことができます。

▶ ダブルクリックでズームできるようにするには:

1. Smart Viewのリボンから、「オプション」を選択し、左側のパネルで「詳細」を選択します。
2. 「モード」の下にある**ダブルクリックして操作**を選択します。

ダブルクリックして**操作**を選択しない場合、ダブルクリックはExcelの機能のままで、セルが編集モードになります。

3. 「OK」をクリックします。



注:

空のワークシートで初めてダブルクリックするとデフォルトのグリッドが取得され、以後、ズーム・インまたはズーム・アウトできます。

## ズームとフォーマット

ズーム・インするセルのフォーマットを、ズームで作成したセルに適用できます。Smart Viewフォーマットでは、この機能はデータ・セルに適用されます。Excelフォーマットでは、この機能はメンバー・セルに適用されます。

## Excelフォーマット

Excelフォーマットをズームで作成されたメンバー・セルに適用するには、Smart Viewのリボンから「オプション」を選択します。その後、次のすべてのオプションを選択します。

- 「フォーマット」ページから、「Excelフォーマットの使用」を選択します
- 「メンバー・オプション」ページから、「アドホック操作の式とコメントを保存(ピボットを除く)」を選択します
- 「メンバー・オプション」ページから、「式の充てん」を選択します

## 式を含むセルでのズーム操作

データ・ソース: Essbase

メンバーまたはデータ・セルが式に関連付けられている場合、これらの式をズーム・インの結果として取得されたセルに伝播できます。たとえば、メンバーQtr1が式に関連付けられている場合、Qtr1にズーム・インするときに、式をJan、FebおよびMarに伝播できます。

▶ 式を伝播するには:

1. Smart Viewのリボンから、「オプション」をクリックし、左側のパネルで「メンバー・オプション」を選択します。
2. 「コメントと式」で、「アドホック操作の式とコメントを保存(ピボットを除く)」が選択されていることを確認します。
3. 「式の充てん」を選択します。



注:

これらの操作(「アドホック操作の式とコメントを保存(ピボットを除く)」および「式の充てん」)は「メンバー・オプション」に表示されますが、これらはメンバーとデータ・セルの両方の式に適用されません。

4. 「OK」をクリックします。

## ピボット

サブトピック

- 行と列の間のディメンションのピボット
- グリッドとPOVツールバーの間のディメンションのピボット

データ・ソース・タイプ: Essbase、Planning、Oracle Planning and Budgeting Cloud Service、Financial Management、Hyperion Enterprise

ピボットは、ワークシート上のデータの方向を変更します。行と列の間、およびグリッドとPOVの間でディメンションを移動できます。

さらに:

- 同じディメンションの単一のメンバーまたは複数のメンバーを、グリッドからPOVツールバーにピボットできます。

- 同じディメンションの単一のメンバーまたは複数のメンバーを、POVツールバーからグリッドにピボットできます。
- 単一ディメンション、およびゼロ・ディメンションでも、POVツールバーに残ります。



注:

ピボットするディメンションまたはメンバーは、一度に1つのみ選択できます。同じディメンションの複数のメンバーがグリッドまたはPOVに存在する場合、そのディメンションのすべてのメンバーがピボットされます。

**Essbaseのみ:** 複数のメンバーのピボットは、Smart Viewリリース11.1.2.5.400以降でサポートされており、EssbaseおよびOracle Hyperion Provider Services 11.1.2.4以降が必要です。

## 行と列の間のディメンションのピボット

行と列の間でディメンションまたはメンバーをピボットできます。ピボットするディメンションを含む行または列に、2つ以上のディメンション、または2つ以上のディメンションのメンバーが存在する必要があります。つまり、グリッド上の最後の行ディメンションまたは最後の列ディメンションはピボットできません。

メンバーをピボットすると、そのディメンション内の他のメンバーもピボットされます。

行と列の間でピボットすると、Smart Viewでは、選択したディメンションが反対側の軸の最も外側の行または列に移動します。たとえば、ディメンションを行にピボットするように選択すると、ディメンションはグリッドの上部に移動します。



注:

「**Excelフォーマットの使用**」オプションを選択していると( [73ページのExcelフォーマットの使用](#)を参照)、ピボット操作後にメンバーと数値のフォーマットが予期せずに変更されることがあります。たとえば、メンバー名が中央揃えになったり、数値が左揃えになったりします。Excelフォーマット・オプションを使用して、適切なフォーマットに戻すことができます。

▶ ディメンションまたはメンバーをピボットするには:

1. ディメンションまたはメンバーを選択します。
2. データ・ソースのリボンから、「ピボット」をクリックします。

または、ディメンションを行または列からドラッグして、ターゲットの行または列にドロップできます。

行ディメンションが一番上の列ディメンションにピボットされます。

列ディメンションが一番左の行ディメンションにピボットされます。



注:


[35ページのPOVツールバーからのメンバーの選択](#)の説明に従って、POVからメンバーを選択することによって、メンバーをピボットします。



## グリッドとPOVツールバーの間のディメンションのピボット

ディメンションを、アド・ホック・グリッドから視点(POV)に、またはPOVからグリッドにピボットすることができます。メンバーをピボットすることもできます。その場合、そのディメンション内の他のメンバーもピボットされます。

- ▶ POVツールバーとグリッド間でディメンションまたはメンバーをピボットするには、次のいずれかのタスクを実行します:

- ディメンションをPOVにピボットするには、グリッド内のディメンションを選択します。プロバイダ・リボンで、「ピボット」ボタン  の矢印をクリックし、「POVにピボット」を選択します。

または、ディメンションを右クリックし、グリッドからドラッグしてPOVツールバーにドロップします。

メンバーをピボットすることもできます。1つのメンバーのみを選択します。複数のメンバーを選択する必要はありません。1つのメンバーを選択すると、ディメンション内のすべてのメンバーがピボットされます。

- ディメンションをPOVからグリッドにピボットするには、POVツールバーのディメンション名の隣にある矢印を右クリックし、ディメンションをドラッグしてグリッドにドロップします。

## ピボット・ノート

- POVに任意の数のディメンションを残すことができます。たとえば、0個、1個またはそれ以上のディメンションをPOVに残すことができます。
- 最後のディメンションをPOVツールバーからグリッドにピボットすると、POVツールバーは非表示になります。プロバイダ・リボンの「POV」ボタンをクリックすると、いつでも元に戻すことができます。
- グリッドには、少なくとも2つのディメンション(行ディメンションと列ディメンション)が常に含まれている必要があります。グリッドに1つの行ディメンションと1つの列ディメンションのみがある場合、グリッドからディメンションをピボットする前に、まずグリッドに代替のディメンションをピボットする必要があります。

たとえば、グリッドから行ディメンションをピボットする場合、まずグリッドに代替の行ディメンションをピボットしてから、グリッドから不要な行ディメンションをピボットする必要があります。

- ディメンション名またはメンバー名を手動で入力して、グリッドまたはPOVツールバーでディメンション名またはメンバー名を置き換えることができます。

同様に、グリッドからディメンションまたはメンバーを削除して、グリッドをリフレッシュすることができ、削除されたディメンションまたはメンバーは、グリッドから移動され、POVツールバーに表示されます。

- [35ページのPOVツールバーからのメンバーの選択](#)の説明に従って、POVからメンバーを選択することによって、メンバーをピボットできます。

## 選択したメンバーのグリッドからの除去

データ・ソース・タイプ: Essbase、Planning、Oracle Planning and Budgeting Cloud Service、Financial Management、Hyperion Enterprise

メンバーおよびそれに関連付けられたデータは、次のようにしてグリッドから除去できます:

- ・ 現在選択されているメンバーのみを保持するには、保持するメンバー・セルを選択します。その後、データ・ソースのリボンから「**選択項目のみ保持**」をクリックします。ディメンションのその他のメンバーは除去されます。
- ・ 現在選択されているメンバー・セルを除く全メンバーを除去するには、除去するセルを選択します。その後、データ・ソースのリボンから、「**選択項目のみ除去**」をクリックします。

「**選択項目のみ保持**」および「**選択項目のみ除去**」は、グリッドの選択したメンバーのすべてのインスタンスで操作できます。

## 行と列の挿入

アド・ホック・グリッドでは、計算列と非計算列および計算行と非計算行をグリッドの中または外に挿入できます。挿入された行と列には、式、テキストまたはExcelコメントが含まれる場合があります、リフレッシュまたはズーム・インしたときに保持されます。

グリッドは、行または列を挿入する前に必ずリフレッシュしてください。

## 繰返しメンバーの表示および抑制

データ・ソース・タイプ: Essbase

アド・ホック・グリッドでスタック・ディメンションを操作していて、**繰返しメンバーの抑制**オプションが選択されると、Essbaseでは、近接ルールを使用して、最初の列ディメンションまで、ラベルの上の抑制されたメンバー・ラベルを次の行に配置します。近接ルールを使用して、繰返しメンバーが抑制されると、Essbaseでは、スタック・ディメンションを1行ずつ比較します。前の行の最も近い抑制されたメンバーの下の、非繰返しで抑制されていないメンバーをグループ化します。Essbaseでは、問合せされているメンバーを判別でき、それに応じてデータを取得します。

後に続くシナリオでは、実行中の近接ルールを示しています。

Sample Basicデータベースを使用し、「アド・ホック分析」オプションを選択します。80ページの図 28に示すように、Measures、Product、Market、ScenarioおよびYearディメンションが取得されます。

図28 Sample Basicのアド・ホック分析グリッドの初期状態

	A	B	C	D
1		Product	Market	Scenario
2		Measures		
3	Year	105522		

81ページの図 29に従い、積上げディメンションが3つ、隣同士に並ぶディメンションが2つになるように配置します。



図29 デイメションが積上げ構成で配置されたSample Basicのグリッド

	A	B	C
1			Measures
2			Market
3			Scenario
4	Product	Year	105522

デフォルトでは、「オプション」ダイアログ・ボックスの「データ」タブにある「行の抑制」グループの「繰返しメンバー」オプションは、選択が解除されています。ProductとYearメンバーにズーム・インしてから、MarketおよびScenario デイメションにズーム・インします。結果のグリッドは、81ページの図 30のようになります。

図30 「繰返しメンバー」オプションを選択する前のグリッドでデイメションにズーム・インした場合

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L
1			Measures	Measures	Measures	Measures	Measures	Measures	Measures	Measures	Measures	Measures
2			East	East	East	East	East	West	West	West	West	West
3			Actual	Budget	Variance	Variance %	Scenario	Actual	Budget	Variance	Variance %	Scenario
4	Colas	Year	12656	13150	-494	-3.756653992	12656	3549	8890	-5341	-60.07874016	3549
5	Root Beer	Year	2534	4360	-1826	-41.88073394	2534	9727	10950	-1223	-11.16894977	9727
6	Cream Soda	Year	2627	2970	-343	-11.54882155	2627	10731	11670	-939	-8.046272494	10731
7	Fruit Soda	Year	6344	7910	-1566	-19.7977244	6344	5854	5670	184	3.245149912	5854
8	Diet Drinks	Year	2408	2730	-322	-11.79487179	2408	8087	10570	-2483	-23.4910123	8087
9	Product	Year	24161	28390	-4229	-14.89609017	24161	29861	37180	-7319	-19.68531469	29861



注:

81ページの図 30および 82ページの図 31では、わかりやすいように、SouthメンバーとCentralメンバーをグリッドに表示していません。

Smart Viewのリボンから、「オプション」、「データ」タブの順に選択します。「行の抑制」グループで、「繰返しメンバー」オプションを選択します。次に、シートをリフレッシュします。結果のグリッドは、82ページの図 31のようになります。抑制された繰返しメンバーが存在した行1および2のそれぞれの列デイメションで、メンバー・ラベルは、次の行のラベルの上で中央揃えになります。

列C、D、E、FおよびGのデータはEastメンバーに属し、列H、I、J、KおよびLのデータはWestに属します。近接ルールを使用すると、列GのScenarioはEastに属します。これは、Eastメンバーからは2つの列のみですが、Westメンバーからは3つの列となっているためです。

Measures デイメション・ラベルはグリッド全体に適用されます。

図31 「繰返しメンバー」オプションの選択後にグリッドをリフレッシュした場合

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L
1							Measures					
2					East					West		
3			Actual	Budget	Variance	Variance %	Scenario	Actual	Budget	Variance	Variance %	Scenario
4	Colas	Year	12656	13150	-494	-3.756653992	12656	3549	8890	-5341	-60.07874016	3549
5	Root Beer	Year	2534	4360	-1826	-41.88073394	2534	9727	10950	-1223	-11.16894977	9727
6	Cream Soda	Year	2627	2970	-343	-11.54882155	2627	10731	11670	-939	-8.046272494	10731
7	Fruit Soda	Year	6344	7910	-1566	-19.7977244	6344	5854	5670	184	3.245149912	5854
8	Diet Drinks	Year	2408	2730	-322	-11.79487179	2408	8087	10570	-2483	-23.4910123	8087
9	Product	Year	24161	28390	-4229	-14.89609017	24161	29861	37180	-7319	-19.68531469	29861

## ワークシート上の複数のグリッド

データ・ソース・タイプ: Essbase

Essbaseでは、1つのワークシートに複数のグリッドを作成できます。これらのグリッドは、同じデータ・ソースまたは別のEssbaseデータ・ソースに接続できます。これらのグリッド内のデータを取得して、ワークシート上でシフトできます。

複数のグリッドをサポートするワークシートには、次の制限事項があります：

- データを送信できるのは、一度に1つのグリッドのみです。
  - 一度に複数のグリッドでデータを送信しようとした場合、つまり、複数のグリッドでセル範囲を選択した場合、Excelによって戻された最初の範囲が、選択されたグリッドの判断に使用され、そのグリッドでのみ送信が実行されます。
- ダーティ・セルにセル・スタイルを設定することはできません。
- コメントは入力できません。
- Essbaseリボンの次のボタンは使用不可になっています。
  - 元に戻す
  - やり直し
  - POVにピボット
  - POV

## 複数グリッド・ワークシートの作成

データ・ソース・タイプ: Essbase

- ▶ 複数グリッド・ワークシートを作成するには：
  1. Excelで、Essbaseデータ・ソースに接続します。
  2. ワークシートの任意の場所から、セルの範囲を選択します(1つのセルでなく、範囲を選択する必要があります)。
  3. Smart Viewパネルから、アプリケーションを右クリックして「アド・ホック分析」を選択します。
  4. ワークシートを変更して複数のグリッドをサポートするよう求められたら、「はい」を選択します。

5. ワークシート上に2つめのグリッドを作成するには:
  - a. 別のセル範囲を選択します。
  - b. Smart Viewパネルから、アプリケーションを右クリックして「アドホック分析」を選択します。
6. 必要に応じて [83ページのステップ 5](#)を繰り返して、ワークシートにグリッドを追加します。

## アド・ホック・ワークシートの複数グリッド・ワークシートへの変換

- ▶ 既存のアド・ホック・ワークシートを複数のグリッドをサポートするワークシートに変換するには:
  1. ワークシートの任意の場所から、セルの範囲を選択します(1つのセルでなく、範囲を選択する必要があります)。
  2. Smart Viewパネルから、アプリケーションを右クリックして「アドホック分析」を選択します。

## 複数グリッド・ワークシートでの接続の変更

- ▶ 複数グリッド・ワークシートでグリッドの接続を変更するには:
  1. 接続を変更するグリッドで、セルの範囲を選択します(1つのセルでなく、範囲を選択する必要があります)。
  2. Excelの「名前の管理」を使用して、関連する名前付き範囲を削除します。
  3. Smart Viewパネルから、接続するアプリケーションを右クリックして「アドホック分析」を選択します。

## Essbaseの複数グリッド・ワークシート上のPOV

Essbaseの1つのグリッドのみを含む複数グリッド・ワークシートでは「**Pov**」ボタンが有効になっており、このボタンでPOVツールバーの表示/非表示を切り換えることができます。複数のグリッドを含む複数グリッド・ワークシートでは、「**POV**」ボタンは使用できません。

1つのグリッドを含む複数グリッド・ワークシートでは、POVディメンションがグリッドとツールバーの両方に表示されます。通常のアド・ホック・ワークシートでは、POVツールバーが非表示の場合のみ、POVディメンションがグリッドに表示されます。

## 複数のグリッドの例: バタフライ・レポート

データ・ソース・タイプ: Essbase

通常、Smart Viewのグリッドでは、メンバー名がデータ・グリッドの左上の行列にあります。複数のグリッドに対して使用可能になっているワークシートの範囲取得機能を使用すると、別のレイアウトのグリッドを作成できます。

たとえば、2列のデータ・セルの間にメンバー列を入れた、「バタフライ」レポートを作成できます。

図32 バタフライ・レポート

Diet Cola	East	Jan
Budget		Actual
\$190.00	Sales	\$200.00
\$80.00	COGS	\$84.00
\$110.00	Margin	\$116.00
\$20.00	Marketing	\$26.00
\$20.00	Payroll	\$23.00
	Misc	
\$40.00	Total Expenses	\$49.00
\$70.00	Profit	\$67.00
\$480.00	Opening Inventory	\$500.00
\$100.00	Additions	\$190.00
\$390.00	Ending Inventory	\$490.00
57.89	Margin %	58
36.84	Profit %	33.5
\$5.83	Profit per Ounce	\$5.58

## レポートおよびアド・ホック・グリッドのカスケード

データ・ソース・タイプ: Essbase、Planning、Oracle Planning and Budgeting Cloud Service、Financial Management、Hyperion Enterprise

アド・ホック・グリッドまたはスマート・スライス・クエリーに基づくレポートで、1つのディメンションの任意のメンバーまたはすべてのメンバーについて個別のレポートを作成し、それらのレポートをExcelワークブックの各ワークシートにカスケードすることができます。レポート・デザイナーで作成されたレポートの場合、PowerPointプレゼンテーションの複数のスライドに渡ってレポートをカスケードすることもできます。必要に応じて、すべてのレポートを収容するワークシートまたはスライドが作成されます。

式、コメントなどのテキスト、スマート・スライス関数グリッド、チャート、表、およびスライドは、カスケードされるレポートに含まれます。

▶ アド・ホック・グリッドまたはスマート・スライス・レポートをカスケードするには:

1. ワークシートで、アド・ホック・グリッドまたはスマート・スライス・レポートを開きます。
2. Essbaseまたはデータ・ソース・アド・ホックのリボンから、「カスケード」を選択し、次のいずれかを選択します。
  - 現在のワークブックを使用する場合は、「同一ワークブック」を選択します

- ・ 新しいワークブックを使用する場合は、「**新規ワークブック**」を選択します
  - ・ 各レポートを別々のワークブックにカスケードする場合は、「**別のワークブック**」を選択します
3. 「**メンバー選択**」の「**ディメンション**」で、レポートの基準として使用するPOVディメンションを選択します。
  4. 「**メンバー**」で、レポートを作成するディメンションのメンバーをすべて選択します。

選択したメンバーごとに1つのレポートが作成されます。

5. 「**OK**」をクリックすると、カスケードが開始されます。

84ページのステップ 2での選択内容に応じて、レポートは現在のワークブックまたは新しいワークブックで独立したワークシートとして作成されます。各ワークシート・タブには、レポートのディメンションとメンバーの名前が付けられます。



注:

ワークシート・タブの名前指定を使用可能にするためには、ディメンション名またはメンバー名を31文字以内にし、また、( ) : ¥ / ? \* [ ]の文字を使用しないようにします。



注:

大きいグリッドでは、カスケードが非常に遅くなる可能性があります。

## 代替変数

データ・ソース・タイプ: Essbase、Planning、Oracle Planning and Budgeting Cloud Service

代替変数は、変数値を表すグローバルなプレースホルダです。"&CurMnth"という指定は、現在の月を表す代替変数です。アプリケーション・デザイナーまたは管理者は、代替変数とそれに対応する値を定義および管理します。Smart Viewユーザーは、代替変数をグリッドに入力し、リフレッシュしてその値を取得できます。

たとえば、代替変数"&CurMnth"の値が「August」であるとします。グリッドに&CurMnthと入力すると、リフレッシュ後、Smart ViewにAugustと表示されます。その後、値を「September」に変更した場合、&CurMnthと入力してリフレッシュすると、「September」と表示されます。

代替変数の詳細は、EPMドキュメント・ライブラリで入手可能なEssbaseとPlanningのドキュメントを参照してください。このライブラリを開くには、Smart Viewのリボンから、「ヘルプ」の隣にある矢印、「**EPMドキュメント**」の順に選択します。

▶ 代替変数の値を取得するには:

1. グリッドのセルに代替変数を入力します。



注:

代替変数の名前はアンパサンド(&)で始まる必要があります。

2. 任意のリボンから、「リフレッシュ」を選択します。

代替変数に定義されている現在の値によって、セル(および現在のワークシート内の&CurMnthを含むすべてのセル)の代替変数が置き換えられます。

# 6

## データ・フォーム

### この項の内容:

Excelでのフォームの操作 .....	87
Excelでフォームを開く .....	87
フォームでのExcel式 .....	88
ユーザー変数の操作 .....	88
Planningフォーム .....	89
Financial Managementデータ・フォーム .....	90

## Excelでのフォームの操作

フォームは、Excelからデータベースにデータを入力でき、データまたは関連テキストを表示して分析できるグリッド表示です。一部のディメンション・メンバー値は固定され、データが特定の視点から表示されます。

Smart Viewを使用して、Planning、Oracle Planning and Budgeting Cloud Service、Financial Management、Hyperion EnterpriseのフォームをExcelで操作できます。



### 注:

読取り専用セルにデータを入力できないように、Excelワークシートは常に保護されます。そのため、オートSUMや[F9]などの一部のExcel機能は使用不可にされています。

Smart Viewで開かれたフォームでは:

- ・ フォームのデータ値は変更できますが、フォーム構造は変更できません。
- ・ Excelからデータベースに送信する値は、フォーマットされていないデータにする必要があります。
- ・ フォームをExcelにロードした後で、管理者がサーバー側でフォームの定義を変更した場合は、いったんフォームを閉じてリロードすることをお勧めします。このアクションによってフォームの最新の定義が表示されます。

フォームに対して行われたカスタマイズが保存時またはリフレッシュ時に維持されるのは、グリッドの外部に対して、または3桁ごとのセパレータと小数点に対して行われた場合のみです。

## Excelでフォームを開く

データ・ソース・タイプ: Planning、Oracle Planning and Budgeting Cloud Service、Financial Management、Hyperion Enterprise



▶ フォームを開くには:

1. データ・ソースに接続します。
2. Smart Viewパネルで、アクションを実行します:
  - 1つのフォームを開くには、ツリー・リストを展開し、開くフォームを選択します。その後、アクション・パネルで「フォームを開く」をクリックします。
  - 複数のフォームを開くには、ツリー・リストを展開し、フォーム・フォルダを選択します。その後、アクション・パネルで「フォームを開く」をクリックします。「フォームの選択」で、1つ以上のフォームを開く手順に従います。
3. (Planningのみ)フォームに関連付けられている説明を表示するには、Planningのリボンから「詳細」、「指示」の順に選択します。

## フォームでのExcel式

セルが読取り専用ではない、またはロックされていない場合、Excel式を、グリッドの内部または外部のフォームのセルに作成できます。セル・テキストを含むセルには、Excel式を含めることができますが、サポート詳細(Planning)またはライン・アイテム詳細(Financial Management)を含むセルには含めることはできません。

データを保存せずにフォームをリフレッシュし、後で保存されたワークシートを開いた場合、および行や列を展開または縮小した場合、式はフォーム内に保持されます。

参照式を移動した場合、そのセル参照は、新しい位置を反映するように更新されます。

フォームでは、次のいずれかを行うとワークブックをExcelファイルとして保存するよう求めるメッセージが表示されず(ただし、一時的にアクセス権を失います):

- 現在のページを変更する
- Planningフォームをオフライン化する
- 別のフォームを選択する
- 別のデータ・ソースに接続する

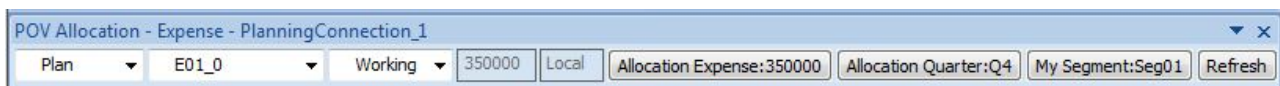
## ユーザー変数の操作

Planningのフォームにユーザー変数が含まれる場合、またはFinancial Managementのデータ・フォームに選択可能なディメンション、行または列がある場合、ユーザー変数を使用してSmart Viewでそれらを変更できます。

ユーザー変数は、Smart ViewのPOVツールバーのボタンに似ています。ユーザー変数ボタンをクリックすると、「メンバー選択」ダイアログ・ボックスが表示されます。次に、ユーザー変数に該当するメンバーを選択します。選択したユーザー変数に適用されるフィルタがロードされて、フィルタ・ドロップダウン・リストに表示されます。選択が完了すると、1つ以上のユーザー変数ボタンを簡単に変更して、Smart ViewのフォームのPOVを変更できるようになります。

88ページの図 33では、Planningのフォームにおけるユーザー変数の例を示していますが、この例では、配賦支出、配賦四半期、マイ・セグメントが、フォームのPOVを変えるために変更可能なユーザー変数です。

図33 Planningのフォームにおけるユーザー変数の例





例のシナリオでは、Financial Managementのデータ・フォーム・デザイン・モードで、ディメンションに対して1つのメンバー・リストまたは複数のメンバー(期間など)を選択し、@CUR関数を使用して行または列でその期間ディメンションを使用できます。その結果、「期間」ディメンションは、Smart Viewにユーザー変数で表されるようになります。

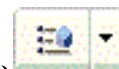
また、Financial Managementのデータ・フォームで相対期間機能を使用すると、同じディメンションのメンバーを行、列、およびPOVに表示できます。Smart Viewでは、相対期間メンバーはPOVツールバーにユーザー変数として表示されます。相対期間機能の使用法、および選択可能なディメンション、行および列をFinancial Managementで設定する方法の詳細は、*Oracle Hyperion Financial Management管理者ガイド*を参照してください。

▶ フォームのユーザー変数を使用するには:

1. Smart Viewパネルで、PlanningまたはFinancial Managementのデータ・ソースに接続し、フォームを開きます。

使用可能なユーザー変数がシート上部のPOVツールバーに表示されます。選択できるボタンは有効になり、選択できないボタンはグレー表示されます。

2. ユーザー変数ボタンをクリックして、「メンバー選択」ダイアログ・ボックスを表示します。
3. 「メンバー選択」で、メンバーを1つ以上選択して、選択したユーザー変数ボタンに追加します。



**PlanningおよびOracle Planning and Budgeting Cloud Service:** または、の矢印をクリックし、「代替変数」を選択して、メンバーを代替変数として選択します。

4. 「フィルタ」ドロップダウン・リストで、該当するフィルタを選択します(フィルタが使用可能な場合)。
5. 「OK」をクリックします。
6. メンバーを選択してフィルタを適用するすべてのユーザー変数ボタンに対して、[89ページのステップ 3](#)から[89ページのステップ 5](#)を繰り返します。
7. ユーザー変数ボタンを使用するには、選択したメンバーを適用する各ボタンをクリックして、ドロップダウン・リストから選択します。
8. 「リフレッシュ」をクリックして、更新されたフォームを表示します。

## Planningフォーム

データ・ソース: Planning, Oracle Planning and Budgeting Cloud Service

Planningに詳しくない場合は、次のいずれかを参照してください:

- EPMドキュメント・ライブラリで入手可能な『*Oracle Hyperion Planningユーザーガイド*』。このライブラリを開くには、Smart Viewのリボンから、「ヘルプ」の横にある矢印、「EPMドキュメント」の順に選択します。
- Oracle Cloudヘルプ・センターで入手可能な『*Planning for Oracle Planning and Budgeting Cloud Serviceの操作*』。

## Smart ViewでのPlanningフォームの動作

Smart ViewとPlanningでは、フォームの動作は次のように異なります:

- Planningフォームの属性は、Smart Viewには表示されません。

- アウトラインの複数のレベルをSmart Viewで表示する場合と、Planning Webアプリケーションのページで表示する場合とでは、表示が異なります。Smart Viewでは最大で4レベルが表示されるのに対し、Webアプリケーションでは最大2レベルの表示となります。
- Planningの管理者が、Planningフォームの行の軸でディメンションを非表示にしている場合は、Smart Viewで、そのディメンションにはフォームの行ヘッダーが表示されません。
- 複合フォームでは、Planning Webアプリケーションのチャートとして表示されるセクションは、Smart Viewではグリッドとして表示されます。

## アド・ホック・グリッドをフォームとして保存

アド・ホック・グリッド作成者の役割が割り当てられている場合は、Planningのアド・ホック・グリッドをフォームとして保存できます。

- ▶ Planningのアド・ホック・グリッドをフォームとして保存するには:
  1. Planningのアド・ホック・グリッドがアクティブな状態で、Planningアド・ホックのリボンから「アド・ホック・グリッドの保存」をクリックします。
  2. 「グリッドに名前を付けて保存」で、名前、グリッドを保存する場所のパス、およびグリッドの説明を入力します。
  3. オプション: グリッドに適用されたExcelフォーマットまたはセル・スタイルの変更を保存するには、「フォーマットの送信」を選択します。

Planningのアド・ホック・グリッドおよびフォームへのフォーマットの保存に関するその他の注意事項やガイドラインは、「PlanningへのネイティブExcelフォーマットの保存」を参照してください。

4. 「OK」をクリックします。

保存されたグリッドが、[90ページのステップ 2](#)で選択した場所の「Smart Viewパネル」ツリー・リストに表示されます。

## Planningフォームでのアド・ホック分析の実行

管理者によってアド・ホック・ユーザーの役割を割り当てられているユーザーであれば、管理者によってアド・ホックが使用可能に設定されているPlanningのフォームで、アド・ホック分析を実行できます。

- ▶ Planningのフォームでアド・ホック分析を実行するには:
  1. フォームを開きます。
  2. 次のいずれかの操作を行います:
    - Smart Viewのリボンから、「分析」をクリックします。このボタンは、現在のフォームでアド・ホック分析が使用可能な場合に使用可能になります。
    - Smart Viewパネルでフォームを選択し、アクション・パネルで「アド・ホック分析」をクリックします。
  3. アド・ホック分析の実行については、[71ページの第5章「アド・ホック分析」](#)を参照してください。

## Financial Managementデータ・フォーム

Financial Managementに詳しくない場合は、EPMドキュメント・ライブラリで入手可能なFinancial Managementのドキュメントを参照してください。このライブラリを開くには、Smart Viewのリボンから、「ヘルプ」の隣にある矢印、続いて「EPMドキュメント」をクリックします。

## Financial Managementメンバーについて

Financial Management 11.1.2.2.300以降を使用している場合、Financial Managementのデータ・フォームで@CURなどの相対期間機能を使用すると、同じディメンションのメンバーを行、列、およびPOVに表示できます。Smart Viewでは、相対期間メンバーはPOVツールバーにユーザー変数として表示されます。詳細は、[88ページのユーザー変数の操作](#)を参照してください。リリース11.1.2.2.300より前のFinancial Managementを使用している場合、データ・フォームで@CUR機能を使用し、そのフォームをSmart Viewにインポートすると、@CURのメンバーは、選択したアプリケーションのバックグラウンドPOVから取得されます。

「アクティブ・メンバー」オプションは、アプリケーションで期間別組織が設定されている場合にのみ使用できます。期間別組織の詳細は、Financial Managementのドキュメントを参照してください。

## Financial Managementメンバーの追加

管理者によって使用可能に設定されている場合、メンバーとデータの追加行を挿入して保存できます。新しいデータを反映して合計が更新されます。

たとえば、IC1、IC2、およびIC4に取引を設定した勘定科目のデータ・フォームを定義したとします。IC3およびIC5のメンバーをフォームに挿入するよう選択できます。フォームが新しいデータでリフレッシュされ、新規の行が適切な階層順で表示されます。

▶ データ・フォームにメンバーを追加するには:

1. データ・フォームを開きます。
2. **HFM**のリボンから、「メンバーの追加」をクリックします。

「メンバーの追加」で、セルのスタイルを指定できます。

[266ページのセルのスタイル](#)を参照してください。


3. メンバー・セレクトで、データを入力するメンバーを選択します。
4. 「OK」をクリックします。

新しいメンバーがメンバー・リストに表示されます。

## Financial Managementのリンク・フォームの使用方法

管理者は、あるフォームからさらに詳細なデータ入力ビューにドリルスルーできる別のフォームへのリンクを定義できます。たとえば、要約勘定科目残高が含まれているフォームは、勘定の詳細を持つ該当フォームへリンクできます。あるフォームから別のフォームへのリンクは、行全体に適用されます。1つのフォームに最大64個のリンク・フォームを含めることができます。

▶ リンク・フォームを使用するには:

1. データ・フォームで、リンクされたフォームが含まれている行を選択します。リンクされたフォームはアイコン  で示されます。
2. 右クリックして「**HFM**リンク・フォーム」を選択し、フォーム名を選択します。

ブラウザで別のウィンドウが開き、リンク先のフォームが表示されます。

3. リンク・フォームの使用が終わったら、「閉じる」をクリックします。

# 7

## Smart Viewの一般的な操作

この項の内容:

Smart Viewの操作 .....	93
「元に戻す」と「やり直し」の使用方法 .....	93
コピーと貼付け .....	99
自動列幅調整の有効化 .....	102
シート情報 .....	102
ドキュメント・コンテンツ .....	106
共有ワークブック .....	114
Smart Viewで大きいワークブックを開く .....	114
ヘッダーおよびフッターへのPOVメンバーの印刷 .....	115
Smart Viewの使用可能/使用不可 .....	115

### Smart Viewの操作

Smart Viewでは、すべてのデータ・ソース・タイプに共通の一連の操作を提供します。これらには、基本操作、関数およびプリファレンスの設定する機能などが含まれます。

### 「元に戻す」と「やり直し」の使用方法

#### サブトピック

- [プロバイダ別の「元に戻す」のサポート](#)
- [元に戻す処理とやり直し処理の数の指定](#)

Smart Viewの「元に戻す」コマンドと「やり直し」コマンドは、接続しているデータ・ソースによって動作が異なります。簡単な説明:

- Essbase、Financial ManagementまたはHyperion Enterpriseのデータ・ソースでアド・ホック分析を使用する場合、ズーム・イン、ズーム・アウト、選択項目のみ保持、選択項目のみ除去、リフレッシュの各コマンドを「元に戻す」によって取り消し、グリッドを以前のデータベース表示に戻すことができます。メンバー・データを変更した後で「元に戻す」を実行すると、シートは、データの変更前の状態ではなく、最後のリフレッシュを行う前の状態に戻ります。
- Financial Management、Hyperion EnterpriseまたはPlanningのデータ・ソースのフォームでは、「元に戻す」を実行すると、セルでの最後のユーザー・アクションが元に戻されます。
- すべてのプロバイダのアド・ホック・グリッドでは、「元に戻す」を実行するとExcelフォーマットは保持されません。

詳細は、94ページのプロバイダ別の「元に戻す」のサポートを参照してください。



注:

Smart Viewで実行された操作のみ、元に戻すことができます。プロバイダ・サーバー上で実行された操作(計算ステータスなど)は、元に戻すできません。

## プロバイダ別の「元に戻す」のサポート

### サブトピック

- [Essbaseの「元に戻す」のサポート](#)
- [Financial Managementの「元に戻す」のサポート](#)
- [Planningの「元に戻す」のサポート](#)

## Essbaseの「元に戻す」のサポート

表1 Essbaseでサポートされている「元に戻す」操作

操作	単一グリッド	複数グリッド	VBA	関数
<b>アド・ホック</b>				
ズーム・イン	サポートされています	N/A	N/A	N/A
ズーム・アウト	サポートされています	N/A	N/A	N/A
選択項目のみ保持	サポートされています	N/A	N/A	N/A
選択項目のみ除去	サポートされています	N/A	N/A	N/A
ピボット	サポートされています	N/A	N/A	N/A
リフレッシュ	サポートされています	N/A	N/A	N/A
<b>メンバー・オプション</b>				
<b>一般</b>				
ズーム・イン・レベル	サポートされています	N/A	N/A	N/A
メンバー名の表示	サポートされています	N/A	N/A	N/A
インデント	サポートされています	N/A	N/A	N/A
祖先の位置	サポートされています	N/A	N/A	N/A
<b>メンバーの保持</b>				
選択を含める	サポートされています	N/A	N/A	N/A
選択したグループ内	サポートされています	N/A	N/A	N/A
選択されていないグループの削除	サポートされています	N/A	N/A	N/A
<b>コメントと式</b>				

操作	単一グリッド	複数グリッド	VBA	関数
アドホック操作の式とコメントを保存(ピボットを除く)	Excelの式を保存: サポートされていません Smart View関数を保存: サポートされていません	N/A	N/A	N/A
- 式の充てん	Excelの式を保存: サポートされていません Smart View関数を保存: サポートされていません			
- 拡張コメント処理を有効にする	コメントを保存: サポートされています			
POV変更時に式を保存	N/A	N/A	N/A	N/A
<b>データ・オプション</b>				
<b>行</b>				
データなしの抑制/欠落の抑制	サポートされています	N/A	N/A	N/A
ゼロ	サポートされています	N/A	N/A	N/A
アクセス権なし	サポートされています	N/A	N/A	N/A
無効	サポートされています	N/A	N/A	N/A
アンダースコア文字	サポートされています	N/A	N/A	N/A
繰返しメンバー	サポートされています	N/A	N/A	N/A
<b>列</b>				
データなしの抑制/欠落の抑制	サポートされています	N/A	N/A	N/A
ゼロ	サポートされています	N/A	N/A	N/A
アクセス権なし	サポートされています	N/A	N/A	N/A
<b>モード</b>				
欠落ブロックの抑制	サポートされています	N/A	N/A	N/A
保存されたオープンの変更	サポートされていません	N/A	N/A	N/A
別名表	サポートされています	N/A	N/A	N/A
メタデータ(メンバー・データ)	サポートされていません	N/A	N/A	N/A
セルのスタイル	N/A	N/A	N/A	N/A

## Financial Managementの「元に戻す」のサポート

表2 Financial Managementでサポートされている「元に戻す」操作

操作	フォーム	アド・ホック	データ・グリッド	VBA	関数
<b>アド・ホック</b>					
ズーム・イン	N/A	サポートされています	N/A	N/A	N/A
ズーム・アウト	N/A	サポートされています	N/A	N/A	N/A
選択項目のみ保持	N/A	サポートされています	N/A	N/A	N/A
選択項目のみ除去	N/A	サポートされています	N/A	N/A	N/A
ピボット	N/A	サポートされています	N/A	N/A	N/A
リフレッシュ	N/A	サポートされています	N/A	N/A	N/A
<b>メンバー・オプション</b>					
<b>一般</b>					
ズーム・イン・レベル	N/A	サポートされています	N/A	N/A	N/A
メンバー名の表示	N/A	サポートされています	N/A	N/A	N/A
インデント	N/A	サポートされています	N/A	N/A	N/A
祖先の位置	N/A	サポートされています	N/A	N/A	N/A
<b>メンバーの保持</b>					
選択を含める	N/A	サポートされています	N/A	N/A	N/A
選択したグループ内	N/A	サポートされています	N/A	N/A	N/A
選択されていないグループの除去	N/A	サポートされています	N/A	N/A	N/A
<b>コメントと式</b>					
式とコメントを保存	N/A	サポートされています	N/A	N/A	N/A
- 式の充てん	N/A	サポートされています	N/A	N/A	N/A



操作	フォーム	アド・ホック	データ・グリッド	VBA	関数
- 拡張コメント処理を有効にする	N/A	サポートされています	N/A	N/A	N/A
POV変更時に式を保存	N/A	サポートされています	N/A	N/A	N/A
データ・オプション					
行					
データなしの抑制/欠落の抑制	N/A	サポートされています	N/A	N/A	N/A
ゼロ	N/A	サポートされています	N/A	N/A	N/A
アクセス権なし	N/A	サポートされています	N/A	N/A	N/A
無効	N/A	サポートされています	N/A	N/A	N/A
アンダースコア文字	N/A	サポートされています	N/A	N/A	N/A
繰返しメンバー	N/A	サポートされています	N/A	N/A	N/A
列					
データなしの抑制/欠落の抑制	N/A	サポートされています	N/A	N/A	N/A
ゼロ	N/A	サポートされています	N/A	N/A	N/A
アクセス権なし	N/A	サポートされています	N/A	N/A	N/A
モード					
欠落ブロックの抑制	N/A	サポートされています	N/A	N/A	N/A
保存されたオープンの変更	N/A	サポートされません	N/A	N/A	N/A
別名表	N/A	サポートされています	N/A	N/A	N/A
メタデータ(メンバー・データ)	N/A	サポートされません	N/A	N/A	N/A
セルのスタイル	N/A	サポートされません	N/A	N/A	N/A

## Planningの「元に戻す」のサポート

表3 Planningでサポートされている「元に戻す」操作

操作	フォーム	アド・ホック	VBA	関数
<b>アド・ホック</b>				
ズーム・イン	N/A	サポートされています	N/A	N/A
ズーム・アウト	N/A	サポートされています	N/A	N/A
選択項目のみ保持	N/A	サポートされています	N/A	N/A
選択項目のみ除去	N/A	サポートされています	N/A	N/A
ピボット	N/A	サポートされています	N/A	N/A
リフレッシュ	N/A	サポートされています	N/A	N/A
<b>メンバー・オプション</b>				
<b>一般</b>				
ズーム・イン・レベル	N/A	サポートされています	N/A	N/A
メンバー名の表示	N/A	サポートされています	N/A	N/A
インデント	N/A	サポートされています	N/A	N/A
祖先の位置	N/A	サポートされています	N/A	N/A
<b>メンバーの保持</b>				
選択を含める	N/A	サポートされています	N/A	N/A
選択したグループ内	N/A	サポートされています	N/A	N/A
選択されていないグループの除去	N/A	サポートされています	N/A	N/A
<b>コメントと式</b>				
式とコメントを保存	N/A	サポートされています	N/A	N/A
- 式の充てん	N/A	サポートされています	N/A	N/A
- 拡張コメント処理を有効にする	N/A	サポートされています	N/A	N/A
POV変更時に式を保存	N/A	サポートされています	N/A	N/A
<b>データ・オプション</b>				
<b>行</b>				
データなしの抑制/欠落の抑制	N/A	サポートされています	N/A	N/A
ゼロ	N/A	サポートされています	N/A	N/A
アクセス権なし	N/A	サポートされています	N/A	N/A
無効	N/A	サポートされています	N/A	N/A
アンダースコア文字	N/A	サポートされています	N/A	N/A

操作	フォーム	アド・ホック	VBA	関数
繰返しメンバー	N/A	サポートされています	N/A	N/A
列				
データなしの抑制/欠落の抑制	N/A	サポートされています	N/A	N/A
ゼロ	N/A	サポートされています	N/A	N/A
アクセス権なし	N/A	サポートされています	N/A	N/A
モード				
欠落ブロックの抑制	N/A	サポートされています	N/A	N/A
保存されたオープンの変更	N/A	サポートされていません	N/A	N/A
別名表	N/A	サポートされています	N/A	N/A
メタデータ(メンバー・データ)	N/A	サポートされていません	N/A	N/A
セルのスタイル	N/A	サポートされていません	N/A	N/A

## 元に戻す処理とやり直し処理の数の指定

▶ 元に戻す操作およびやり直し操作について許可される回数を指定するには:

1. Smart Viewのリボンから、「オプション」を選択し、左側のパネルで「詳細」を選択します。
2. 「元に戻す処理の数」に、「元に戻す」操作を許可する回数を、0から100の間で指定します。

これは、「やり直し」操作を許可する回数でもあります。

3. 「OK」をクリックします。この設定は、リフレッシュを行うか、ドリル操作を実行すると有効になります。

## コピーと貼付け

### サブトピック

- [コピーしたワークシートへのメタデータのインポート](#)
- [コンテンツのコピー、貼付けおよびリフレッシュ](#)
- [Excel、Word、およびPowerPoint間でのデータのコピー](#)

## コピーしたワークシートへのメタデータのインポート

データ・ソース・タイプ: Essbase、Planning、Oracle Planning and Budgeting Cloud Service、Financial Management、Reporting and Analysis、Hyperion Enterprise

メタデータはPOV、別名表、接続情報などで構成されます。

Excelワークシートをコピーするときは、データのみがコピーされます。メタデータはコピーされません。そのかわりに、データのコピー後にそのメタデータを元のワークシートから新しいワークシートにインポートすることができます。

メタデータは次の場合にインポートできます:

- アドホック・モード(スマート・スライスを含む)
- フォーム
- 関数
  - Smart Viewのコピーと貼付けによって作成された、シート内の問合せにバインドされた関数
  - 関数ビルダーで作成された、問合せにバインドされていない関数
- Oracle Hyperion Reporting and Analysisのプロバイダからインポートされたレポートを含むワークシート

レポート・デザイナー・オブジェクトを含むワークシートではメタデータをインポートできませんが、これらのワークシートは [84ページのレポートおよびアド・ホック・グリッドのカスケード](#)で説明されているカスケードによってレプリケートできます。



注:

この手順は、上級ユーザーのみが実行するようにしてください。

- ▶ コピーしたワークシートにメタデータをインポートするには、次の手順を実行します(この操作は元に戻せません):
1. 作業をバックアップします。
  2. Smart Viewのメニューから「オプション」、「詳細」の順に選択し、「向上したメタデータ・ストレージ」が選択されていることを確認します。
  3. Excelを使用してワークシートをコピーします。この操作では、ソース・ワークシートにある表示可能なコンテンツはコピーされますが、メタデータ(接続情報、POV選択、別名表などのアイテム)は宛先のワークシートにコピーされません。
  4. 宛先のワークシートがアクティブな状態で、Smart Viewのメニューから「詳細」、「メタデータのインポート」の順に選択して、開いているすべてのワークブックと、それらに対応する開いているワークシートのリストを表示します。
  5. リストから、宛先のワークシートにインポートするメタデータが含まれているワークシートを選択します。
  6. 「OK」をクリックします。選択内容を確認するメッセージが表示されます。
  7. リフレッシュします。

## コンテンツのコピー、貼付けおよびリフレッシュ

次のSmart Viewコンテンツは、Smart Viewのリボンの「コピー」ボタンと「貼付け」ボタンを使用してコピーして貼り付けてから、Smart Viewの「リフレッシュ」を使用してリフレッシュすることができます:

- アド・ホック - 適用対象のすべてのプロバイダ
- 関数 - 適用対象のすべてのプロバイダ
- Oracle BI EEのコンテンツ

Smart View内の他のコンテンツ(Financial Managementフォーム、PlanningフォームおよびExcelピボット・テーブルのコンテンツなど)は、静的テキストとして貼り付けられます。

## Excel、Word、およびPowerPoint間でのデータのコピー

Smart ViewでExcelからデータをコピーし、Excel、WordまたはPowerPointに貼り付けられます。Officeアプリケーション間では、コピーして貼り付けるデータは動的です。次のアプリケーション間でコピーと貼付けが可能です。

- ExcelからWordおよびPowerPointへ
- ExcelからExcelへ(アド・ホックのみ)
- WordからWordおよびPowerPointへ
- PowerPointからWordおよびPowerPointへ

データ・ポイントは、元のExcelベースの問合せ情報を保持するため、ユーザーはデータ分析を実行できます。WordおよびPowerPointは、1つのドキュメント内にEssbase、Financial Management、Planningなど複数のデータ・ソースのデータ・ポイントを含めることができます。

### 注意

- 動的データ・ポイントは、WordとPowerPointでのみ保持されます。Excel内でデータ・ポイントをコピーして貼り付けた場合、データ・ポイントはExcelグリッドにリンクされません。
  - WordからPowerPointへ、またはその逆方向にコピーして貼り付けた場合、データは一直線に表示されます。表フォーマットは、ExcelからWordまたはPowerPointにデータをコピーする場合にのみ保持されます。
  - データがWordおよびPowerPointに貼り付けられたときに、Excelの数値のフォーマットは保持されます。データをコピーして貼り付ける前に、Excelで数値のフォーマットを適用してください。
  - データ・ソースへの接続の名前にセミコロン(;)が含まれている場合は、関数データ・ポイントを貼り付けることができません。
  - データ・ポイントのコピーと貼付けができるのは、グリッドおよび関数のみです。フォームまたはExcelピボット・テーブルからデータ・ポイントをコピーできますが、これは静的テキストとして貼り付けられます。
- ▶ Excel、WordまたはPowerPointからデータをコピーしてExcel、WordまたはPowerPointに貼り付けるには:
1. データ・セルまたは範囲を選択します(メンバーを含めることも、含めないこともできます)。
  2. Smart Viewのリボンから、「コピー」を選択します。
  3. WordまたはPowerPointドキュメント、または別のExcelワークシートまたはワークブックを開きます。
  4. 接続を作成するかどうかを確認された場合は、「はい」をクリックします。
  5. Smart Viewのリボンから、「貼付け」を選択します。
  6. リフレッシュします。



注:

Wordドキュメントにデータを貼り付け、.htmまたは.mhtなどの異なる形式で保存すると、それらの形式のデータはリフレッシュできません。

7. オプション: WordまたはPowerPointで、データを貼り付けた後にPOVを変更するには、「**POVの管理**」をクリックし、[47ページのデフォルトまたはバックグラウンドPOVのメンバーの選択](#)の手順に従います。

### データ・ポイントのコピー元スプレッドシートの取得

- ▶ データ・ポイントのコピー元のExcelスプレッドシートを取得するには:

1. Excelデータ・ポイントが貼り付けられたWordまたはPowerPointドキュメントで、データ・セルを選択します。
2. データ・ソースのリボンから、「**Excelでの視覚化**」を選択します。
3. データ・ソースへのログオンを求められた場合は、ユーザー名とパスワードを入力します。

Excelに、データ・セルに関連付けられているスプレッドシートが表示されます。データに対してアド・ホック分析を実行できます。

## 自動列幅調整の有効化

▶ メンバー・セルおよびデータ・セルの内容にあわせた、Excelの列幅の自動調整を使用可能にするには:

1. Smart Viewのリボンから、「**オプション**」を選択します。
2. 「**オプション**」で、左側のパネルから「**フォーマット**」を選択します。
3. 「**列幅の調整**」を選択します。
4. 「**OK**」をクリックします。
5. 任意のリボンから、「**リフレッシュ**」を選択して、現在のグリッドの列を調整します。

「**列幅の調整**」が選択されていない場合、手動で列幅を調整できます。

## シート情報

▶ 現在のワークシートについて接続およびその他の詳細を表示するには:

1. Smart Viewのリボンから、「**シート情報**」をクリックします。

シート上のSmart Viewデータに応じて、「**シート情報**」では、次のプロパティの詳細が表示されます:

- **接続済Connected** - 接続ステータス。接続している場合は「はい」、接続していない場合は「いいえ」。
- **シート・タイプ** - 「アド・ホック」、「複数のグリッド・アド・ホック」または「フォーム」。
- **サーバー** - シートが接続しているサーバーの名前。
- **アプリケーション** - シートが接続しているアプリケーション。
- **キューブ** - シートが接続しているキューブまたはデータベース。
- **URL** - シートが接続しているソース・プロバイダのURL文字列。
- **プロバイダ** - Planning, Financial ManagementまたはAnalytic Services (Essbase)など、シートが接続しているデータ・ソース・タイプ。
- **プロバイダのバージョン** - プロバイダ・サーバーのバージョン番号。
- **プロバイダURL** - シートが接続しているデータ・ソース・プロバイダのURL文字列。このプロパティは、Analytic Provider Services 11.1.1.4.x以前のリリースに適用できます。
- **わかりやすい名前** - プライベート接続の場合のみ。プライベート接続の作成または編集時、またはプライベート接続への共有接続の追加時にユーザーが指定したデータ・ソース接続名。
- **別名表** - 現在の別名表。
- **関連付けられた範囲** - 複数グリッド・シートの場合。複数グリッド・シートの各グリッドの、シート名、アプリケーション、データベースおよび一意の識別子。複数グリッド・ワークシートは、Essbaseデータ・ソースのみに適用さ

れます。複数グリッド・ワークシートで「シート情報」を使用するには、[103ページのシート情報ノート](#)を参照してください。

- 説明 - プライベート接続の場合のみ。プライベート接続を作成または編集するユーザーが入力したオプションの接続の説明。
  - フォーム名 - シートが接続しているフォームの名前。このプロパティは、PlanningおよびFinancial Managementでフォームに接続した場合のみ、適用されます。
2. オプション: 必要に応じて次のオプションを選択します。
- 削除 - Smart Viewメタデータを削除するための次のオプションを指定します:
    - ワークシート・メタデータの削除
    - ワークブック・メタデータの削除
    - すべてのメタデータの削除(ワークブック・メタデータおよびすべてのワークシートを削除します)
  - 保存 - 「シート情報」の内容をExcelスプレッドシートに保存します。
3. オプション: 選択したリスト内のアイテムをクリップボードにコピーするには、**[Ctrl]**を押しながら**[C]**を押します。
- 「シート情報」リスト全体をコピーするには、「シート情報」で選択されているアイテムがないことを確認し、**[Ctrl]**を押しながら**[C]**を押します。リストのアイテムをすでに選択している場合、「シート情報」を閉じて再度開き、**[Ctrl]**を押しながら**[C]**を押します。
4. 「OK」をクリックします。
5. プロバイダによるシート情報サポート、シート・タイプおよび接続ステータスを表示するには、[103ページのプロバイダによるシート情報サポート](#)を参照してください。

## シート情報ノート

- 「わかりやすい名前」は、プライベート接続の場合のみです。「わかりやすい名前」は、プライベート接続の作成または編集時、またはプライベート接続への共有接続の追加時にユーザーが指定したデータ・ソース接続名です。
- 複数グリッド・ワークシートで「シート情報」コマンドを使用する場合は、次のとおりです:
  - 複数グリッド・ワークシートのすべてのグリッドで情報を表示するには、グリッドの境界の外側の任意の場所をクリックするか、グリッド内の1つのセルのみを選択します。
  - 複数グリッド・ワークシートでグリッドの1つのみの情報を表示するには、グリッド全体を選択し、グリッドの境界の外側のセルは選択しません。
- Planningに接続している場合、アクティブな結合にシートを関連付けるために「デフォルト接続として設定」オプションを使用する必要はありません。関連付けは、接続の直後に自動的に行われます。
- 次のプロバイダでは、「シート情報」ダイアログ・ボックスは、サポートされていないか、サポートが非常に制限されています: Oracle BI EE, Financial ReportingおよびOracle Hyperion Strategic Finance。

## プロバイダによるシート情報サポート

### サブトピック

- [Essbaseのシート情報サポート](#)
- [HFMのシート情報サポート](#)
- [Planningのシート情報サポート](#)

## Essbaseのシート情報サポート

表4 Essbaseでサポートされているシート情報

接続ステータス	単一グリッド	複数グリッド	VBA (HypExecuteMenu)	式	関数 (HsGetVal, HsGetSheetInfo)
共有接続	はい	はい		はい	はい
プライベート接続	はい	はい		はい	はい
プライベート接続 - デフォルト接続として設定	はい	はい		はい	はい
接続なし(空白の新規ワークシートを開きます)	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
接続なし(保存されたワークシートを開きます)	はい	はい		いいえ	いいえ
このワークシートのアクティブ接続の設定	はい ( <a href="#">103ページのシート情報ノート</a> を参照してください)	はい ( <a href="#">103ページのシート情報ノート</a> を参照してください)		はい ( <a href="#">103ページのシート情報ノート</a> を参照してください)	はい ( <a href="#">103ページのシート情報ノート</a> を参照してください)
デフォルト接続として設定(アクティブな接続への関連付け前)	いいえ ( <a href="#">103ページのシート情報ノート</a> を参照してください)	はい ( <a href="#">103ページのシート情報ノート</a> を参照してください)		はい ( <a href="#">103ページのシート情報ノート</a> を参照してください)	いいえ ( <a href="#">103ページのシート情報ノート</a> を参照してください)
デフォルト接続として設定(アクティブな接続への関連付け後)	はい ( <a href="#">103ページのシート情報ノート</a> を参照してください)	はい ( <a href="#">103ページのシート情報ノート</a> を参照してください)		はい ( <a href="#">103ページのシート情報ノート</a> を参照してください)	はい ( <a href="#">103ページのシート情報ノート</a> を参照してください)

## HFMのシート情報サポート

表5 HFMでサポートされているシート情報

接続ステータス	フォーム	アド・ホック	式	VBA	関数
共有接続	はい	はい	はい		はい
プライベート接続	はい	はい	はい		はい
プライベート接続 - デフォルト接続として設定	はい	はい	はい		はい
接続なし(空白の新規ワークシートを開きます)	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ



接続ステータス	フォーム	アド・ホック	式	VBA	関数
接続なし(保存されたワークシートを開きます)	はい	はい	はい		いいえ
このワークシートのアクティブ接続の設定	はい	はい	はい		いいえ
デフォルト接続として設定(アクティブな接続への関連付け前)	はい	はい	はい		いいえ
デフォルト接続として設定(アクティブな接続への関連付け後)	はい	はい	はい		はい

## Planningのシート情報サポート

表6 Planningでサポートされているシート情報

接続ステータス	フォーム	アド・ホック	スマート・フォーム	VBA	ルール	関数
共有接続	はい	はい	はい		はい	はい
プライベート接続	はい	はい	はい		はい	はい
プライベート接続 - デフォルト接続として設定	はい	はい	はい		はい	いいえ
接続なし(空白の新規ワークシートを開きます)	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
接続なし(保存されたワークシートを開きます)	はい	はい	はい		はい	いいえ
このワークシートのアクティブ接続の設定	はい ( 103ページのシート情報ノートを参照してください)	はい (103ページのシート情報ノートを参照してください)	はい (103ページのシート情報ノートを参照してください)	はい (103ページのシート情報ノートを参照してください)	はい	はい ( 103ページのシート情報ノートを参照してください)
デフォルト接続として設定(ア	該当なし ( 103ページのシ	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし

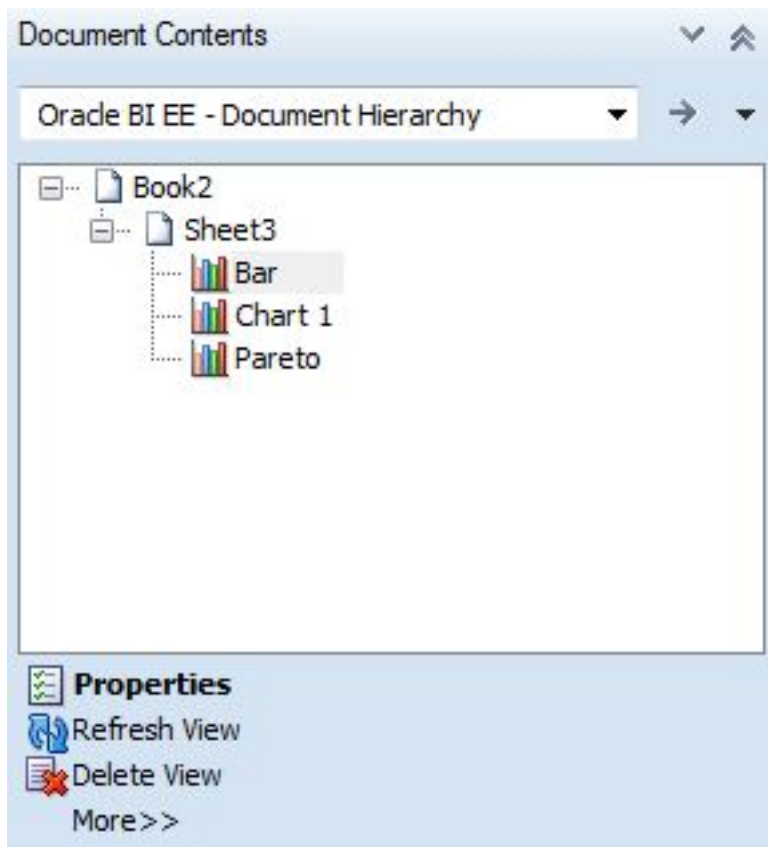
接続ステータス	フォーム	アド・ホック	スマート・フォー ム	VBA	ルール	関数
クティブな接続 への関連付け (前)	ト情報ノートを 参照してくださ い)					
デフォルト接続 として設定(ア クティブな接続 への関連付け 後)	はい ( 103ページのシー ト情報ノートを 参照してくださ い)	はい	はい		はい	はい

## ドキュメント・コンテンツ

ドキュメント・コンテンツは、現在のOfficeドキュメントに存在するコンテンツのビューを提供し、それに対するアクションの実行を可能にする、Smart Viewパネルのタスク・ペインです。

「ドキュメント・コンテンツ」ペインにはOfficeオブジェクトがツリー形式で表示され、ワークブック、プレゼンテーション、文書のコンテンツを、コンテンツや拡張機能からの内部コンテンツのプロバイダやタイプにかかわらず、簡単に閲覧し操作できます。コンテンツは、プロバイダ接続、またはシート、スライド、ページでのドキュメントのレイアウトに基づいて表示されます。106ページの図 34に、Excelの「ドキュメント・コンテンツ」でのOracle BI EEコンテンツの例を示します。

図34 Oracle BI EEのコンテンツを表示する「ドキュメント・コンテンツ」ペイン

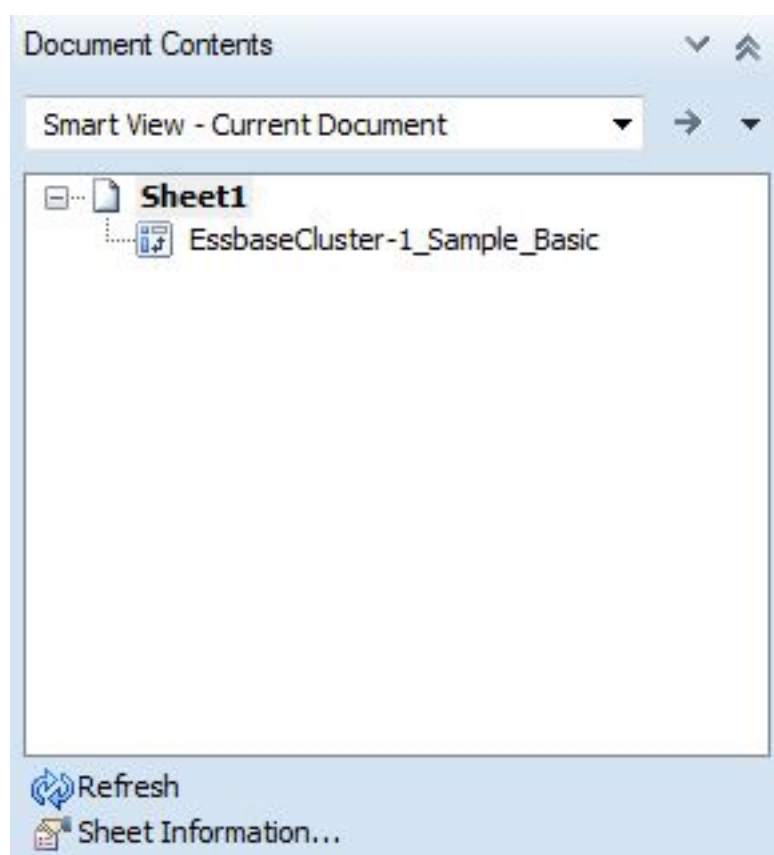


「ドキュメント・コンテンツ」ペインで選択したオブジェクトに対し、プロバイダによって異なるタスクを実行できます。

- ほとんどのプロバイダで、シート、スライド、文書のコンテンツの「選択」、「リフレッシュ」、「削除」が可能です。
- Oracle BI EEプロバイダでは、個々のビューに対して追加のタスクを実行できます。たとえば、ビューをマスクしたり、ビューのプロパティを表示したりすることができます。
- Reporting and Analysisプロバイダでは、レポート・オブジェクトの挿入などのタスクを実行できます。

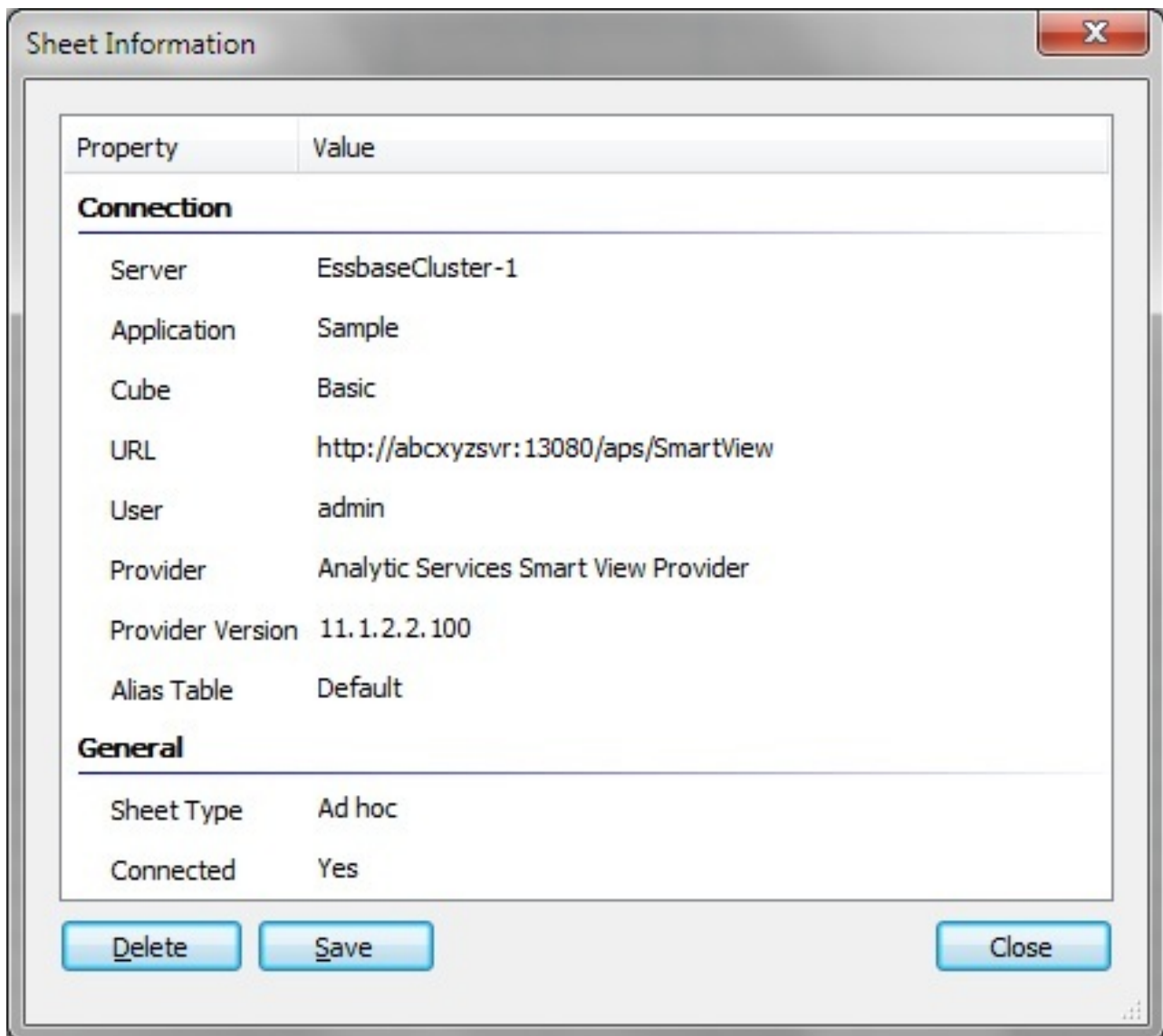
たとえば、109ページの図 37では、シート1にEssbaseアド・ホック・ビューがあります。シート・ノードを選択すると、「ドキュメント・コンテンツ」ペインの下部に「リフレッシュ」と「シート情報」のオプションが表示されます。

図35 ドキュメント・コンテンツでシート・ノードが選択されたEssbaseアド・ホック・グリッド



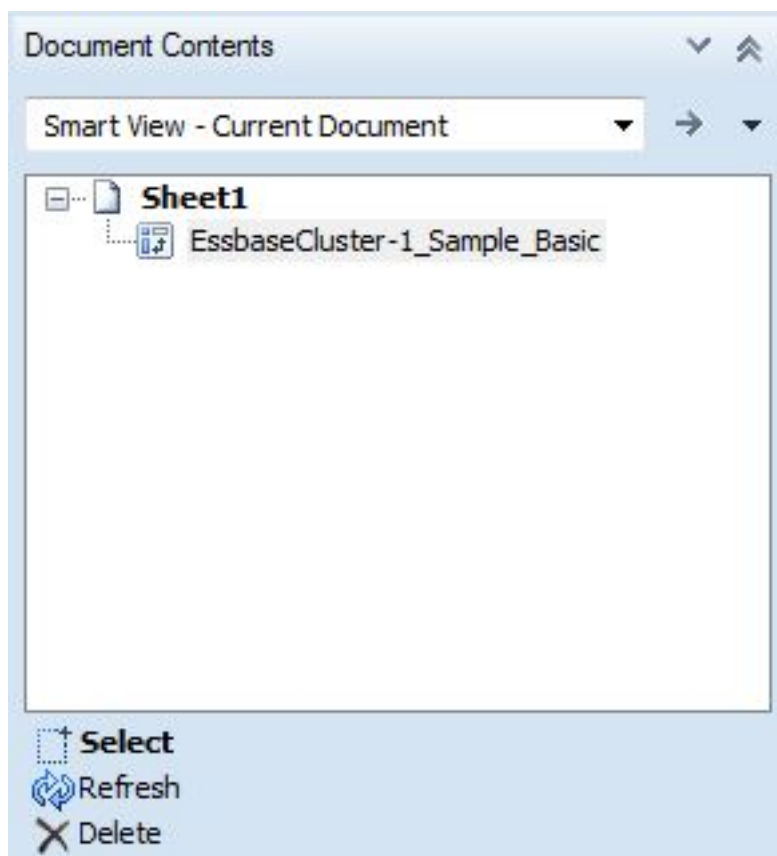
「シート情報」をクリックすると、「シート情報」ダイアログ・ボックス( 108ページの図 36)が表示されます。ここで、シートの「保存」または「削除」を選択することもできます。

図36 Essbaseアド・ホック・グリッドの「シート情報」ダイアログ・ボックス



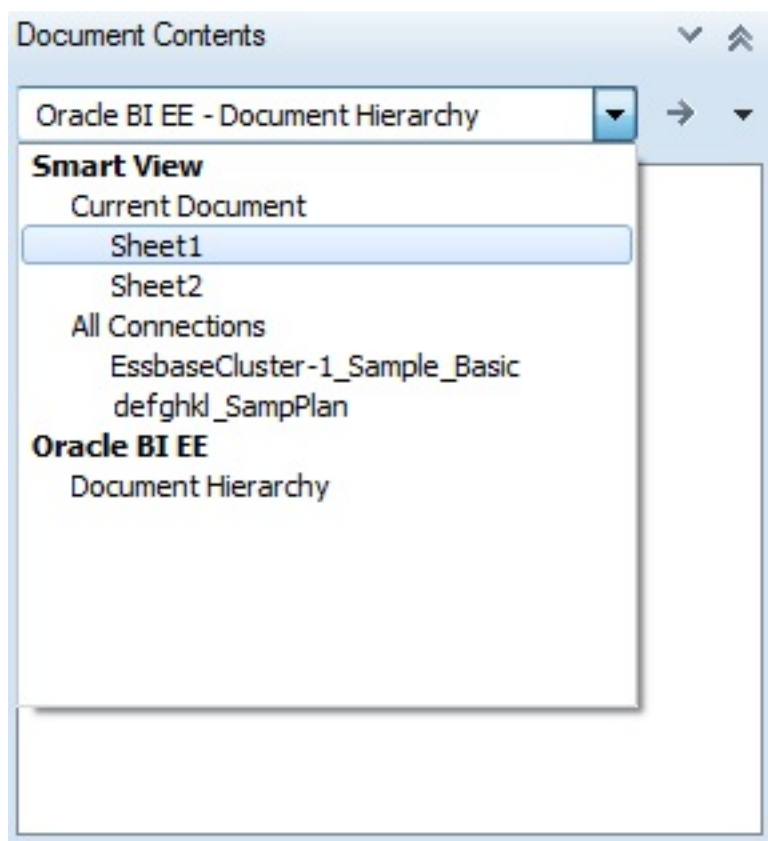
ドキュメント・コンテンツでオブジェクト・ノードを選択すると、コンテキストが変わり、ペインの下部に「選択」、「リフレッシュ」および「削除」オプションが表示されます( 109ページの図 37)。

図37 ドキュメント・コンテンツで選択されたEssbaseアド・ホック・グリッド



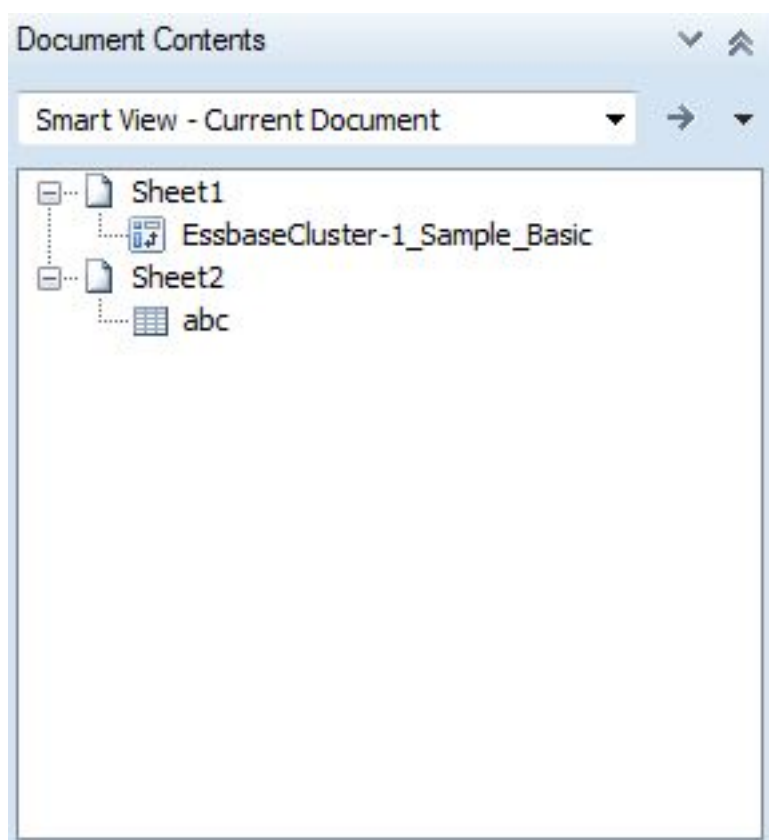
コンテンツは一般に、Smart Viewのプロバイダ(Essbase、Financial Management、Planning、Reporting and Analysis)によってグループ化されます。Oracle BI EEのコンテンツは、別のグループに分けられます。異なるデータ・ソースからの複数のオブジェクトを含むワークブックでは、[110ページの図 38](#)で示すように、「ドキュメント・コンテンツ」ドロップダウン・メニューを使用してビューを切り替えることができます。

図38 「ドキュメント・コンテンツ」ドロップダウン・メニューで使用可能なオプション



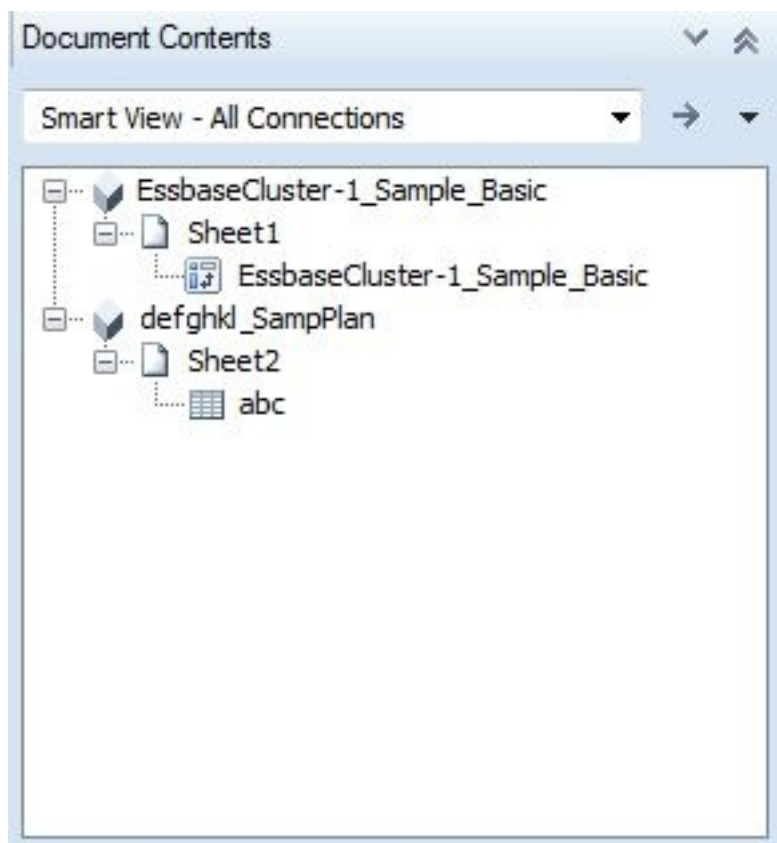
Smart Viewの「現在のドキュメント」オプションを選択すると、「ドキュメント・コンテンツ」の表示が変わり、Smart Viewのオブジェクトがシートでソートされて表示されます( 111ページの図 39)。

図39 ドキュメント・コンテンツでシートごとに表示されるSmart Viewのプロバイダ・コンテンツ



Smart Viewの「すべての接続」オプションを選択すると、「ドキュメント・コンテンツ」の表示が変わり、オブジェクトがプロバイダでソートされて表示されます( 112ページの図 40)。

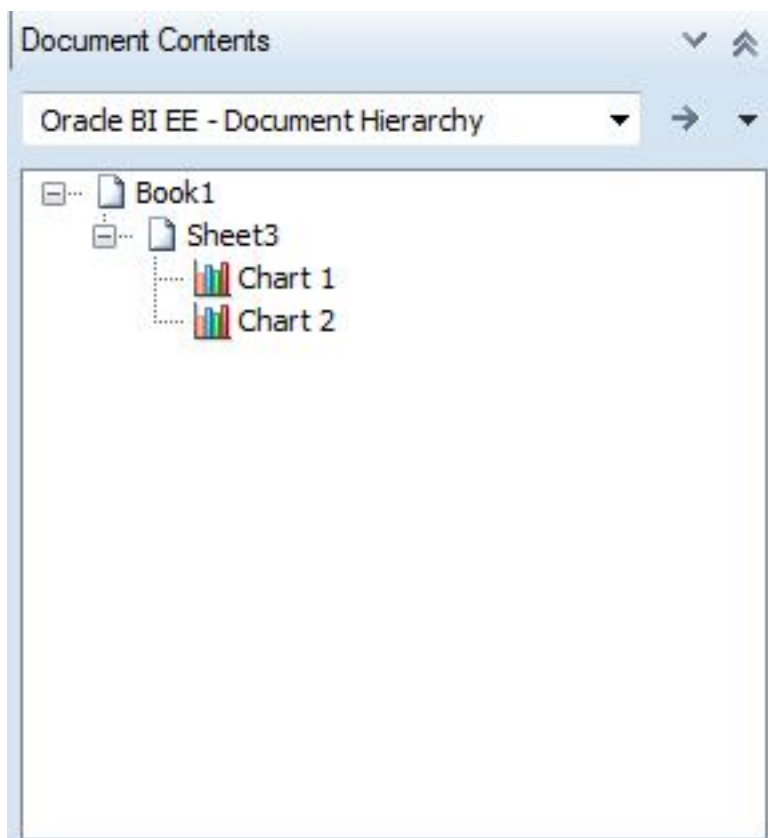
図40 ドキュメント・コンテンツでプロバイダごとにリストされるSmart Viewのプロバイダ・コンテンツ



Oracle BI EEの「ドキュメント階層」オプションを選択すると、Oracle BI EEのビューがリストされます (113ページの図41)。



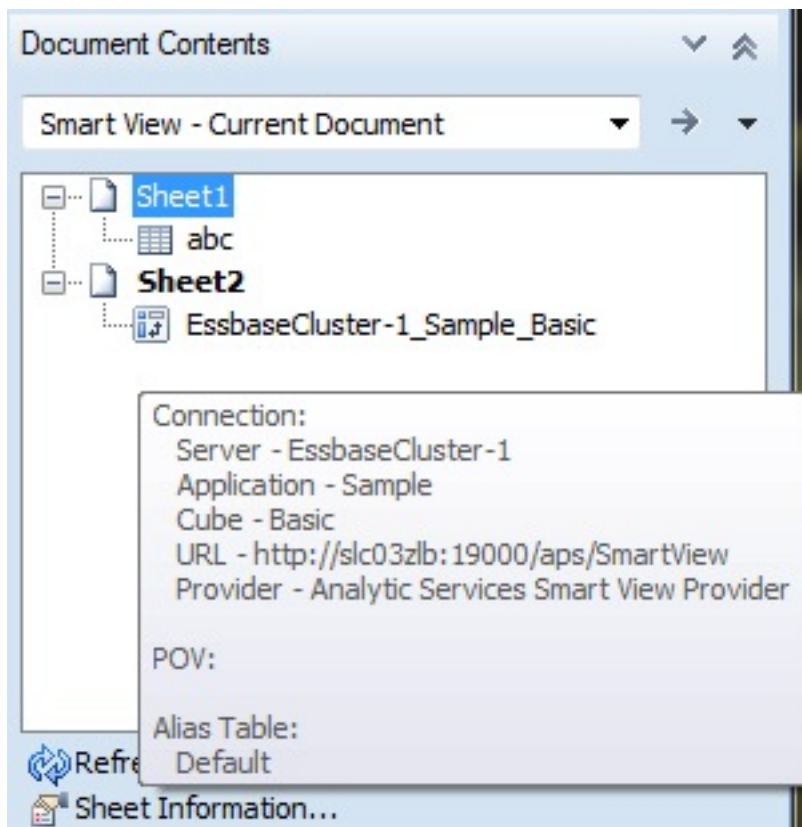
図41 ドキュメント・コンテンツにリストされるOracle BI EEコンテンツ



PlanningやEssbaseのオブジェクトなど、Smart Viewプロバイダ・コンテンツでは、ドキュメント・コンテンツのツリー領域をクリックし、カーソルをオブジェクト・アイコンの上に置くことで、114ページの図 42に示すように、サーバー、アプリケーション、キューブ、URL、プロバイダ、POV、別名表などの接続プロパティを表示できます。プロパティはプロバイダによって異なります。

Oracle BI EEのコンテンツでは、Oracle BI EEオブジェクトを選択し、ドキュメント・コンテンツの下部の「プロパティ」リンクを使用することで、接続プロパティを表示できます(106ページの図 34参照)。

図42 Essbaseアド・ホック問合せの接続プロパティ



ドキュメント・コンテンツでの操作の詳細は、次を参照してください:

[125ページの第9章「スマート・スライス」](#)

[179ページの第14章「Smart ViewとReporting and Analysis」](#)

[201ページの第15章「Smart ViewおよびOracle BI EE」](#)

## 共有ワークブック

Smart ViewはExcelの共有ワークブックをサポートしません。

## Smart Viewで大きいワークブックを開く

次のいずれかを多数含むワークブックを開く際、Smart Viewが応答しなくなることがあります。

- 行と列
- グラフィカル・オブジェクト
- Excelのコメント

この問題を軽減するには、「向上したメタデータ・ストレージ」オプションを有効にする必要があります。

Smart Viewリボンから「オプション」、「詳細」の順に選択して、「向上したメタデータ・ストレージ」チェックボックスをオンにします。

## ヘッダーおよびフッターへのPOVメンバーの印刷

- ▶ Excel 2007を使用する場合は、次のようにExcelドキュメントのヘッダーまたはフッターにアクティブなPOVメンバーを印刷できます:
  1. Excelで、ヘッダーまたはフッター・セクションを挿入します。
  2. ヘッダーまたはフッターに、POV: { }を含む文を入力します。

Excelドキュメントを印刷すると、指定したヘッダーまたはフッターにPOVメンバーが印刷されます。

## Smart Viewの使用可能/使用不可

Smart Viewは、インストール後にデフォルトで有効化されます。コンピュータ上のすべてのMicrosoft Officeアプリケーションに対して、またはOutlookのみに対して、Smart Viewを無効化できます。

Smart ViewはOfficeアプリケーションを介して使用可能/使用不可にすることもできます。

## Smart View内でのSmart Viewの使用不可

- ▶ Smart ViewをすべてのMicrosoft Officeアプリケーション(Outlookを含む)に対して使用不可にするには:
  1. Smart Viewのリボンから、「ヘルプ」を選択します。
  2. 「バージョン情報」を選択します。
  3. 「アドインの使用可能」を選択解除し、Officeアプリケーションを次に開いた際にSmart Viewを使用不可にします。
- ▶ Smart ViewをOutlookに対してのみ使用不可にするには:
  1. Excel内のSmart Viewのリボンから、「オプション」を選択し、左側のパネルで「詳細」を選択します。
  2. 「その他」で、「OutlookでSmart Viewアドインを無効にする」を選択します。

## Microsoft OfficeでのSmart Viewの使用可能/使用不可

Excelのオプションの「アドイン」から、Smart Viewを使用可能または使用不可にできます。



# 8

## スマート・クエリー

### この項の内容:

スマート・クエリーについて .....	117
スマート・クエリーの作成 .....	117
スマート・クエリーを開く .....	122
コピーと貼付け .....	122
スマート・クエリー定義の共有 .....	123

## スマート・クエリーについて

データ・ソース・タイプ: Essbase

スマート・クエリーは、複数セットのメンバーおよびフィルタから作成されたマルチディメンショナル分析およびレポート・ツールです。

## スマート・クエリーの作成

スマート・クエリーは、アプリケーションのディメンションから1つ以上のメンバー・セットを定義することで作成します。それぞれのメンバー・セットに対して、複合フィルタを定義および適用して、スマート・クエリーから戻されるデータをさらに絞り込むことができます。これらのセットとそのフィルタを使用して、別のセットのデータの和集合、補集合および交差を定義することで非常に複雑な問合せを作成できます。

スマート・クエリーが作成されたら、それをアド・ホック・レポートおよび分析に使用できます。スマート・クエリーは保存、再利用、および共有できます。セットおよびフィルタを個別に保存して、他のスマート・クエリーで使用できます。

スマート・クエリーを作成するには、次の手順を実行します:

1. [117ページのセットの定義](#)
2. [119ページのセットのフィルタの定義](#)
3. [119ページのスマート・クエリーの構築](#)
4. [121ページのスマート・クエリーの完了](#)

## セットの定義

- ▶ セットを定義するには:

1. Smart Viewのリボンから、「パネル」を選択してSmart Viewパネルを開きます。
2. Smart Viewパネルから、Essbaseキューブまたはアプリケーションに接続します。
3. アクション・パネルで、「新しいスマート・クエリー・シート」を選択してSmart Viewパネルのかわりにスマート・クエリー・パネルを表示します。



の横にある矢印を選択して、Smart Viewパネルに戻ることができます。

スマート・クエリー・パネルとワークシートに表示される接続のデフォルト・ディメンション。スマート・クエリーのリボンが表示されます。

4. **オプション:** ディメンションをスマート・クエリー・パネルのある領域から別の領域にドラッグして、そのディメンションをピボットします。
5. 「行」、「列」または「視点(POV)」の下でディメンションの名前を選択し、セットを定義する「...のセット」の下に表示します。

行、列、視点にディメンションが存在する場合は、ディメンション名を入力して選択することもできます。

6. 「...のセット」で、ディメンション名の横の矢印をクリックし、「基本メンバーの選択」を選択します。

POVディメンションの場合、この手順で指定したメンバーは、「視点」セクションのドロップダウン・メニューから選択して使用できます。これらの名前を直接入力することもできます。

7. ポップアップ・メニューから、セットに含めるメンバー・レベルを選択するか、「その他」を選択して「メンバー・セレクト」を開き、そこで特定のメンバーを選択します。
8. ディメンション名の横にある矢印をクリックし、「カスタム・メンバーの追加」を選択します(視点ディメンションには使用できません)。
9. セットに対して指定した値から選択します。

**オプション:** 「その他」を選択して、「カスタム・メンバー式」でMDX式を使用してメンバーを定義します(Essbaseのドキュメントを参照)。

最も単純なメンバー式(たとえば、2つのオペランドと演算子)を収容できるように、MDX問合せは少なくとも3文字にする必要があります。ここに表示される「OK」ボタンは、入力した式が検証された後でのみ使用可能になります。

問合せにはデフォルト名が付与されますが、MDX問合せ名を変更することを選択した場合は、次の文字は使用しないでください。

- 大カッコ([ ])
- 二重引用符(" ")またはXMLでエンコードされた表現("&quot;","&quot;","&quot;","&quot;")
- 一重引用符(' ')またはXMLでエンコードされた表現("&apos;","&apos;","&apos;","&apos;")

10. **オプション:** セット内で重複メンバーを許可するには、セット名の横にある矢印をクリックし、「セット内の重複を許可」を選択します(視点ディメンションでは使用できません)。

これは、この設定が選択されているセットにのみ適用されます。スマート・クエリーに複数のセットがある場合は、「セット内の重複を許可」が選択されていなくても、メンバーが選択されているすべてのセットのグリッドにメンバーが表示されます。たとえば、あるセットに1月、2月、3月がメンバーとして選択されていて、Yearのレベル0メンバーが同じ問合せの別のセットで選択されている場合、1月、2月、3月は両方のセットのメンバーであるため、グリッドに2回表示されます。

11. **オプション:** セットの名前を変更するには、セット名の横にある矢印をクリックし、「名前変更」を選択します。
12. セットを保存するには、セット名の横にある矢印をクリックし、「リポジットリ」、「セットの保存」の順に選択します。
13. 「リポジットリ・アイテム」で、メンバー・セットの名前と説明を入力し、「OK」をクリックします。

14. オプション: このディメンションの追加メンバー・セットを追加するには、セット名の横にある矢印をクリックし、「新規セットの追加」を選択して手順を繰り返します。
15. スマート・クエリー・パネルから他のディメンションを選択し、必要に応じて手順を繰り返して他のディメンションのメンバーを追加します。

## セットのフィルタの定義

▶ セットのフィルタを定義するには:

1. 「...のセット」で、セット名の横の矢印をクリックし、「フィルタの追加」を選択します。

新しいフィルタが「セット...のフィルタ」の下に表示されます

2. フィルタ名の横にある矢印をクリックし、次のいずれかを選択してフィルタを定義します:

- ・ 上位/下位の選択
- ・ 値に基づく選択
- ・ メンバーによって指定された値に基づく選択
- ・ 文字列の一致(このオプションでは、修飾メンバー名はサポートされません。)

3. セットにさらにフィルタを追加するには、必要に応じてこの手順を繰り返します。

## スマート・クエリーの構築

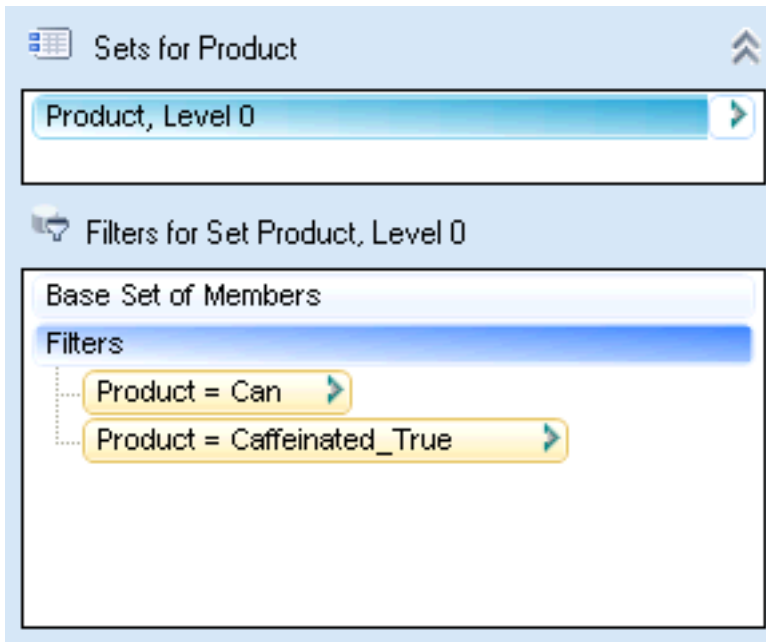
スマート・クエリーを構築するには、複合フィルタを適用して、別のセットのメンバーの和集合、補集合および交差を選択します。和集合は、2つのセットの両方ではなく一方にのみ属するメンバーの選択です。交差は、指定したすべてのセットに属するメンバーの選択です。補集合は、指定した別のセットのメンバーにはなっていない、指定した1つのセットのメンバーの選択です。

セットと複合フィルタを任意の組合せで使用して、非常に複雑なスマート・クエリーを作成できます。

## セットの和集合

両方のセットではなく一方のセットに属するメンバーを選択するには、[119ページのセットのフィルタの定義](#)の説明に従って、「...のセット」のディメンションから2つ以上のフィルタを定義します。たとえば、[120ページの図 43](#)では、問合せは缶にパッケージ化された(製品 = Can)かカフェイン入り(製品 = Caffeinated\_True)の「製品、レベル 0」メンバーのみ戻します。

図43 セットの和集合



## セットの交差

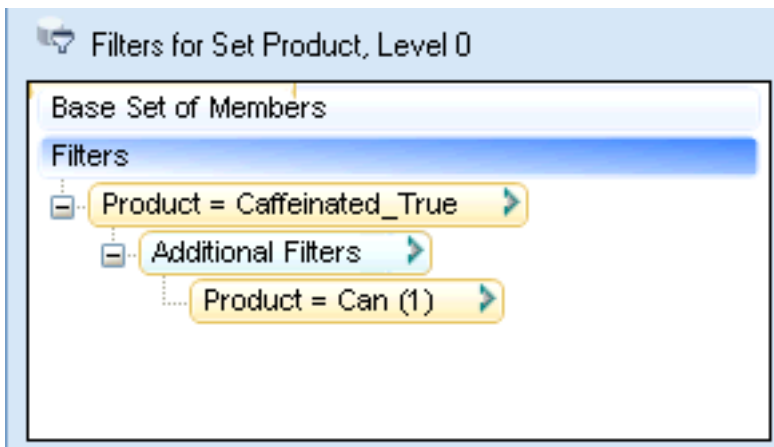
交差には、指定したすべてのセットに共通するメンバーのみ含まれます。

▶ 指定したすべてのセットに共通するメンバーを選択するには:

1. 119ページのセットのフィルタの定義の説明に従って、セットのフィルタを定義します。
2. フィルタ名の横にある矢印をクリックし、「フィルタの追加」を選択します。
3. 「追加フィルタ」とサブセット・フィルタが表示されます。
4. 2番目のフィルタを定義します。

120ページの図44では、問合せはカフェイン入りで缶にパッケージ化された「製品、レベル0」メンバーのみ戻します。

図44 セットの交差





## セットの補集合

▶ 指定した別のセットのメンバーではないセットのメンバーのみ選択するには:

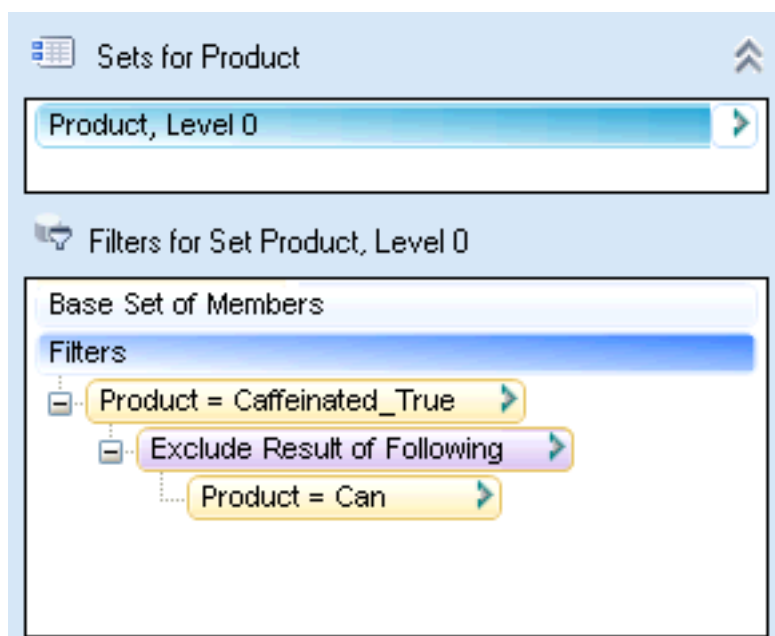
1. 「フィルタ...」で、フィルタ名の横にある矢印をクリックし、「フィルタの追加」を選択します。

「追加フィルタ」とサブセット・フィルタが表示されます。

2. 2番目のフィルタを定義します。
3. 「追加フィルタ」の横にある矢印をクリックし、「除外」を選択します。

121ページの図 45では、問合せはカフェイン入りで缶にはパッケージ化されていない「製品、レベル0」メンバーのみ戻します。

図45 セットの補集合



## スマート・クエリーの完了

▶ スマート・クエリーを完了するには:

1. スマート・クエリーのリボンから、次のようにスマート・クエリーのオプションを選択します:
  - インデント( 247ページのメンバー・オプションを参照)
  - 個々のメンバー名を表示する( 247ページのメンバー・オプションを参照)
  - データなしの行の抑制( 252ページのデータ・オプションを参照)
2. オプション: 別名表を選択する場合は、「別名の変更」を選択します。

重複メンバーと共有メンバーのフル・ネームは、選択された別名表(存在する場合)に関係なく表示されます。選択した別名表に応じて、その他すべてのメンバー名が表示されます。

3. スマート・クエリー定義全体を保存するには、スマート・クエリーのリボンから「保存」を選択します。
4. 「リポジトリ」で、スマート・クエリーの名前と説明を入力します。
5. 「OK」をクリックします。


スマート・クエリーはワークブックにも保存されるため、ワークブックを保存すると、その中のスマート・クエリーも保存されます。

6. オプション: アド・ホック分析を実行するには、スマート・クエリーのリボンから「分析」を選択します。

## スマート・クエリーを開く

### 新しいワークシートから開く

▶ 既存のスマート・クエリーを開くには:

1. Smart Viewのリボンから、「パネル」を選択してSmart Viewパネルを開きます。
2. Smart Viewパネルで、の横にある矢印をクリックし、「スマート・クエリー」を選択します。
3. スマート・クエリー・パネルで、定義を開くを選択して、使用可能なスマート・クエリーの「リポジトリ」リストを表示します。
4. リストからスマート・クエリーを選択します。
5. 「OK」をクリックします。

### 既存のスマート・クエリー・ワークシートから開く

▶ 既存のスマート・クエリーを開くには:

1. スマート・クエリーのリボンで、「開く」を選択して、使用可能なスマート・クエリーの「リポジトリ」リストを表示します。
2. リストからスマート・クエリーを選択します。
3. 「OK」をクリックします。
4. ワークシートの既存のスマート・クエリーを破棄するかどうかを尋ねられたら、「はい」をクリックします。

スマート・クエリーが現在のワークシートに開きます。

## コピーと貼付け

Excelで、あるワークシートから別のワークシートにスマート・クエリー定義全体をコピーし、他のスマート・クエリーにセットとフィルタをコピーできます。

スマート・クエリー定義のコピーは、ユーザー間でクエリーを共有する方法として使用できます。

## Excelでのスマート・クエリー定義のコピー

スマート・クエリー定義は、現在のワークブック内の別のワークシートまたは別のワークブック内のワークシートにコピーできます。定義を貼り付けるワークシートにスマート・クエリー定義がすでに含まれている場合は、貼り付けられた定義で置換されます。

▶ スマート・クエリー定義のあるワークシートから別のワークシートにコピーするには:

1. コピーするスマート・クエリー・ワークシートを開きます。
2. スマート・クエリーのリボンから、「コピー」を選択します。
3. 新しいワークシートを開きます。
4. 次のいずれかの操作を行います:
  - 定義全体を空のワークシートにコピーするには、スマート・クエリー・パネルから「貼付け」を選択します。
  - スマート・クエリー定義を置換するには、置換するワークシートのスマート・クエリーのリボンから、「貼付け」を選択します。

## スマート・クエリーのセットおよびフィルタのコピー

セットをコピーするには、「...のセット」で、セット名の横にある矢印をクリックし、「セットのコピー」を選択します。同じメニューの「セットの貼付け」を使用して、現在のスマート・クエリー内で、または別のスマート・クエリーにセットをコピーできます。

フィルタをコピーするには、「セット...のフィルタ」で、フィルタ名の横にある矢印をクリックし、「フィルタのコピー」を選択します。同じメニューの「フィルタの貼付け」を使用して、現在のスマート・クエリー内で、または別のスマート・クエリーにセットをコピーできます。

## WordおよびPowerPointへのスマート・クエリー・レポートのコピー

ExcelからWordまたはPowerPointにスマート・クエリー定義を直接コピーすることはできませんが、スマート・クエリーで定義されたグリッドまたはグリッドの一部をExcelからWordまたはPowerPointにコピーすることはできます。そのためには、スマート・クエリーのリボンから「分析」を選択します。次に、[101ページのExcel、Word、およびPowerPoint間でのデータのコピー](#)の説明に従ってデータをコピーします。

## スマート・クエリー定義の共有

スマート・クエリー定義は、他のユーザーと共有できます。スマート・クエリー定義には、行、列、POV、ディメンション・セット、フィルタ、ソートおよびカスタム・メンバーの定義が含まれます。

スマート・クエリーの共有方法は次のとおりです:

- [123ページの電子メールの共有](#)
- [124ページのワークブックの共有](#)

次のトピックで、それぞれの方法について説明します。

### 電子メールの共有

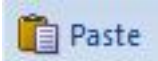
- ▶ 電子メールを介して他のユーザーとスマート・クエリー定義を共有するには:
  1. Excelで、コピーする定義が含まれるスマート・クエリー・ワークシートを開きます。
  2. スマート・クエリーのリボンから、「コピー」を選択します。

3. 空の電子メール・メッセージを開いて、**[Ctrl]**を押しながら**[V]**を押します。

クエリー定義を電子メール・メッセージに貼り付けると、英数字の長い列のようになります。

4. 共有するユーザーに、その電子メール・メッセージを送信します。
5. スマート・クエリー定義の受信者は次のタスクを実行します:
  - a. 電子メールでスマート・クエリー定義の文字列を選択し、(**[Ctrl]+[C]**または「コピー」コマンドを使用して)Windowsのクリップボードにコピーします。
  - b. 新規または既存のワークブック内で空のワークシートを開きます。
  - c. **オプション:** 適切なデータ・ソースに接続します。

データ・ソースに接続しない場合は、[124ページのステップ 5.d](#)で定義を貼り付ける際に、接続するよう求められます。

- d.  をクリックします。

ワークシートに、スマート・クエリーが移入されます。

## ワークブックの共有

- ▶ ワークブックでスマート・クエリーを共有するには:

1. 共有するスマート・クエリーが含まれるExcelワークブックを保存します。
2. 共有するユーザーに、そのExcelワークブックを送信するか、ワークブック・ファイルを共有ネットワークの場所に置いて、共有するユーザーに通知します。
3. スマート・クエリー定義を含むワークブックの受信者は次のタスクを実行します:
  - a. 電子メールから直接、または共有ネットワークの場所からワークブックを開きます。  
ワークシートに、スマート・クエリーが移入されます。
  - b. Smart Viewのリボンで、「リフレッシュ」をクリックすると、「データ・ソースに接続」ダイアログ・ボックスでログイン資格証明を要求されます。

# 9

## スマート・スライス

### この項の内容:

スマート・スライスについて .....	125
スマート・スライスを使用したレポートの作成 .....	125
スマート・スライス、アド・ホック分析、およびフォーム .....	129
スマート・スライスの作成 .....	129

## スマート・スライスについて

スマート・スライスは、EssbaseまたはFinancial Managementデータ・ソースの再利用可能なパースペクティブです。単一のメンバー、単一メンバーの組合せ、フィルタまたは単一メンバーとフィルタの任意の順序での組合せから構成されます。これらのコンポーネントは、ユーザーがスマート・スライスを表示および操作できるデータへの境界となります。Smart Viewで実行できる操作は、スマート・スライスの領域内でも実行できます。

1つの組織が、ユーザーの特定のデータ要件に応じて、異なるスマート・スライスをいくつでも使用できます。たとえば、異なる販売地域、異なる製品ライン、異なるタイム・フレームまたはこれらのディメンションの任意の組合せに対してスマート・スライスを作成できます。

スマート・スライスの境界内では、あらゆるデータに対して表示および操作を行えますが、境界外のデータに対しては行えません。たとえば、販売データを米国西部地域に限定するスマート・スライスでは、カリフォルニアまたはロサンゼルスへのデータをドリルダウンできますが、ニューヨークのデータに移動することはできません。

## スマート・スライスを使用したレポートの作成

**データ・ソース・タイプ:** Essbase, Financial Management

スマート・スライスは一元的に管理され、Smart Viewパネルから利用できます。

レポート全体は、Excelワークブック、Word文書、PowerPointプレゼンテーションと関連付けられます。1つのレポートは、1つのExcelワークシート、1つのWordページ、1つのPowerPointスライドに関連付けられます。PowerPointプレゼンテーションの場合は、スライドごとにレポートのタイプを1つのみにすることをお勧めします。

スマート・スライス全体、またはスマート・スライスのデータのサブセットからレポートを作成することができ、作成したレポートはExcelスプレッドシート、Word文書、PowerPointスライドで表示できます。シート上のスペースが許すかぎり、いくつかのデータ・ソースからでも、いくつかのレポートでも表示が可能です。

▶ スマート・スライスからレポートを作成するには:


1. Smart Viewのリボンから、「パネル」を選択します。
2. Smart Viewパネルからスマート・スライスを選択します。
3. アクション・パネルから次のいずれかを実行します。

- スマート・スライスをそのまま操作するには、「スマート・スライスのレポートへの挿入」をクリックします。Smart Viewパネル下部のドキュメント・コンテンツにスマート・スライスが表示されます。
- ローカル・ストレージ用にスマート・スライスのサブセットを作成するには、「スマート・スライスの変更およびレポートへの挿入」をクリックし、[129ページのスマート・スライスの作成](#)の説明に従ってスマート・スライス・デザインを使用します。



注:

「スマート・スライスの変更」を使用してスマート・スライスを作成する場合は、アド・ホック分析を実行する前に、新しく作成されたスマート・スライスを「Smart Viewパネル」ツリー・リストから選択する必要があります。

4.  をクリックして、「ドキュメント・コンテンツ」ツリーをリフレッシュします。
5. ドキュメント・コンテンツでスマート・スライスを選択し、右クリックして「新規レポート・オブジェクト/コントロールの挿入」を選択します。
6. 「新規レポート・オブジェクト/コントロールの挿入」ダイアログ・ボックスで、グリッドに配置するレポートのタイプを次から選択します:

- **関数グリッド - 動的グリッド・フォーマット**

関数グリッドはWord、PowerPointおよびExcelで使用できます。関数グリッドをリフレッシュすると、データセルはリフレッシュされますが、メンバーはリフレッシュされません。データとメンバーの両方をリフレッシュするためには、関数グリッドをシートに挿入し直す必要があります。このため、関数グリッドは、メンバーが適度に静的であるレポートの場合に最も有用です。メンバーが頻繁に変更される可能性があるレポートの場合は、レポート・タイプとして表およびチャートがより適しています。ワークシートに複数のレポートを含めることはできませんが、関数グリッドは1つのみです。

関数グリッドでは、SUMなどのExcelの式を使用できます。そのような式を関数グリッドの一部として保持するためには、式を含むセルとグリッドの間に空の行を1行開けておき、式の定義で選択するセル範囲にその空の行を含める必要があります。これにより、データをリフレッシュした結果、グリッド内の行数が変わった場合でも、式を保持できるようになります。

関数グリッドにフォーマットを設定するには、Excelのフォーマット機能を使用します。

- **Office表**

Office表は、Wordでのみ使用できます。Office表では、結果がネイティブのMicrosoft Office表形式で表示されます。Office表をリフレッシュすると、メンバーとデータの両方がリフレッシュされます。

Office表はWord文書の一部であるかのように表示され操作できますが、表セルのメンバーとデータはSmart Viewプロバイダに接続されています。Office表では、使い慣れたWordの表のフォーマットとスタイルを使用できます。レポートにPOVオブジェクトを挿入すると、Office表のPOVを変更できます。フォーマット

トやPOVを変更した後にOffice表をリフレッシュすると、結果には新しいPOVが反映され、カスタム・フォーマットが保持されます。

Office表オブジェクトでは、ズーム・インやズーム・アウトはできません。また、その他のアド・ホック操作を実行したり、フリー・フォームも使用できません。

#### • 表


表は、PowerPointおよびExcelで使用できます。表レポートは、文書内で位置が固定されておらず移動やサイズ変更が可能なグリッド・フォーマットで、結果を表示します。表をリフレッシュするとメンバーとデータの両方がリフレッシュされます。表は、小さいスペースに大きいグリッドを表示する場合に有用です。スクロール・バーを使用して、行や列にすばやくアクセスできます。

表レポートでは、ズーム・インおよびズーム・アウトが可能ですが、その他のアド・ホック操作を実行したり、フリー・フォームを使用したりすることはできません。

#### • チャート

チャートはPowerPointおよびExcelで使用できます。PowerPointでは、チャートと表のコンテンツはプレゼンテーション・モードでのみ表示されます。チャート・レポートは、文書内で位置が固定されておらず移動やサイズ変更が可能なチャート・フォーマットで、結果を表示します。チャートをリフレッシュするとメンバーとデータの両方がリフレッシュされます。

7.

オプション: 表やチャートを移動またはサイズ変更するには、ドキュメント・コンテンツで、 の隣の下矢印をクリックし、メニューから「デザイン・モードの切替え」を選択します。

シート、スライド、ページ内でオブジェクトを移動できるようになります。

8. レポート・コントロールを挿入するには、ドキュメント・コンテンツでスマート・スライスを選択し、右クリックして「新規レポート・オブジェクト/コントロールの挿入」を選択します。
9. 「新規レポート・オブジェクト/コントロールの挿入」ダイアログ・ボックスで、レポート・コントロールのタイプを次から選択します:

- **POV** — レポートにPOVを1つのみ含めることができます
- **スライダ** — レポートに複数のスライダを含めることができます。 [128ページのスライダ](#)を参照してください。

レポートには1つのPOVかスライダを含めることができ、両方を含めることはできません。

10. リフレッシュします。

11. オプション: レポートにおける1つのディメンションの任意のメンバーまたはすべてのメンバーについて個別のレポートを作成し、それらのレポートをワークブックの各ワークシートにカスケードする方法については、 [84ページのレポートおよびアド・ホック・グリッドのカスケード](#)を参照してください。




注:

チャートおよび表を含むレポートでは、カスケード操作により、次回そのワークブックを開いた際に、チャートと表が重なって表示されることがあります。



## レポートまたはレポート・オブジェクトの削除

▶ レポートを削除するには:

1. ドキュメント・コンテンツで  をクリックします。
2. ドキュメント・コンテンツのリンクから、削除するオブジェクトを選択します。たとえば、関数グリッドやPOVを選択します。

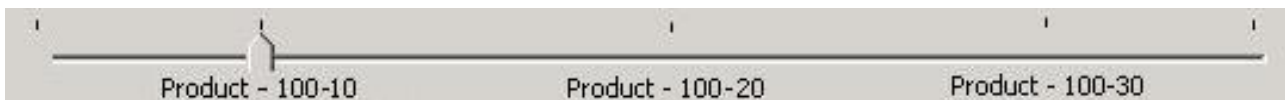
レポートを選択すると、そのレポート・オブジェクトもすべて削除されます。

3. 「ドキュメント・コンテンツ」ペインの下部で、「詳細」、「削除」の順に選択します。

## スライダ

128ページの図 46はスライダを表示します。スライダは問合せのディメンション・メンバーから選択されたセットを表示します。スライダ・マーカーをメンバーまでドラッグすると、シート上で当該問合せに関連付けられているすべてのレポートに、そのメンバーのデータが表示されます。レポート・デザイナーの複数の問合せからのディメンションをスライダに含めることが可能です(ディメンションの境界が同じである場合)。

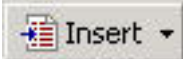
図46 スライダ



## 1つの問合せからのスライダの作成


▶ スライダを作成するには:

1. スライダを作成する問合せについて、ワークシートに1つ以上のレポート・タイプが挿入されていることを確認します。
2. レポート・デザイナーから「クエリー・ビュー」、「クエリー・ビュー」の順に選択します。
3. レポート・デザイナーで、スライダの基になる問合せを選択します。

4.  をクリックし、「スライダ」を選択して「メンバー選択」を開きます。

5. スライダのディメンション、メンバー、およびフィルタを選択し、「OK」をクリックします。

スライダがシート上に表示されます。

6. オプション: スライダを移動またはサイズ変更するには、 をクリックしてから、移動またはサイズ変更します。

## 結合問合せからのスライダの作成

問合せの境界がまったく同じである場合に限り、複数の問合せのディメンションを含むスライダを作成できます。

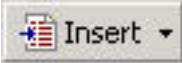
▶ 複数の問合せのディメンションを使用してスライダを作成するには:

1. スライダを作成する問合せについて、ワークシートに1つ以上のレポート・タイプが挿入されていることを確認します。





2. 「問合せビュー」をクリックし、**ディメンション・ビュー**を選択します。レポート・デザイナのツリー・ビューは、問合せごとにではなくディメンションごとにグループ化されていることに注意してください。各ディメンションの下には、そのディメンションを含む問合せが表示されます。ディメンションの境界が同じでない場合は、それぞれに対応する複数のスライダが作成されます。たとえば、ある問合せの「市場」ディメンションに子のフィルタが1つ含まれており、別の問合せの「市場」ディメンションには子孫のフィルタが1つ含まれている場合は、2つの「市場」スライダが作成されることになります。

3. レポート・デザイナで、問合せの基になるディメンションを選択します。

4.  をクリックし、「スライダ」を選択して「メンバー選択」を開きます。

5. スライダのディメンション、メンバー、およびフィルタを選択し、「OK」をクリックします。


スライダがシート上に表示されます。

6.  オプション: スライダを移動またはサイズ変更するには、 をクリックしてから、移動またはサイズ変更します。

## スマート・スライス、アド・ホック分析、およびフォーム

Excelでスマート・スライスに対するアド・ホック分析を実行するには(Essbase、Financial Management)、Smart Viewパネルでスマート・スライスを選択し、アクション・パネルで「アドホック分析」をクリックします。そのスマート・スライスのデータおよびPOVがワークシートに入力され、アド・ホック分析を実行できます。

フォームを使用するには、Smart Viewパネルでスマート・スライスを選択し、アクション・パネルで「フォームを開く」をクリックします。アド・ホック分析には、管理者が使用可能にしたフォームのみを使用できます。

アド・ホック・グリッドのデータのソースとなったスマート・スライスを特定する場合は、 をクリックし、「ワークシート接続の検索」を選択します。該当するスマート・スライスがSmart Viewパネルで強調表示されます。

## スマート・スライスの作成

データ・ソース: Essbase、Financial Management

管理者とデータベース管理者は、スマート・スライスを作成、変更および削除できます。Essbaseで、管理者が有効にしている場合は、すべてのユーザーがスマート・スライスを作成、変更および削除できます。

スマート・スライスの作成では、[129ページのスマート・スライスのデータ境界の設定](#)と、[130ページのスマート・スライスのプリファレンスの設定](#)を行います。

## スマート・スライスのデータ境界の設定

▶ スマート・スライスを作成するには:

1. Smart Viewのリボンから、「パネル」を選択します。
2. Smart Viewパネルを開いてEssbaseまたはFinancial Managementデータ・ソースに接続します。
3. 次のいずれかの操作を行います:

- ・アクション・パネルで「新規スマート・スライスを作成」をクリックし、別名表のリストから別名表を選択します。
- ・アド・ホック・グリッドが開いた状態で、データ・ソースのリボンから「スマート・スライス」を選択します。

スマート・スライス・デザイナと「新規スマート・スライス - 設計」ワークシートが表示されます。スマート・スライス・デザイナでスマート・スライスを設計すると、結果がワークシートに表示されます。

スマート・スライス・デザイナには行、列、POV、属性の各ディメンションに対する「行」、「列」、「POV」、「属性」のセクションがあります。

4. スマート・スライス・デザイナで、次の操作のいずれかを使用して、スマート・スライスの境界を作成します。
  - ・ 行または列の境界のメンバーを選択するには、スマート・スライス・デザイナで必要に応じて「POV」から「行」または「列」へメンバーをドラッグします。行または列のメンバーを除去するには、「POV」へドラッグします。変更はグリッド上でただちに反映されます。
  - ・ 「行」、「列」または「属性」のセクションでディメンションのメンバーを選択するには、ディメンションの名前をクリックして「メンバー選択」ダイアログ・ボックスを開きます。
  - ・ スマート・スライス・デザイナでPOVのメンバーを選択するには、ディメンション名の隣の矢印をクリックして省略記号を選択し、「メンバー選択」ダイアログ・ボックスを開きます。
5. 「オプション」をクリックし、[130ページのスマート・スライスのプリファレンスの設定](#)の説明に従ってプリファレンスを設定します。
6. 「完了」をクリックします。「メンバー選択」が表示されます。
7. 「メンバー選択」で、デフォルトのPOVとして使用するディメンション・メンバーを選択し、「OK」をクリックします。
8. Smart Viewパネルで、「新規の名前を入力」にスマート・スライスの名前を入力します。
9. 「OK」をクリックします。Smart Viewパネルのツリー・ビューで、該当するデータ・ソースの下にスマート・スライスが表示されます。

## スマート・スライスのプリファレンスの設定

指定するプリファレンスは、スマート・スライス定義の一部として保管され、「オプション」ダイアログ・ボックスで設定したグローバル・プリファレンスをオーバーライドします。

▶ スマート・スライスのプリファレンスを指定するには:

1. スマート・スライス・デザイナで「オプション」をクリックします。
2. 各オプションについて、プリファレンスを入力するか、ドロップダウン・メニューから選択します。

ユーザーは、ここで使用可能になっているオプションを選択できます。各オプションの詳細は、[245ページの第16章「Smart Viewのオプション」](#)を参照してください。



注:

この手順で、スマート・スライスの「オプション」ダイアログ・ボックスに指定した、欠落データの置換ラベルおよびその他のプリファレンスは、そのスマート・スライスに基づく関数グリッドには適用されません( [125ページのスマート・スライスを使用したレポートの作成](#)に説明されています)。かわりに、Smart Viewユーザーによって「オプション」ダイアログ・ボックスに指定されたオプションが関数グリッドに適用されます。

# 10

## クエリー・デザイナー およびMDX問合せ

### この項の内容:

クエリー・デザイナー .....	131
問合せの作成 .....	131
問合せの編集およびレポートの再実行 .....	132
データのフィルタ処理 .....	133
クエリー・デザイナーでの時間関連データの分析 .....	133
MDX問合せ .....	134

## クエリー・デザイナー

クエリー・デザイナーはSmart Viewのツールで、1つのインターフェースから行、列およびPOVのディメンション、メンバー、属性を選択してレポートのレイアウトを設計できます。クエリー・デザイナーを使用して、空の接続されたワークシートから問合せを作成できます。このワークシートでは、開始点としてデフォルトのレポートが使用されるか、保存したレポートからクエリーが抽出されます。クエリー・デザイナーは、アド・ホック・ワークシートにのみ使用可能です。

## 問合せの作成

データ・ソース・タイプ: Essbase, Financial Management, Hyperion Enterprise

▶ 問合せレポートを作成するには:

1. Excelでワークシートまたは既存のレポートを開き、データ・ソースに接続します。



注:

ワークブックには、複数のデータ・ソースからのクエリー・デザイナー・ワークシートを表示できます。ただし、ワークシートに関連付けることができるのは、1つのデータ・ソースのみです。

2. データ・ソースのリボンから、「問合せ」、「クエリー・デザイナー」の順に選択します。

クエリー・デザイナー、および"シート名 - 問合せ"という名前のクエリー・ワークシート(シート1 - 問合せなど)が表示されます。問合せはこのワークシートで設計します。

問合せシートでは次の操作が使用不可になっていますが、レポートを実行すると再度使用可能になります:

- 式
- 非対称型レポート

- コメント
- 空白の行または列
- 別名表に対する変更
- ズーム・イン、ズーム・アウト、選択項目のみ保持、選択項目のみ除去、およびダブルクリックといったアド・ホック処理

問合せシートとレポート・シートのどちらでも、次の操作は行えません:

- 列のメンバーのフィルタ処理
- データ・ソースの変更

3. 問合せを設計するには、次のいずれかの操作を実行します:

- クエリー・デザイナーに表示されている「行」および「列」ディメンションのメンバーを選択するには、ディメンション名をクリックして「メンバー選択」ダイアログ・ボックスを開きます。
- クエリー・デザイナーに表示されている「POV」ディメンションのメンバーを選択するには、ディメンション名の隣にある矢印をクリックして省略記号を選択し、「メンバー選択」ダイアログ・ボックスを開きます。
- POVからグリッドにディメンションを移動するには、クエリー・デザイナーで「POV」セクションから「列」または「行」セクションに、ディメンションをドラッグ・アンド・ドロップします。
- グリッドからディメンションを除去するには、クエリー・デザイナーで「列」または「行」セクションから「POV」セクションにディメンションをドラッグ・アンド・ドロップします。
- 属性ディメンションを追加または除去するには、「属性」ドロップダウン・メニューからディメンションを選択し、クエリー・デザイナーの「行」または「列」セクションにドラッグ・アンド・ドロップします。
- メンバーを直接グリッドに入力します。

4. クエリー・デザイナーで「**問合せを適用**」をクリックします。結果として生成されたレポートは、「シート名 - レポート」という名前の新しいレポート・シート(シート1 - レポートなど)に表示されます。[131ページのステップ 2](#)で一時的に無効化されていた操作が再度有効化されます。

問合せシートがレポート・シートに置き換えられますが、[131ページのステップ 2](#)を繰り返せば問合せシートは取得可能です。

5. レポートを保存するには、EssbaseまたはHyperion Enterpriseをデータ・ロード・データ・ソースとして使用可能な、Excelの.xlsや.xlsxファイルとして保存します。



注:

クエリー・デザイナーはスマート・スライスと連携できるようには設計されていません。

## 問合せの編集およびレポートの再実行

問合せを再実行するとレポートが再生成されます; ズーム、コメントおよび式など、元のレポートに対する変更は失われます。フォーマットも失われます。

レポートをリフレッシュできますが、データがリフレッシュされるのみで、レポートは再実行されません。

▶ 問合せを編集してレポートを再実行するには:

1. クエリー・デザイナーの編集するクエリー・シートを開きます。クエリー・シートが表示されていない場合は、データ・ソースのリボンから、「問合せ」、「クエリー・デザイナー」の順に選択します。
2. 問合せを編集します。
3. 「問合せ」、「レポートの実行」の順に選択します。




レポートが更新されます。

## データのフィルタ処理

データ・ソース・タイプ: Essbase

データをフィルタ処理すると、戻されるデータ量が指定された上位または下位基準に制限されます。上位または下位ランキングによって、たとえば特定地域の売上の上位10製品を表示できます。

▶ データをフィルタ処理するには:

1. クエリー・デザイナーのレポート・ワークシートでディメンションを選択します。
2. Essbaseのリボンから、「問合せ」、「データ・フィルタ」の順に選択します。
3. 「データ・フィルタ」の「カウント」で、「上」または「下」を選択し、数値を指定します。
4. 「設定」の下の   をクリックします。
5. 「メンバー選択」でランキングの行メンバーを選択し、「OK」をクリックして「データ・フィルタ」に戻ります。
6. 「値」で  をクリックします。
7. 「メンバー選択」でランキングの実行対象の列メンバーを選択し、「OK」をクリックして「データ・フィルタ」ダイアログ・ボックスに戻ります。
8. 「OK」をクリックします。

データ・フィルタ処理設定を表すTopCount( { [Qtr3] }, 10, [Measures].[Profit])という形式のMDX問合せが、グリッドに挿入されます。例では、第3四半期の利益が最も高かった上位10製品が戻されます。

9. 「問合せを適用」をクリックして、問合せ結果を表示します。


## クエリー・デザイナーでの時間関連データの分析

データ・ソース・タイプ: Essbase

Smart Viewを使用して、時間ベースのメトリックに対して、売上原価に対する売上などのフラッシュ・メトリックを分析できます。これにより、トレンドを参照したり、異なる期間の平均を調べたりできます。この操作を行うには、メンバーの周期性を使用可能にするリンク属性を使用します。周期性は、時間ベースの分析を有意義なものにする時間ディメンション・メンバー間の共有パターンです(たとえば、1月と4月は四半期の最初の月として周期性を共有します)。月単位の日、週単位の日、年単位の週は、リンク属性の例です。リンク属性の範囲を設定し、フィルタを適用することもできます。

▶ クエリー・デザイナーで時間関連データを分析するには:

1. 問合せを作成します。
2. クエリー・デザイナー・ツールバーから、日時ディメンションを選択し、グリッドまたはツールバー内にドラッグします。
3. クエリー・デザイナー・ツールバーの日時をクリックし、「メンバー選択」を開きます。ここで、メンバーを選択し、「期間」、「範囲」およびその他のフィルタを適用できます。

- クエリー・デザイナー・ツールバーの「属性」で、ドロップダウン・メニューの属性またはリンク属性を選択し、グリッドまたはツールバー内にドラッグします。必要に応じて、他の属性について繰り返します。
- メンバーを選択し、属性にフィルタを適用するには、クエリー・デザイナー・ツールバーで属性名をクリックして「メンバー選択」を開きます。
- POVツールバーの  をクリックします。

## MDX問合せ

データ・ソース・タイプ: Essbase

MDXユーザーは、クエリー・デザイナー・インタフェースを使用せずに、クエリー・シートまたは「MDXの実行」ダイアログ・ボックスにMDXコマンドを入力できます。

▶ MDX問合せを実行するには:

- Excelで、Essbaseデータ・ソースに接続します。
- Essbaseのリボンから、「問合せ」、「MDXの実行」の順に選択します。
- 「フリー・フォームのMDX問合せの実行」で、MDX問合せを入力します。

例:

```
SELECT {[Sales], [Cogs]} on columns, Filter
([Product].Levels( 2 ).Members, AVG([Year].CHILDREN, 9001.0) > 9000.00) on rows
```

- 「実行」をクリックします。

# 11

## タスク・リスト

この項の内容:

タスク・リスト .....	135
Smart Viewパネルからのタスクの操作 .....	135
タスク・リストとMicrosoft Outlookの統合 .....	137

### タスク・リスト

データ・ソース・タイプ: Planning、Oracle Planning and Budgeting Cloud Service、Financial Management、Financial Close Management

データ・ソースに応じて、ExcelまたはOutlookのSmart Viewパネルからタスクを開いて管理したり、データ・ソースのタスク・リストをOutlookに統合し、Outlookの機能を使用してタスクを管理できます。

- PlanningおよびFinancial Managementでは、ExcelおよびOutlookの両方でSmart Viewパネルからタスクを管理し、135ページのSmart Viewパネルからのタスクの操作の説明に従って、タスク・リストをOutlookに統合できます。
- Oracle Hyperion Financial Close Managementでは、137ページのタスク・リストとMicrosoft Outlookの統合の説明に従って、タスク・リストをOutlookに統合できます。

### Smart Viewパネルからのタスクの操作

#### タスク・リストを開く

データ・ソース・タイプ: Planning、Oracle Planning and Budgeting Cloud Service、Financial Management

▶ Excelからタスク・リストを開くには:

1. Smart Viewのリボンまたはメニューから、「パネル」をクリックします。
2. プロンプトされたら、ユーザー名とパスワードを入力します。
3. Smart Viewパネルから、次のいずれかを実行します:
  - 「Smart Viewホーム」の「最近使用」で、タスク・リストの名前をクリックします。
  - 「共有接続」または「プライベート接続」から、開くタスク・リストに移動して、アクション・パネルで「タスク・リストを開く」をクリックします。



▶ Outlookからタスク・リストを開くには:

1. OutlookにSmart Viewメニューが表示されていることを確認します。そうでない場合は、次を実行します:
  - a. Outlookを閉じます。
  - b. Excelで、Smart Viewのリボンから「オプション」をクリックし、左側のパネルで「詳細」をクリックします。
  - c. 「OutlookでSmart Viewアドインを無効にする」の選択を解除します。
  - d. 「OK」をクリックします。
  - e. Outlookを再度開きます。
2. 19ページの第2章「データ・ソース接続の管理」で説明されているように、データ・ソースに接続していることを確認します。
3. Outlookツールバーで「Smart View」をクリックし、「パネル」を選択すると、Smart Viewパネルが表示されます。
4. Smart Viewパネルから、次のいずれかを実行します:
  - ・ 「Smart Viewホーム」の「最近使用」で、タスク・リストの名前をクリックします。
  - ・ 「共有接続」または「プライベート接続」から、開くタスク・リストに移動して、アクション・パネルで「タスク・リストを開く」をクリックします。

## タスク・リストの表示

データ・ソース・タイプ: Planning, Oracle Planning and Budgeting Cloud Service, Financial Management

Smart Viewパネルの「タスク・リスト」ペイン内に開かれるタスク・リストには、次のものが表示されます:

- ・ タスク・リスト内の個々のタスク。個々のタスクには、下位タスクが含まれる場合もあります。タスクのステータス(完了、未完、遅滞)は、色コーディングで示されます。
- ・ 現在のアプリケーションに関連付けられている他のタスク・リストを選択できるドロップダウン・メニュー
- ・ 選択されたタスクに対して実行可能なアクションを表示するアクション・パネル
- ・ 二重矢印をクリックすると表示される「タスクの詳細」
- ・ 色分けされたタスク・リストのステータス・バー

## タスクの実行

データ・ソース・タイプ: Planning, Oracle Planning and Budgeting Cloud Service, Financial Management

▶ タスクを実行するには:

1. 実行するタスクが含まれているタスク・リストを開きます。
2. アクション・パネルで「タスクの実行」をクリックします。
3. タスクの実行は、タスクとデータ・ソースによって異なります。

## タスクの完了

データ・ソース・タイプ: Planning, Oracle Planning and Budgeting Cloud Service

▶ タスクの要件を完了した後、タスクを完了済としてマークします。タスクを完了するには:



1. タスクの要件を完了します。
2. 完了するタスクが含まれているタスク・リストを開きます。
3. すべての従属タスクが完了していることを確認します。
4. 完了済としてマークするタスクを選択します。
5. アクション・パネルで「完了をマーク」をクリックします。

## タスク・リスト・レポートの作成

データ・ソース・タイプ: Planning, Oracle Planning and Budgeting Cloud Service, Financial Management

プロセスのステータスをレビューするために、アプリケーションの1つ以上のタスク・リストの詳細レポートをPDFまたはExcelワークシートのフォーマットで作成できます。

▶ タスク・リスト・レポートを作成するには:

1. Smart Viewパネルから、タスク・リストを開きます。
2. タスクを右クリックして「レポートの作成」を選択します。
3. レポート・ウィザードで、矢印キーを使用して、レポートに含める必要があるすべてのタスク・リストを、「使用可能なタスク・リスト」から「選択したタスク・リスト」に移動します。
4. 「次」をクリックします。
5. 矢印キーを使用して、ステータスを表示するユーザーを「使用可能なユーザー」から「選択したユーザー」に移動します。
6. 「次」をクリックします。
7. レポートの作成に関するオプションを選択します。
8. 「終了」をクリックします。

137ページのステップ 7で選択したオプションに応じて、レポートがPDFまたはExcelで作成されます。

## タスク・リストとMicrosoft Outlookの統合

データ・ソース・タイプ: Planning, Oracle Planning and Budgeting Cloud Service, Financial Management, Oracle Hyperion Financial Close Management

タスク・リストをMicrosoft Outlookにインポートし、Outlookの機能を使用してタスクを管理できます。タスクのステータスが変わるとデータ・ソースに送信されますが、Outlookのタスクは削除できません。

▶ タスク・リストをMicrosoft Outlookにインポートするには:

1. OutlookにSmart Viewメニューが表示されていることを確認します。そうでない場合:
  - a. Outlookを閉じます。
  - b. Excelで、Smart Viewのリボンから「オプション」をクリックし、左側のパネルで「詳細」をクリックします。
  - c. 「OutlookでSmart Viewアドインを無効にする」の選択を解除します。
  - d. 「OK」をクリックします。
2. Outlookを開きます。
3. 「Smart View」をクリックして、「タスク・リスト」を選択します。
4. 「共有接続」または「プライベート接続」を選択します。
5. 「タスク・リスト」で、「アプリケーションの選択」をクリックします。

6. 「アプリケーションの選択」で、ドロップダウン・メニューから、インポートするタスク・リストに関連付けられているサーバーとアプリケーションを選択します。
7. 「OK」をクリックします。

選択したアプリケーションに関連付けられているすべてのタスク・リストが「タスク・リスト」に表示されます。

8. タスク・リストをダブルクリックすると、タスク・リスト内の個々のタスクがOutlookの仕事リストに表示されます。

ここから、Outlookの機能をタスクに適用できます。Outlookでのタスク(仕事)の操作方法の詳細は、Outlookの製品ドキュメントを参照してください。

# 12

## Smart ViewおよびPlanning

この項の内容:

Planningの承認 .....	139
Planningのジョブ・ステータスのモニタリング .....	142
Planningでのページの検索 .....	143
バージョンのコピー .....	143
複合フォーム .....	144
Planningビジネス・ルールの操作 .....	144
データの分散 .....	146
メンバー式 .....	149
サポート詳細 .....	149
Planningのプリファレンスの設定 .....	152
PlanningへのネイティブExcelフォーマットの保存 .....	152
オフライン作業 .....	156

このガイドには、Smart ViewでサポートされるPlanningの機能を使用するための手順情報のみが記載されています。Planningの詳細は、EPMドキュメント・ライブラリで入手可能な『Oracle Hyperion Planningユーザー・ガイド』を参照してください。このライブラリを開くには、Smart Viewのリボンから、「ヘルプ」の隣にある矢印、続いて「EPMドキュメント」をクリックします。

### Planningの承認

データ・ソース・タイプ: Planning


Planningの承認は、プランニング・ユニットの送信、確認、承認プロセスです。承認の役割が割り当てられている場合、ここで説明する承認関数を実行できます。役割の詳細は、管理者に問い合せてください。

### プランニング・ユニットのステータスの変更

1つ以上のプランニング・ユニットのステータスを一度に変更できます。

▶ プランニング・ユニットのステータスを表示または変更するには:

1. 適切なフォームを開きます。
2. Planningのリボンから、「承認」を選択します。
3. 「承認の管理」から、「シナリオ」および「バージョン」を選択します。

4.  をクリックして、アクセス権を持つプランニング・ユニットのリストを表示します。
5. オプション: 表示モード・ボタンで、次のいずれかを選択します:
  - ・フラット・ビュー: プランニング・ユニットをリストとして表示します。
  - ・「ツリー・ビュー」では、プランニング・ユニットが階層形式で表示されます(管理者のみが使用可能)。

ツリー・ビューで「開始」を選択すると、プランニング・ユニットが開始され、「除外」を選択すると、プランニング・ユニットがプロセスから除外されます。
  - ・「マイ・プランニング・ユニット」では、自分が所有するプランニング・ユニットのみが表示されます。
6. ステータスを変更するプランニング・ユニットまたはユニットを選択します。リストが長すぎてプランニング・ユニットが簡単に検索できない場合は、[140ページのプランニング・ユニットの検索](#)の説明に従って、リストを検索したり、リストにフィルタを適用できます。
7. 選択したプランニング・ユニットの詳細を表示するには、「[プランニング・ユニットの詳細](#)」をクリックします。


「承認ステータス」タブには、プロセスのステータス、所有者、とられたアクション、およびステータスの変更日時履歴が表示されます。

「注釈」タブには、プランニング・ユニット用に入力されたすべての注釈が表示されます。[142ページのプランニング・ユニットの注釈](#)を参照してください。
8. プランニング・ユニットのステータスを変更するには、「[ステータスの変更](#)」をクリックします。



注:

親エンティティのステータスを変更すると、子が「第1パス」状態時に除外されているかまたはすでに承認されている場合を除いて、親エンティティのすべての子もステータスが変更されます。

9. 「承認 - エンティティのステータスの変更」からアクション、およびプランニング・ユニットの次の所有者を選択します。
10. オプション: 「注釈の入力」の下に注釈を入力します。
11. 「送信」をクリックします。
12.  をクリックします。一度に検証できるのは1つのプランニング・ユニットのみです。

## プランニング・ユニットの検索

「承認の管理」で、プランニング・ユニットのリストを検索したり、フィルタを適用することで、プランニング・ユニットを簡単に検索できます。フィルタ条件として、自動フィルタ、メンバーの選択、または世代を使用できます。

▶ プランニング・ユニットのリストをフィルタ処理するには:


1. 「承認の管理」を開き、[139ページのプランニング・ユニットのステータスの変更](#)の説明に従って、シナリオとバージョンを選択します。

2.  をクリックして、フィルタ処理を使用可能にします。

フィルタ処理ツールを含むフィルタ・バーが、プランニング・ユニット・リストのすぐ上に表示されます。

3. 次の手順のいずれかを使用します:




#### 検索

特定のプランニング・ユニットを検索するには、その名前を「プランニング・ユニット」フィールドに入力し、をクリックします。




#### 自動フィルタ処理

- フィルタ・バーで、「承認ステータス」、「サブステータス」または「現在の所有者」の列ヘッダーの矢印をクリックします。
- フィルタ条件となる列の値を選択します。これらの列の複数に自動フィルタを適用できます。


4. メンバー選択によるフィルタ

- フィルタ・バーで  をクリックし、「メンバー・セレクタ」を選択します。
-  をクリックし、[32ページのメンバー・セレクタからのメンバーの選択](#)の説明に従って、プランニング・ユニット・リストのメンバーを選択します。
-  をクリックして、リストをフィルタ処理します。

5. 世代によるフィルタ

- フィルタ・バーで  をクリックし、「世代」を選択します。
-  をクリックし、プランニング・ユニット・リストに表示する1つ以上の世代を選択します。
-  をクリックして、リストをフィルタ処理します。
- 「OK」をクリックします。

- 6.

オプション: フィルタを適用する前にフィルタ選択を元に戻すには、 をクリックします。

## プランニング・ユニットの移動パス

プランニング・ユニットは、次に基づいて個人から個人、および部署から部署へ移動します:

- プランニング・ユニットに割り当てられた所有者と確認者
- 階層内のプランニング・ユニットの場所

▶ プランニング・ユニットの移動パスをグラフィカルな形式で表示するには:


- Planningのリボンから、「承認」を選択します。
- 「承認の管理」から、「シナリオ」および「バージョン」を選択します。
- 「実行」をクリックして、アクセス権を持つプランニング・ユニットのリストを表示します。
- プランニング・ユニットを選択します。

-  をクリックします。

## プランニング・ユニットの注釈

開始したプランニング・ユニットのデータに関するコメントを追加または表示できます。注釈は、シナリオ、バージョンおよびエンティティ・メンバーの組合せなどによって異なります。

▶ プランニング・ユニットの注釈を追加するには:

1. Planningのリボンから、「承認」を選択します。
2. 「承認の管理」から、「シナリオ」および「バージョン」を選択します。
3. 「実行」をクリックして、アクセス権を持つプランニング・ユニットのリストを表示します。
4. 注釈を追加するプランニング・ユニットを選択します。リストをフィルタ処理する方法は、[140ページのプランニング・ユニットの検索](#)を参照してください。
5. オプション: 選択したプランニング・ユニットに対する既存の注釈を表示するには、「プランニング・ユニットの詳細」、「注釈」タブの順にクリックします。
6.  をクリックします。
7. 「承認 - 注釈の追加」で、タイトルおよび注釈を入力します(1,500文字以内)。マルチバイト・システムでは、注釈を750文字以内することをお勧めします。URL、リンクおよびテキストを入力できます。
8. 「送信」をクリックします。

## 不在時のアシスタント

不在時のアシスタントを設定して、不在中に届いたプランニング・ユニットを再割当てできます。

▶ 不在時のアシスタントを設定するには:

1. Planningのリボンから、「承認」を選択します。
2. 「承認の管理」から、「不在時のアシスタント」を選択します。
3. 「不在時のアシスタント」から、「現在不在です」を選択します。
4. 「アクションの選択」からアクション、および不在中に届くプランニング・ユニットの次の所有者を選択します。
5. オプション: 注釈を入力します。
6. 「送信」をクリックします。

## Planningのジョブ・ステータスのモニタリング

▶ Planningジョブ・タイプの実行ステータスを表示し、必要に応じて、ジョブ・コンソールで削除します。ジョブの実行ステータスをチェックするには:

1. PlanningまたはPlanningアド・ホックのリボンで、「詳細」、「ジョブ・コンソール」の順に選択します。
2. デフォルトで、すべてのジョブが表示されます。ジョブのリストをフィルタするには、「フィルタ条件」から、次のジョブ条件のいずれかを選択します:

• タイプ: ドロップダウン・メニューから、次のいずれかを選択します:

- ビジネス・ルール
- ルールセット(Calculation Manager)
- シーケンス(Business Rule)
- セル詳細のクリア

- データのコピー
  - データのプッシュ
  - ステータス: ドロップダウン・メニューから、「処理中」、「完了」、「エラー」のいずれかを選択します。
  - ジョブ名
  - ユーザー名
  - 開始日
  - 終了日
3. 「実行」をクリックします。ジョブ・コンソールが選択条件に合うジョブを表示します。
  4. オプション: ジョブ名およびジョブのプラン・タイプを表示するには、ジョブを選択して「詳細の表示」をクリックします。
  5. オプション: ジョブを削除するには、ジョブを選択して「削除」をクリックします。

## Planningでのページの検索

- ▶ Planningの管理者が1つのフォームに対して複数のページ・ディメンションを設定している場合は、必要なデータが含まれるページを、ページのドロップダウン・リストから選択します。Planningでページを検索するには:
  1. 検索したいページ・ディメンションをクリックして強調表示します。
  2. ドロップダウン・メニューから、操作したいデータが含まれるページ名を選択します。

## バージョンのコピー

データ・ソース・タイプ: Planning

データを1つのボトムアップまたは選択済シナリオのターゲット・バージョンから他のボトムアップまたは同じシナリオ内のターゲット・バージョンへコピーします。たとえば、「ベスト・ケース」バージョンを作成し、そのバージョンの一部またはすべてのデータを「ワースト・ケース」バージョンへコピーし、新規バージョンの開始点をすばやく作成できます。

ボトムアップ・バージョンとターゲット・バージョン間でのコピーは可能ですが、

- ボトムアップ・バージョンにコピーすると、選択したレベル0のメンバーのみがコピーされます。
- ターゲット・バージョンにコピーすると、選択したすべてのメンバーがコピーされます。
- 承認済プランニング・ユニット内のデータ保護のため、バージョンのコピーを行っても承認済のプランニング・ユニットにはコピーされません。



注:

データをコピーするには、コピーするデータの基準を指定するときに、シナリオ、勘定科目、エンティティ、期間およびバージョン・ディメンションの少なくとも1つのメンバーを選択する必要があります。

- ▶ バージョンをコピーするには、次の手順に従います。
  1. PlanningまたはPlanningアド・ホックのリボンから「バージョンのコピー」を選択します。
  2. 「シナリオ」から、コピーするシナリオを選択します。
  3. 「コピー元」から、ソース・バージョンを選択します。

4. 「コピー先」から、宛先のバージョンを選択します。
5. 「実行」をクリックし、選択したソース・バージョンの使用可能なエンティティ(プランニング・ユニット)を表示します。
6. 矢印キーを使用して、「使用可能なエンティティ」から、エンティティを選択します。「プロセス・ステータス」が、「開始していません」または「第1パス」のエンティティをコピーできます。
7. オプション: 関連した情報をコピーするには、次のオプションのいずれかを選択します:
  - 勘定科目注釈のコピー。選択されたエンティティの注釈のみがコピーされます。ボトムアップ・バージョンにコピーする場合は、レベル0のエンティティ(およびその注釈)のみがコピーされます。
  - セル・テキストおよびドキュメント・リンクのコピー
  - サポート詳細のコピー
8. 「データのコピー」をクリックします。




注:

他のWebページをロードする前に、「バージョンのコピー」の完了メッセージが表示されるのを待ちます。

## 複合フォーム

データ・ソース・タイプ: Planning

▶ Planningの複合フォームを開くには:

1. 複合フォームを含むPlanningデータ・ソースに接続します。
2. 「接続」ツリー・リストから、複合フォーム(で示されています)をダブルクリックします。

複合フォームが新規のExcelワークブックで開き、各サブフォームが個別のワークシートに表示されます。

Smart Viewでは、Planningマスター複合フォームがサポートされます。

## Planningビジネス・ルールの操作

Planningのフォームおよびアド・ホック・グリッドで、ビジネス・ルールを使用してEssbaseのデータを計算できます。ビジネス・ルールの中には情報の入力を促すものがあります。これは実行時プロンプトと呼ばれます。

## Excelでのビジネス・ルールの起動

▶ Excelでビジネス・ルールを起動してEssbaseのデータを再計算するには:

1. Planningのアド・ホック・グリッドまたはフォーム(単一または複合)を開きます。
2. 未保存のすべてのデータを保存します。

ビジネス・ルールを起動すると、未保存のデータは失われます。

3. Planningのリボンから、「計算」、「ビジネス・ルール」の順に選択します。



4. 「ビジネス・ルール」の「プランのタイプ」で、使用するルールに関連付けられているプラン・タイプを選択します。
5. そのプラン・タイプについて一覧表示されたルールの中からルールを選択し、「起動」をクリックします。

ビジネス・ルールに実行時プロンプトが含まれている場合、145ページの実行時プロンプトへの入力の145ページのステップ2で説明されている情報を入力します。

計算が正常に処理されると、計算結果がEssbaseデータベースの値に反映されます。

6. 「閉じる」をクリックします。
7. Smart Viewのリボンから、「リフレッシュ」を選択します。

## 実行時プロンプトへの入力

起動時に、ビジネス・ルールが変数情報を入力するように指示することができます。いわゆる実行時プロンプトです。ビジネス・ルールのデザイナーが実行時プロンプトを設定します。

▶ 実行時プロンプトを入力するには、次の手順に従います。

1. 実行プロンプトがあるビジネス・ルールを起動します。
2. 実行時プロンプトにより指定された入力タイプを入力または選択します。次の表は入力タイプをまとめたものです：

アイコン	予想される入力タイプ
	1つのメンバー選択
	複数メンバー選択
	数値(入力するか、セルのドロップダウン・メニューから選択する)
	テキスト値 - 高度な計算スクリプトのみで使用し、グラフィック表示のスクリプトでは使用しません
	データベースからのディメンション - 高度な計算スクリプトのみで使用し、グラフィック表示のスクリプトでは使用しません
	<b>Calculation Managerのビジネス・ルールのみ：</b> デザイナーが実行時プロンプトに対して設定した各ディメンションから1つのメンバーのみを含むメンバーまたはメンバーの組合せ(たとえば、「売り上げ->実績->1月」は売り上げ、実績および1月のメンバー交差を参照しています)
	<b>Calculation Managerのビジネス・ルールのみ：</b> デザイナーが実行時プロンプトに対して設定した各ディメンションから選択可能なメンバーの範囲(IDescendants("Marketing"),FY08など)

実行時プロンプトが有効であることを確認してください。すべての実行時プロンプト値が有効になるまで、ビジネス・ルールを起動できません。

3. 「起動」をクリックします。

計算が正常に処理されると、データベースの値に計算結果が反映されます。

## 「フォームの計算」および「通貨の計算」ビジネス・ルールの実行

「フォームの計算」ビジネス・ルールは、小計を計算する各フォーム用に作成されています。「通貨の計算」ビジネス・ルールは、行、列またはページに複数の通貨が含まれるフォーム用に作成され、使用可能な通貨間で値を換算できます。

ビジネス・ルールを起動する順序は、データに影響を与える場合もあるので重要です。「データ・フォームの計算」ビジネス・ルールと「通貨の計算」ビジネス・ルールの両方を起動する場合は、フォームの小計を計算する前に、必ず換算を実行する必要があります。

▶ 「データ・フォームの計算」および「通貨の計算」のビジネス・ルールをExcelで起動するには:

1. フォームを開きます。

ビジネス・ルールを起動すると、スプレッドシートの未保存のデータは失われます。

2. Planningのリボンから、「計算」、「フォームに関する規則」の順に選択します。

フォームに関連付けられたビジネス・ルールが、「ビジネス・ルール」ダイアログ・ボックスに表示されます。

3. 次のいずれかまたは両方を実行します:

- 通貨を換算するには、「通貨の計算」を選択します。
- 小計を計算するには、「データ・フォームの計算」を選択します。

4. 「起動」をクリックします。

計算が正常に処理されると、計算結果がEssbaseデータベースの値に反映されます。

## データの分散

### サブトピック

- [期間に対するデータの分散](#)
- [グリッド分散を使用した値の分散](#)
- [一括割当てを使用した値の分散](#)

## 期間に対するデータの分散

データ・ソース・タイプ: Planning

フォームで、期間の分散ルールは、Planningディメンションのプロパティ設定の一部としてPlanningで設定されます。Excelでフォームを操作している場合、管理者がフォームをどのように設定したかに応じて、データ値を複数の方法で分散または配分できます:

- 要約期間の値を基本期間に戻す分散、または要約期間の値を親期間の最初の親または最初の子に戻す分散
- 親子間の既存の配分に基づく比例分散

- 予算管理者により4-4-5、5-4-4、4-5-4または「なし」のいずれかに設定されている、カレンダーの四半期ごとの週次配布に基づく値の分散
- 期間へのデータの分散中に特定のセルの値を一時的にロックします( [147ページ](#)の[特定セルをロックしたデータの分散](#)を参照)
- 同じ行または列ディメンションで別個の期間それぞれに異なる分散ルールを使用して異なる期間に値を分散します。たとえば、FY2013では式の充てん、FY2014ではフローが可能です。

この分散タイプでは、11.1.2.3.500以降のPlanningリリースが必要です。

## 注意

- 複数の通貨が混在するメンバーが含まれる要約期間のデータは分散できません。
- 子セル内のExcel式は、分散時には無視されます。

▶ 期間に対してデータを分散するには:

1. フォームを開きます。
2. セルを選択し、新しい値を入力します。

『Oracle Hyperion Planningユーザーガイド』のデータの調整と分散に関する項に示されたルールに従い、値が配分されます

3. 「保存」をクリックします。

## 特定セルをロックしたデータの分散

期間に対してデータを分散する場合、他の値の再計算時に、1つ以上のセルを一時的にロックしてそれらのセルの値を保護できます。様々な計算を基に期間上にデータを分散し、変化を確認してからデータベースに確定できます。セルをロックした分散の例は、『Oracle Hyperion Planningユーザーガイド』を参照してください。

▶ 値を一時的にロックするには:

1. フォームを開きます。
2. フォームで、ロックするセルまたはセルのグループを選択します。
3. Planningのリボンから、「ロック」を選択します。

色の変化は、セルがロックされたことを示します。これで、ロックされたセルに影響を与えることなく、他のセルのデータを自由に分散または操作できます。

4. セルのロックを解除するには、グリッドをリフレッシュします。

## グリッド分散を使用した値の分散

管理者が「グリッド分散」を使用可能にしている場合、ターゲット・セルの既存の値に基づいて、グリッド上の複数のディメンションにわたって値を増減する量またはパーセンテージを指定することができます。分散データを計算する場合、読取り専用のセルとロックされたセル、およびサポート詳細の付いたセルは無視されます。アクセスできるセルのみに値を分散することで、データの整合性が保証されます。

▶ グリッド分散を使用した値を分散するには:

1. ターゲット・セルに分散したい小計または合計ソース・セル値にカーソルを置きます。
2. PlanningまたはPlanningアド・ホックのリボンから、「調整」、「グリッド分散」の順に選択します。
3. ドロップダウン・メニューから、次のいずれかを選択します:

- 値: 指定した量で値を増減します。
- パーセンテージ: パーセンテージで値を増減します。

4. 「指定値ずつ増やす」または「指定値ずつ減らす」を選択して値を入力します。
5. 「分散値」に実際の分散値を入力します。

たとえば、「現在の値」が100で、分散値を125にする場合、「分散値」に直接125と入力し、[148ページのステップ 4](#)の「指定値ずつ増やす」/「指定値ずつ減らす」オプションまたはテキスト・ボックスでは何もしません。

または、「指定値ずつ増やす」に25と入力すると、「分散値」に125と表示されます。



注:

「分散値」に値を入力しても、「指定値ずつ増やす」/「指定値ずつ減らす」テキスト・ボックスには影響はありません。ただし、「指定値ずつ増やす」/「指定値ずつ減らす」に値を入力すると、「分散値」テキスト・ボックスに分散値が反映されます。

6. 分散パターンを選択します。

- 比例分散: ターゲット・セルの既存値に基づいて、値を比例分散します(デフォルト)。
- 均等分割: ターゲット・セル間で均等に値を分散します。
- 入力: すべてのターゲット・セル内の値を置換します。

管理者は他の分散パターンを追加することができます。

7. 「分散」をクリックします。指定した値またはパーセンテージがターゲット・セル全体に分散され、前の値を新しい値に置換します。
8. 新しい値を保存するには、「保存」をクリックします。

## 一括割当てを使用した値の分散

一括割当てを使用して、すべてのソース・セルの子孫およびすべてのディメンションでデータを分散できます。一括割当てによる分散は、グリッドに表示されないセルにデータを分散し、ターゲット・セルへのアクセス権を持つ必要はありません。

一括割当てはフォームでのみ可能で、管理者が一括割当てを使用可能にしておく必要があります。一括割当てを使用するには一括割当ての役割でプロビジョニングされる必要があります。



注:

一括割当ては元に戻せません。

▶ 一括割当てを使用して値を分散するには:

1. 分散する小計または合計セルにカーソルを置きます。
2. PlanningまたはPlanningアド・ホックのリボンから、「調整」、「一括割当て」に順に選択します。
3. 「分散値」に新しい値を入力して現在の値を置き換えるか、ドロップダウン・メニューから、次のいずれかを選択します:
  - 値: 指定した量で値を増減します。
  - パーcentage: パーcentageで値を増減します。
4. 「指定値ずつ増やす」または「指定値ずつ減らす」を選択して値を入力します。
5. 「分散値」に実際の分散値を入力します。

たとえば、「現在の値」が100で、分散値を125にする場合、「分散値」に直接125と入力し、[149ページのステップ 4](#)の「指定値ずつ増やす」/「指定値ずつ減らす」オプションまたはテキスト・ボックスでは何もしません。

または、「指定値ずつ増やす」に25と入力すると、「分散値」に125と表示されます。



注:

「分散値」に値を入力しても、「指定値ずつ増やす」/「指定値ずつ減らす」テキスト・ボックスには影響はありません。ただし、「指定値ずつ増やす」/「指定値ずつ減らす」に値を入力すると、「分散値」テキスト・ボックスに分散値が反映されます。

6. 指定した値またはパーcentageをターゲット・セル全体に分散するには、「分散タイプ」を選択します:
  - 比例分散: ターゲット・セルの既存値に基づいて、値を比例分散します(デフォルト)。
  - 均等分割: ターゲット・セル間で均等に値を分散します。
  - 入力: すべてのターゲット・セル内の値を置換します。
  - リレーショナル分散: 様々なソースの場所に存在する値に基づいて、選択されたセルに分散します。このオプションを選択すると、「選択済」列に各ディメンションに対して現在選択されているメンバーが表示されます。

管理者は他の分散パターンを追加することができます。

7. 「分散」をクリックします。新しい値は自動的にEssbaseに保存されます。

## メンバー式

- ▶ 式を含むセル内の式を表示できます。このようなセルは、「オプション」ウィンドウで指定されたセル・スタイルによりグリッドで示すことができます。メンバー式を表示するには:
  1. 表示する式を含むメンバーを選択します。
  2. PlanningまたはPlanningアド・ホック・リボンから、「詳細」、「メンバー式」の順に選択します。

式の詳細が表示されます。

## サポート詳細

サポート詳細は、メンバー・アウトラインに含まれないデータを作成するための、組込み型の計算機として機能します。データの集約方法を定義するテキスト、値、および演算子を含めることができます。

## サポート詳細の追加

「サポート詳細」ウィンドウを使用して、詳細アイテムがフォーム内のセルの値に集約される方法を設定します。

▶ 値を計算するサポート詳細をフォームまたはアド・ホック・グリッド内に追加するには:

1. フォームを開き、セルを選択します。

1つの行また列内で、1つのセルを選択するかまたは複数のセルを続けて選択できます。このセクションに行または列の組合せを含められません。書き込めるように、現地通貨のセルを選択してください。

2. PlanningまたはPlanningアド・ホックのリボンから、「セルのアクション」、「サポート詳細」の順に選択します。

サポート詳細ウィンドウに選択したセルが反映されます。

3. 「タイトルなし」テキストについての説明を入力します。

テキストとそれに関連する演算子は、同じ親の下にいる子の間で同じものは使用できません。デフォルトでは、最大1,500文字入力できます。

4. ボタンを使用して、インデントされた階層を作成または変更し、目的の構造と計算を反映します。

たとえば、「子の追加」をクリックして、選択したアイテムの直下にライン・アイテムを追加します。

5. アイテムごとに演算子を選択して、ライン・アイテム間の演算関係を設定します。

演算子は、+(加算)、-(減算)、\*(乗算)、/(除算)および~(無視)から選択します。

6. データを入力して設定または計算をします。

フォームで設定したものと同じ倍率を使用して、数字を入力します。

7. 「保存」をクリックします。

値は動的に計算され、データを保存する前に集約されます。フォーム上のデータも保存されます。

## サポート詳細の階層における作業

サポート詳細の階層は、適切な関係を作成するセルの値と算術演算子をサポートする情報のタイプを反映しています。

▶ サポート詳細の階層を作成または変更するには:

1. フォームで、サポート詳細のセルを選択します。
2. PlanningまたはPlanningアド・ホックのリボンから、「サポート詳細」を選択します。
3. データ値の詳細が含まれる階層内でアイテム上にカーソルを置き、次の表のオプションをクリックして行を作成または変更します:

オプション	結果
子の追加	選択されたセルの1レベル下にアイテムを追加します。子は無制限に追加できますが、パフォーマンスに与える影響を考慮してください。
兄弟の追加	選択されたセルと同じレベルにアイテムを追加します。兄弟は無制限に追加できますが、パフォーマンスに与える影響を考慮してください。
削除	選択されたアイテムの除去



オプション	結果
すべて削除	すべてのサポート詳細を同時に除去
上位へ移動	選択されたアイテムを1つ上のレベルに移動
下位へ移動	選択されたアイテムを1つ下のレベルに移動
上へ移動	選択したアイテムをその兄弟の先祖より前に移動します
下へ移動	選択したアイテムをその兄弟の子孫より後に移動します
行の重複	選択アイテムの下に行を追加してテキスト、演算子、値などをコピーします。
入力	行内の現在のセルからその右のセルにデータをコピーします。
リフレッシュ	保管されたデータベースの最新の値を取得し、すでに保存された値を復元し、変更内容を上書きします。

#### 4. 「保存」をクリックします。

保存操作により、詳細テキスト、値および集約値が保管されます。

## サポート詳細の表示または変更

サポート詳細を含むセルは、「オプション」ダイアログ・ボックスで指定されたセル・スタイルによって、グリッドで示すことができます。

▶ 計算またはサポート・データの表示または変更を行うには:

#### 1. フォームを開き、詳細を表示または追加するセルを選択します。

1つの行また列内で、1つのセルを選択するかまたは複数のセルを続けて選択できます。このセクションに行または列の組合せを含められません。書き込めるように、現地通貨のセルを選択してください。

#### 2. PlanningまたはPlanningアド・ホックのリボンから、「サポート詳細」を選択します。

#### 3. 選択したセル内のデータを集約するライン・アイテムまたは計算を表示または変更します。

## サポート詳細とEssbaseの同期

Planningアプリケーションでは、セルのサポート詳細を削除すると、リレーショナル・データベース内の関連する値に影響が及びます。保管されているEssbaseの値をどのように処理するかを指定します。値を#Missingに設定するか、サポート詳細を削除する前の状態のまま残しておくことができます。この機能は、サポート詳細をメモ帳や計算機として使用する場合に有用です。

▶ サポート詳細とEssbaseを同期するには:

#### 1. フォームを開きます。

#### 2. フォームで、除去するサポート詳細が含まれるセルをクリックします。

#### 3. PlanningまたはPlanningアド・ホックのリボンから、「サポート詳細」を選択します。

#### 4. 「サポート詳細」ウィンドウで、情報を削除して「OK」をクリックします。

#### 5. 表示されるメッセージでオプションを選択して、Essbaseに保管されている削除済のサポート詳細の集約値をどのように処理するかを指定します:

- 値をEssbaseから削除するには、「値を#Missingに設定してください」をクリックします。
- 値をそのままEssbaseに残すには、「値をそのままにしてください」をクリックします。

## Planningのプリファレンスの設定

▶ Planningアプリケーションのユーザー・プリファレンスを設定するには:

1. Smart Viewパネルのツリー・リストでアプリケーションを選択します。
2. 右クリックして「ユーザー・プリファレンス」を選択します。
3. 「プリファレンス」で次のオプションを指定します。

- アプリケーション設定: 「電子メール」、「別名」および「ワークフロー」オプション。
- 表示設定: 「フォーマット」、「ページ」および「その他」オプション。
- ユーザー変数: 大きいフォームやグリッドのナビゲートに役立つようにPlanningで設定される変数。



注:

オフライン・モードではプリファレンスを設定できません。

## PlanningへのネイティブExcelフォーマットの保存

データ・ソース・タイプ: Planning

Smart Viewを使用すると、ネイティブExcelフォーマットを、フォームまたはアド・ホック・グリッドの一部として、Planningサーバーに保存できます。保存されたフォーマットは、Planningのブラウザ・インタフェースに適用され、フォームがExcelに表示される際にも適用されます。その後、Smart Viewでのフォーマットの表示方法を選択できます。これは、Smart Viewの既存のセル・スタイル機能の追加機能です( [266ページのセルのスタイル](#)に説明されています)。

これらのフォーマット・オプションは、[152ページの図 47](#)に示されたPlanningのリボンの「フォーマット」グループで使用可能です。

図47 フォーマット・オプション



## PlanningフォームでのExcelフォーマットの保存

▶ PlanningフォームにExcelフォーマットを保存するには:

1. 編集するPlanningフォームをSmart Viewで開きます。
2. ネイティブExcelフォーマット機能を使用して、フォーマットをシートに適用します。
3. Planningのリボンで、「フォーマット」グループから「保存」を選択します。



4. 表示オプションを選択するには、153ページのSmart Viewでのフォーマットの表示に移動します。

## Smart Viewでのフォーマットの表示

Excelにフォームが表示されたら、Smart Viewのオプションを使用して、シートにフォーマットを表示できます。これらのオプションには、Planningアド・ホック・リボンの「フォーマット」グループの「適用」ボタンからアクセスします。



ヒント:

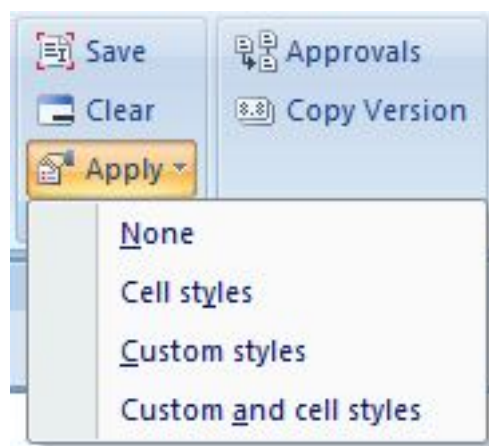
「適用」オプションは、表示オプションのみで、以前にフォームで保存されたセル・スタイルおよびネイティブExcelフォーマットを表示できます。

▶ Planningフォームで、フォーマット表示オプションを切り替えるには:

1. Planningフォームを開き、Planningアド・ホック・リボンの「フォーマット」グループ内の「適用」ボタンをクリックします(153ページの図48を参照してください)。

「適用」オプションが表示されます。オプションが選択される前の初期の状態は、どのオプションも選択されていない状態です。オプションを選択すると、最後のオプション選択が、次にフォームを開くときまで保持されます。

図48 「適用」オプション



2. オプションを選択します:

- なし - シートにスタイル(ExcelフォーマットまたはSmart Viewのセル・スタイル)は適用されません。シートにセル・スタイルやカスタム・スタイルが存在する場合でも、このオプションを選択するといずれも表示されません。ただし、それらは保存されているため、「セルのスタイル」、「カスタム・スタイル」または「カスタム・スタイルとセルのスタイル」オプションを使用して、後から表示できます。
- セルのスタイル - 「セルのスタイル」のトピックで説明されているように、Smart Viewのセル・スタイルのみがシートに適用されます。
- カスタム・スタイル - カスタムのユーザー定義ネイティブExcelフォーマットのみがシートに適用されます。
- カスタム・スタイルとセルのスタイル - ExcelフォーマットとSmart Viewのセル・スタイルの両方がシートに適用されます。「カスタム・スタイルとセルのスタイル」を選択すると、カスタムのExcelフォーマットより、セルのスタイルが優先されることに注意してください。

## フォーマットのクリア

- ▶ フォームまたはアド・ホック・グリッドに関連付けられているフォーマットをクリアするには、Planningのリボンの「フォーマット」グループから「クリア」を選択します。

「クリア」オプションを選択すると、Planningサーバーのフォームやグリッドに関連付けられているすべてのExcelフォーマットが削除されます。セル・スタイルは、保存されているカスタム・フォーマットに依存しないため、セル・スタイル機能は使用できます。

## アド・ホック・グリッドからのExcelフォーマットの保存

- ▶ アド・ホック・グリッドからフォーマットを保存するには:
  1. 保存先のグリッドを作成するためにアド・ホック分析を実行します。
  2. Excelのネイティブ・フォーマット機能を使用して、グリッドをフォーマットします。
  3. Planningアド・ホックのリボンから、「アド・ホック・グリッドの保存」を選択します。
  4. 「グリッドに名前を付けて保存」ダイアログ・ボックスで、アド・ホック・グリッドをフォームとして保存する際に「フォーマットの送信」オプションを選択します。

これで、[153ページのSmart Viewでのフォーマットの表示](#)での説明に従い、保存されたフォームを開き、表示オプションを選択できます。

## サポートされているネイティブExcelフォーマット

[154ページの表 7](#)は、Smart ViewのPlanningフォームでサポートされているネイティブExcelフォーマット、およびフォームをPlanning Webアプリケーションでフォームを表示したときフォーマットがサポートされるかどうかについてまとめたものです。

表7 Smart ViewとPlanningでサポートされているネイティブExcelフォーマット

フォーマット	Smart View	Planning
<b>フォント</b>		
フォント・ファミリ	はい	はい
フォント・サイズ	はい	はい
太字	はい	はい
斜体	はい	はい
取消し線	はい	いいえ
下線	1本の途切れない実線のみ	いいえ
テキストの色	赤、緑、青	赤、緑、青
背景色	プレーン、実線、赤、緑、青	プレーン、赤、緑、青
<b>配置</b>		
垂直	上、中央、下	いいえ
水平	左、中央、右	いいえ
インデント	左側のインデントのみで、レベルは5つ	いいえ

フォーマット	Smart View	Planning
折返し	はい	いいえ
<b>枠線</b>		
枠線の色	はい、各セルの4つの枠線に異なる色を設定できます(赤、緑、青)	はい
枠線の幅	はい、ポイント単位	はい
枠線のスタイル	なし、実線、二重線、点線、破線、鎖線、二点鎖線	なし、実線
<b>数値および日付のフォーマット</b>		
数値のフォーマット	小数点、負数と正数の接尾辞および接頭辞、負数と正数の色、色は8色、パーセンテージ、指数のフォーマット、3桁ごとの区切り文字の有無	いいえ
日付フォーマット	長い日付と短い日付、時間、分、秒、AMとPM	いいえ
<b>その他</b>		
読取り専用	はい	いいえ
列の幅と行の高さ	はい、ポイント単位	いいえ

## ネイティブExcelフォーマットおよびPlanningフォームの操作のガイドライン

- グリッドを設計する際は、カスタムのExcelフォーマットとSmart Viewのセル・スタイル間に競合が発生しないように注意してください。
- 一部のアド・ホック分析操作では、保持されないExcelフォーマットがあります。特定の操作を実行した後は、フォーマットを再適用する必要があります。
- 保存済のアド・ホック・グリッドを開くと、Smart Viewでは、Planningサーバーに保存されたフォーマットの保持が試行されます。さらにアド・ホック操作を実行すると、既存のフォーマット操作が適用されます; たとえば、「**Excelフォーマットの使用**」やセルのスタイルです。
- カスタムのExcelフォーマットをアド・ホック操作に保持するには、「オプション」ダイアログ・ボックスの「フォーマット」ページで、「**Excelフォーマットの使用**」と「**操作時にフォーマットを移動**」オプションを選択します。
- 「**操作時にフォーマットを移動**」オプションが有効になっている場合、特にアド・ホック操作中に、フォーマットがパフォーマンスに影響します。
- Smart Viewに表示されるグリッドと、Planningでブラウザに表示されるグリッドには違いがあります。保存済のグリッドがPlanningに表示される場合、Smart Viewに表示される際と同じように表示されないフォーマットがあります。Planningのフォーマットは、可能なかぎりSmart Viewと同じように表示されます。
- Planningの管理者が、フォームに特定のフォーマットを定義している場合があります。Planningのエンド・ユーザーは、このフォーマットを上書きしてフォームに保存できます。その後、管理者がPlanningでそのフォームに選択したオプションに基づいて、管理者のフォーマットにマージされます。詳細は、Planningのドキュメントを参照してください。

- この機能は、複合Planningフォームでサポートされていません。

## オフライン作業

システムにPlanningのオフライン・コンポーネントがインストールおよび構成されている場合は、オフラインでフォームを取得し、基本的に、Planningサーバーに接続されている場合と同じ操作を実行できます。オフラインのフォームに行った変更は、サーバーに同期できます。



注:

オフライン機能は、Planningオンプレミスのみでサポートされています。これは、Oracle Planning and Budgeting Cloud Serviceではサポートされていません。

## フォームのオフライン化

同じExcelワークブックにオンラインとオフラインの両方のフォームを含めることができます。



注:

通貨換算はオフラインではサポートされません。

▶ フォームをオフライン化するには:

1. Excelで、オフラインにするフォームを含むPlanningデータ・ソースに接続します。
2. Planningのリボンから、「詳細」、「オフライン化」の順に選択します。

オフライン化ウィザードが表示されます; オフラインにできるすべてのフォームが一覧に表示されます。

3. 「使用可能なフォーム/フォルダ」を展開し、オフラインにするフォルダおよびフォームを選択します。
4. 「次」をクリックします。
5. デイメンションをダブルクリックします。選択できるデイメンションは1つのみです。

複数のフォームを選択した場合、選択したフォームで使用可能なデイメンションがマージされて表示されます。

6. 「メンバー選択」ページから、メンバーおよびシステム変数を選択します。

メンバー・リレーションシップについて:

表8 メンバー・リレーションシップ

リレーションシップ	フォームに含まれるメンバー
メンバー	選択したメンバー
子孫	選択したメンバーの下にあるすべてのメンバー
子孫(含む)	選択したメンバーとそのすべての子孫
祖先	選択したメンバーの上にあるすべてのメンバー

リレーションシップ	フォームに含まれるメンバー
祖先(含む)	選択したメンバーとそのすべての祖先
兄弟	選択したメンバーと同じ階層レベルのすべてのメンバー(選択したメンバーは除く)
兄弟(含む)	選択したメンバーとそのすべての兄弟
親	選択したメンバーより上のレベルのメンバー
親(含む)	選択したメンバーとその親
子	選択したメンバーのすぐ下のレベルのメンバー
子(含む)	選択したメンバーとそのすべての子
レベル0の子孫	選択したメンバーの子孫のうち子を持たないすべての子孫



注:

複数の異なるフォームでは、子およびページメンバーの選択肢が存在する場合があります。「ページ」ドロップダウン・リストには、各ディメンションのフォームごとに少なくとも1つのメンバーが表示されます。

7. 「OK」をクリックします。
8. [156ページのステップ 5](#)から [157ページのステップ 7](#)を繰り返し、リストの各ディメンションにメンバーまたはシステム変数を選択します。
9. 「次」をクリックします。
10. オフライン接続に固有の名前と説明を入力します。
11. 「終了」をクリックして、選択したフォームとメンバーをダウンロードします。
12. 「OK」、「完了」の順にクリックします。

## オフラインでのフォームの操作

▶ フォームをオフラインで操作するには:

1. Excelで、Smart Viewのリボンから「パネル」を選択します。
2. Smart Viewパネルから、オフライン接続を選択します。

オンライン接続では、「プロバイダ」列の「プランニング」を指定します。オフライン接続では、「オフライン・プランニング」を指定します。

3. 右クリックして「接続」を選択します。
4. 右クリックして「フォームを開く」を選択します。



注:

Planningサーバーへの直接接続中にフォームを開いていた場合、そのフォームをオフラインで操作するためには、同じセッション中にフォームをオフライン化してから、オフライン接続からそのフォームを再び開く必要があります。

5. オフラインのフォームで、データを追加または変更します。

6. Planningのメニューから、「データの送信」を選択します。

変更したデータがローカルに保存されます。Excelを終了しても、変更したデータは失われません。

## Planningサーバーに対するデータの同期

サーバーに同期する際は、オフライン化したフォーム内の、そのセッションの開始以降に変更されたすべてのデータがサーバーに保存されます。すべてのフォームのデータを一度に同期することも、選択したフォームおよびメンバーのデータを同期することもできます。

▶ オフライン化したすべてのフォームおよびメンバーについて、変更したデータをPlanningサーバーに保存するには:

1. Planningのリボンから、「フォーム」、「サーバーと同期」の順に選択します。
2. Planningサーバーにログインします。
3. 「すべて同期」をクリックします。
4. 「OK」をクリックします。

▶ オフライン化したフォームおよびメンバーのうち選択したものについて、変更したデータをPlanningサーバーに保存するには:

1. Planningのリボンから、「フォーム」、「サーバーと同期」の順に選択します。
2. Planningサーバーにログインします。
3. 「次へ」をクリックします。
4. デイメンションをダブルクリックします。
5. 「メンバー選択」ページから、メンバーおよびシステム変数を選択します。
6. 「OK」をクリックします。
7. [158ページのステップ 4](#)から [158ページのステップ 6](#)を繰り返し、リストの各デイメンションにメンバーまたはシステム変数を選択します。
8. 「終了」選択してデータを保存します。
9. 「OK」、「完了」の順にクリックします。



---

### ヒント:

サーバーに再び接続した後、オフラインで行った作業がデータベースに正しく反映されているかチェックします。フォームをリフレッシュしたときにデータの行または列が消失した場合は、管理者に連絡してください。

---

## オフラインのフォーム定義およびデータのリフレッシュ

オフラインのフォーム定義をリフレッシュするには:

- オンラインのフォームの最新の値で、オフラインのフォームのデータを更新します。
- オフライン・セッション中に使用可能なメンバーまたはフォームを追加または削除します。

▶ オフラインのデータおよびオフラインのフォーム定義を更新するには:

1. Smart Viewのメニューで、「パネル」を選択します。
2. Smart Viewパネルから、現在のオフライン・セッションに関連付けられている接続を選択します。

3. Planningのメニューから、「詳細」、「オフライン」の順に選択します。



注:

オフライン接続を使用しているのに「オフライン定義のリフレッシュ」オプションを選択できない場合は、Planningの管理者に連絡してください。このオプションは、オンライン接続の使用中は選択できません。

4. オンラインのデータ・ソース用のユーザー名とパスワードを入力します。

Planningサーバーからオフラインのデータをリフレッシュするため、サーバーにログオンする必要があります。

5. 次のいずれかの操作を行います:

- オフライン化したすべてのメンバーおよびフォームを、最新のオンラインの値および定義で更新するには、「すべてリフレッシュ」をクリックします。「すべてリフレッシュ」では、現在のオフラインのフォーム定義が保持されます。[159ページのステップ 10](#)に進みます。
- 「次へ」をクリックして、更新するフォーム、メンバーおよびシステム変数を選択します。この選択により、フォーム定義が変更されます。ユーザーが選択したメンバーおよびフォームのみが、定義の一部として残ります。選択しなかったメンバーおよびフォームは、オフラインで使用できなくなります。[159ページのステップ 6](#)に進みます。

6. デイメンションをダブルクリックします。
7. 「メンバー選択」ページから、メンバーおよびシステム変数を選択します。

リストには、選択したデイメンションのメンバーとシステム変数が表示されます。

「選択したメンバー」リストにメンバーおよびシステム変数を移動するか、このリストからそれらを移動するには、矢印キーを使用します。

8. 「OK」をクリックします。
9. [159ページのステップ 6](#)から [159ページのステップ 8](#)を繰り返し、リストの各デイメンションにメンバーまたはシステム変数を選択します。
10. 「終了」をクリックしてリフレッシュを開始します。
11. リフレッシュが完了したら、「OK」、「完了」の順にクリックします。





# 13

## Smart Viewおよび Oracle Planning and Budgeting Cloud Service

この項の内容:

Planningの承認 .....	161
Planningのジョブ・ステータスのモニタリング .....	164
Planningでのページの検索 .....	165
バージョンのコピー .....	165
複合フォーム .....	166
Planningビジネス・ルールの操作 .....	166
データの分散 .....	168
メンバー式 .....	171
サポート詳細 .....	171
Planningのプリファレンスの設定 .....	173
PlanningへのネイティブExcelフォーマットの保存 .....	174

このガイドには、Smart ViewでサポートされるOracle Planning and Budgeting Cloud Serviceの機能を使用するための手順情報のみが記載されています。Planning for Oracle Planning and Budgeting Cloud Serviceの詳細は、Oracle Cloudヘルプ・センターで入手可能な『Oracle Hyperion Planningユーザー・ガイド』を参照してください。

この章では、Planning for Oracle Planning and Budgeting Cloud Serviceの機能について説明します。

### Planningの承認

データ・ソース・タイプ: Planning for Oracle Planning and Budgeting Cloud Service


Planningの承認は、プランニング・ユニットの送信、確認、承認プロセスです。承認の役割が割り当てられている場合、ここで説明する承認関数を実行できます。役割の詳細は、管理者に問い合わせてください。

### プランニング・ユニットのステータスの変更

1つ以上のプランニング・ユニットのステータスを一度に変更できます。

▶ プランニング・ユニットのステータスを表示または変更するには:

1. 適切なフォームを開きます。
2. Planningのリボンから、「承認」を選択します。
3. 「承認の管理」から、「シナリオ」および「バージョン」を選択します。

4.  をクリックして、アクセス権を持つプランニング・ユニットのリストを表示します。
5. オプション: 表示モード・ボタンで、次のいずれかを選択します:
  - ・フラット・ビュー: プランニング・ユニットをリストとして表示します。
  - ・「ツリー・ビュー」では、プランニング・ユニットが階層形式で表示されます(管理者のみが使用可能)。

ツリー・ビューで「開始」を選択すると、プランニング・ユニットが開始され、「除外」を選択すると、プランニング・ユニットがプロセスから除外されます。
  - ・「マイ・プランニング・ユニット」では、自分が所有するプランニング・ユニットのみが表示されます。
6. ステータスを変更するプランニング・ユニットまたはユニットを選択します。リストが長すぎてプランニング・ユニットが簡単に検索できない場合は、[162ページのプランニング・ユニットの検索](#)の説明に従って、リストを検索したり、リストにフィルタを適用できます。
7. 選択したプランニング・ユニットの詳細を表示するには、「[プランニング・ユニットの詳細](#)」をクリックします。


「承認ステータス」タブには、プロセスのステータス、所有者、とられたアクション、およびステータスの変更日時履歴が表示されます。

「注釈」タブには、プランニング・ユニット用に入力されたすべての注釈が表示されます。[164ページのプランニング・ユニットの注釈](#)を参照してください。
8. プランニング・ユニットのステータスを変更するには、「[ステータスの変更](#)」をクリックします。



注:

親エンティティのステータスを変更すると、子が「第1パス」状態時に除外されているかまたはすでに承認されている場合を除いて、親エンティティのすべての子もステータスが変更されます。

9. 「承認 - エンティティのステータスの変更」からアクション、およびプランニング・ユニットの次の所有者を選択します。
10. オプション: 「注釈の入力」の下に注釈を入力します。
11. 「送信」をクリックします。
12.  をクリックします。一度に検証できるのは1つのプランニング・ユニットのみです。

## プランニング・ユニットの検索

「承認の管理」で、プランニング・ユニットのリストを検索したり、フィルタを適用することで、プランニング・ユニットを簡単に検索できます。フィルタ条件として、自動フィルタ、メンバーの選択、または世代を使用できます。

▶ プランニング・ユニットのリストをフィルタ処理するには:


1. 「承認の管理」を開き、[161ページのプランニング・ユニットのステータスの変更](#)の説明に従って、シナリオとバージョンを選択します。

2.  をクリックして、フィルタ処理を使用可能にします。

フィルタ処理ツールを含むフィルタ・バーが、プランニング・ユニット・リストのすぐ上に表示されます。

3. 次の手順のいずれかを使用します:




#### 検索

特定のプランニング・ユニットを検索するには、その名前を「プランニング・ユニット」フィールドに入力し、をクリックします。




#### 自動フィルタ処理

- フィルタ・バーで、「承認ステータス」、「サブステータス」または「現在の所有者」の列ヘッダーの矢印をクリックします。
- フィルタ条件となる列の値を選択します。これらの列の複数に自動フィルタを適用できます。


4. メンバー選択によるフィルタ

- フィルタ・バーで  をクリックし、「メンバー・セレクタ」を選択します。
-  をクリックし、[32ページのメンバー・セレクタからのメンバーの選択](#)の説明に従って、プランニング・ユニット・リストのメンバーを選択します。
-  をクリックして、リストをフィルタ処理します。

5. 世代によるフィルタ

- フィルタ・バーで  をクリックし、「世代」を選択します。
-  をクリックし、プランニング・ユニット・リストに表示する1つ以上の世代を選択します。
-  をクリックして、リストをフィルタ処理します。
- 「OK」をクリックします。

- 6.

オプション: フィルタを適用する前にフィルタ選択を元に戻すには、 をクリックします。

## プランニング・ユニットの移動パス

プランニング・ユニットは、次に基づいて個人から個人、および部署から部署へ移動します:

- プランニング・ユニットに割り当てられた所有者と確認者
- 階層内のプランニング・ユニットの場所

▶ プランニング・ユニットの移動パスをグラフィカルな形式で表示するには:


- Planningのリボンから、「承認」を選択します。
- 「承認の管理」から、「シナリオ」および「バージョン」を選択します。
- 「実行」をクリックして、アクセス権を持つプランニング・ユニットのリストを表示します。
- プランニング・ユニットを選択します。

-  をクリックします。

## プランニング・ユニットの注釈

開始したプランニング・ユニットのデータに関するコメントを追加または表示できます。注釈は、シナリオ、バージョンおよびエンティティ・メンバーの組合せなどによって異なります。

▶ プランニング・ユニットの注釈を追加するには:

1. Planningのリボンから、「承認」を選択します。
2. 「承認の管理」から、「シナリオ」および「バージョン」を選択します。
3. 「実行」をクリックして、アクセス権を持つプランニング・ユニットのリストを表示します。
4. 注釈を追加するプランニング・ユニットを選択します。リストをフィルタ処理する方法は、[162ページのプランニング・ユニットの検索](#)を参照してください。
5. オプション: 選択したプランニング・ユニットに対する既存の注釈を表示するには、「プランニング・ユニットの詳細」、「注釈」タブの順にクリックします。
6.  をクリックします。
7. 「承認 - 注釈の追加」で、タイトルおよび注釈を入力します(1,500文字以内)。マルチバイト・システムでは、注釈を750文字以内することをお勧めします。URL、リンクおよびテキストを入力できます。
8. 「送信」をクリックします。

## 不在時のアシスタント

不在時のアシスタントを設定して、不在中に届いたプランニング・ユニットを再割当てできます。

▶ 不在時のアシスタントを設定するには:

1. Planningのリボンから、「承認」を選択します。
2. 「承認の管理」から、「不在時のアシスタント」を選択します。
3. 「不在時のアシスタント」から、「現在不在です」を選択します。
4. 「アクションの選択」からアクション、および不在中に届くプランニング・ユニットの次の所有者を選択します。
5. オプション: 注釈を入力します。
6. 「送信」をクリックします。

## Planningのジョブ・ステータスのモニタリング

▶ Planningジョブ・タイプの実行ステータスを表示し、必要に応じて、ジョブ・コンソールで削除します。ジョブの実行ステータスをチェックするには:

1. PlanningまたはPlanningアド・ホックのリボンで、「詳細」、「ジョブ・コンソール」の順に選択します。
2. デフォルトで、すべてのジョブが表示されます。ジョブのリストをフィルタするには、「フィルタ条件」から、次のジョブ条件のいずれかを選択します:

• タイプ: ドロップダウン・メニューから、次のいずれかを選択します:

- ビジネス・ルール
- ルールセット(Calculation Manager)
- シーケンス(Business Rule)
- セル詳細のクリア
- データのコピー

○データのプッシュ

- ステータス: ドロップダウン・メニューから、「処理中」、「完了」、「エラー」のいずれかを選択します。
  - ジョブ名
  - ユーザー名
  - 開始日
  - 終了日
3. 「実行」をクリックします。ジョブ・コンソールが選択条件に合うジョブを表示します。
  4. オプション: ジョブ名およびジョブのプラン・タイプを表示するには、ジョブを選択して「詳細の表示」をクリックします。
  5. オプション: ジョブを削除するには、ジョブを選択して「削除」をクリックします。

## Planningでのページの検索

- ▶ Planningの管理者が1つのフォームに対して複数のページ・ディメンションを設定している場合は、必要なデータが含まれるページを、ページのドロップダウン・リストから選択します。Planningでページを検索するには:
1. 検索したいページ・ディメンションをクリックして強調表示します。
  2. ドロップダウン・メニューから、操作したいデータが含まれるページ名を選択します。

## バージョンのコピー

データ・ソース・タイプ: Planning for Oracle Planning and Budgeting Cloud Service

データを1つのボトムアップまたは選択済シナリオのターゲット・バージョンから他のボトムアップまたは同じシナリオ内のターゲット・バージョンへコピーします。たとえば、「ベスト・ケース」バージョンを作成し、そのバージョンの一部またはすべてのデータを「ワースト・ケース」バージョンへコピーし、新規バージョンの開始点をすばやく作成できます。

ボトムアップ・バージョンとターゲット・バージョン間でのコピーは可能ですが、

- ボトムアップ・バージョンにコピーすると、選択したレベル0のメンバーのみがコピーされます。
- ターゲット・バージョンにコピーすると、選択したすべてのメンバーがコピーされます。
- 承認済プランニング・ユニット内のデータ保護のため、バージョンのコピーを行っても承認済のプランニング・ユニットにはコピーされません。



注:

データをコピーするには、コピーするデータの基準を指定するときに、シナリオ、勘定科目、エンティティ、期間およびバージョン・ディメンションの少なくとも1つのメンバーを選択する必要があります。

- ▶ バージョンをコピーするには、次の手順に従います。
1. PlanningまたはPlanningアド・ホックのリボンから「バージョンのコピー」を選択します。
  2. 「シナリオ」から、コピーするシナリオを選択します。
  3. 「コピー元」から、ソース・バージョンを選択します。
  4. 「コピー先」から、宛先のバージョンを選択します。

5. 「実行」をクリックし、選択したソース・バージョンの使用可能なエンティティ(プランニング・ユニット)を表示します。
6. 矢印キーを使用して、「使用可能なエンティティ」から、エンティティを選択します。「プロセス・ステータス」が、「開始していません」または「第1パス」のエンティティをコピーできます。
7. オプション: 関連した情報をコピーするには、次のオプションのいずれかを選択します:
  - ・ 勘定科目注釈のコピー。選択されたエンティティの注釈のみがコピーされます。ボトムアップ・バージョンにコピーする場合は、レベル0のエンティティ(およびその注釈)のみがコピーされます。
  - ・ セル・テキストおよびドキュメント・リンクのコピー
  - ・ サポート詳細のコピー
8. 「データのコピー」をクリックします。




注:

他のWebページをロードする前に、「バージョンのコピー」の完了メッセージが表示されるのを待ちます。

## 複合フォーム

データ・ソース・タイプ: Planning for Oracle Planning and Budgeting Cloud Service

▶ Planningの複合フォームを開くには:

1. 複合フォームを含むPlanningデータ・ソースに接続します。
2. 「接続」ツリー・リストから、複合フォーム(  で示されています)をダブルクリックします。

複合フォームが新規のExcelワークブックで開き、各サブフォームが個別のワークシートに表示されます。

Smart Viewでは、Planningマスター複合フォームがサポートされます。

## Planningビジネス・ルールの操作

データ・ソース・タイプ: Planning for Oracle Planning and Budgeting Cloud Service

Planningのフォームおよびアド・ホック・グリッドで、ビジネス・ルールを使用してEssbaseのデータを計算できます。ビジネス・ルールの中には情報の入力を促すものがあります。これは**実行時プロンプト**と呼ばれます。

## Excelでのビジネス・ルールの起動

▶ Excelでビジネス・ルールを起動してEssbaseのデータを再計算するには:

1. Planningのアド・ホック・グリッドまたはフォーム(単一または複合)を開きます。
2. 未保存のすべてのデータを保存します。

ビジネス・ルールを起動すると、未保存のデータは失われます。

3. Planningのリボンから、「計算」、「ビジネス・ルール」の順に選択します。
4. 「ビジネス・ルール」の「プランのタイプ」で、使用するルールに関連付けられているプラン・タイプを選択します。

5. そのプラン・タイプについて一覧表示されたルールの中からルールを選択し、「起動」をクリックします。

ビジネス・ルールに実行時プロンプトが含まれている場合、167ページのステップ 2の 167ページの実行時プロンプトへの入力で説明されている情報を入力します。

計算が正常に処理されると、計算結果がEssbaseデータベースの値に反映されます。

6. 「閉じる」をクリックします。
7. Smart Viewのリボンから、「リフレッシュ」を選択します。

## 実行時プロンプトへの入力

起動時に、ビジネス・ルールが変数情報を入力するように指示することができます。いわゆる実行時プロンプトです。ビジネス・ルールのデザイナーが実行時プロンプトを設定します。

▶ 実行時プロンプトを入力するには、次の手順に従います。

1. 実行プロンプトがあるビジネス・ルールを起動します。
2. 実行時プロンプトにより指定された入力タイプを入力または選択します。次の表は入力タイプをまとめたものです：

アイコン	予想される入力タイプ
	1つのメンバー選択
	複数メンバー選択
	数値(入力するか、セルのドロップダウン・メニューから選択する)
	テキスト値 - 高度な計算スクリプトのみで使用し、グラフィック表示のスクリプトでは使用しません
	データベースからのディメンション - 高度な計算スクリプトのみで使用し、グラフィック表示のスクリプトでは使用しません
	<b>Calculation Managerのビジネス・ルールのみ:</b> デザイナーが実行時プロンプトに対して設定した各ディメンションから1つのメンバーのみを含むメンバーまたはメンバーの組合せ(たとえば、「売上->実績->1月」は売り上げ、実績および1月のメンバー交差を参照しています)
	<b>Calculation Managerのビジネス・ルールのみ:</b> デザイナーが実行時プロンプトに対して設定した各ディメンションから選択可能なメンバーの範囲(IDescendants("Marketing"),FY08など)

実行時プロンプトが有効であることを確認してください。すべての実行時プロンプト値が有効になるまで、ビジネス・ルールを起動できません。

3. 「起動」をクリックします。

計算が正常に処理されると、データベースの値に計算結果が反映されます。



## 「フォームの計算」および「通貨の計算」ビジネス・ルールの実行

「フォームの計算」ビジネス・ルールは、小計を計算する各フォーム用に作成されています。「通貨の計算」ビジネス・ルールは、行、列またはページに複数の通貨が含まれるフォーム用に作成され、使用可能な通貨間で値を換算できます。

ビジネス・ルールを起動する順序は、データに影響を与える場合もあるので重要です。「データ・フォームの計算」ビジネス・ルールと「通貨の計算」ビジネス・ルールの両方を起動する場合は、フォームの小計を計算する前に、必ず換算を実行する必要があります。

▶ 「データ・フォームの計算」および「通貨の計算」のビジネス・ルールをExcelで起動するには:

1. フォームを開きます。

ビジネス・ルールを起動すると、スプレッドシートの未保存のデータは失われます。

2. Planningのリボンから、「計算」、「フォームに関する規則」の順に選択します。

フォームに関連付けられたビジネス・ルールが、「ビジネス・ルール」ダイアログ・ボックスに表示されます。

3. 次のいずれかまたは両方を実行します:

- 通貨を換算するには、「通貨の計算」を選択します。
- 小計を計算するには、データ・フォームの計算を選択します。

4. 「起動」をクリックします。

計算が正常に処理されると、計算結果がEssbaseデータベースの値に反映されます。

## データの分散

### サブトピック

- [期間に対するデータの分散](#)
- [グリッド分散を使用した値の分散](#)
- [一括割当てを使用した値の分散](#)

## 期間に対するデータの分散

データ・ソース・タイプ: Planning for Oracle Planning and Budgeting Cloud Service

フォームで、期間の分散ルールは、Planningディメンションのプロパティ設定の一部としてPlanningで設定されます。Excelでフォームを操作している場合、管理者がフォームをどのように設定したかに応じて、データ値を複数の方法で分散または配分できます:

- 要約期間の値を基本期間に戻す分散、または要約期間の値を親期間の最初の親または最初の子に戻す分散
- 親子間の既存の配分に基づく比例分散
- 予算管理者により4-4-5、5-4-4、4-5-4または「なし」のいずれかに設定されている、カレンダーの四半期ごとの週次配布に基づく値の分散
- 期間へのデータの分散中に特定のセルの値を一時的にロックします( [169ページの特定セルをロックしたデータの分散](#)を参照)



- 同じ行または列ディメンションで別個の期間それぞれに異なる分散ルールを使用して異なる期間に値を分散します。たとえば、FY2013では式の充てん、FY2014ではフローが可能です。

この分散タイプでは、11.1.2.3.500以降のPlanningリリースが必要です。

## 注意

- 複数の通貨が混在するメンバーが含まれる要約期間のデータは分散できません。
- 子セル内のExcel式は、分散時には無視されます。

▶ 期間に対してデータを分散するには:

1. フォームを開きます。
2. セルを選択し、新しい値を入力します。

『Oracle Hyperion Planningユーザーガイド』のデータの調整と分散に関する項に示されたルールに従い、値が配分されます

3. 「保存」をクリックします。

## 特定セルをロックしたデータの分散

期間に対してデータを分散する場合、他の値の再計算時に、1つ以上のセルを一時的にロックしてそれらのセルの値を保護できます。様々な計算を基に期間上にデータを分散し、変化を確認してからデータベースに確定できます。セルをロックした分散の例は、『Oracle Hyperion Planningユーザーガイド』を参照してください。

▶ 値を一時的にロックするには:

1. フォームを開きます。
2. フォームで、ロックするセルまたはセルのグループを選択します。
3. Planningのリボンから、「ロック」を選択します。

色の変化は、セルがロックされたことを示します。これで、ロックされたセルに影響を与えることなく、他のセルのデータを自由に分散または操作できます。

4. セルのロックを解除するには、グリッドをリフレッシュします。

## グリッド分散を使用した値の分散

管理者が「グリッド分散」を使用可能にしている場合、ターゲット・セルの既存の値に基づいて、グリッド上の複数のディメンションにわたって値を増減する量またはパーセンテージを指定することができます。分散データを計算する場合、読取り専用のセルとロックされたセル、およびサポート詳細の付いたセルは無視されます。アクセスできるセルのみに値を分散することで、データの整合性が保証されます。

▶ グリッド分散を使用した値を分散するには:

1. ターゲット・セルに分散したい小計または合計ソース・セル値にカーソルを置きます。
2. PlanningまたはPlanningアド・ホックのリボンから、「調整」、「グリッド分散」の順に選択します。
3. ドロップダウン・メニューから、次のいずれかを選択します:

- 値: 指定した量で値を増減します。

- ・ パーセンテージ: パーセンテージで値を増減します。
4. 「指定値ずつ増やす」または「指定値ずつ減らす」を選択して値を入力します。
  5. 「分散値」に実際の分散値を入力します。

たとえば、「現在の値」が100で、分散値を125にする場合、「分散値」に直接125と入力し、170ページのステップ 4の「指定値ずつ増やす」/「指定値ずつ減らす」オプションまたはテキスト・ボックスでは何もしません。

または、「指定値ずつ増やす」に25と入力すると、「分散値」に125と表示されます。



注:

「分散値」に値を入力しても、「指定値ずつ増やす」/「指定値ずつ減らす」テキスト・ボックスには影響はありません。ただし、「指定値ずつ増やす」/「指定値ずつ減らす」に値を入力すると、「分散値」テキスト・ボックスに分散値が反映されます。

6. 分散パターンを選択します。
  - ・ 比例分散: ターゲット・セルの既存値に基づいて、値を比例分散します(デフォルト)。
  - ・ 均等分割: ターゲット・セル間で均等に値を分散します。
  - ・ 入力: すべてのターゲット・セル内の値を置換します。

管理者は他の分散パターンを追加することができます。

7. 「分散」をクリックします。指定した値またはパーセンテージがターゲット・セル全体に分散され、前の値を新しい値に置換します。
8. 新しい値を保存するには、「保存」をクリックします。

## 一括割当てを使用した値の分散

一括割当てを使用して、すべてのソース・セルの子孫およびすべてのディメンションでデータを分散できます。一括割当てによる分散は、グリッドに表示されないセルにデータを分散し、ターゲット・セルへのアクセス権を持つ必要はありません。

一括割当てはフォームでのみ可能で、管理者が一括割当てを使用可能にしておく必要があります。一括割当てを使用するには一括割当ての役割でプロビジョニングされる必要があります。



注:

一括割当ては元に戻せません。

- ▶ 一括割当てを使用して値を分散するには:
1. 分散する小計または合計セルにカーソルを置きます。
  2. PlanningまたはPlanningアド・ホックのリボンから、「調整」、「一括割当て」に順に選択します。
  3. 「分散値」に新しい値を入力して現在の値を置き換えるか、ドロップダウン・メニューから、次のいずれかを選択します:
    - ・ 値: 指定した量で値を増減します。
    - ・ パーセンテージ: パーセンテージで値を増減します。

4. 「指定値ずつ増やす」または「指定値ずつ減らす」を選択して値を入力します。
5. 「分散値」に実際の分散値を入力します。

たとえば、「現在の値」が100で、分散値を125にする場合、「分散値」に直接125と入力し、[171ページのステップ 4](#)の「指定値ずつ増やす」/「指定値ずつ減らす」オプションまたはテキスト・ボックスでは何もしません。

または、「指定値ずつ増やす」に25と入力すると、「分散値」に125と表示されます。



注:

「分散値」に値を入力しても、「指定値ずつ増やす」/「指定値ずつ減らす」テキスト・ボックスには影響はありません。ただし、「指定値ずつ増やす」/「指定値ずつ減らす」に値を入力すると、「分散値」テキスト・ボックスに分散値が反映されます。

6. 指定した値またはパーセンテージをターゲット・セル全体に分散するには、「分散タイプ」を選択します:
  - **比例分散:** ターゲット・セルの既存値に基づいて、値を比例分散します(デフォルト)。
  - **均等分割:** ターゲット・セル間で均等に値を分散します。
  - **入力:** すべてのターゲット・セル内の値を置換します。
  - **リレーショナル分散:** 様々なソースの場所に存在する値に基づいて、選択されたセルに分散します。このオプションを選択すると、「**選択済**」列に各ディメンションに対して現在選択されているメンバーが表示されます。

管理者は他の分散パターンを追加することができます。

7. 「分散」をクリックします。新しい値は自動的に保存されます。

## メンバー式

データ・ソース・タイプ: Planning for Oracle Planning and Budgeting Cloud Service

▶ 式を含むセル内の式を表示できます。このようなセルは、「オプション」ウィンドウで指定されたセル・スタイルによりグリッドで示すことができます。メンバー式を表示するには:

1. 表示する式を含むメンバーを選択します。
2. PlanningまたはPlanningアド・ホック・リボンから、「詳細」、「メンバー式」の順に選択します。

式の詳細が表示されます。

## サポート詳細

データ・ソース・タイプ: Planning for Oracle Planning and Budgeting Cloud Service

サポート詳細は、メンバー・アウトラインに含まれないデータを作成するための、組込み型の計算機として機能します。データの集約方法を定義するテキスト、値、および演算子を含めることができます。

## サポート詳細の追加

「サポート詳細」ウィンドウを使用して、詳細アイテムがフォーム内のセルの値に集約される方法を設定します。

▶ 値を計算するサポート詳細をフォームまたはアド・ホック・グリッド内に追加するには:

1. フォームを開き、セルを選択します。

1つの行また列内で、1つのセルを選択するかまたは複数のセルを続けて選択できます。このセクションに行または列の組合せを含められません。書き込めるように、現地通貨のセルを選択してください。

2. PlanningまたはPlanningアド・ホックのリボンから、「セルのアクション」、「サポート詳細」の順に選択します。

サポート詳細ウィンドウに選択したセルが反映されます。

3. 「タイトルなし」テキストについての説明を入力します。

テキストとそれに関連する演算子は、同じ親の下にいるの子の間で同じものは使用できません。デフォルトでは、最大1,500文字入力できます。

4. ボタンを使用して、インデントされた階層を作成または変更し、目的の構造と計算を反映します。

たとえば、「子の追加」をクリックして、選択したアイテムの直下にライン・アイテムを追加します。

5. アイテムごとに演算子を選択して、ライン・アイテム間の演算関係を設定します。

演算子は、+(加算)、-(減算)、\*(乗算)、/(除算)および~(無視)から選択します。

6. データを入力して設定または計算をします。

フォームで設定したものと同じ倍率を使用して、数字を入力します。

7. 「保存」をクリックします。

値は動的に計算され、データを保存する前に集約されます。フォーム上のデータも保存されます。

## サポート詳細の階層における作業

サポート詳細の階層は、適切な関係を作成するセルの値と算術演算子をサポートする情報のタイプを反映しています。

▶ サポート詳細の階層を作成または変更するには:

1. フォームで、サポート詳細のセルを選択します。
2. PlanningまたはPlanningアド・ホックのリボンから、「サポート詳細」を選択します。
3. データ値の詳細が含まれる階層内でアイテム上にカーソルを置き、次の表のオプションをクリックして行を作成または変更します:

オプション	結果
子の追加	選択されたセルの1レベル下にアイテムを追加します。子は無制限に追加できますが、パフォーマンスに与える影響を考慮してください。
兄弟の追加	選択されたセルと同じレベルにアイテムを追加します。兄弟は無制限に追加できますが、パフォーマンスに与える影響を考慮してください。
削除	選択されたアイテムの除去
すべて削除	すべてのサポート詳細を同時に除去
上位へ移動	選択されたアイテムを1つ上のレベルに移動
下位へ移動	選択されたアイテムを1つ下のレベルに移動
上へ移動	選択したアイテムをその兄弟の先祖より前に移動します

オプション	結果
下へ移動	選択したアイテムをその兄弟の子孫より後に移動します
行の重複	選択アイテムの下に行を追加してテキスト、演算子、値などをコピーします。
入力	行内の現在のセルからその右のセルにデータをコピーします。
リフレッシュ	保管されたデータベースの最新の値を取得し、すでに保存された値を復元し、変更内容を上書きします。

#### 4. 「保存」をクリックします。

保存操作により、詳細テキスト、値および集約値が保管されます。

## サポート詳細の表示または変更

サポート詳細を含むセルは、「オプション」ダイアログ・ボックスで指定されたセル・スタイルによって、グリッドで示すことができます。

▶ 計算またはサポート・データの表示または変更を行うには:

1. フォームを開き、詳細を表示または追加するセルを選択します。

1つの行また列内で、1つのセルを選択するかまたは複数のセルを続けて選択できます。このセクションに行または列の組合せを含められません。書き込めるように、現地通貨のセルを選択してください。

2. PlanningまたはPlanningアド・ホックのリボンから、「サポート詳細」を選択します。
3. 選択したセル内のデータを集約するライン・アイテムまたは計算を表示または変更します。

## サポート詳細とEssbaseの同期

Planningアプリケーションでは、セルのサポート詳細を削除すると、リレーショナル・データベース内の関連する値に影響が及びます。保管されているEssbaseの値をどのように処理するかを指定します。値を#Missingに設定するか、サポート詳細を削除する前の状態のまま残しておくことができます。この機能は、サポート詳細をメモ帳や計算機として使用する場合に有用です。

▶ サポート詳細とEssbaseを同期するには:

1. フォームを開きます。
2. フォームで、除去するサポート詳細が含まれるセルをクリックします。
3. PlanningまたはPlanningアド・ホックのリボンから、「サポート詳細」を選択します。
4. 「サポート詳細」ウィンドウで、情報を削除して「OK」をクリックします。
5. 表示されるメッセージでオプションを選択して、Essbaseに保管されている削除済のサポート詳細の集約値をどのように処理するかを指定します:

- 値をEssbaseから削除するには、「値を#Missingに設定してください」をクリックします。
- 値をそのままEssbaseに残すには、「値をそのままにしてください」をクリックします。

## Planningのプリファレンスの設定

データ・ソース・タイプ: Planning for Oracle Planning and Budgeting Cloud Service

▶ Planningアプリケーションのユーザー・プリファレンスを設定するには:

1. Smart Viewパネルのツリー・リストでアプリケーションを選択します。
2. 右クリックして「ユーザー・プリファレンス」を選択します。
3. 「プリファレンス」で次のオプションを指定します。
  - アプリケーション設定: 「電子メール」、「別名」および「ワークフロー」オプション。
  - 表示設定: 「フォーマット」、「ページ」および「その他」オプション。
  - ユーザー変数: 大きいフォームやグリッドのナビゲートに役立つようにPlanningで設定される変数。

## PlanningへのネイティブExcelフォーマットの保存

### サブトピック

- [PlanningフォームでのExcelフォーマットの保存](#)
- [Smart Viewでのフォーマットの表示](#)
- [フォーマットのクリア](#)
- [アド・ホック・グリッドからのExcelフォーマットの保存](#)
- [サポートされているネイティブExcelフォーマット](#)
- [ネイティブExcelフォーマットおよびPlanningフォームの操作のガイドライン](#)

データ・ソース・タイプ: Planning for Oracle Planning and Budgeting Cloud Service

Smart Viewを使用すると、ネイティブExcelフォーマットを、フォームまたはアド・ホック・グリッドの一部として、Planningサーバーに保存できます。保存されたフォーマットは、Planningのブラウザ・インタフェースに適用され、フォームがExcelに表示される際にも適用されます。その後、Smart Viewでのフォーマットの表示方法を選択できます。これは、Smart Viewの既存のセル・スタイル機能の追加機能です。

[266ページのセルのスタイル](#)も参照してください。

これらのフォーマット・オプションは、[174ページの図 49](#)に示されたPlanningのリボンの「フォーマット」グループで使用可能です。

図49 フォーマット・オプション



## PlanningフォームでのExcelフォーマットの保存

▶ PlanningフォームにExcelフォーマットを保存するには:

1. 編集するPlanningフォームをSmart Viewで開きます。
2. ネイティブExcelフォーマット機能を使用して、フォーマットをシートに適用します。
3. Planningのリボンで、「フォーマット」グループから「保存」を選択します。



4. 表示オプションを選択するには、175ページのSmart Viewでのフォーマットの表示に移動します。

## Smart Viewでのフォーマットの表示

Excelにフォームが表示されたら、Smart Viewのオプションを使用して、シートにフォーマットを表示できます。これらのオプションには、Planningアド・ホック・リボンの「フォーマット」グループの「適用」ボタンからアクセスします。



ヒント:

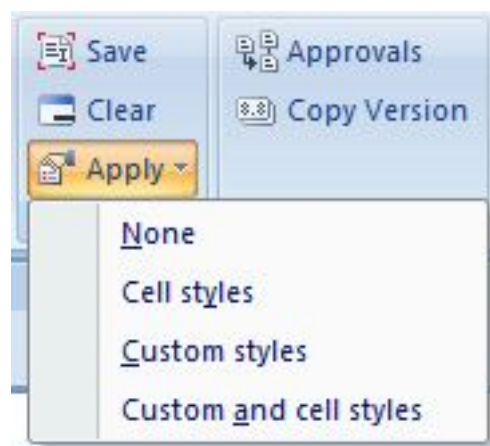
「適用」オプションは、表示オプションのみで、以前にフォームで保存されたセル・スタイルおよびネイティブExcelフォーマットを表示できます。

▶ Planningフォームで、フォーマット表示オプションを切り替えるには:

1. Planningフォームを開き、Planningアド・ホック・リボンの「フォーマット」グループ内の「適用」ボタンをクリックします( 175ページの図 50を参照してください)。

「適用」オプションが表示されます。オプションが選択される前の初期の状態は、どのオプションも選択されていない状態です。オプションを選択すると、最後のオプション選択が、次にフォームを開くときまで保持されます。

図50 「適用」オプション



2. オプションを選択します:

- なし - シートにスタイル(ExcelフォーマットまたはSmart Viewのセル・スタイル)は適用されません。シートにセル・スタイルやカスタム・スタイルが存在する場合でも、このオプションを選択するといずれも表示されません。ただし、それらは保存されているため、「セルのスタイル」、「カスタム・スタイル」または「カスタム・スタイルとセルのスタイル」オプションを使用して、後から表示できます。
- セルのスタイル - 「セルのスタイル」のトピックで説明されているように、Smart Viewのセル・スタイルのみがシートに適用されます。
- カスタム・スタイル - カスタムのユーザー定義ネイティブExcelフォーマットのみがシートに適用されます。
- カスタム・スタイルとセルのスタイル - ExcelフォーマットとSmart Viewのセル・スタイルの両方がシートに適用されます。「カスタム・スタイルとセルのスタイル」を選択すると、カスタムのExcelフォーマットより、セルのスタイルが優先されることに注意してください。

## フォーマットのクリア

- ▶ フォームまたはアド・ホック・グリッドに関連付けられているフォーマットをクリアするには、Planningのリボンの「フォーマット」グループから「クリア」を選択します。

「クリア」オプションを選択すると、Planningサーバーのフォームやグリッドに関連付けられているすべてのExcelフォーマットが削除されます。セル・スタイルは、保存されているカスタム・フォーマットに依存しないため、セル・スタイル機能は使用できます。

## アド・ホック・グリッドからのExcelフォーマットの保存

- ▶ アド・ホック・グリッドからフォーマットを保存するには:
  1. 保存先のグリッドを作成するためにアド・ホック分析を実行します。
  2. Excelのネイティブ・フォーマット機能を使用して、グリッドをフォーマットします。
  3. Planningアド・ホックのリボンから、「アド・ホック・グリッドの保存」を選択します。
  4. 「グリッドに名前を付けて保存」ダイアログ・ボックスで、アド・ホック・グリッドをフォームとして保存する際に「フォーマットの送信」オプションを選択します。

これで、[175ページのSmart Viewでのフォーマットの表示](#)での説明に従い、保存されたフォームを開き、表示オプションを選択できます。

## サポートされているネイティブExcelフォーマット

[176ページの表 9](#)は、Smart ViewのPlanningフォームでサポートされているネイティブExcelフォーマット、およびフォームをPlanning Webアプリケーションでフォームを表示したときフォーマットがサポートされるかどうかについてまとめたものです。

表9 サポートされているネイティブExcelフォーマット

フォーマット	Smart View	Oracle Planning and Budgeting Cloud Service
<b>フォント</b>		
フォント・ファミリ	はい	はい
フォント・サイズ	はい	はい
太字	はい	はい
斜体	はい	はい
取消し線	はい	いいえ
下線	1本の途切れない実線のみ	いいえ
テキストの色	赤、緑、青	赤、緑、青
背景色	プレーン、実線、赤、緑、青	プレーン、赤、緑、青
<b>配置</b>		
垂直	上、中央、下	いいえ
水平	左、中央、右	いいえ



フォーマット	Smart View	Oracle Planning and Budgeting Cloud Service
インデント	左側のインデントのみで、レベルは5つ	いいえ
折返し	はい	いいえ
<b>枠線</b>		
枠線の色	はい、各セルの4つの枠線に異なる色を設定できます(赤、緑、青)	はい
枠線の幅	はい、ポイント単位	はい
枠線のスタイル	なし、実線、二重線、点線、破線、鎖線、二点鎖線	なし、実線
<b>数値および日付のフォーマット</b>		
数値のフォーマット	小数点、負数と正数の接尾辞および接頭辞、負数と正数の色、色は8色、パーセンテージ、指数のフォーマット、3桁ごとの区切り文字の有無	いいえ
日付フォーマット	長い日付と短い日付、時間、分、秒、AMとPM	いいえ
<b>その他</b>		
読取り専用	はい	いいえ
列の幅と行の高さ	はい、ポイント単位	いいえ

## ネイティブExcelフォーマットおよびPlanningフォームの操作のガイドライン

- グリッドを設計する際は、カスタムのExcelフォーマットとSmart Viewのセル・スタイル間に競合が発生しないように注意してください。
- 一部のアド・ホック分析操作では、保持されないExcelフォーマットがあります。特定の操作を実行した後は、フォーマットを再適用する必要があります。
- 保存済のアド・ホック・グリッドを開くと、Smart Viewでは、Planningサーバーに保存されたフォーマットの保持が試行されます。さらにアド・ホック操作を実行すると、既存のフォーマット操作が適用されます;たとえば、「**Excelフォーマットの使用**」やセルのスタイルです。
- カスタムのExcelフォーマットをアド・ホック操作に保持するには、「オプション」ダイアログ・ボックスの「フォーマット」ページで、「**Excelフォーマットの使用**」と「**操作時にフォーマットを移動**」オプションを選択します。
- 「**操作時にフォーマットを移動**」オプションが有効になっている場合、特にアド・ホック操作中に、フォーマットがパフォーマンスに影響します。
- Smart Viewに表示されるグリッドと、Planningでブラウザに表示されるグリッドには違いがあります。保存済のグリッドがPlanningに表示される場合、Smart Viewに表示される際と同じように表示されないフォーマットがあります。Planningのフォーマットは、可能なかぎりSmart Viewと同じように表示されます。
- Planningの管理者が、フォームに特定のフォーマットを定義している場合があります。Planningのエンド・ユーザーは、このフォーマットを上書きしてフォームに保存できます。その後、管理者がPlanningでそのフォームに選択

したオプションに基づいて、管理者のフォーマットにマージされます。詳細は、Planningのドキュメントを参照してください。

- この機能は、複合Planningフォームでサポートされていません。

# 14

## Smart Viewと Reporting and Analysis

### この項の内容:

Reporting and Analysisドキュメントのインポート .....	179
ドキュメントの編集およびリフレッシュ .....	180
Reporting and Analysisドキュメントのリフレッシュ .....	181
Financial ReportingとWeb Analysisのインポート・フォーマット .....	182
Interactive Reportingドキュメントのインポート .....	183
Financial Reportingドキュメントのインポート .....	186
Production Reportingドキュメントのインポート」 .....	194
Web Analysisドキュメントのインポート」 .....	197
スマート・タグを使用した、Reporting and Analysisドキュメントのインポート .....	199



#### 注:

この章において、Financial Reportingへの参照は、オンプレミスおよびOracle Planning and Budgeting Cloud ServiceバージョンのFinancial Reportingの両方に適用されます。

## Reporting and Analysisドキュメントのインポート

Smart Viewを使用して、Reporting and AnalysisドキュメントをMicrosoft Excel、WordまたはPowerPointにインポートできます。



#### 注:

このトピックにおいて、Financial Reportingへの参照は、オンプレミスおよびOracle Planning and Budgeting Cloud ServiceバージョンのFinancial Reportingの両方に適用されます。

表10 Reporting and Analysisアプリケーション

Reporting and Analysisアプリケーション	インポートできるドキュメント
Financial Reporting	レポート
オンプレミスおよびOracle Planning and Budgeting Cloud Service	
Oracle Hyperion Web Analysis	レポート

Reporting and Analysisアプリケーション	インポートできるドキュメント
Oracle Hyperion Interactive Reporting	レポート チャート ダッシュボード 最新のBQYジョブを使用すると、Interactive Reportingでリフレッシュ機能がサポートされます
Oracle Hyperion SQR Production Reporting	ジョブ ジョブの出力

#### 関連トピック:

[186ページのFinancial Reportingドキュメントのインポート](#)

[197ページのWeb Analysisドキュメントのインポート](#)

[183ページのInteractive Reportingドキュメントのインポート](#)

[194ページのProduction Reportingドキュメントのインポート](#)

[199ページのスマート・タグを使用した、Reporting and Analysisドキュメントのインポート](#)

## ドキュメントの編集およびリフレッシュ

Officeでは、以前にEPM WorkspaceおよびOracle Planning and Budgeting Cloud Serviceからインポートされたドキュメントを編集およびリフレッシュすることができます。Smart Viewのリボンまたはメニューには、次の編集およびリフレッシュ・オプションがあります。

- 編集 - フィルタ、POV、または埋め込まれたEPM WorkspaceおよびOracle Planning and Budgeting Cloud Serviceのドキュメントのパラメータを変更します。
- リフレッシュ - 選択されたジョブを、EPM WorkspaceおよびOracle Planning and Budgeting Cloud Serviceの最新データでリフレッシュします。Officeドキュメント全体ではなく、Officeで選択されているジョブのみ更新されます。
- すべてリフレッシュ - Officeドキュメントのすべてのジョブを更新します。

### 一般的な編集とリフレッシュの動作

- ページが削除されているインポート済みドキュメントをリフレッシュすると、残っているページのみがリフレッシュされます。削除されたページは復元されません。
- 編集またはリフレッシュした結果、インポート済みドキュメントのページ数が減った場合、除去されたページはOfficeに空白のページとして表示されます。

- 編集またはリフレッシュした結果、インポート済みドキュメントのページ数が増えた場合、これらのページはOfficeのドキュメントに追加されます。
- WordとPowerPointでリフレッシュした場合、フォーマット見出しとコメントは保持されますが、Excelでリフレッシュした場合は保持されません。

## ドキュメントのリフレッシュ時のセル参照の維持

Excelでは、インポートされたドキュメント・セルまたは範囲を参照するカスタマイズされたワークシートは、インポートされたドキュメントで「すべてリフレッシュ」を実行すると更新されます。たとえば、インポートされたワークシートAおよびBは、カスタマイズされたワークシートCで参照されています。ワークシートAおよびBで「すべてリフレッシュ」を実行すると、ワークシートCがワークシートAおよびBの更新済データでリフレッシュされます。

## Reporting and Analysisドキュメントのリフレッシュ



注:

この章において、Financial Reportingへの参照は、オンプレミスおよびOracle Planning and Budgeting Cloud ServiceバージョンのFinancial Reportingの両方に適用されます。

リフレッシュすると、EPM WorkspaceおよびOracle Planning and Budgeting Cloud Serviceの最新データでレポートが更新されます。

## Production ReportingおよびInteractive Reportingでのリフレッシュの動作

- Wordでは、レポートが選択されている場合はレポート全体がリフレッシュされます。レポートが選択されていない場合は、ドキュメント内で最初に見つかったレポートがリフレッシュされます。最初のレポートは、必ずしもドキュメントの先頭にあるレポートではありません。
- PowerPointでは、レポートが選択されていない場合は、スライド内で最初に見つかったレポートが更新されます。

Production Reportingのジョブ出力をリフレッシュすると、EPM Workspaceの新しい出力が更新されます。

## Financial ReportingおよびWeb Analysisでのリフレッシュの動作

- レポートで、リフレッシュするページを選択する必要があります。WordおよびPowerPointでは、リフレッシュ時にページが選択されていないと、ページが更新されないことを示すメッセージが表示されます。
  - 「リフレッシュ」を選択した場合は、レポートのすべてのページがリフレッシュされます。「すべてリフレッシュ」を選択した場合は、ドキュメント内のすべてのレポートがリフレッシュされます。
- ▶ Excel、WordまたはPowerPointでEPM WorkspaceおよびOracle Planning and Budgeting Cloud Serviceドキュメントをリフレッシュするには、次のアクションを実行します:

- 選択したReporting and Analysisドキュメントを、そのドキュメントに関連付けられているすべてのページも含めて更新するには、Smart Viewのリボンで「リフレッシュ」を選択します。
- Reporting and Analysisのドキュメントをすべて更新するには、Smart Viewのリボンで「すべてリフレッシュ」を選択します。

## EssbaseまたはFinancial Management接続に対するReporting and Analysisドキュメントのリフレッシュ



注:

これは、問合せ対応HTMLにインポートされたOracle Hyperion Financial ReportingおよびOracle Hyperion Web Analysisレポートに適用されます。

EssbaseまたはFinancial Management接続に対してリフレッシュを行うと、レポートがProvider Servicesの最新データで更新され、Reporting and Analysisドキュメントに対してデータの取得、ズーム、ピボットなどのアド・ホック分析を実行できます。

問合せ準備HTMLでインポートされたレポートのリフレッシュは、すべてのページではなく現在のページに適用されません。

重要なタスク:

[185ページのInteractive Reportingドキュメントの編集](#)

[192ページのFinancial Reportingドキュメントの編集](#)

[196ページのProduction Reportingジョブの編集](#)

[199ページのWeb Analysisドキュメントの編集](#)

## Financial ReportingとWeb Analysisのインポート・フォーマット



注:

このトピックにおいて、Financial Reportingへの参照は、オンプレミスおよびOracle Planning and Budgeting Cloud ServiceバージョンのFinancial Reportingの両方に適用されます。

Financial ReportingおよびWeb Analysisドキュメントは、Excelで表示できるフォーマット済HTML、またはFinancial ManagementまたはEssbaseデータ・ソースに接続して問合せを実行できる問合せ対応HTMLとしてインポートできます。

Reporting and Analysisドキュメントを問合せ対応HTMLとしてインポートする場合は、現在のデータ・オブジェクトの選択されたページがHTMLに変換され、Smart View固有のフォーマットは削除されます。このため、Smart Viewは、Webアプリケーションからは独立してデータ・ソースを再問合せできます。

Reporting and Analysisドキュメントをフォーマット済HTMLとしてインポートする場合は、現在のデータ・オブジェクトの選択されたページがHTMLに変換され、Smart Viewフォーマット定義と計算済メンバーが保持されます。このため、Smart Viewではデータ・ソースを直接問合せできませんが、Smart ViewコンテンツはMicrosoft Officeアプリケーションで利用できます。



ヒント:

WordまたはPowerPointにイメージをインポートした後で、Officeの「図の書式設定」オプションを使用してフォーマットします。たとえば、トリミングやサイズ変更を行います。「図の書式設定」設定は、イメージをリフレッシュした後も保持されます。

## Interactive Reportingドキュメントのインポート

- [184ページのExcelへのInteractive Reportingドキュメントのインポート](#)
- [185ページのWordおよびPowerPointへのInteractive Reportingドキュメントのインポート](#)
- [185ページのInteractive Reportingドキュメントの編集](#)

インポートされたInteractive Reportingドキュメントは、セクションに固有です。

表11 Interactive Reportingのインポート・オブジェクト・タイプ

セクション	Excel	Word, PowerPoint
表	フォーマットされたデータ	N/A
結果	フォーマットされたデータ	N/A
チャート	フォーマットされたデータ	イメージ
ピボット	フォーマットされたデータ	N/A
レポート	フォーマットされたデータ	イメージ
ダッシュボード	イメージ	イメージ
問合せ	N/A	N/A
CubeQuery	問合せ準備(Internet Explorerのみで、Firefoxではサポートされない) フォーマットされたデータ	N/A
データ・モデル	N/A	N/A

次の制限は、Interactive ReportingドキュメントがExcelにインポートされるときに適用されます:

- インポート時に非表示セクションが表示されます。

- ・ダッシュボード・セクションをExcelにインポートすると、A1セルがサイズ変更されます。
- ・レポート・セクションをExcelにインポートすると、チャート・イメージが表の前に配置されます。
- ・Excelへのインポートでは、色が正しく保持されないことがあります。
- ・ユーロ通貨フォーマットを含む結果セクションは、Excelにインポートされません。
- ・名前に+(プラス記号)を含む結果セクションはインポートされません。

## ExcelへのInteractive Reportingドキュメントのインポート

▶ Interactive ReportingドキュメントをExcelにインポートするには:

1. Smart Viewのリボンで、「パネル」を選択します。
2. 「Smart Viewパネル」で、EPM Workspaceデータ・ソースに接続します。
3. インポートするInteractive Reportingドキュメントに移動します。
4. アクション・パネルで、「開く」をクリックします。

Workspaceドキュメントのインポート・ウィザードが表示されます。



注:

一部のウィザード画面は、一部のドキュメントに適用されません。

5. 「セクション」で、インポートするセクションを選択します。
6. 「アクション」で、オプションを選択します:
  - ・リフレッシュとプレビュー: ドキュメントをプレビューする前にフィルタまたは値を変更します
  - ・プレビュー: デフォルト設定でドキュメントをプレビューします

CubeQueryセクションを問合せ準備フォーマットでインポートする場合は、このオプションを選択しないでください。
7. 「次」をクリックします。
8. [184ページのステップ 6](#)で「プレビュー」を選択した場合は、[184ページのステップ 11](#)にスキップします。「リフレッシュとプレビュー」を選択した場合は、次のステップに進みます。
9. ドキュメントの設定の変数、値、オプションなどのフィルタを変更するためにユーザー認証が必要な場合は、「データベース資格証明の指定」で「ユーザー名」および「パスワード」を入力し、「次へ」を選択します。
 

接続名がカッコ内に表示されます(たとえば、Sample.oceなど)。
10. 「フィルタの指定」で、値を選択し、「次へ」をクリックします。
11. ドキュメントのすべてのページをインポートするには、「すべてのページ」フィールドのチェックを有効なままにします。
12. ドキュメントに複数のページが含まれている場合は、「ワークシート全体でページを分割」を選択して、各ページを別々のExcelワークシートに表示します。
13. 「セクションのインポート形式」ドロップダウンから、次のいずれかを選択します:
  - ・コンテンツを問合せ対応HTMLとしてインポートする場合は、「データ」を選択します。現在のCubeQueryセクションの現在のページがHTMLに変換され、Smart Viewのフォーマットが除去されます。これにより、Webアプリケーションから独立したデータ・ソースを再度問合せできます。
  - ・コンテンツをフォーマット済HTMLとしてインポートする場合は、「イメージ」を選択します。CubeQueryセクションの現在のページがSmart Viewフォーマット定義および計算済メンバーとともにHTMLに変換されま



す。Smart Viewでは、データ・ソースを直接問合せしません。このオプションは、CubeQueryセクションの「リフレッシュ」および「プレビュー」でのみ使用できます。

14. 「終了」をクリックします。

ドキュメントがExcelに表示されます。

## WordおよびPowerPointへのInteractive Reportingドキュメントのインポート

▶ Interactive ReportingドキュメントをWordにインポートするには:

1. Smart Viewのリボンで、「パネル」を選択します。
2. 「Smart Viewパネル」で、EPM Workspaceデータ・ソースに接続します。
3. インポートするInteractive Reportingドキュメントに移動します。
4. アクション・パネルで、「開く」をクリックします。

Workspaceドキュメントのインポート・ウィザードが表示されます。



注:

一部のウィザード画面は、一部のドキュメントに適用されません。

5. 「アクションの選択」で、オプションを選択します:

- ・ リフレッシュとプレビュー: ドキュメントをプレビューする前にフィルタまたは値を変更します
- ・ プレビュー: デフォルト設定でドキュメントをプレビューします

6. 「次」をクリックします。

7. 「リフレッシュとプレビュー」を選択した場合:

- a. ドキュメント設定の変数、値、オプションなどのフィルタを変更するためにユーザー認証が必要な場合は、「データベース資格証明の指定」で、ユーザー名およびパスワードを入力し、「次へ」をクリックします。

接続名がカッコ内に表示されます(たとえば、Sample. oceなど)。

- b. 「フィルタの指定」で、値を選択します。

8. 「適用」をクリックし、「次へ」をクリックします。

9. 「プレビュー」で、ページをインポートするには、データ・オブジェクトの左上にあるドロップダウン・リストからページを選択します。

10. オプション: ドキュメントのすべてのページをインポートするには、「すべてのページ」を選択します。

11. 「終了」をクリックします。

ドキュメントがインポートされます。

## Interactive Reportingドキュメントの編集

▶ Excel、WordおよびPowerPointでInteractive Reportingドキュメントを編集するには:

1. 編集するInteractive Reportingドキュメントを開きます。
2. Smart Viewのリボンで、



の矢印をクリックし、「**Reporting and Analysis**ドキュメント」、「**編集**」の順に選択します。

Workspaceドキュメントのインポート・ウィザードが表示されます。



注:

一部のウィザード画面は、一部のドキュメントに適用されません。

3. 「リフレッシュとプレビュー」を選択した場合:
  - a. ドキュメント設定の変数、値、オプションなどのフィルタを変更するためにユーザー認証が必要な場合は、「データベース資格証明の指定」で、ユーザー名およびパスワードを入力し、「次へ」をクリックします。  
接続名がカッコ内に表示されます(たとえば、Sample. oceなど)。
  - b. 「フィルタの指定」で、値を選択します。
4. 「適用」をクリックし、「次へ」をクリックします。
5. 「プレビュー」で、ページをインポートするには、データ・オブジェクトの左上にあるドロップダウン・リストからページを選択します。
6. 「終了」をクリックします。

## Financial Reportingドキュメントのインポート

- [182ページのFinancial ReportingとWeb Analysisのインポート・フォーマット](#)
- [187ページのExcelへのFinancial Reportingドキュメントのインポート](#)
- [190ページのWordおよびPowerPointへのFinancial Reportingドキュメントのインポート](#)
- [192ページのFinancial Reportingドキュメントの編集](#)



注:

このトピックにおいて、Financial Reportingへの参照は、オンプレミスおよびOracle Planning and Budgeting Cloud ServiceバージョンのFinancial Reportingの両方に適用されます。

表12 Financial Reportingのインポート・ドキュメント・タイプ

ドキュメントのタイプ	Excel	Word, PowerPoint
レポート	完全フォーマット、問合せ対応、関数グリッド	イメージ、関数グリッド
スナップショット・レポート	完全フォーマット	イメージ
ブック	N/A	N/A
スナップショット・ブック	N/A	N/A
バッチ	N/A	N/A

ドキュメントのタイプ	Excel	Word、PowerPoint
グリッド・オブジェクト	N/A	N/A
イメージ・オブジェクト	N/A	N/A
チャート・オブジェクト	N/A	N/A
テキスト・オブジェクト	N/A	N/A
行と列のテンプレート	N/A	N/A

## ExcelへのFinancial Reportingドキュメントのインポート



注:

このトピックにおいて、Financial Reportingへの参照は、オンプレミスおよびOracle Planning and Budgeting Cloud ServiceバージョンのFinancial Reportingの両方に適用されます。

▶ Financial ReportingドキュメントをExcelにインポートするには:

1. Smart Viewのリボンで、「パネル」を選択します。
2. Smart Viewパネルで、EPM Workspaceデータ・ソースに接続します。
3. インポートするFinancial Reportingドキュメントに移動します。
4. アクション・パネルで、「開く」をクリックします。

「Workspaceドキュメントのインポート」ウィザードが表示されます。



注:

一部のウィザード画面は、一部のドキュメントに適用されません。

5. 「ドキュメントの選択」で、リポジトリを展開し、Financial Reportingドキュメントを選択して「OK」をクリックします。

ドキュメントが「Workspaceドキュメントのインポート」ウィンドウでプレビューされます。



注:

一部のオプションは、一部のドキュメントに対して使用できない場合があります。

6. 「ユーザーのPOVのプレビュー」が表示されている場合は、現在のPOVをプレビューするか、POVのメンバーを変更します。



注:

この画面を表示するには、EPM Workspaceプリファレンスで「ユーザー視点」に対して「プレビュー」を選択します。

7. 「次」をクリックします。

8. オプション: デフォルト値を変更する場合、「プロンプトに応答」でプロンプトを選択し、「次へ」をクリックします。




注:

この画面は、ドキュメントにプロンプトが含まれている場合にのみ表示されます。

9. オプション: 「プレビュー」の「グリッドのPOV」からPOVを選択し、POVを変更します。
10. 「ページ」を選択してページ・ディメンションを変更します。
11. 文書のすべてのページをインポートするには、「すべてのページ」を選択します。
12. 各ページを別々のExcelワークシートに表示するには、「ワークシート全体でページを分割」を選択します。
13. 「次のフォーマットでドキュメントをインポート」で、オプションを選択します:
- 完全フォーマット — 完全にフォーマットされたHTMLでレポートを表示します。
  - 問合せ対応 — Financial ManagementおよびEssbaseデータ・ソースに接続したときに、レポートに対するアド・ホック分析の実行を可能にします。
  - 関数グリッド — 動的なグリッド・フォーマットで、188ページのステップ 17で説明されているように、レポート・オプションをさらに選択できます。
14. 「終了」をクリックします。

次の手順は、188ページのステップ 13で選択したオプションによって異なります:

次を選択した場合:

- 完全フォーマット — ドキュメントがOfficeアプリケーションにインポートされ、Reporting and Analysisドキュメントのみを表示できます。
  - 問合せ対応 — ドキュメントがOfficeアプリケーションにインポートされ、Financial ManagementまたはEssbaseデータ・ソースに接続できるようになります。それにより、データの取得、ズーム、ピボットなどのアド・ホック分析を実行できます。
  - 関数グリッド — 188ページのステップ 15に進みます。
15.  をクリックして、「ドキュメント・コンテンツ」ペインをリフレッシュします。
16. ドキュメント・コンテンツで関数グリッド・オブジェクトを選択し、右クリックして「新規レポート・オブジェクト/コントロールの挿入」を選択します。
17. 「新規レポート・オブジェクト/コントロールの挿入」ダイアログ・ボックスで、グリッドに配置するレポートのタイプを次から選択します:

- 関数グリッド - 動的グリッド・フォーマット

関数グリッドをリフレッシュすると、データ・セルはリフレッシュされますが、メンバーはリフレッシュされません。データとメンバーの両方をリフレッシュするためには、関数グリッドをシートに挿入し直す必要があります。このため、関数グリッドは、メンバーが適度に静的であるレポートの場合に最も有用です。メンバーが頻繁に変更される可能性があるレポートの場合は、レポート・タイプとして表およびチャートがより適しています。ワークシートに複数のレポートを含めることはできますが、関数グリッドは1つのみです。

関数グリッドでは、SUMなどのExcelの式を使用できます。そのような式を関数グリッドの一部として保持するためには、式を含むセルとグリッドの間に空の行を1行開けておき、式の定義で選択するセル範囲にその空の行を含める必要があります。これにより、データをリフレッシュした結果、グリッド内の行数が変わった場合でも、式を保持できるようになります。

関数グリッドにフォーマットを設定するには、Excelのフォーマット機能を使用します。

## • 表


表レポートは、文書内で位置が固定されておらず移動やサイズ変更が可能なグリッド・フォーマットで、結果を表示します。表をリフレッシュするとメンバーとデータの両方がリフレッシュされます。表は、小さいスペースに大きいグリッドを表示する場合に有用です。スクロール・バーを使用して、行や列にすばやくアクセスできます。

表レポートでは、ズーム・インおよびズーム・アウトが可能ですが、その他のアド・ホック操作を実行したり、フリー・フォームを使用したりすることはできません。

## • チャート

チャート・レポートは、文書内で位置が固定されておらず移動やサイズ変更が可能なチャート・フォーマットで、結果を表示します。チャートをリフレッシュするとメンバーとデータの両方がリフレッシュされます。

18.

オプション: 表やチャートを移動したりサイズを変更したりするには、「ドキュメント・コンテンツ」で、 の隣の下矢印をクリックし、メニューから「デザイン・モードの切替え」を選択します。

シート、スライド、ページ内でオブジェクトを移動できるようになります。

デザイン・モードを終了する準備ができたなら、もう一度「デザイン・モードの切替え」を選択します。

19. レポート・コントロールを挿入するには、ドキュメント・コンテンツでレポート・オブジェクトを選択し、右クリックして「新規レポート・オブジェクト/コントロールの挿入」を選択します。
20. 「新規レポート・オブジェクト/コントロールの挿入」ダイアログ・ボックスで、レポート・コントロールのタイプを次から選択します:

- **POV**—レポートにPOVを1つのみ含めることができます
- **スライダー**—レポートに複数のスライダを含めることができます。128ページのスライダを参照してください。

レポートには1つのPOVかスライダを含めることができ、両方を含めることはできません。

21. リフレッシュします。
22. オプション: レポートにおける1つのディメンションの任意のメンバーまたはすべてのメンバーについて個別のレポートを作成し、それらのレポートをワークブックの各ワークシートにカスケードする方法については、84ページのレポートおよびアド・ホック・グリッドのカスケードを参照してください。



注:

チャートおよび表を含むレポートでは、カスケード操作により、次回そのワークブックを開いた際に、チャートと表が重なって表示されることがあります。

# WordおよびPowerPointへのFinancial Reportingドキュメントのインポート



注:

このトピックにおいて、Financial Reportingへの参照は、オンプレミスおよびOracle Planning and Budgeting Cloud ServiceバージョンのFinancial Reportingの両方に適用されます。

▶ Financial ReportingドキュメントをWordおよびPowerPointにインポートするには:

1. Smart Viewのリボンで、「パネル」を選択します。
2. 「Smart Viewパネル」で、EPM Workspaceデータ・ソースに接続します。
3. インポートするFinancial Reportingドキュメントに移動します。
4. アクション・パネルで、「開く」をクリックします。

Workspaceドキュメントのインポート・ウィザードが表示されます。

5. 「ドキュメントの選択」で、リポジトリを展開し、Financial Reportingドキュメントを選択して「OK」をクリックします。

ドキュメントがWorkspaceドキュメントのインポート・ウィンドウにプレビューされます。



注:

一部の画面は、一部のドキュメントに適用されません。

6. 「ユーザーのPOVのプレビュー」画面が表示されている場合は、現在のPOVをプレビューするか、POVのメンバーを選択して変更します。



注:

この画面を表示するには、EPM Workspaceプリファレンスで「ユーザー視点」に対して「プレビュー」を選択します。

7. オプション: デフォルト値を変更する場合、「プロンプトに応答」でプロンプトを選択し、「次へ」をクリックします。



注:

この画面は、ドキュメントにプロンプトが含まれている場合にのみ表示されます。

8. 「プレビュー」で、「グリッドのPOV」からPOVを選択し、POVを変更します。



注:

一部のウィザード画面は、一部のドキュメントに適用されません。

9. 「ページ」を選択してページ・ディメンションを変更します。
10. 「すべてのページ」を選択して、ドキュメントのすべてのページをインポートします。
11. 「ワークスペースPOVを使用してリフレッシュ」を選択します。



12. 「次のフォーマットでドキュメントをインポート」で、オプションを選択します:


- イメージ — ドキュメントをイメージとしてインポートします。
- 関数グリッド — 188ページのステップ 17で説明されているようにレポート・オプションをさらに選択できる、動的なグリッド・フォーマットをインポートします(Wordでのみ使用できます)。

13. 「終了」をクリックします。

次の手順は、191ページのステップ 12で選択したオプションによって異なります:

次を選択した場合:

- イメージ — レポートがイメージとしてドキュメントにインポートされ、WordでReporting and Analysisイメージは表示のみできます。
- 関数グリッド — 191ページのステップ 14に進みます(Wordのみ)。

14.  をクリックして、「ドキュメント・コンテンツ」ペインをリフレッシュします。

15. ドキュメント・コンテンツでレポート・オブジェクトを選択し、右クリックして「新規レポート・オブジェクト/コントロールの挿入」を選択します。

16. 「新規レポート・オブジェクト/コントロールの挿入」ダイアログ・ボックスで、グリッドに配置するレポートのタイプを次から選択します:

- 関数グリッド—動的なグリッド・フォーマット

関数グリッドをリフレッシュすると、データ・セルはリフレッシュされますが、メンバーはリフレッシュされません。データとメンバーの両方をリフレッシュするためには、関数グリッドをシートに挿入し直す必要があります。このため、関数グリッドは、メンバーが適度に静的であるレポートの場合に最も有用です。メンバーが頻繁に変更される可能性があるレポートの場合は、レポート・タイプとして表およびチャートがより適しています。ワークシートに複数のレポートを含めることはできますが、関数グリッドは1つのみです。

関数グリッドでは、SUMなどのExcelの式を使用できます。そのような式を関数グリッドの一部として保持するためには、式を含むセルとグリッドの間に空の行を1行開けておき、式の定義で選択するセル範囲にその空の行を含める必要があります。これにより、データをリフレッシュした結果、グリッド内の行数が変わった場合でも、式を保持できるようになります。

関数グリッドにフォーマットを設定するには、Excelのフォーマット機能を使用します。

- Office表

Office表は、Wordでのみ使用できます。Office表では、結果がネイティブのMicrosoft Office表形式で表示されます。Office表をリフレッシュすると、メンバーとデータの両方がリフレッシュされます。

Office表はWord文書の一部であるかのように表示され操作できますが、表セルのメンバーとデータはSmart Viewプロバイダに接続されています。Office表では、使い慣れたWordの表のフォーマットとスタイルを使用できます。レポートにPOVオブジェクトを挿入すると、Office表のPOVを変更できます。フォーマットやPOVを変更した後にOffice表をリフレッシュすると、結果には新しいPOVが反映され、カスタム・フォーマットが保持されます。

Office表オブジェクトでは、ズーム・インやズーム・アウトはできません。また、その他のアド・ホック操作を実行したり、フリー・フォームも使用できません。

- 表


表レポートは、文書内で位置が固定されておらず移動やサイズ変更が可能なグリッド・フォーマットで、結果を表示します。表をリフレッシュするとメンバーとデータの両方がリフレッシュされます。表は、小さいスペースに大きいグリッドを表示する場合に有用です。スクロール・バーを使用して、行や列にすばやくアクセスできます。

表レポートでは、ズーム・インおよびズーム・アウトが可能です。その他のアド・ホック操作を実行したり、フリー・フォームを使用したりすることはできません。

- **チャート**

チャート・レポートは、文書内で位置が固定されておらず移動やサイズ変更が可能なチャート・フォーマットで、結果を表示します。チャートをリフレッシュするとメンバーとデータの両方がリフレッシュされます。

17.

**オプション:** 表やチャートを移動したりサイズを変更したりするには、ドキュメント・コンテンツで、 の隣の下矢印をクリックし、メニューから「デザイン・モードの切替え」を選択します。

シート、スライド、ページ内でオブジェクトを移動できるようになります。

デザイン・モードを終了する準備ができたなら、もう一度「デザイン・モードの切替え」を選択します。

18. レポート・コントロールを挿入するには、ドキュメント・コンテンツでレポート・オブジェクトを選択し、右クリックして「新規レポート・オブジェクト/コントロールの挿入」を選択します。
19. 「新規レポート・オブジェクト/コントロールの挿入」ダイアログ・ボックスで、レポート・コントロールのタイプを次から選択します:

- **POV**—レポートにPOVを1つのみ含めることができます
- **スライダー**—レポートに複数のスライダを含めることができます。 [128ページのスライダ](#)を参照してください。

レポートには1つのPOVかスライダを含めることができ、両方を含めることはできません。

20. リフレッシュします。

## Financial Reportingドキュメントの編集



注:

このトピックにおいて、Financial Reportingへの参照は、オンプレミスおよびOracle Planning and Budgeting Cloud ServiceバージョンのFinancial Reportingの両方に適用されます。

▶ Excel、WordおよびPowerPointでFinancial Reportingドキュメントを編集するには:

1. 編集するFinancial Reportingドキュメントを開きます。
2. Smart Viewのリボンで、



の矢印をクリックし、「**Reporting and Analysisドキュメント**」、「**編集**」の順に選択します。

Workspaceドキュメントのインポート・ウィザードが表示されます。





注:

一部のウィザード画面は、一部のドキュメントに適用されません。

3. 「ユーザーのPOVのプレビュー」画面が表示されている場合は、現在のPOVをプレビューするか、POVのメニューを変更します。



注:

この画面を表示するには、EPM Workspaceプリファレンスで「ユーザー視点」に対して「プレビュー」を選択します。

4. オプション: プロンプトを含むドキュメントでデフォルト値を変更するには、「プロンプトに回答」でプロンプトを選択し、「次へ」をクリックします。



注:

「プロンプトに回答 m」は、ドキュメントにプロンプトが含まれている場合にのみ表示されます。

5. POVを変更する場合は、「グリッドのPOV」の「プレビュー」で、POVを選択します。
6. 「終了」をクリックします。

## PowerPointドキュメントでのテンプレートの作成



注:

このトピックにおいて、Financial Reportingへの参照は、オンプレミスおよびOracle Planning and Budgeting Cloud ServiceバージョンのFinancial Reportingの両方に適用されます。

1つ以上のFinancial Reportingレポートをプレゼンテーションにインポートすることにより、保存可能なPowerPointテンプレート・ドキュメントを作成できます。「テンプレートの作成」アクションのたびに新しいPowerPointスライドが作成され、「テンプレートのリフレッシュ」が使用されたときにどこに配置されるかを示すレポート名が付けられます。

▶ テンプレートを作成するには:

1. PowerPointを開きます。
2. Reporting and Analysisプロバイダに接続します。
3. Smart Viewのリボンから、「パネル」、「Reporting and Analysisドキュメント」、「テンプレートの作成」の順に選択します。
4. 「Workspaceドキュメントのインポート」で、Financial Reportingドキュメントを選択します。
  - オプション: ドキュメントのすべてのページをインポートするには、「すべてのページ」を選択します。ページごとに別のスライドが作成されます。
  - 現在の画面のプレゼンテーションをインポートするには、「すべてのページ」を選択解除します。
5. オプション: ワークスペースの視点を使用するには、「ワークスペース視点を使用してリフレッシュ」を選択します。

6. 「OK」をクリックします。ドキュメント名がPowerPointプレゼンテーションにインポートされます。

## PowerPointテンプレートのリフレッシュ



注:

このトピックにおいて、Financial Reportingへの参照は、オンプレミスおよびOracle Planning and Budgeting Cloud ServiceバージョンのFinancial Reportingの両方に適用されます。

- ▶ テンプレートをリフレッシュするには:
1. テンプレートを含むPowerPointプレゼンテーションを開きます。
  2. Reporting and Analysisプロバイダに接続します。
  3. Smart Viewのリボンから、「パネル」、「Reporting and Analysisドキュメント」、「テンプレートのリフレッシュ」の順に選択します。
  4. 必要に応じて、PowerPointプレゼンテーションを編集および保存します。

## Production Reportingドキュメントのインポート

Production Reportingドキュメントは、Excel、WordおよびPowerPointにインポートできるジョブとジョブ出力から構成されます。

- [194ページのExcelへのProduction Reportingジョブのインポート](#)
- [195ページのWordおよびPowerPointへのProduction Reportingジョブのインポート](#)
- [196ページのWordおよびPowerPointへのProduction Reportingジョブ出力のインポート](#)
- [196ページのProduction Reportingジョブの編集](#)

表13 Production Reportingのインポート・オブジェクト・タイプ

オブジェクト・タイプ	Excel	Word、PowerPoint
ジョブ	フォーマットされたデータ	イメージ
ジョブの出力	フォーマットされたデータ	イメージ

インポートには、いくつかの制限があります:

- イメージとチャートはExcelにインポートされません。
- セキュア・ジョブはサポートされますが、汎用ジョブとしてインポートされたジョブはサポートされません。

## ExcelへのProduction Reportingジョブのインポート

- ▶ Production ReportingジョブをExcelにインポートするには:
1. Smart Viewのリボンで、「パネル」を選択します。
  2. 「Smart Viewパネル」で、EPM Workspaceデータ・ソースに接続します。

3. インポートするInteractive Reportingドキュメントに移動します。
4. アクション・パネルで、「開く」をクリックします。

Workspaceドキュメントのインポート・ウィザードが表示されます。

5. 「ドキュメントの選択」で、リポジトリを展開し、Production Reportingジョブを選択して「OK」をクリックします。

インポート・ウィザード画面が表示されます。



注:

ドキュメントによっては、一部の画面は適用されない場合があります。

6. 「パラメータを指定する」画面が表示されている場合は、ジョブ・パラメータを定義し、「次へ」をクリックします。



注:

この画面は、ジョブにパラメータが含まれている場合にのみ表示されます。

7. 「プレビュー」で、ページをインポートするには、データ・オブジェクトの左上にあるドロップダウン・リストからページを選択します。
8. ジョブのすべてのページをインポートするには、「すべてのページ」を選択します。
9. 「ワークシート全体でページを分割」を選択して、各ページを別々のExcelワークシートに表示します。
10. 「終了」をクリックします。

ドキュメントがExcelに表示されます。

## WordおよびPowerPointへのProduction Reportingジョブのインポート

Production ReportingジョブをWordおよびPowerPointにインポートする手順も同様です。

▶ Production ReportingジョブをWordおよびPowerPointにインポートするには:

1. Smart Viewのリボンで、「パネル」を選択します。
2. 「Smart Viewパネル」で、EPM Workspaceデータ・ソースに接続します。
3. インポートするProduction Reportingドキュメントに移動します。
4. アクション・パネルで、「開く」をクリックします。

Workspaceドキュメントのインポート・ウィザードが表示されます。

5. 「ドキュメントの選択」で、リポジトリを展開し、Reporting and Analysisドキュメントを選択して「OK」をクリックします。

インポート・ウィザードが表示されます。



注:

一部の画面は、一部のドキュメントに適用されない場合があります。

6. 「パラメータを指定する」画面が表示されている場合は、ジョブ・パラメータを定義し、「次へ」をクリックします。



注:

この画面は、ジョブにパラメータが含まれている場合にのみ表示されます。

7. 「プレビュー」で、ページをインポートするには、データ・オブジェクトの左上にあるドロップダウン・リストからページを選択します。
8. ジョブのすべてのページをインポートするには、「すべてのページ」を選択します。

Wordの場合は、「ページをまたがってページを分割」が使用不可になります。PowerPointの場合は、「スライドをまたがってページを分割」が選択され、使用不可になります。デフォルトでは、ジョブまたはジョブ出力のページはページとスライドに常にまたがるためです。

9. 「終了」をクリックします。

ジョブがインポートされます。

## WordおよびPowerPointへのProduction Reportingジョブ出力のインポート

▶ Production Reportingジョブの出力をExcel、WordおよびPowerPointにインポートするには:

1. EPM Workspaceデータ・ソースに接続します。
2. Smart Viewのリボンから、「パネル」、「**Reporting and Analysis**ドキュメント」、「インポート」の順に選択します。

「Workspaceドキュメントのインポート」ダイアログ・ボックスが表示されます。

3. 「ドキュメントの選択」で、リポジトリを展開し、Production Reportingジョブの出力を選択して「OK」をクリックします。

ジョブの出力がインポートされます。

## Production Reportingジョブの編集

インポートされたProduction Reportingジョブは編集できますが、ジョブ出力は編集できません。ジョブ・パラメータのみ編集できます。

▶ Production Reportingジョブを編集するには:

1. インポートされたOracle Hyperion SQR Production Reportingドキュメントを開きます。
2. Smart Viewのリボンで、



の矢印をクリックし、「**Reporting and Analysis**ドキュメント」、「編集」の順に選択します。

「Workspaceドキュメントのインポート」ダイアログ・ボックスが表示されます。

3. 「パラメータを指定する」画面が表示されている場合は、ジョブ・パラメータを定義し、「次へ」をクリックします。



注:

この画面は、ジョブにパラメータが含まれている場合にのみ表示されます。

4. 「プレビュー」で、ジョブを表示します。



注:

インポートされたページを削除した場合、編集ではジョブの残りのページのみ更新されます。

5. 「終了」をクリックします。

ジョブが更新されます。

## Web Analysisドキュメントのインポート」

Web Analysisには、5つのデータ・オブジェクト表示タイプが含まれますが、Smart Viewは、3つ(スプレッドシート、チャートおよびピンボード)のみインポートできます。Smart Viewは、フリー・フォーム・グリッドおよびSQLスプレッドシートをインポートできません。

[182ページのFinancial ReportingとWeb Analysisのインポート・フォーマット](#)を参照してください。

- [197ページのWeb Analysisドキュメントまたはドキュメント・オブジェクトのインポート](#)
- [199ページのWeb Analysisドキュメントの編集](#)

表14 Web Analysisのインポート・ドキュメント・タイプ

ドキュメントのタイプ	Excel	Word, PowerPoint
レポート	完全フォーマット、問合せ準備	イメージ

表15 Web Analysisのインポート・データ・オブジェクト・タイプ

データ・オブジェクト	Excel	Word, PowerPoint
スプレッドシート	データ + フォーマット	イメージ
チャート	データ + フォーマット	イメージ
ピン・ボード	データ + フォーマット	イメージ

## Web Analysisドキュメントまたはドキュメント・オブジェクトのインポート

Smart ViewをExcelで使用して、1つまたはすべてのドキュメント・ページまたは複数のデータ・オブジェクトをWorkspaceリポジトリ内のWeb Analysisドキュメントの1つ以上のページとともにインポートできます。すべてのWeb Analysisデータ・オブジェクト(スプレッドシート、チャート、ピンボード)が、Excelスプレッドシートとしてインポートされます。フリーフォーム・グリッドおよびSQLスプレッドシートはインポートできません。

▶ Web Analysisデータ・オブジェクトをインポートするには:

1. Smart Viewのリボンで、「パネル」を選択します。
2. 「Smart Viewパネル」で、EPM Workspaceデータ・ソースに接続します。
3. インポートするWeb Analysisドキュメントに移動します。
4. アクション・パネルで、「開く」をクリックします。

Workspaceドキュメントのインポート・ウィザードが表示されます。

5. 「ドキュメントの選択」で、リポジトリを展開し、Web Analysisドキュメントを選択して「OK」をクリックします。
6. データベース資格証明がWeb Analysisドキュメントとともに保存されていない場合は、「データベース資格証明の指定」ページが表示されます。このページで、レポートで使用されるデータ・ソースへの有効な資格証明を入力する必要があります。レポートにデータ・ソースが1つしかなく、資格証明の入力をスキップした場合は、レポートがインポートされません。1つのレポートに異なるデータ・ソースを持つデータ・オブジェクトがあり、データ・オブジェクトの1つのみインポートする場合は、インポートするデータ・オブジェクトの資格証明を入力し、インポートしないデータ・オブジェクトの資格証明はスキップできます。ユーザー名とパスワードを入力するか、「スキップ」を選択して任意のデータ・ソースに対する資格証明の入力をスキップし、「次へ」をクリックします。



ヒント:

「資格証明の保存」を選択して、Web Analysisドキュメントとともに資格証明を保存します。これにより、インポートされたドキュメントを後でリフレッシュできます。現在は、資格証明を保存しないとインポートされたドキュメントをリフレッシュできません。

7. 「プレビュー」で、Microsoft Excel、WordおよびPowerpointに対してインポートするオブジェクトを選択するとき:
  - 各レポート・オブジェクトの左上隅にあるチェック・ボックスをクリックして個々のデータ・オブジェクトを選択するか、「すべてのオブジェクト」チェック・ボックスをクリックしてすべてのデータ・オブジェクトを選択します。
  - 「ワークシート全体でオブジェクトを分割」を選択して各レポート・オブジェクトに新しいワークシートを作成するか、「ワークシート全体でオブジェクトを分割」を選択解除して同じワークシートにすべてのレポート・オブジェクトを配置します。
  - インポートすることを選択された各データ・オブジェクトの上にあるドロップダウン・リストからインポートするページを選択するか、「すべてのページ」を選択して、インポートすることを選択されたすべてのデータ・オブジェクトのすべてのページをインポートします。
  - 「ワークシート全体でページを分割」を選択して各インポート・ページに新しいワークシートを作成するか、「ワークシート全体でページを分割」を選択解除して、各データ・オブジェクトのすべてのインポート済ページを同じワークシートに配置します。
8. 「プレビュー」で、Microsoft WordおよびPowerPointに対してインポートするオブジェクトを選択するとき、「インポート画面」を選択してレポート全体の画面プリントをインポートします。
9. Microsoft Excelの場合は、「次のフォーマットでドキュメントをインポート」でオプションを選択します:
  - 完全フォーマット(完全フォーマットHTMLでレポートをインポートします)。いつでもOracle Enterprise Performance Management Systemに接続して、インポートされたドキュメントをリフレッシュしてデータを最新にできます。
  - 問合せ準備(問合せ準備HTMLでレポートをインポートします)。Financial ManagementまたはEssbaseデータ・ソースに接続してデータを直接取得し、データの取得、ズーム、ピボットなどのアド・ホック分析を実行できます。
10. 「終了」をクリックします。ドキュメントがインポートされます。その後、いつでもEPM Systemに接続し、インポートされたドキュメントを最新のデータでリフレッシュできます。



## Web Analysisドキュメントの編集

▶ Web Analysisドキュメントを編集するには:

1. ページ(Excel)またはイメージ(WordまたはPowerPoint)を選択します。
2. Smart Viewのリボンで、



の矢印をクリックし、「Reporting and Analysisドキュメント」、「編集」の順に選択します。

3. データベース資格証明がWeb Analysisドキュメントとともに保存されていない場合は、「データベース資格証明の指定」ページが表示されます。「データベース資格証明の指定」で、ユーザー名とパスワードを入力するか、「スキップ」を選択して「次へ」をクリックします。



ヒント:

「資格証明の保存」を選択して、Web Analysisドキュメントとともに保存できます。

4. インポートするスプレッドシート、チャートまたはピンボードを選択します。
5. 「プレビュー」で、ページをインポートするには、データ・オブジェクトの左上にあるドロップダウン・リストからページを選択します。
6. ドキュメントのすべてのページをインポートするには、「すべてのページ」を選択します。現在のページのみインポートするには、ボックスを選択解除したままにします。
7. 「ワークシート全体でページを分割」を選択して、各ページを別々のワークシートに表示します(Excelのみ)。
8. 「次のフォーマットでドキュメントをインポート」で、次の項目を選択します:
  - 完全フォーマット(Excelのみ)
  - 問合せ準備(Excelのみ)
  - イメージ(WordおよびPowerPoint)
9. 「終了」をクリックします。

## スマート・タグを使用した、Reporting and Analysisドキュメントのインポート

Microsoftスマート・タグを使用して、Reporting and Analysisのドキュメントをインポートできます。

▶ スマート・タグを使用してReporting and Analysisドキュメントをインポートするには:

1. Microsoft Officeドキュメントを開きます。
2. EPM Workspaceデータ・ソースに接続します。
3. Excelでスマート・タグが使用可能であることを確認します。
4. ドキュメントの任意の場所にsmartviewと入力し、その上にマウスを重ねます。

スマート・タグ・アクション・アイコンが表示されます。

5. スマート・タグのアイコンをクリックして「Reporting and Analysisコンテンツ」を選択すると、「Workspaceドキュメントのインポート」が表示され、ドキュメントをインポートすることができます。





# 15

## Smart ViewおよびOracle BI EE

この項の内容:

Oracle BI EEとSmart Viewについて .....	201
Smart ViewのOracle BI EEの機能およびコンポーネント .....	201
Oracle BI EE拡張機能の有効化 .....	202
Oracle BI EEのWindowsシステム・ロケールの操作 .....	202
複数のOracle BI EEデータ・ソースへの接続 .....	203
Oracle BI EEカタログ .....	204
Oracle BI EEの分析、ビューおよびダッシュボードの操作 .....	206
「ビュー・デザイナー」を使用したビューの操作 .....	229

### Oracle BI EEとSmart Viewについて

Smart Viewでは、Oracle BI EEサーバーに接続して、Oracle Business Intelligenceアンサーのダッシュボードおよび分析で作成されたコンテンツを利用できます。Smart Viewユーザーは、このコンテンツの操作に加えて、Oracle BI EEプレゼンテーション・サーバーをデータ・ソースとして使用して、ビュー・デザイナーによって単純なビューの形式のコンテンツを作成できます。作成したビューは、Oracle BI EEプレゼンテーション・カタログに発行して、さらに編集できます。

Smart Viewは、すべてのOracle BI EEコンテンツ・プロバイダ間でまとまりのある一貫したユーザー・エクスペリエンスを、Oracle BI EEに提供します。

### Smart ViewのOracle BI EEの機能およびコンポーネント

Smart ViewでOracle BI EEデータ・ソースに接続すると、次のアクションを実行できます:

- Oracle BI EEプレゼンテーション・サーバーへの接続
- Oracle BI EEプレゼンテーション・カタログのナビゲート
- Oracle BI EEの複数インスタンスへの接続および接続間での切替え
- 事前作成済みBIアンサー・ビューを、プレゼンテーション・カタログからMicrosoft Excel、PowerPoint、Wordにインポートします。たとえば、次のようなことができます。
  - ビュー - BI表、BIピボット・テーブルおよびBIグラフ - をリフレッシュおよび編集可能なオブジェクトとしてExcelに挿入します
  - 同じOfficeドキュメントに異なる接続からビューを挿入します

○ExcelのフォーマットをBIデータに適用します。フォーマットはリフレッシュしても保持されます

- Oracle BI EEダッシュボードのコンテンツをコピーして、Smart Viewクライアント・ドキュメントに貼り付けます。データ、メタデータ、およびビューのレイアウトがコピーされます
- Oracle BI EEプレゼンテーション・サーバーをメタデータおよびデータのソースとして使用して、Excelに簡単なビューを作成します
- Smart Viewドキュメントにインポートされたコンテンツに対して、ドリルやプロンプト選択などの操作を行います。
- Smart Viewのインポートされたコンテンツ(複数の接続からのコンテンツを含む)を管理します; たとえば、コンテンツのリフレッシュ、マスク、コピーと貼付け、および記録を行います
- ExcelのOracle BI EEオブジェクトからBIデータをマスクして、ユーザーがログインしなければデータを表示できないようにします。マスクされたオブジェクトは、リフレッシュ時に表示できます。
- Visual Basicを使用したプログラム。詳細は、*Oracle Smart View for Office開発者ガイド*を参照してください。

主なコンポーネントは次のとおりです:

- リボン—Oracle BI EEのリボンには、Smart Viewでのビューの設計と発行、BIアンサーからのビューの挿入とコピーおよび貼付け、プロンプトの編集、マスキング・データ、編集およびプリファレンスの設定のためのOracle BI EEコマンドがあります。
- カタログ - カタログとは、Excelに挿入できるBIアンサーのダッシュボード、分析およびビューの展開可能なツリー・リストです。各分析を展開すると、その分析で使用可能なすべてのビューが表示されます。BIアンサーでサポートおよび定義されていて、権限を持っているビューのみが表示されます。カタログをリフレッシュすると、使用可能な分析およびビューの最新リストを表示できます。

## Oracle BI EE拡張機能の有効化

Smart Viewをインストールすると、Oracle BI EE拡張機能が自動的に有効になります。

Oracle BI EE拡張機能を無効化または再有効化する必要がある場合は、[268ページの拡張機能](#)で示した手順を参照してください。

## Oracle BI EEのWindowsシステム・ロケールの操作

各Smart Viewクライアント・マシンでは、あらゆるデータ(数値、日付、通貨、パーセンテージ)を正しく解釈するために、Windowsシステム・ロケールはSmart Viewのロケールと一致する必要があります。

適用可能なWindowsシステム・ロケールは次のとおりです:

- Smart Viewの言語オプション
- Microsoft Officeの言語
- Windowsの地域の設定
- Windowsのオペレーティング・システム

Oracle BI EEデータ・ソースを操作する際、Windowsシステム・ロケールが一致しない場合、データが正しく表示されないか、フォーマットが無視され、かわりにプレーン・データが表示される場合があります。

Windowsシステム・ロケールの不一致の例として、Windowsのオペレーティング・システム、地域の設定およびOffice言語が英語でSmart Viewがロシア語の場合などがあります。

ロケールの不一致が発生した場合、Smart Viewログは次のような警告を示します: ロケールの不一致が検出されたチャートでは未フォーマットのデータ値が使用されます。

## 複数のOracle BI EEデータ・ソースへの接続

Oracle BI EEデータ・ソースには、[22ページのプライベート接続の作成](#)の説明に従い、プライベート接続を使用して接続します。共有接続を使用して接続するには、[325ページのXMLファイルからの共有接続へのアクセス](#)の説明に従い、ファイルに共有接続情報を保存する必要があります。

また、Smart Viewでは、1つのOfficeワークシート、スライドまたはドキュメントにおいて、複数のOracle BI EEプライベート接続がサポートされています。


たとえば、あるワークシートに、異なる2つのBIカタログから2つのグラフを挿入し、シートをリフレッシュできます。各グラフは、異なる2つのサーバーの最新データで更新されます。

Oracle BI EEバージョン11.1.1.7.10以降では、複数の接続がサポートされています。これより前のバージョンのOracle BI EEに接続している場合、使用できるのは1つの接続のみです。

複数のOracle BI EEサーバーに接続している場合は、次のことが可能です:

- Smart Viewパネルの接続間で切替えを行い、それぞれのカタログを参照できます。
- 同じOfficeドキュメントに異なる接続からビューを挿入できます。
- ビュー・デザイナーがSmart Viewのリボンから起動され、Oracle BI EEのビューが選択されていない場合、ビュー・デザイナーは、最後に使用したOracle BI EEサーバーに接続されます。
- Smart Viewのリボンから貼付けを起動して、BIアンサーのコンテンツを貼り付ける場合、その貼付けアクションでは、最後に使用されたOracle BI EE接続が使用されます。
- 異なる接続のビューを含むドキュメントをリフレッシュすると、ビューは、挿入元のサーバーに対してリフレッシュされます。
- Excelワークシートごとに使用できるExcelピボット・テーブルは、1つのみです。また、Excelピボット・テーブル・ビューは、常に新しいワークシートに挿入されます。データ・ソース接続が1つの場合も複数の場合も、これが既定の動作です。

▶ 複数のOracle BI EEプライベート接続に接続するには:

1. 「Smart Viewホーム」、または  の横にある矢印をクリックすると表示されるメニューで、「プライベート接続」をクリックします
2. 「プライベート接続」パネルで、ドロップダウン・メニューから接続を選択し、「データ・ソースに接続」にデータ・ソースのユーザー名およびパスワードを入力します。

Oracle BI EEカタログからビューを挿入したものと仮定します。[203ページのステップ 3](#)に進みます

3. ワークシート、スライド、またはドキュメントの異なる部分にカーソルを移動します。
4. 「プライベート接続」パネルで、ドロップダウン・メニューから別の接続を選択します。

5. 「データ・ソースに接続」に、2つ目のデータ・ソースのユーザー名およびパスワードを入力します。

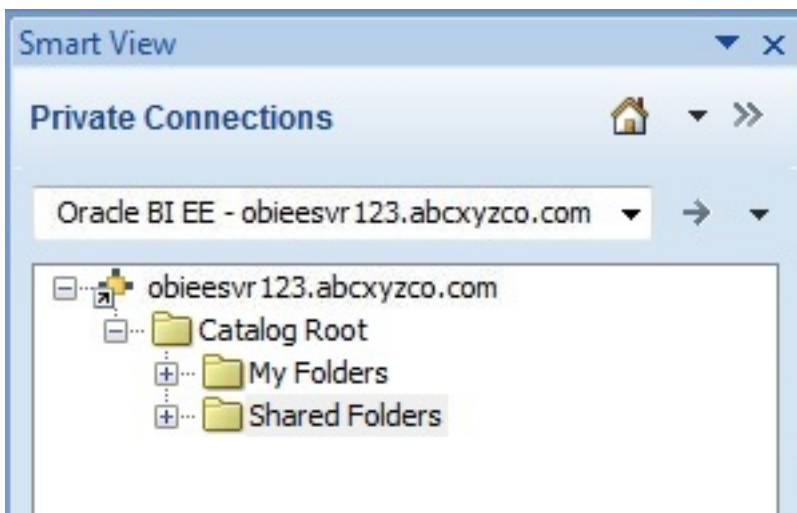
これで、新たに接続されたデータ・ソースからOfficeドキュメントにビューを挿入できます

6. 接続するその他のデータ・ソースに対して、[203ページのステップ 3](#)から [204ページのステップ 5](#)を繰り返します。

## Oracle BI EEカタログ

Oracle BI EEプレゼンテーション・カタログは、カタログまたはカタログ・ツリーとも呼ばれ、Smart Viewパネルに表示されます。カタログ・ツリーには、「カタログのルート」というルート・ノードと、デフォルトで「マイ・フォルダ」および「共有フォルダ」という2つのフォルダが表示されます。

図51 Oracle BI EEカタログまたはカタログ・ツリー



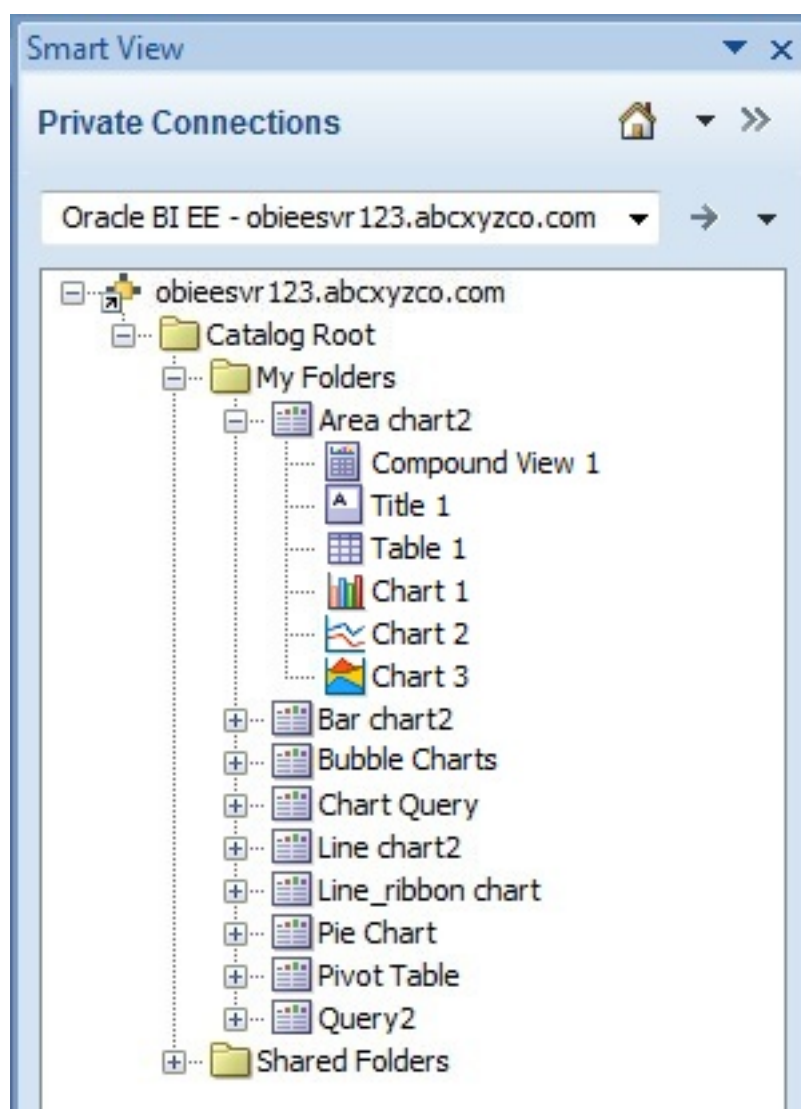
「マイ・フォルダ」に保存したアイテムは、フォルダを展開したときにのみ表示されます。他のユーザーが「マイ・フォルダ」に保存したアイテムは、それらのユーザーにのみ表示されます。

「共有フォルダ」に保存したアイテムは、BIコンシューマ権限でログオンしたすべてのユーザーが表示できます。BIコンシューマ権限を持っている場合、他のユーザーが「共有フォルダ」に保存したアイテムも表示できます。

- ▶ アクセスできるフォルダのプロパティ(フォルダ作成者の名前や作成日など)を表示するには、カタログ・ツリーでフォルダを右クリックして「フォルダ・プロパティの表示」を選択します。

カタログ・ツリーのフォルダには、Oracle BI EEとSmart Viewの両方の分析のリストと、作成されたサブフォルダが含まれます。[205ページの図 52](#)に示すように、分析ノード(たとえば、「マイ・フォルダ」の「面チャート2」)を展開すると、そこに保管されているビューのリスト(たとえば、「複合ビュー1」や「表1」)が表示されます。

図52 分析ノードのビューが表示されているカタログ・ツリー



- ▶ 分析作成者の名前、作成日および更新日などを含む分析のプロパティを表示するには、カタログ・ツリーで分析を右クリックして「分析プロパティの表示」を選択します。

BIアンサーでは、編集する分析を選択できます。Smart Viewで作成されたビューの場合は、Smart Viewでそのビューを編集することも可能です。

- ▶ BIアンサーで分析を編集するには、カタログ・ツリーで分析を右クリックして「アンサーでの分析の編集」を選択します。

このオプションを選択すると、デフォルト・ブラウザが起動され、BIアンサーで分析編集ウィザードが開きます。BIアンサーにまだログオンしていない場合は、資格証明を入力できるログイン・ダイアログ・ボックスが表示されます。BIアンサーでビューを編集するには、BIコンシューマ権限が必要です。

- ▶ Smart Viewで分析を編集するには、カタログ・ツリーで分析を右クリックし、ビュー・デザイナーで「起動」を選択します。

この場合、ビューはSmart Viewで作成されたものであることが必要です。編集するビューにアクセスするその他の方法は、[230ページのビュー・デザイナーの起動](#)を参照してください。

カタログ・ツリーから、表ビュー、ピボット・テーブル・ビュー、グラフ・ビュー、タイトル、および複合ビューをSmart Viewに挿入することもできます。詳細は、[206ページのOracle BI EEの分析、ビューおよびダッシュボードの操作](#)を参照してください。

## Oracle BI EEの分析、ビューおよびダッシュボードの操作

### サブトピック

- サポートされているOracle BI EEのビューおよびオブジェクト・タイプ
- 表とピボット・テーブルの挿入
- グラフの挿入
- 複合ビューの挿入
- ダッシュボードの挿入
- プロンプトの操作
- ページ・プロンプトの操作
- ビューのリフレッシュ・プリファレンスの指定
- ビューのリフレッシュ
- ビューのマスキング・データ
- Oracle BI EEオブジェクトのプロパティの表示
- Officeアプリケーション間でのOracle BI EEオブジェクトのコピーと貼付け
- BIアンサーでの分析の編集
- Oracle BIからOfficeへのビューのコピーおよび貼付け
- ビューの編集

BIアンサーでは、分析は個々のビューで構成されており、ダッシュボードは分析と個々のビューで構成されています。

## サポートされているOracle BI EEのビューおよびオブジェクト・タイプ

次のビューをSmart Viewクライアント(Excel、PowerPoint、Word)にカタログから挿入するかコピーして貼り付けることができます。

### • 表ビュー

データは、BIアンサーの表示に似たフォーマット(ネイティブ・フォーマットとも呼ばれる)か、Excel表のどちらかの表フォーマットで表示されます。

「挿入」オプションを使用すると、すべてのSmart Viewクライアントにネイティブ・フォーマットで表ビューを挿入できます。このフォーマットでは、ソートまたはフィルタ処理を実行できません。同じデータのセルは1つのセルにマージされます。

Excelでは、「**Excel表として挿入**」コマンドを使用して、表ビューをExcel表として挿入できます。このフォーマットでは、ソートやフィルタ処理などの詳細な分析操作を実行できます。

### 注意:

○Excelでは、1つのワークシートに複数の表を挿入できますが、既存の表の上に表を挿入することはできません。ただし、次を実行できます:



- 表を置き換える場合は、表内の任意のセルを選択し、Oracle BI EEのリボンの「削除」ボタンをクリックします。その後、ワークシートに表を挿入します。
- ワークシートに別の表を挿入する場合は、表ビュー以外の場所にあるセル、またはその他のビュー・オブジェクトを選択して、表を挿入します。

○表ビューおよびExcel表ビューの一部のカスタム・フォーマットがExcelで認識されないため、そのビューをExcelに挿入する際にエラーが発生します。

#### • ピボット・テーブル・ビュー

データは、BIアンサーで定義されたグループ化フォーマット(ネイティブ・フォーマットとも呼ばれる)で表示されます。ページ・アイテム・リストおよびグループ分割などの機能が保持されます。Excelのピボット・テーブル・フォーマットでデータを表示することもできます。

「挿入」オプションを使用すると、すべてのSmart Viewクライアントにネイティブ・フォーマットでピボット・テーブル・ビューを挿入できます。表ビューの挿入の場合と同様に、このフォーマットでは、ソートまたはフィルタ処理を実行できません。また、同じデータのセルは1つのセルにマージされます。

Excelでは、「**Excelピボットとして挿入**」を使用すると、Excelピボット・テーブルとしてピボット・テーブル・ビューを挿入することもできます。このフォーマットでは、ピボット、集計、ドリル、ソート、フィルタ処理などの詳細な分析操作を実行できます。

#### 注意:

- Excelピボット・テーブル・ビューを使用する場合、サポートされるのは、数値データ型のメジャー列を含むビューのみです。
- Excelワークシートごとに使用できるExcelピボット・テーブルは、1つのみです。また、Excelピボット・テーブル・ビューは、常に新しいワークシートに挿入されます。データ・ソース接続が1つの場合も複数の場合も、これが既定の動作です。
- ピボット・テーブル・ビューの一部のカスタム・フォーマットがExcelで認識されないため、そのビューをExcelに挿入する際にエラーが発生します。

#### • グラフ・ビュー

データは、BIアンサーのグラフで定義されているグラフをMicrosoft Office 2007のチャートでサポートされているグラフ・タイプにマッピングして表示されます。

「イメージとして挿入」オプションを使用すると、Smart Viewのクライアントに静的イメージとしてグラフを直接挿入できます。イメージを編集またはリフレッシュできません。

すべてのSmart Viewクライアントで「挿入」オプションを使用すると、グラフを編集およびリフレッシュできます。Smart Viewは、視覚効果(2D、3D)、キャンバスのサイズ、チャート・タイトル、サブタイトル、軸タイトル、凡例、凡例の位置、軸スケール、データ・フォーマット(数値、日付、通貨フォーマット)、タイトルおよびラベル・フォーマットなどのグラフ・プロパティを含め、BIアンサーのグラフ・スタイルにできるだけ厳密に一致させようとしています。

一致するOfficeのチャート・タイプが使用できない場合は、グラフ・ビューをイメージとして挿入できます。[214ページのサポートされているOracle BI EEのチャートおよびオブジェクトのタイプ](#)と [215ページのサポートされていないOracle BI EEのチャートおよびオブジェクトのタイプ](#)を参照してください。

#### • ゲージ・ビューおよびファンネル・グラフ・ビュー

BIアンサーでは、ゲージ・ビューとファンネル・グラフ・ビューはグラフ・ビューとは別のオブジェクト・タイプです。

「イメージとして挿入」オプションを使用すると、Smart Viewのクライアントに静的イメージとしてゲージ・ビューとファンネル・ビューを直接挿入できます。イメージを編集またはリフレッシュできません。

#### • タイトル・ビュー

レポートのタイトルが、BIアンサーのタイトル・ビューの一部である他の情報とともに表示されます。

タイトル・ビューは通常、タイトル・テキスト、サブタイトル・テキスト、分析名、挿入日時、オプションのロゴ、オプションのURL (ヘルプ・リンクなど)で構成されています。タイトル・ビューは、1つのOfficeオブジェクトとしてグループ化されたテキスト・ボックスとイメージの集合としてSmart Viewクライアントに挿入されます。

#### • 複合ビュー

データは、様々なビューを組み合わせ表示されます。

Smart Viewクライアントに挿入される際に、複合ビューを構成するすべてのサポート対象ビューが挿入されます。ビューの各タイプ(表、ピボット・テーブル、グラフ、ゲージ、ファンネル、フィルタおよびタイトル)が、それぞれのデフォルト・フォーマットでSmart Viewクライアントに挿入されます。

Wordでは、すべてのビューがそれぞれの横または下に挿入され、アクティブなWord文書のページに挿入されます。

ExcelまたはPowerPointでは、1つのシートまたはスライドにすべてのビューを挿入するか、別個のシートまたはスライドに各ビューを挿入するかを選択するためのプロンプトが表示されます。

## 表とピボット・テーブルの挿入

挿入できる行および列の最大数は、使用しているExcelのバージョンによって異なります。ワークシートのサイズ制限の詳細は、Microsoft Excelのドキュメントを参照してください。

▶ 表またはピボット・テーブルを挿入するには:

1. 表またはピボット・テーブルを開始するExcelワークシート、PowerPointスライドまたはWordページの場所にカーソルを合せます。
2. Oracle BI EEのプレゼンテーション・カタログで、表またはピボット・テーブルを右クリックします。
3. 次のいずれかを選択します:

- **挿入** - 選択した表ビューまたはピボット・テーブル・ビューが、BIアンサーで定義されたフォーマットで挿入されます。209ページの図 53および 210ページの図 54を参照してください。

BIアンサーで表またはピボット・テーブルに対してプロンプトが定義されている場合は、**プロンプト・セレクタ**ダイアログ・ボックスが表示され、表示するデータを選択できます(それ以外の場合は、表またはピボット・テーブルが直接挿入されます)。最初の挿入後、Oracle BI EEのリボンの「**プロンプトの編集**」アイコンをクリックして、プロンプトを編集できます。詳細は、216ページの**プロンプトの操作**を参照してください。

表またはピボット・テーブルに対してページ・プロンプト(BIアンサーのビュー・プロンプト)が定義されている場合は、Oracle BI EEのリボンの「**ページ・プロンプトの編集**」をクリックして編集することもできます。219ページの**ページ・プロンプトの操作**を参照してください。



注意:

図53 BIアンサーのフォーマットで表として挿入される表ビュー

	A	B	C
1	D1 Office	Guadalupe Office	
2			
3	1- Revenue	2- Billed Quantity	T05 Per Name Year
4	1218703.43	126416	2008
5	1218703.43 Total	126416	2008 Total
6	1140273.25	124481	2009
7	1140273.25 Total	124481	2009 Total
8	1412013.01	153615	2010
9	1412013.01 Total	153615	2010 Total
10			
11			
12	D1 Office	Figueroa Office	
13			
14	1- Revenue	2- Billed Quantity	T05 Per Name Year
15	1335360.24	144293	2008
16	1335360.24 Total	144293	2008 Total
17	1142302.6	118765	2009
18	1142302.60 Total	118765	2009 Total
19	1613498.14	173192	2010
20	1613498.14 Total	173192	2010 Total

図54 BIアンサーのフォーマットでピボット・テーブルとして挿入されるピボット・テーブル

	A	B	C	D	E	F
1			2008		2009	
2			1- Revenue	2- Billed Quantity	1- Revenue	2- Billed Quantity
3	D1 Office	D2 Department				
4	Montgomery Office Total		409261.44	44404	474402.83	49612
5	Montgomery Office	Entertainment Dept.	409261.44	44404	474402.83	49612
6	Blue Bell Office Total		762007.79	76964	626768.91	69812
7	Blue Bell Office	Entertainment Dept.	762007.79	76964	626768.91	69812
8	Foster Office Total		665353.16	73453	499749.5	53700
9	Foster Office	Technology Dept.	665353.16	73453	499749.5	53700
10	Glenn Office Total		380957.44	41450	335018.03	35817
11	Glenn Office	Technology Dept.	380957.44	41450	335018.03	35817
12	Tellaro Office Total		572256.65	62393	470830.43	51801
13	Tellaro Office	Technology Dept.	572256.65	62393	470830.43	51801
14	Madison Office Total		472503.56	51717	410123.97	47135
15	Madison Office	Translated Products	472503.56	51717	410123.97	47135
16	Eden Office Total		531569.71	62894	502306.03	54444
17	Eden Office	Translated Products	531569.71	62894	502306.03	54444
18	Sherman Office Total		780186.36	84984	680636.06	75006
19	Sherman Office	Translated Products	780186.36	84984	680636.06	75006

Smart Viewクライアントでは、表はグリッド形式で表示されます。

- **Excel表として挿入(表ビューのみ)** - 選択した表ビューはExcel表として挿入されます。ページ・プロンプト・エッジおよびセクション・エッジの列(存在する場合は)、ドロップダウン見出しとして表上部に移動されます。Excelの操作を使用してフィルタ処理、式の定義、ソートおよび他のExcelタスクを実行する場合は、このオプションを選択します。

表ビューがExcel表として挿入されると、BIアンサーで定義されたプロンプトは使用できません。

選択した表はワークシートに挿入されます。211ページの図 55を参照してください。

図55 Excel表として挿入される表ビューの部分

	A	B	C	D	E
1	T05 Per Name Year	D1 Office	D2 Department	2- Billed Quantity	1- Revenue
2	2008	Montgomery Office	Entertainment Dept.	44404	409261.44
3	2008	Blue Bell Office	Entertainment Dept.	76964	762007.79
4	2008	Foster Office	Technology Dept.	73453	665353.16
5	2008	Glenn Office	Technology Dept.	41450	380957.44
6	2008	Tellaro Office	Technology Dept.	62393	572256.65
7	2008	Madison Office	Translated Products	51717	472503.56
8	2008	Eden Office	Translated Products	62894	531569.71
9	2008	Sherman Office	Translated Products	84984	780186.36
10	2008	Casino Office	Test Programs Dept.	77474	739129.6
11	2008	Merrimon Office	Test Programs Dept.	55194	526620.06
12	2008	Perry Office	Equipment Dept.	109600	1095278.63
13	2008	Eiffel Office	Equipment Dept.	131681	1172037.85
14	2008	Spring Office	Operations Dept.	119880	1136782.66
15	2008	Mills Office	Operations Dept.	73890	713164.64
16	2008	College Office	Surplus Dept.	117934	1072744.45

- **Excelピボットとして挿入**(ピボット・テーブル・ビューのみ) - 選択したピボット・テーブル・ビューはExcelピボット・テーブルとして挿入されます。ページ・エッジおよびセクション・エッジの列(存在する場合は)、レポート・フィルタ領域にマップされ、メジャー・エッジの列は値領域に移動されます。集約、ピボット、ドリル、ソート、フィルタ処理などの詳細な分析を実行する場合は、このオプションを選択します。

選択した表またはピボット・テーブルがワークシートに挿入されます。212ページの図 56を参照してください。

**注意:**

- ピボット・テーブル・ビューがExcelピボット・テーブルとして挿入されると、BIアンサーで定義されたプロンプトは使用できません。
- Excelピボット・テーブル・ビューを使用する場合、サポートされるのは、数値データ型のメジャー列を含むビューのみです。
- Excelワークシートごとに使用できるExcelピボット・テーブルは、1つのみです。また、Excelピボット・テーブル・ビューは、常に新しいワークシートに挿入されます。データ・ソース接続が1つの場合も複数の場合も、これが既定の動作です。



図56 Excelピボット・テーブルとして挿入されるピボット・テーブル

	A	B	C	D	E	F	G
1				T05 Per Name Year			
2	D1 Office	D2 Department	Data	2008	2009	2010	Grand Total
3	Blue Bell Office	Entertainment Dept.	Sum of 2- Billed Quantity	76964	69812	85062	231838
4			Sum of 1- Revenue	762007.79	626768.91	801073.08	2189849.78
5	Blue Bell Office Sum of 2- Billed Quantity			76964	69812	85062	231838
6	Blue Bell Office Sum of 1- Revenue			762007.79	626768.91	801073.08	2189849.78
7	Casino Office	Test Programs Dept.	Sum of 2- Billed Quantity	77474	66313	88807	232594
8			Sum of 1- Revenue	739129.6	594498.95	846609.99	2180238.54
9	Casino Office Sum of 2- Billed Quantity			77474	66313	88807	232594
10	Casino Office Sum of 1- Revenue			739129.6	594498.95	846609.99	2180238.54
11	College Office	Surplus Dept.	Sum of 2- Billed Quantity	117934	104384	115288	337606
12			Sum of 1- Revenue	1072744.45	974454.3	1150437.44	3197636.19
13	College Office Sum of 2- Billed Quantity			117934	104384	115288	337606
14	College Office Sum of 1- Revenue			1072744.45	974454.3	1150437.44	3197636.19
15	Copper Office	Local Plants Dept.	Sum of 2- Billed Quantity	112428	98158	124486	335072
16			Sum of 1- Revenue	994751.43	924933.74	1159553.05	3079238.22
17	Copper Office Sum of 2- Billed Quantity			112428	98158	124486	335072
18	Copper Office Sum of 1- Revenue			994751.43	924933.74	1159553.05	3079238.22
19	Eden Office	Translated Products	Sum of 2- Billed Quantity	62894	54444	65983	183321

228ページのビューの編集の説明に従って、表およびピボット・テーブルを編集できます。

## グラフの挿入

Smart Viewは、グラフを挿入する際、BIアンサーのグラフをMicrosoft Office 2007のチャートでサポートされるチャート・タイプにマップしようとします。さらに、Smart Viewは、2Dまたは3Dといった視覚効果や、キャンバス・サイズ、軸スケール、データ・フォーマット、フォントのスタイルや色の条件のフォーマットなどのグラフ・プロパティを一致させようとします。

一致するチャート・タイプがない場合は、グラフ・ビューがイメージとしてのみ挿入される場合があります。

214ページのサポートされているOracle BI EEのチャートおよびオブジェクトのタイプと 215ページのサポートされていないOracle BI EEのチャートおよびオブジェクトのタイプを参照してください。

▶ グラフを挿入するには:

1. カタログから、グラフ・ビューを右クリックします。
2. オプションを選択します:

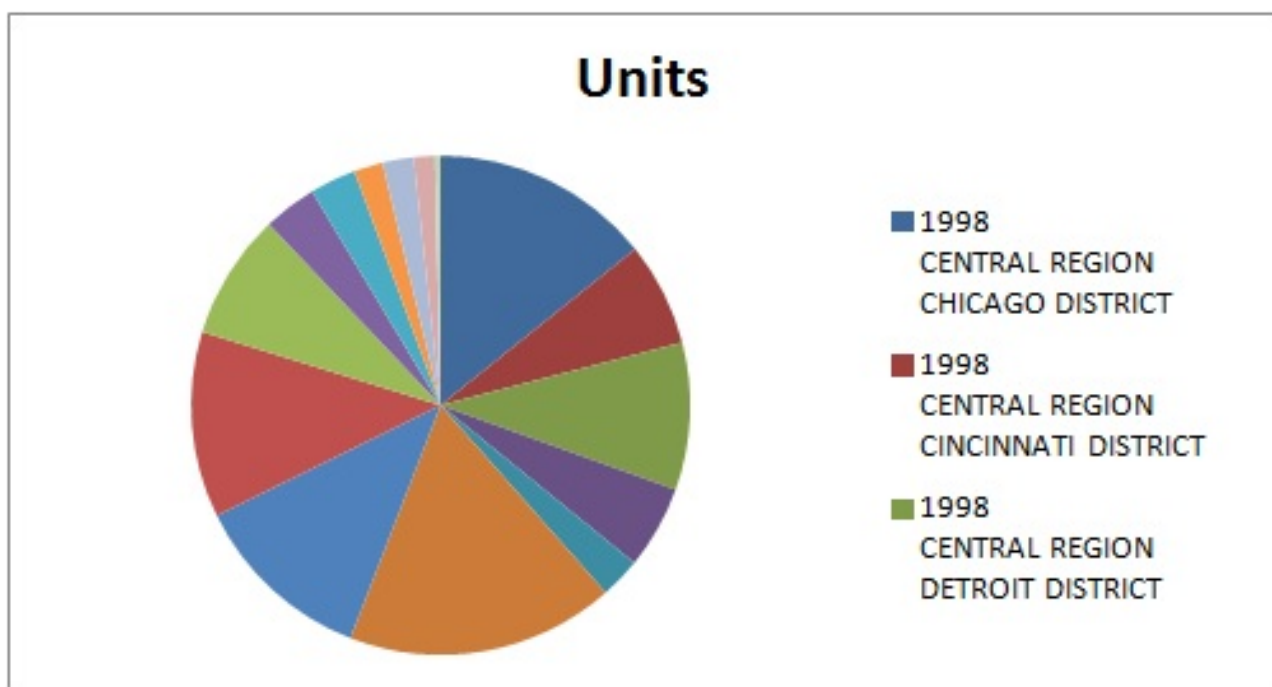
- 挿入—選択したグラフが、編集、マスク、リフレッシュが可能なExcelチャートとして挿入されます。

BIアンサーでグラフに対してプロンプトが定義されている場合は、プロンプト・セレクタ・ダイアログ・ボックスが表示され、表示するデータを選択できます(それ以外の場合は、グラフが直接挿入されます)。最初の挿入後、Oracle BI EEのリボンの「プロンプトの編集」アイコンをクリックして、プロンプトを編集できます。216ページのプロンプトの操作を参照してください。

グラフに対してページ・プロンプト(BIアンサーのビュー・プロンプト)が定義されている場合は、Oracle BI EEのリボンの「ページ・プロンプトの編集」をクリックして編集することもできます。詳細は、216ページのプロンプトの操作を参照してください。

この分析に対してプロンプトが定義されていない場合は、グラフが直接挿入されます。詳細は、213ページの図 57を参照してください。

図57 Excelチャートとして挿入された円グラフ・ビュー



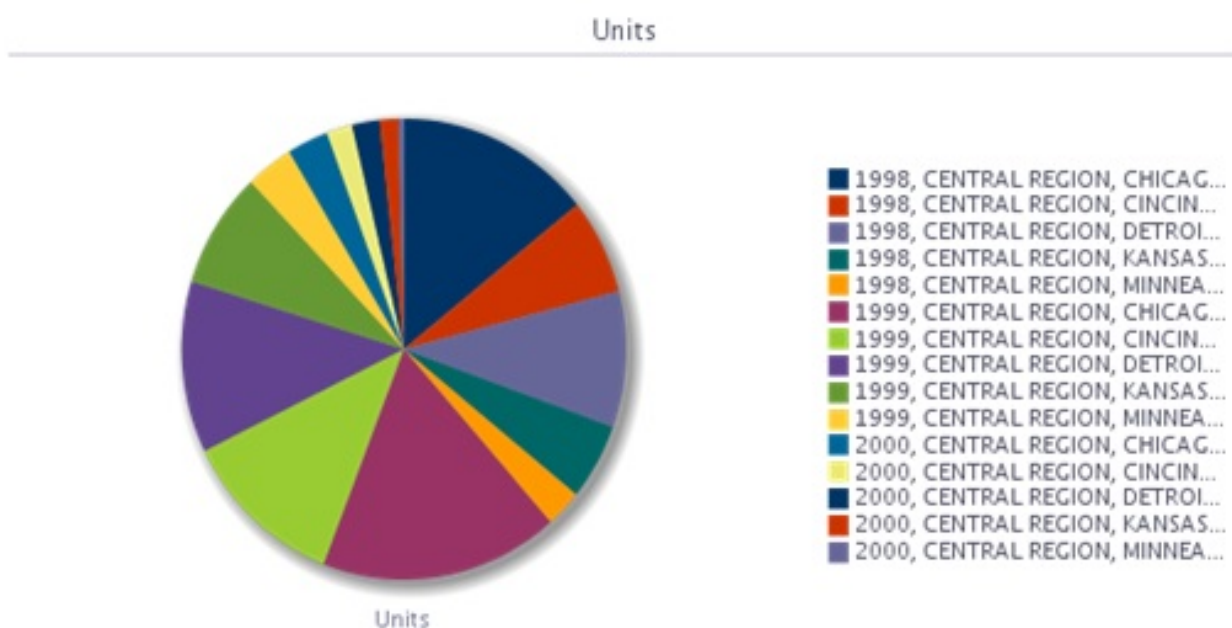
228ページのビューの編集の説明に従って、この方法で挿入されたグラフを編集できます。

- イメージとして挿入 - 選択したグラフがグラフのイメージとして挿入され、編集またはカスタマイズできません。

グラフがイメージとして直接挿入されると、BIアンサーで定義されたプロンプト、ページ・プロンプトおよびセクションは使用できません。

ゲージ・ビューおよびファンネル・オブジェクトの挿入は、「イメージとして挿入」コマンドを使用してのみ実行できます。

図58 イメージとして挿入された円グラフ・ビュー



挿入された後は、表示されるグラフのタイプがExcelチャートでもイメージでも、拡大してサイズを変更できます。

## サポートされているOracle BI EEのチャートおよびオブジェクトのタイプ

次のチャート・サブタイプがサポートされています:

- 折れ線
- 棒: 縦棒、横棒、積上げ縦棒、積上げ横棒、100%積上げ縦棒、100%積上げ横棒
- 面: 積上げ、100%積上げ
- 円グラフ
- バブル
- 散布
- 折れ線と棒の組合せ: 標準、積上げ
- レーダー

次のグラフは、イメージとしてのみ挿入できます。

- 時系列折れ線
- パレート
- ウォーターフォール

次のオブジェクトは、イメージとしてのみ挿入できます。

- ゲージ
- ファンネル

## サポートされていないOracle BI EEのチャートおよびオブジェクトのタイプ

次のビュー・タイプはサポートされていません:

- パフォーマンス・タイル
- トレリス・ビュー
- マップ・ビュー
- フィルタ・ビュー - カタログ・ツリーの「分析プロパティの表示」コマンドを使用すると、フィルタ・ビューのプロパティのみ表示できます。
- 選択ステップ
- 列セレクト
- ビュー・セレクト
- 凡例
- ナレーティブ
- ティツカ
- 静的テキスト
- 論理SQL
- セグメントの作成
- ターゲット・リストの作成
- 静的テキスト、ティツカまたはHTMLビュー
- スコアカード
- KPIまたはKPIウォッチリスト

## 複合ビューの挿入

▶ 複合ビューを挿入するには:

1. カタログから、挿入する複合ビューを選択します。
2. 右クリックし、「すべてのビューを挿入」を選択します。
3. プロンプトが表示されたら、オプションを選択します:
  - 「シート/スライドごとに1つのオブジェクト」を選択して、別個のExcelシートまたはPowerPointスライドに複合ビューの各オブジェクトを挿入します。
  - 「1つのシート/スライドにすべてのオブジェクト」を選択して、1つのExcelシートまたはPowerPointスライドにすべてのオブジェクトを表示します。

Wordでは、オブジェクトはその他のオブジェクトの横および下にシートが埋まるまで配置され、これがすべてのオブジェクトを保持するために必要なシートの数だけ続きます。

表、ピボット・テーブル、およびグラフ・ビュー・タイプに対しては、デフォルト表示が選択されます。つまり、自動的に「挿入」アクションが使用されます。

複合ビューにサポートされていないビュー・タイプがあると、メッセージで通知されます。サポートされていないビュー・タイプは挿入されません。





---

注:

「リフレッシュ」を実行して、選択したビューのプロンプトおよびページ・プロンプトを編集できます。複合ビューで選択されていないビューは変更されません。[221ページのビューのリフレッシュ](#)、[216ページのプロンプトの操作](#)および [219ページのページ・プロンプトの操作](#)を参照してください。

---

## ダッシュボードの挿入

ダッシュボードは、プレゼンテーション・カタログにフォルダとして表示されます。ダッシュボード・フォルダを展開するとダッシュボード・ページを表示でき、ダッシュボード・ページを展開するとそのページに含まれている分析のリストを表示できます。Excel、PowerPointおよびWordにダッシュボード・ページを挿入できます。

▶ Officeアプリケーションにダッシュボード・ページを挿入するには:

1. カタログからダッシュボード・ページを右クリックして、「すべてのビューを挿入」を選択します。
2. プロンプトが表示されたら、オプションを選択します:
  - 「シート/スライドごとに1つのオブジェクト」を選択して、別個のExcelシートまたはPowerPointスライドにダッシュボードの各オブジェクトを挿入します。
  - 「1つのシート/スライドにすべてのオブジェクト」を選択して、1つのExcelシートまたはPowerPointスライドにすべてのオブジェクトを表示します。

Wordでは、オブジェクトはその他のオブジェクトの横および下にシートが埋まるまで配置され、これがすべてのオブジェクトを保持するために必要なシートの数だけ続きます。

表、ピボット・テーブル、およびグラフ・ビュー・タイプに対しては、デフォルト表示が選択されます。つまり、自動的に「挿入」アクションが使用されます。

サポートされていないビュー・タイプがダッシュボードにあると、メッセージで通知されます。サポートされていないビュー・タイプは挿入されません。



---

注:

「リフレッシュ」を実行して、選択したビューのプロンプトおよびページ・プロンプトを編集できます。ダッシュボードから選択されていないビューは変更されません。[221ページのビューのリフレッシュ](#)、[216ページのプロンプトの操作](#)および [219ページのページ・プロンプトの操作](#)を参照してください。

---

## プロンプトの操作

プロンプトでは、挿入するビューの内容を判断する基準を指定できます。Smart Viewは、プロンプトとページ・プロンプトの両方をサポートします。ページ・プロンプトについては、[219ページのページ・プロンプトの操作](#)も参照してください。

Smart Viewのプロンプトは、BIアンサーのプロンプトと同等です。Smart Viewでは、列プロンプトのみがサポートされています。

プロンプトは、BIアンサーの分析内で定義されます。ビューがSmart Viewに挿入されるたびに、これらのプロンプトに値を入力するように求められます。

BIアンサーで分析にプロンプトが定義されている場合、その分析からSmart Viewへ表、ピボット・テーブル、およびグラフ・ビューを挿入すると、そのビューに表示するデータを選択するためのプロンプトが表示されます。プロンプトが定義されている分析から複合ビューを挿入する場合、その複合ビュー内のすべてのビューに対して値を入力するためのプロンプトが1回だけ表示されます。

たとえば、「年」のプロンプトが分析に指定されていて、2010、2011および2012年から選択できるとします。表、ピボット・テーブル、またはグラフを挿入すると、データを表示する年(2010、2011または2012)を選択するためのプロンプトが表示されます。または、複合ビューの挿入を選択でき、その場合は、行ったプロンプト選択が、挿入されるすべてのビューに適用されます。挿入後、各個別のビューのプロンプトを編集し、表示する別の年のデータを選択できます。

ビューは、個別にしか編集できません。編集操作では、編集中の各ビューに選択される値の入力を求めるプロンプトが表示されます。

挿入、またはコピーおよび貼り付けられたビューのプロンプトを編集できます。



注:

BIアンサーで階層列に定義されているプロンプトは、Smart Viewではサポートされません。

▶ プロンプトを編集するには:

1. ワークシートでビューを選択します:
  - グラフ・ビュー - グラフを選択します。
  - 表およびピボット・テーブル・ビュー - 表内のセルを選択します。
2. Oracle BI EEのリボンから、「プロンプトの編集」ボタンを選択し、元の選択を表示します。

図59 「プロンプトの編集」ボタン



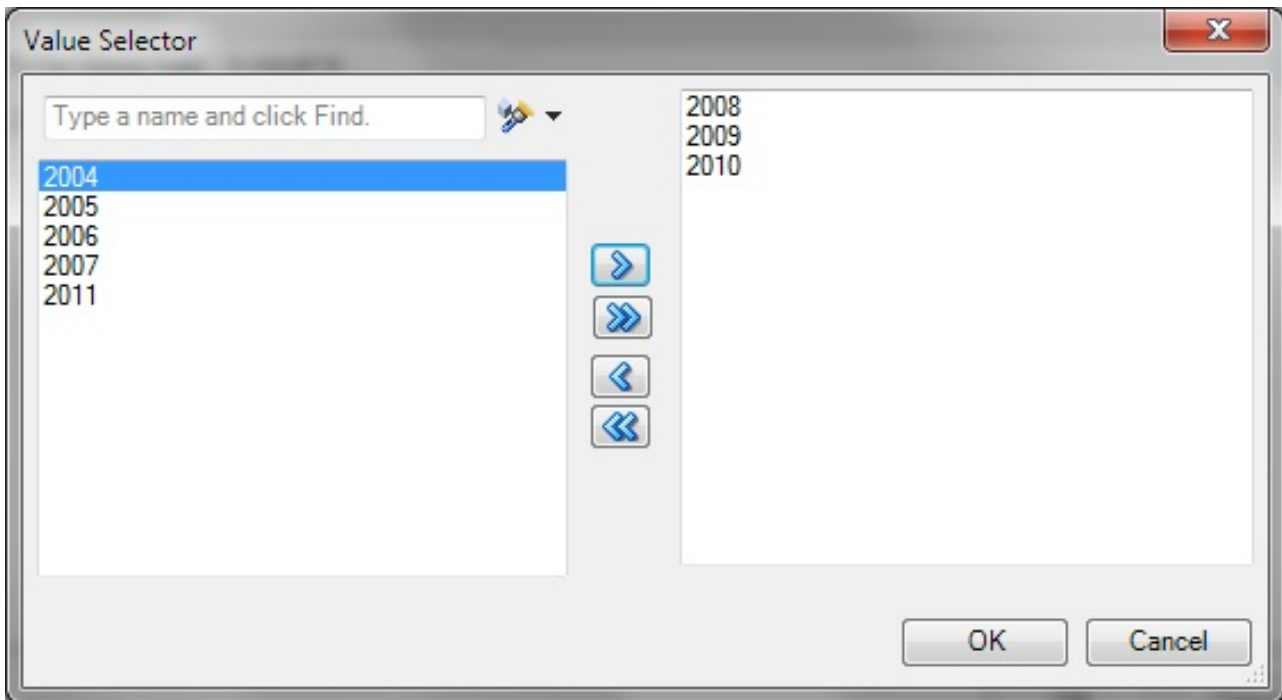
BIサーバーでレポート定義が変更された場合、選択内容はリセットされているため、すべてのプロンプトと列を再度選択する必要があります。

3. プロンプト・セレクタで、プロンプト選択を変更します。

BIアンサーでのプロンプトの設定方法によっては、「プロンプト・セレクタ」のドロップダウン・リストからデータを直接選択できます。値セレクタ・ダイアログ・ボックスから値を選択することもできます。

218ページの図 60に、2008、2009および2010年が表示用に選択されている「値セレクタ」ダイアログ・ボックスの例を示します。

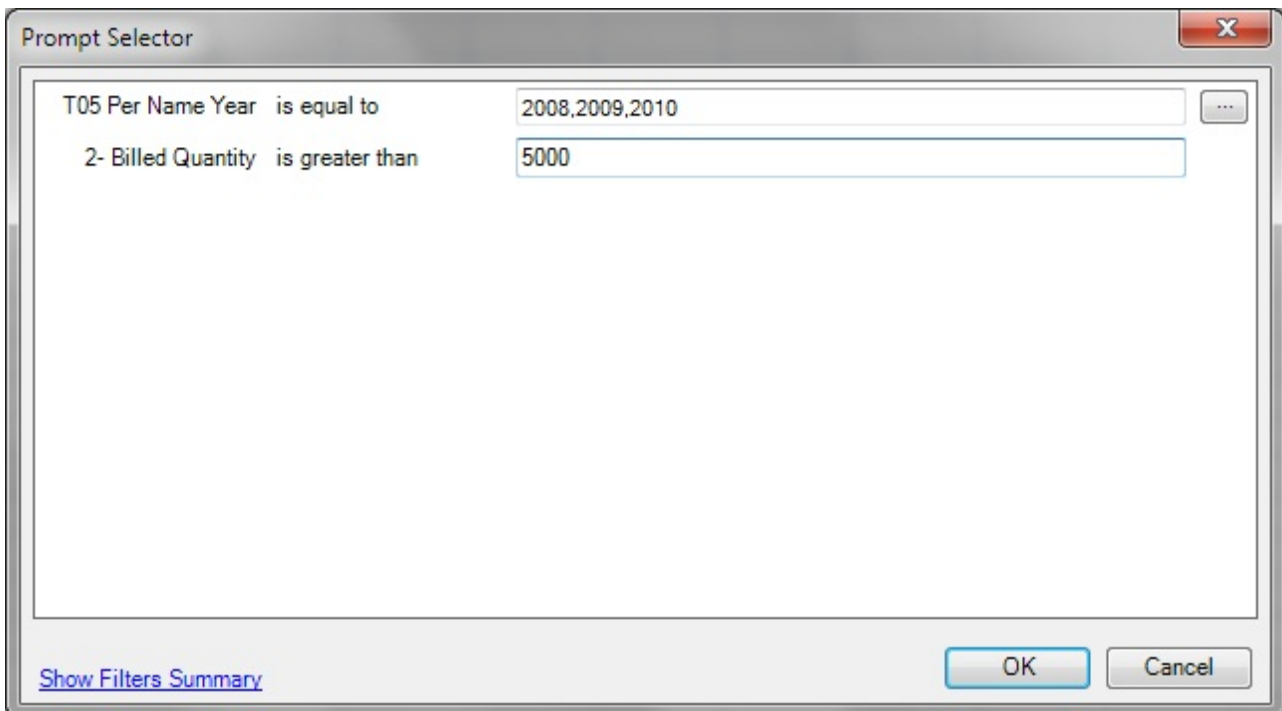
図60 2008、2009および2010年を選択された値セクタ・ダイアログ・ボックス



「値セクタ」で「OK」をクリックすると、「プロンプト・セクタ」の例の1つ目のプロンプトに、選択内容が移入されます( 218ページの図 61)。プロンプト・セクタの例の2つ目のプロンプトには、金額を直接入力する必要があります。この例では、表示する金額は、\$5,000を超える請求済数量です。

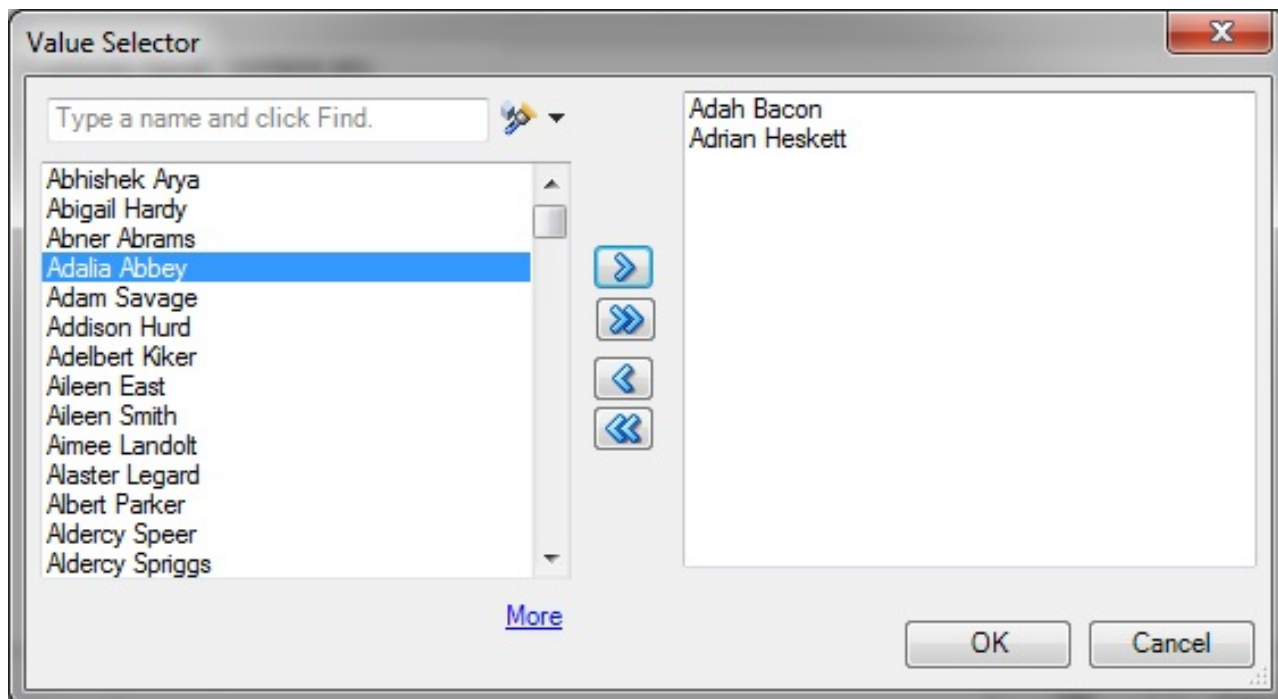
入力後のプロンプト・セクタ・ダイアログは、218ページの図 61のようになります。

図61 入力済のプロンプト・セクタ



場合によっては、選択元のデータが非常に長いことがあります。「値セクタ」の大量のデータのロードに対応するために、Smart Viewでは、グループの値が提供されます。最初に表示されるページをスクロールして選択を行い、「詳細」をクリックすると、次のグループが表示され、そこから選択を行います。データ・リスト全体が表示され、そこから選択を行うまで、「詳細」をクリックし続けます。219ページの図 62では、例を示しています。

図62 大量のデータ用に「詳細」が表示されている「値セクタ」



4. 「OK」をクリックして「プロンプト・セクタ」を閉じます。

選択した後に「OK」をクリックすると、ビューがすぐにリフレッシュされて選択内容が反映されます。

5. この手順を繰り返してプロンプトを編集し、表示される出力を変更します。

## ページ・プロンプトの操作

ページ・プロンプトでは、挿入されたビューの内容を判断する基準を指定できます。Smart Viewは、ページ・プロンプトとプロンプトの両方をサポートします。216ページのプロンプトの操作も参照してください。

Smart Viewのページ・プロンプトは、BIアンサーのビュー・プロンプトに相当します。ビュー・プロンプトは、分析内の個々のビューに指定されます。Smart Viewでは、BIアンサーの表プロンプト、グラフ・プロンプト、ゲージ・プロンプトがサポートされています。これらのプロンプトのタイプは、Smart Viewではページ・プロンプトと呼ばれます。

ページ・プロンプトは、分析内のビューごとに異なる場合があります。分析内の個別の表ビューに年のページ・プロンプトを設定し、同じ分析内のピボット・テーブル・ビューに事業部門のページ・プロンプトを設定することができます。

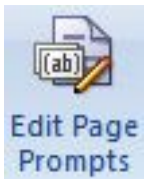
ページ・プロンプトを含むビューを初めて挿入すると、ビューの状態がデフォルトで選択されます。たとえば、分析内の特定のビューに年のプロンプトが指定されており、2010、2011、2012から選択できる場合、挿入時にこれらに対するプロンプトは表示されません。かわりに、ビューのデフォルトの状態が挿入されます。たとえば、選択可能な年のリストで最初の年である、2010のデータが自動的に挿入されます。その後、ページ・プロンプトを編集し、別の年のデータを選択してこのビューに表示することができます。

挿入、またはコピーして貼り付けられたビューのページ・プロンプトを編集できます。

▶ ページ・プロンプトを編集するには:

1. ワークシートでビューを選択します:
  - グラフ・ビュー - グラフを選択します。
  - 表およびピボット・テーブル・ビュー表内の任意のセルを選択します。
2. Oracle BI EEのリボンから、「ページ・プロンプトの編集」ボタンを選択し、特定ビューに対するデフォルトのページ・プロンプトの選択内容を表示します。

図63 「ページ・プロンプトの編集」ボタン

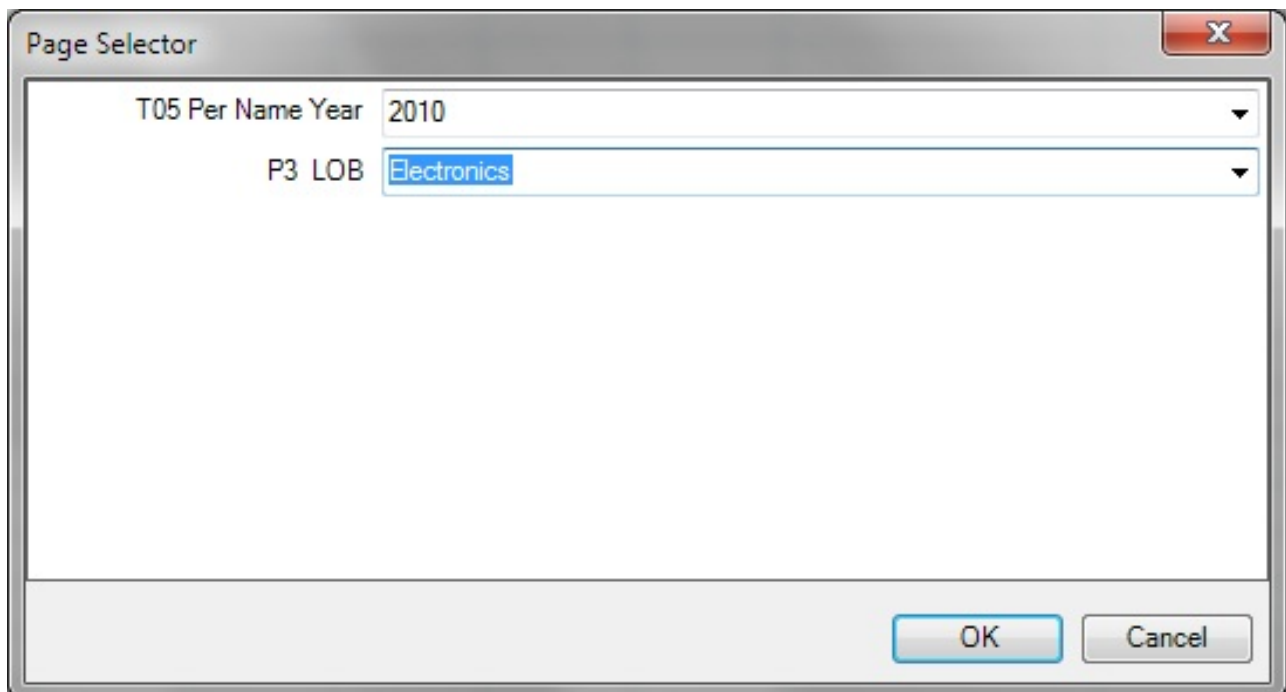


BIサーバーでレポート定義が変更された場合、選択内容はリセットされているため、すべてのページ・プロンプトを再度選択する必要があります。

3. 「ページ・セレクト」で、ドロップダウン・リストから選択してページ・プロンプトの選択を変更します。

220ページの図 64に、年と事業部門が選択された「ページ・セレクト」ダイアログ・ボックスを表示します。この例では、年は2010、事業部門は電子機器が選択されています。

図64 入力されたページ・セクタ



4. 「OK」をクリックして「ページ・セクタ」を閉じます。


選択した後に「OK」をクリックすると、ビューがすぐにリフレッシュされて選択内容が反映されます。

5. この手順を繰り返してページ・プロンプトを編集し、表示される出力を変更します。

## ビューのリフレッシュ・プリファレンスの指定

リフレッシュ・プリファレンスはビューごとに使用できます。ワークシート、スライドまたはページの各ビューに設定したり、リフレッシュ・プリファレンスは、Officeドキュメント(Excelワークブック、PowerPointスライド・プレゼンテーションまたはWord文書)とともに保存されます。

▶ ビューのリフレッシュ・プリファレンスを指定するには:

- 1つ以上のOracle BI EEビューがSmart Viewに挿入されていることを確認します。
- ドキュメント・コンテンツで、 をクリックしてペインのコンテンツをリフレッシュします。

アクティブなOfficeアプリケーションに挿入されたすべてのビューがドキュメント・コンテンツにツリー形式で表示されます。

- ドキュメント・コンテンツでビューを選択し、「プロパティ」を選択します。
- 「プロパティ」で、「リフレッシュ・プリファレンス」から次のいずれかのオプションを選択します:

- データのリフレッシュ - 選択したビューまたは分析のデータ・ポイントのみがリフレッシュされます。

シート、スライドまたはページのフォーマットに対する変更は保持されます。

- ビューの置換 - BIアンサーに設定されたフォーマット変更を含め、ビュー全体が置換されます。

このオプションを選択すると、ビュー定義が変更された場合、プロンプトおよびグラフの選択内容とカスタム・フォーマットがリフレッシュ時に失われます。



注:

Oracle BI EEのタイトル・ビューはリフレッシュ・アクションに含まれないため、タイトル・ビューに加えたすべてのカスタマイズは、ワークシートまたはワークブックをリフレッシュしても保持されます。

- リフレッシュしない - リフレッシュが許可されません。
- 「OK」をクリックして、リフレッシュ・プリファレンスの選択内容を保存します。

[221ページのビューのリフレッシュ](#)に進みます。

## ビューのリフレッシュ

挿入されたビューのBIデータをリフレッシュできます。次のように、Officeドキュメント・タイプに応じて、選択したビューまたはすべてのビューをリフレッシュできます。

### Excel

- 個々のビュー
- 個々のワークシート
- ワークブック全体

## PowerPoint

- 個々のビュー
- 個々のスライド
- プレゼンテーション全体

## Word


- 個々のビュー
- ドキュメント全体

「ドキュメント・コンテンツ」ペイン、「Oracle BI EE」リボンまたは「Smart View」リボンからビューをリフレッシュできます。

リフレッシュ・アクションは、選択したビューに設定されているプリファレンスのリフレッシュに従って制限されます。詳細は、[221ページのビューのリフレッシュ・プリファレンスの指定](#)を参照してください。

リフレッシュする際、タイトル・ビューはリフレッシュ・アクションに含まれないため、タイトル・ビューに加えたすべてのカスタマイズは、Officeドキュメントをリフレッシュしても保持されます。

▶ 「ドキュメント・コンテンツ」ペインから「Oracle BI EE」ビューをリフレッシュするには:

1. 「ドキュメント・コンテンツ」で、ドロップダウン・リスト・ボックスに「**Oracle BI EE - ドキュメント階層**」が表示されていることを確認します。
2. 「ドキュメント・コンテンツ」で  をクリックしてツリーのコンテンツをリフレッシュします。

「ドキュメント・コンテンツ」から、すべてのOfficeアプリケーションにおける個々のビュー、個々のワークシートおよび個々のスライドをリフレッシュできます。

3. 次のいずれかのアクションを行います:

- Excelのシート、PowerPointのスライドまたはWord文書で選択したビューをリフレッシュするには、「ドキュメント・コンテンツ」でツリーからビュー・オブジェクトを選択し、右クリック・メニューから「ビューのリフレッシュ」アクションを選択するか、ペインの下部で「ビューのリフレッシュ」リンクをクリックします。

リフレッシュするビューごとに繰り返します。

- 選択したExcelワークシートまたはPowerPointスライドのすべてのOracle BI EEビューをリフレッシュするには、「ドキュメント・コンテンツ」でツリーからシートまたはスライドを選択し、右クリック・メニューから「リフレッシュ」アクションを選択するか、ペインの下部で「リフレッシュ」リンクをクリックします。

リフレッシュするシートまたはスライドごとに繰り返します。

▶ リボンを使用して、ワークシートまたはスライドのすべてのOracle BI EEビュー、あるいはWord文書全体をリフレッシュするには:

1. 次のいずれかのアクションを行います:
  - アクティブにするワークシートまたはスライドを選択します。
  - Word文書にカーソルを置いて選択します。



2. Oracle BI EEリボンまたはSmart Viewリボンの「リフレッシュ」をクリックします。
- ▶ Excelワークブック、PowerPointプレゼンテーションまたはWord文書のすべてのOracle BI EEビューをリフレッシュするには:
1. ワークブック、プレゼンテーションまたは文書内の任意の場所にカーソルを置いて選択します。
  2. 次のいずれかのアクションを行います:
    - ExcelワークブックのすべてのOracle BI EEビューをリフレッシュするには、Smart Viewリボンにある「リフレッシュ」の下矢印をクリックし、「すべてのワークシートのリフレッシュ」を選択します。223ページの図 65に、矢印が表示された「リフレッシュ」アイコンを示します:

図65 ExcelおよびPowerPointにおける下矢印が表示された「リフレッシュ」アイコン



または、Oracle BI EEリボンにある「リフレッシュ」で下矢印をクリックし、「ワークブック・データのリフレッシュ」を選択します。

- PowerPointプレゼンテーションのすべてのOracle BI EEビューをリフレッシュするには、Smart Viewリボンにある「リフレッシュ」の下矢印をクリックし、「すべてのスライドのリフレッシュ」を選択します。

または、Oracle BI EEリボンにある「リフレッシュ」で下矢印をクリックし、「プレゼンテーション・データのリフレッシュ」を選択します。

- Word文書のすべてのビューをリフレッシュするには、Oracle BI EEリボンまたはSmart Viewリボンの「リフレッシュ」をクリックします。223ページの図 66に示すように、Wordの「リフレッシュ」アイコンに下矢印は表示されません

図66 Wordの「リフレッシュ」アイコン



---

注:

要求された場合は、Oracle BI EEの資格証明を入力します。

---

## ビューのマスキング・データ

Officeドキュメントに挿入したOracle BI EEビューおよびビュー・デザイナを使用して作成したビューのデータをマスクできます。マスキング・データのオプション:

- 選択されたビュー

- シートまたはスライドのすべてのビュー
- Officeドキュメントのすべてのビュー

Smart Viewのマスク・データ機能を使用すると、次のアクションを実行できます:


- ExcelのシートまたはPowerPointのスライドで単一のSmart Viewオブジェクトを選択し、そのオブジェクトのデータのみをマスク
- アクティブなExcelワークシートまたはPowerPointスライドのデータをマスク
- アクティブなワークブック、プレゼンテーション、Word文書のデータをマスク

データのマスクは次の場所から呼び出すことができます:

- Smart Viewパネルのドキュメント・コンテンツ
- Oracle BI EEのリボン

## 個別のビューでのマスキング・データ

▶ ExcelワークシートまたはPowerPointスライドの個別のビューでデータをマスクするには:

1. ExcelまたはPowerPointで、ドキュメント・コンテンツの  をクリックし、ツリーの内容をリフレッシュします。



注:


Word文書のデータは、全体のマスクのみ可能です。Wordでは、個々のビューのデータはマスクできません。

2. ドキュメント・コンテンツで、マスクするデータを含むビューを見つけ、それを選択します。
3. ドキュメント・コンテンツで「データのマスク」リンクをクリックします。

表オブジェクトでは、セルが「リフレッシュが必要」というテキストに置き換えられます。グラフでは、エリアが空白になり、小さな鍵のイメージが表示されます。

4. 現在のワークブックまたはプレゼンテーションを保存します。

ビューのマスク状態は保存後も変わりません。


5. マスクされたビューでデータを表示するには、ドキュメント・コンテンツの  をクリックし、ツリーからビューを選択して、「ビューのリフレッシュ」リンクをクリックします。

## シートまたはスライドのマスキング・データ

▶ ExcelワークシートまたはPowerPointスライドのデータをマスクするには:

1. シートまたはスライドを選択する方法を選択します:

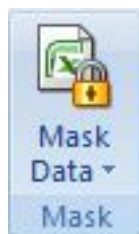
- シートまたはスライドに直接カーソルを置きます。

- ドキュメント・コンテンツで  をクリックし、ツリーでシートまたはスライドを見つけて、それを選択します。

2. 選択したシートまたはスライドのすべてのオブジェクトのデータをマスクする方法を選択します:

- Oracle BI EEのリボンで、「データのマスク」ボタンをクリックします。

図67 「データのマスク」ボタン



- ドキュメント・コンテンツで「データのマスク」リンクをクリックします。

シートまたはスライドのデータがマスクされます。




注:

Word文書のデータは、全体のマスクのみ可能です。Wordでは、個々のページのデータはマスクできません。

3. 現在のワークブックまたはプレゼンテーションを保存します。

シートまたはスライドのマスク状態は保存後も変わりません。

4. マスクされたシートまたはスライドでデータを表示するには、ドキュメント・コンテンツの  をクリックし、ツリーからシートまたはスライドを選択して、「リフレッシュ」リンクをクリックします。

または、リフレッシュするシートまたはスライドにカーソルを置き、



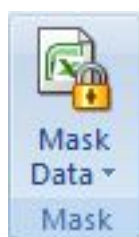
をクリックします。

## Officeドキュメント全体でのマスキング・データ

▶ Officeドキュメント全体でデータをマスクするには:

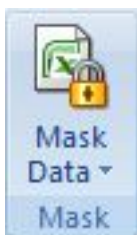
1. 開いているOfficeドキュメントで、Oracle BI EEのリボンから、次のアクションを実行します:

- **Excel:**



の下矢印をクリックし、「ワークブック・データのマスク」を選択します。

• PowerPoint:



の下矢印をクリックし、「プレゼンテーション・データのマスク」を選択します。

• Word:



をクリックします。




注:

Word文書は全体のみをマスクできます。Wordでは、個々のページはマスクできません。

2. 現在のOfficeドキュメントを保存します。

ワークブック、プレゼンテーションまたは文書のマスク状態は保存後も変わりません。

3. マスクされたデータを表示するには、ドキュメント・コンテンツの  をクリックし、ツリーからシート、スライド、または文書を選択して、「リフレッシュ」リンクをクリックします。

または、リフレッシュするシート、スライド、または文書にカーソルを置き、



をクリックします。

## Oracle BI EEオブジェクトのプロパティの表示

選択したワークシート、スライド、文書、またはビューの様々なプロパティを表示できます。

▶ Oracle BI EEオブジェクトのプロパティを表示するには:

1. Oracle BI EEオブジェクトを選択します。

シートやスライドではなく、実際のオブジェクトを選択します。

2. 「ドキュメント・コンテンツ」ペインの下部の「プロパティ」リンクをクリックします。

# Officeアプリケーション間でのOracle BI EEオブジェクトのコピーと貼付け

次の手順で、Oracle BI EEオブジェクトをOfficeアプリケーション内またはOfficeアプリケーション間でコピーできます:

- グラフは、任意のOfficeアプリケーション内およびOfficeアプリケーション間でコピーできます。
- 表とピボット・テーブルは、WordおよびPowerPoint内とWordおよびPowerPoint間でコピーできます。
- 表とピボット・テーブルは、Excel内、Excelから別のOfficeアプリケーション、別のOfficeアプリケーションからExcelへコピーできません。
- 表とピボット・テーブルは、セクションとしてのみコピーと貼付けができます。

## グラフ・ビューのコピーと貼付け

▶ グラフ・ビューをコピーして貼り付けるには:

1. Excel、Word、またはPowerPointで、コピーするグラフ・ビューを選択します。

ドキュメント・コンテンツを使用してビューを検索することもできますが、シート、スライド、またはページでグラフは直接選択します。

2. Oracle BI EEのリボンで、 をクリックします。

3. Officeアプリケーションにアクセスし、グラフ・ビューを貼り付ける位置にカーソルを置きます。

たとえば、Officeアプリケーション内で貼り付ける場合(または、ExcelからコピーしてPowerPointに貼り付ける場合はPowerPointを開き)、Officeドキュメントでオブジェクトを貼り付ける位置にカーソルを置きます。

4.  をクリックします。

5. コピーおよび貼り付けるすべてのグラフで繰り返します。

## 表またはピボット・テーブル・ビューのコピーと貼付け

▶ 表ビューまたはピボット・テーブル・ビューをコピーして貼り付けるには:

1. WordまたはPowerPointで、コピーする表ビューまたはピボット・テーブル・ビューを選択します。

ドキュメント・コンテンツを使用してビューを検索することもできますが、その場合でも、スライドまたはページで表またはピボット・テーブルを直接選択します。

2. Oracle BI EEのリボンで、 をクリックします。

3. Officeアプリケーションにアクセスし、表またはピボット・テーブル・ビューを貼り付ける位置にカーソルを置きます。

たとえば、Officeアプリケーション内で貼り付ける場合(または、WordからコピーしてPowerPointに貼り付ける場合はPowerPointを開き)、Officeドキュメントでオブジェクトを貼り付ける位置にカーソルを置きます。

4.  をクリックします。

5. コピーおよび貼り付けるすべての表またはピボット・テーブルで繰り返します。

## BIアンサーでの分析の編集

使用可能な分析ビューで必要なデータが表示されない場合やデータが期待どおりに表示されない場合は、BIアンサーでビューを編集できます。



注:

BIアンサーでビューを編集するには、Oracle BI EEで要求される権限が必要です。

▶ BIアンサーでビューを編集するには:

1. カタログでビューを右クリックして、「アンサーでの分析の編集」を選択します。
2. ログイン画面で、Oracle BI EEの資格証明を入力します。

選択したビューがBIアンサーに表示されます。

3. BIアンサーでビューを編集して保存します。
4. Officeアプリケーションに戻ります。
5. **Oracle BI EE**のリボンで「リフレッシュ」をクリックし、変更がビューに反映されていることを確認します。

## Oracle BIからOfficeへのビューのコピーおよび貼付け

BIアンサーからSmart Viewへビューをコピーおよび貼り付けできます。

貼り付けられたビューをリフレッシュすると、データはリフレッシュされますが、分析定義は、BIアンサーで変更されていたとしてもリフレッシュされません。

▶ ビューをコピーして貼り付けるには:

1. Oracle BI EEにログインしていることを確認します。
2. BIアンサーまたはインタラクティブ・ダッシュボードで、コピーする分析を起動します。
3. 分析の下部の「コピー」リンク(分析がコピー可能である場合にのみ表示されます)をクリックします。
4. ExcelなどのOfficeアプリケーションを開き、適切なOracle BI EEデータ・ソースに接続します。

5. **Oracle BI EE**のリボンで、 をクリックします。

## ビューの編集

### サブトピック

- [編集が可能および不可能な対象](#)
- [PowerPointに挿入されたピボット・テーブルの編集](#)
- [その他のガイドライン](#)

## 編集が可能および不可能な対象

- 「挿入」コマンドを使用してMicrosoftオブジェクトとして挿入または貼り付けられた表ビューおよびグラフ・ビューは、Excel、PowerPointまたはWordで編集できます。

- リストとして挿入または貼り付けられた表ビューおよびイメージとして挿入されたグラフ・ビューは、Excelで編集できません。
- イメージとして挿入または貼り付けられたビューは、PowerPointで編集できません。

## PowerPointに挿入されたピボット・テーブルの編集

### 小さいピボット・テーブル

PowerPointの小さいピボット・テーブルの場合、列の幅と行の高さの変更は、マウスを使用して列と行の枠線を目的の高さと幅にドラッグすることで行えます。

### 大きいピボット・テーブル

- ▶ 大きいピボット・テーブル(特に行と列がスライド領域の外側にある表)の列の幅と行の高さを調整するには、PowerPointの表の編集ツールを次のように使用します:
  1. ピボット・テーブルを選択します。
  2. PowerPointで「レイアウト」リボンを選択します。
  3. ピボット・テーブルの行または列を選択します。
  4. 「セルのサイズ」グループの高さと幅の値を変更して、高さと幅を調整します。

### その他のガイドライン

- Smart Viewでは、PowerPointの「スライドの複製」コマンドを使用したチャートまたは表の複製はサポートされていません。

PowerPointでは、チャートを含むスライドの複製後、どちらかのチャートのプロンプトを更新しようとする、更新される元のチャートのみのプロンプトが更新されます。複製スライドのチャートは更新されません。

PowerPointスライドに挿入されて複製されたピボット・テーブルでは、どちらかのピボット・テーブルのプロンプトを変更した場合、元のスライドか複製スライドのどちらのプロンプトを変更したかどうかにかかわらず、元のスライドのピボット・テーブルのみが更新されます。

- Microsoft Officeフォーマット・ツールを使用してグラフに加えられた一部の変更(色の変更など)は、プロンプトが変更され、グラフがリフレッシュされると、維持されないことがあります。Smart Viewでは、このようなフォーマットの変更を追跡しません。これはMicrosoft Officeで行われます。グラフ系列が削除されると、その系列のフォーマットもOfficeによって削除されます。プロンプトを変更すると、系列の数および順序が変更され、これはフォーマットも変更されることを意味します。これは予期される動作です。

## 「ビュー・デザイナ」を使用したビューの操作

### サブトピック



- ビュー・デザイナの起動
- ビュー・タイプおよび表示スタイルの定義
- ビュー・レイアウトの定義
- 「ビュー・デザイナ」でのビューに対するフィルタ式の定義
- ビューの発行
- 「ビュー・デザイナ」で作成したビューの編集
- 「ビュー・デザイナ」で作成したビューのデータのリフレッシュ

Smart Viewのビュー・デザイナを使用すると、Oracle BI EEのサブジェクト・エリアに基づいてアド・ホック・ビューを作成できます。Smart Viewで作成されたビューは、Oracle Business Intelligenceカタログに保存でき、Smart ViewまたはBIアンサーで編集できます。

ビュー・デザイナは、Microsoft Excel、WordおよびPowerPointで使用できます。

## ビュー・デザイナの起動

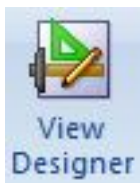
ビューを作成しているか編集しているかに応じ、このトピックで説明されている方法を使用して、ビュー・デザイナを起動できます。

▶ ビュー・デザイナを起動するには:

1. 次のいずれかのアクションを行います:

- 新規ビューを作成するには:
  - カタログ・ツリーのカタログのルート・ノードを右クリックして、「新規ビューの作成」を選択します。
  - カタログ・ツリーのカタログのルート・ノードを選択して、Smart Viewパネルの下部で「新規ビューの作成」を選択します。
  - Oracle BI EEのリボンで、「ビュー・デザイナ」アイコンをクリックします。

図68 「ビュー・デザイナ」アイコン



Oracle BI EEのリボンを有効にするには、カタログ・ツリーのビューに接続している必要があります。

- ビューを編集するには(ビューが作成済でビュー・デザイナから挿入済である必要があります):
  - カタログ・ツリーから、ビュー・デザイナで作成されSmart Viewからプレゼンテーション・カタログに保存された、編集対象のビューを選択し、「Smart Viewパネル」の下部にある「ビュー・デザイナでのビューのロード」リンクを選択します。
  - 現在のまたは保存済のOfficeドキュメントのワークシートで既存のビューを選択し、「ビュー・デザイナ」アイコン(230ページの図68を参照)をクリックします。
  - Excelピボット・テーブルを編集するには、Excelピボット・テーブルの内外を問わず、現在のまたは保存済のワークシート内の任意の場所をクリックし、「ビュー・デザイナ」アイコン(230ページの図68を参照)をクリックします。

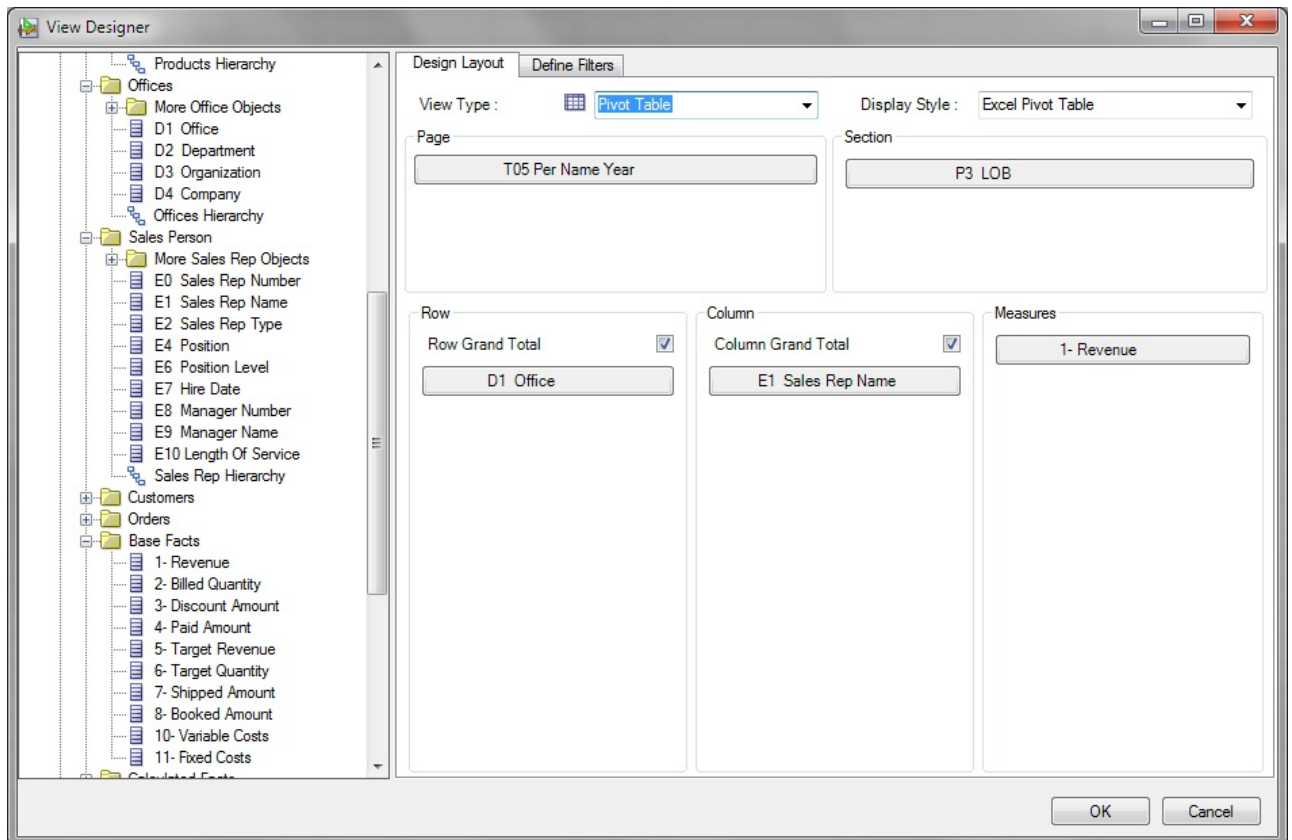


注:

Smart Viewのビュー・デザイナーから作成および挿入されたビューのみ編集できます。BIアンサーで作成されたビューを編集するには、BIアンサーを使用する必要があります。

ビュー・デザイナーの「レイアウトの設計」タブが表示されます。231ページの図 69に、「ページ」、「セクション」、「行」、「列」および「メジャー」エッジが選択された、ビュー・デザイナーの「レイアウトの設計」タブを示します。

図69 ピボット・テーブル・レイアウト用の「ビュー・デザイナー」の「レイアウトの設計」タブ



2. 231ページのビュー・タイプおよび表示スタイルの定義の手順に従って、ビューの設計プロセスを続行します。

## ビュー・タイプおよび表示スタイルの定義

ビューを作成する際は、ビュー・タイプおよび表示スタイルを定義します。これは、ビューの作成プロセス中に一度のみ行います。ビューが作成されると、これら2つの設定を編集できなくなります。

- ▶ ビュー・タイプおよび表示スタイルを定義するには:

  1. ビュー・デザイナーを起動していない場合は、起動します(230ページのビュー・デザイナーの起動を参照)。
  2. 「ビュー・タイプ」で、作成するビューのタイプを選択します:

- 表

- ピボット・テーブル(デフォルト)
- 折れ線グラフ
- 棒グラフ
- 縦棒グラフ
- 面グラフ
- 円グラフ
- 散布図
- 積重ね縦棒グラフ

この選択は、「表示スタイル」で使用可能なオプションとレイアウト領域のフィールドに影響します。



注:

Smart ViewまたはBIアンサーでビューを編集している場合は、この選択を変更できません。

3. 「表示スタイル」で、[232ページの表 16](#)からビュー・タイプおよび表示スタイルのオプションを選択します。

表示スタイルによって、Excelにビューを挿入する方法が決まります。



注:

Smart ViewまたはBIアンサーでビューを編集している場合は、この選択を変更できません。

表16 選択したビュー・タイプと使用可能な表示スタイル

選択したビュー・タイプ	使用可能な表示スタイル
表	Excelテーブル 表
ピボット・テーブル(デフォルト)	Excelピボット・テーブル(デフォルト) ピボット・テーブル
折れ線グラフ	Excelチャート
棒グラフ	チャート・イメージ
縦棒グラフ	
面グラフ	
円グラフ	
散布図	
積上げ縦棒グラフ	

4. [233ページのビュー・レイアウトの定義](#)の手順に従って、ビューの設計プロセスを続行します。

## ビュー・レイアウトの定義

ビューの作成プロセス中に、ビュー・レイアウトを定義します。ビュー・デザイナーで作成されたビューのビュー・レイアウトを編集することも可能です。

▶ ビュー・レイアウトを定義または編集するには:

1. ビュー・デザイナーを起動していない場合は、起動します( [230ページのビュー・デザイナーの起動](#)を参照)。
2. 新規ビューを作成する場合は、[231ページのビュー・タイプおよび表示スタイルの定義](#)の手順を完了します。

ビューを編集する場合は、[233ページのステップ 3](#)に進みます。

3. ビュー・デザイナーの左側のペインで、サブジェクト・エリアとフォルダを展開し、使用する列を表示します。
4. 展開したサブジェクト・エリア・ツリーから列をドラッグし、レイアウト領域にドロップします。

[233ページの表 17](#)に説明されているように、レイアウト領域のエッジは、「ビュー・タイプ」の選択によって異なります。

表17 選択したビュー・タイプと「ビュー・デザイナー」のレイアウト領域で使用可能なエッジ

ビュー・タイプの選択	レイアウト領域のエッジ
表	ページ、セクション、行、列、メジャー  オプション: 「行」エッジで、「行の総計」チェック・ボックスを選択します。
ピボット・テーブル(デフォルト)	ページ、セクション、行、列、メジャー  オプション: 「行」エッジで、「行の総計」チェック・ボックスを選択します。  オプション: 「列」エッジで、「列の総計」チェック・ボックスを選択します。
折れ線グラフ	ページ、セクション、グループ化(X)、折れ線(X)、データ: 折れ線(Y)
棒グラフ	ページ、セクション、グループ化(X)、棒(X)、データ: 棒(Y)
縦棒グラフ	ページ、セクション、グループ化(X)、縦棒(X)、データ: 縦棒(Y)
面グラフ	ページ、セクション、グループ化(X)、面(X)、データ: 面(Y)
円グラフ	ページ、セクション、円、スライス、スライス・サイズ
散布図	ページ、セクション、グループ化(X)、色による変化、データ
積上げ縦棒グラフ	ページ、セクション、グループ化(X)、棒(X)、データ: 棒(Y)

5. オプション: 「ビュー・デザイナー」のエッジにドラッグした列で、該当する場合は次のタスクを実行します:

- エッジ間で列を移動するには、あるエッジから列をドラッグして別のエッジにドロップします。たとえば、「行」エッジから列をドラッグして、「列」エッジにドロップします。
- エッジ内で列を再配置するには、列名をクリックして、上矢印または下矢印を選択します。
- エッジの列または行に小計を追加するには、列を右クリックして「小計」を選択します。



注:

「小計」オプションをドロップダウン・メニューで選択できても、エッジの最後の列に適用される場合、このオプションは無視されます。

- 列を追加してこのビューの条件をフィルタ処理するには、列をクリックして「フィルタに追加」を選択します。

選択した列が「フィルタの定義」タブの「フィルタ式」領域に追加され、さらに詳細を定義できます。詳細は、[234ページの「ビュー・デザイナー」でのビューに対するフィルタ式の定義](#)を参照してください。

- エッジから列を除去するには、列をクリックして「除去」を選択します。

6. オプション: 表またはピボット・テーブル・ビューを使用する場合は、表示スタイルに関係なく、次のようにします:

- **ピボット・テーブル・ビュー:** 「行」および「列」エッジで、必要に応じて「行の総計」および「列の総計」チェック・ボックスを選択または選択解除します。

- **表ビュー:** 「行」エッジで、「行の総計」チェック・ボックスを選択または選択解除します。

7. オプション: ピボット・テーブル表示スタイルを持つピボット・テーブル・ビューを使用する場合、「メジャー・ラベル」要素を使用して次のアクションを実行できます:

- 「列」エッジ内で「メジャー・ラベル」要素を並べ替えます。
- 「メジャー・ラベルを、「メジャー」エッジを除く他のエッジに移動します。

「メジャー・ラベル」要素に関する注意:

- 「メジャー・ラベル」要素は、メジャー・エッジ内のすべてのメジャー列のラベルを表します。ビュー・デザイナーでは、「メジャー・ラベル」要素はデフォルトで「列」エッジに表示されます。
- メジャー・ラベルが使用できるのは、「ビュー・タイプ」と「表示タイプ」の両方が「ピボット・テーブル」である場合のみです。
- 「メジャー・ラベル」要素の別のエッジへの移動または「列」エッジ内での並替えを試行します。結果として、ピボット・テーブル・レイアウトが読み取りやすくなる場合があります。
- メジャー・ラベルはビュー・デザイナーから削除できません。
- メジャー・ラベルはメジャー・エッジに配置できません。

8. フィルタを定義するには、「フィルタ」タブをクリックして、[234ページの「ビュー・デザイナー」でのビューに対するフィルタ式の定義](#)に進みます。

フィルタを定義する予定がない場合は、「OK」をクリックします:

- 新しいビューを作成する場合、そのビューはExcelに挿入されます。
- ビューを編集する場合は、古いビューが削除され、更新されたビューが挿入されます。

## 「ビュー・デザイナー」でのビューに対するフィルタ式の定義

[233ページのビュー・レイアウトの定義](#)の [233ページのステップ 5](#)のフィルタ処理用に追加した列は、ビュー・デザイナーの「フィルタの定義」タブの「フィルタ式」領域に自動的に追加されます。

新規ビューを作成している場合でも、既存のビューを編集している場合でも、フィルタ列を追加し、すべての列のフィルタをさらに定義および絞込みできます。

▶ ビュー・デザイナーで作成したビューにフィルタ式を定義または編集するには:

1. [234ページのステップ 8](#)で「フィルタの定義」タブを選択して、[233ページのビュー・レイアウトの定義](#)の手順を完了します。

[233ページのステップ 5](#)でフィルタ処理のために追加した列が、「フィルタの定義」タブに表示されます。

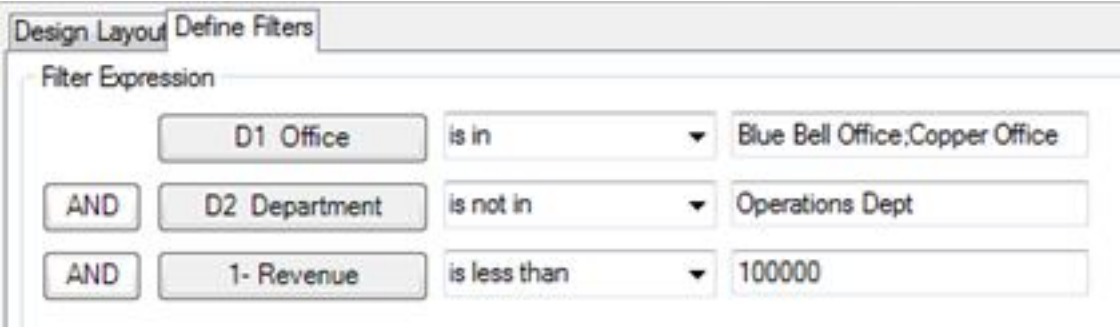
2. オプション: 「フィルタの定義」タブの「フィルタ式」領域に列を追加します。
3. 「フィルタ式」で列を選択します。
4. 列名の横にあるドロップダウン・リストから、対応するフィルタ演算子を選択します。

選択できる演算子のリストは、選択した列のタイプに基づいて移入されます。

演算子選択のガイドラインは、[237ページのフィルタ演算子](#)を参照してください。

5.  をクリックし、「値セクタ」で選択して、最終列のフィルタ値を指定します。

たとえば、Sample Salesデータベースに基づく一連のフィルタは次のようになります:



Filter Expression
D1 Office is in Blue Bell Office,Copper Office
AND D2 Department is not in Operations Dept
AND 1- Revenue is less than 100000

定義したフィルタは「フィルタ要約」ペインに要約されます。たとえば、この手順で定義されたフィルタでは、要約は次のようになります:

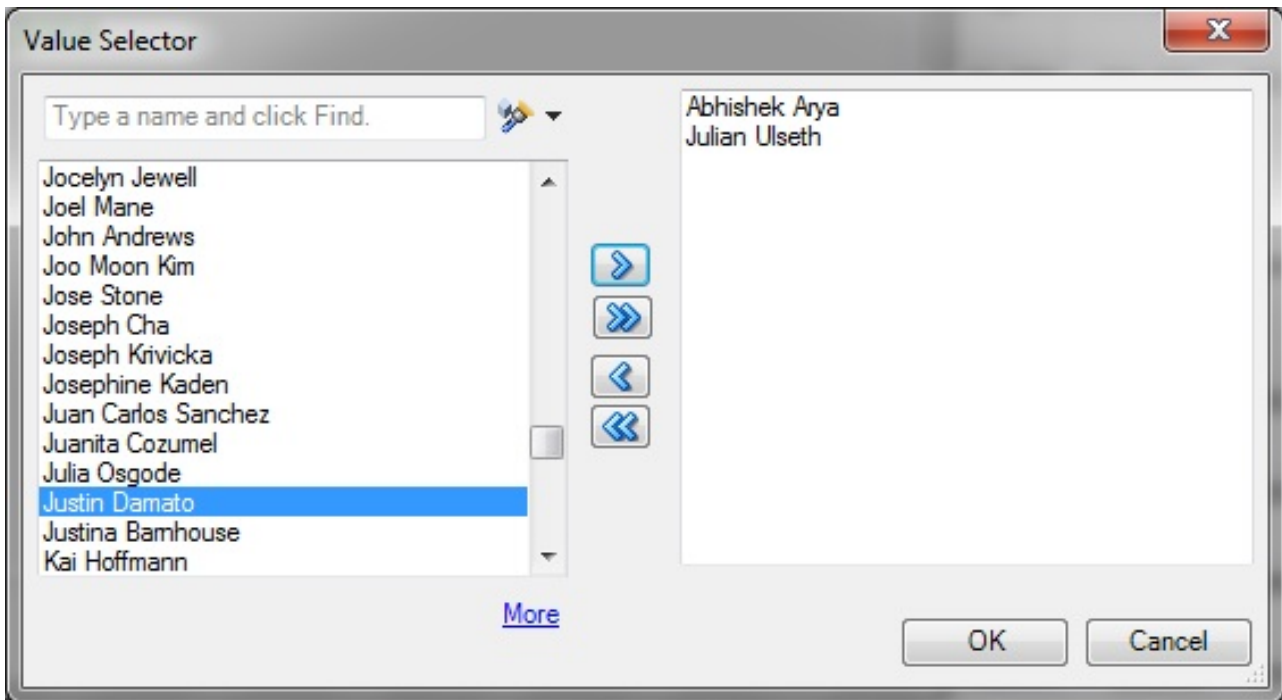


**D1 Office is in Blue Bell Office;Copper Office  
AND D2 Department is not in Operations Dept  
AND 1- Revenue is less than 100000**

場合によっては、選択元のデータが非常に長いことがあります。「値セクタ」の大量のデータのロードに対応するために、Smart Viewでは、グループの値が提供されます。最初に表示されるページをスクロールして選択を行い、「詳細」をクリックすると、次のグループが表示され、そこから選択を行います。データ・リスト全体が表示され、そこから選択を行うまで、「詳細」をクリックし続けます。[236ページの図 70](#)では、例を示しています。



図70 大量のデータ用に「詳細」が表示されている「値セクタ」



6. オプション: 必要に応じて、「フィルタ式」の論理演算子ボタンをクリックし、演算子を選択して変更します:

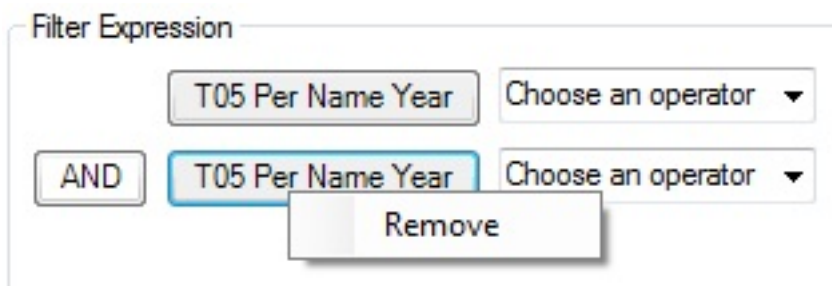
- AND
- OR

デフォルトの論理演算子は「AND」です。

フィルタ式の1つの行の論理演算子を変更すると、式のすべての行の論理演算子が自動的に変更されて、すべての行の演算子が同じになります。

7. オプション: フィルタ式から行を除去するには、236ページの図 71に示すように、行の列ボタンを右クリックして「除去」を選択します。

図71 フィルタ式の列を右クリックしたときに表示される除去オプション



8. フィルタの定義が終了したら、「OK」をクリックしてExcelにビューを挿入します。



## フィルタ演算子

演算子を選択して、必要な値を指定する際には、237ページの表 18に示すガイドラインを使用します。選択できる演算子のリストは、実行している機能(フィルタの作成、またはダッシュボード・プロンプトの作成など)および選択した列のタイプに基づいて移入されます。

表18 列フィルタ作成時の演算子の選択のガイドライン

演算子	使用ガイドライン
次と等しい/次にある	テキスト、数値または日付が含まれる列に対して有効です。1つの値または複数の値を指定します。結果には、列のデータがフィルタの値と一致するレコードのみが含まれます。
次と等しくない/次がない	テキスト、数値または日付が含まれる列に対して有効です。1つの値または複数の値を指定します。結果には、列のデータがフィルタの値と一致しないレコードのみが含まれます。
次より小さい	数値または日付が含まれる列に対して有効です。1つの値を指定します。結果には、列のデータがフィルタの値より小さいレコードのみが含まれます。
次より大きい	数値または日付が含まれる列に対して有効です。1つの値を指定します。結果には、列のデータがフィルタの値より大きいレコードのみが含まれます。
次以下	数値または日付が含まれる列に対して有効です。1つの値または複数の値を指定します。結果には、列のデータがフィルタの値以下のレコードのみが含まれます。
次以上	数値または日付が含まれる列に対して有効です。1つの値または複数の値を指定します。結果には、列のデータがフィルタの値以上のレコードのみが含まれます。
次の範囲内	数値または日付が含まれる列に対して有効です。2つの値を指定します。結果には、列のデータがフィルタの2つの値の間にあるレコードのみが含まれます。
NULLである	<p>テキスト、数値または日付が含まれる列に対して有効です。値を指定しません。この演算子では、列にデータがないことのみがテストされます。結果には、列にデータがないレコードのみが含まれます。</p> <p>データが存在するかどうかかわかれば便利な場合がありますが、null演算子を使用すればそのような条件をテストできます。たとえば、会社に世界規模の住所録があり、米国の住所のみを抽出する必要があるとします。「State」フィールドにデータがあるかどうかを確認すれば、この作業を行うことができます。このフィールドには、米国以外の住所の場合は値が移入されず(nullであり)、米国の住所の場合は値が移入されます(nullではありません)。列で特定の値をチェックしなくても、米国の住所リストを取得できます。</p>

演算子	使用ガイドライン
NULLでない	テキスト、数値または日付が含まれる列に対して有効です。値を指定しません。この演算子では、列にデータがあることのみがテストされます。結果には、列にデータがあるレコードのみが含まれます。
最上位である	<p>テキストまたは日付が含まれる列に対して有効です。1つの値を指定します。結果には、最初のn件のレコードのみが含まれます(nはフィルタの値として指定した整数です)。</p> <p>この演算子は、ランク付けされた結果に対して使用します。たとえば、この演算子を使用すると、アルファベット順で最初の10件のブランド名を含むリストを取得できます。</p>
最下位である	<p>テキストまたは日付が含まれる列に対して有効です。1つの値を指定します。結果には、最後のn件のレコードのみが含まれます(nはフィルタの値として指定した整数です)。</p> <p>この演算子は、ランク付けされた結果に対して使用します。たとえば、この演算子を使用すると、最後の10件の販売取引の日付リストを取得できます。</p>
上位	<p>数値が含まれる列に対して有効です。1つの値を指定します。結果には、最初のn件のレコードのみが含まれます(nはフィルタの値として指定した整数です)。</p> <p>この演算子は、ランク付けされた結果に対して使用します。たとえば、この演算子を使用すると、金額で販売上位10位のリストを取得できます。</p>
下位	<p>数値が含まれる列に対して有効です。1つの値を指定します。結果には、最後のn件のレコードのみが含まれます(nはフィルタの値として指定した整数です)。</p> <p>この演算子は、ランク付けされた結果に対して使用します。たとえば、この演算子を使用すると、問題の報告が最も少ない顧客のリストを取得できます。</p>
すべて含む	テキスト、数値または日付が含まれる列に対して有効です。1つの値または複数の値を指定します。結果には、列のデータがフィルタのすべての値を含むレコードのみが含まれます。
含まない	テキスト、数値または日付が含まれる列に対して有効です。1つの値または複数の値を指定します。結果には、列のデータがフィルタの値をまったく含まないレコードのみが含まれます。
いずれかを含む	テキスト、数値または日付が含まれる列に対して有効です。1つの値または複数の値を指定します。結果には、列のデータがフィルタの値を少なくとも1つ含むレコードのみが含まれます。

演算子	使用ガイドライン
次で始まる	テキスト、数値または日付が含まれる列に対して有効です。1つの値を指定します。結果には、列のデータがフィルタの値で始まるレコードのみが含まれます。
次で終わる	テキスト、数値または日付が含まれる列に対して有効です。1つの値を指定します。結果には、列のデータがフィルタの値で終わるレコードのみが含まれます。
次と類似する(パターン照合)	テキストが含まれる列に対して有効です。1つの値または複数の値を指定します。パーセント記号(%)をワイルドカード文字として使用する必要があります。最大で2つのパーセント記号を値に指定できます。結果には、列のデータがフィルタのパターン値と一致するレコードのみが含まれます。
次と類似しない(パターン照合)	テキストが含まれる列に対して有効です。1つの値または複数の値を指定します。パーセント記号(%)をワイルドカード文字として使用する必要があります。最大で2つのパーセント記号を値に指定できます。結果には、列のデータがフィルタのパターン値と一致しないレコードのみが含まれます。

## ビューの発行

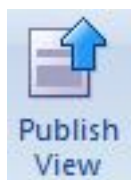
ビュー・デザイナーで作成したアド・ホック・ビュー定義は、Smart Viewに挿入した後に、BIアンサーのプレゼンテーション・カタログに発行できます。アド・ホック・ビューを発行すると、複合ビューおよびタイトル・ビューのデフォルト・ビューと該当するユーザー作成ビューで、BIアンサーに新しい分析が作成されます。


編集していたビューを発行する際には、Oracle Business Intelligence Enterprise Editionカタログ内のビューを上書きすることも、ビューの新しい名前を指定して編集したバージョンを発行し、2つのバージョンのビューをBIアンサーに保持することもできます。

- ▶ Oracle BI EEプレゼンテーション・カタログにビューを発行するには:

  1. ビュー・デザイナーで作成または編集したビュー内にカーソルを置きます。
  2. Oracle BI EEのリボンで、「ビューの発行」アイコン( [247ページの図 73](#))をクリックします。

図72 「ビューの発行」アイコン



3.  「レポートの保存」で、「カタログのルート」の隣のをクリックし、プレゼンテーション・カタログ内でビューを保存する場所に移動します。
4. 「分析名」に名前を入力します。

編集したビューを発行する際は、同じ名前を指定して、編集したビューを上書きすることも、新しい名前を指定して、そのビューのオリジナル・バージョンをそのまま保持することもできます。

## 5. 「保存」をクリックします。

保存されるビューのコンポーネントには、Table 1、Pivot Table 1、Chart 1などのデフォルトの命名ルールが適用されます。

## 注意

- Smart Viewで作成および編集されたビューを発行する場合は、上書きする必要があります。
- プレゼンテーション・カタログで既存のビューを上書きする際、そのビューがBIアンサーで作成されたものである場合には、エラー・メッセージが表示されます。
- 発行後にビューを変更するには、次のようにします: BIアンサーで行われた変更を表示する場合は、ビューを再度挿入する必要があります。
  - BIアンサーで作成されたビューの場合は、BIアンサーを使用します。
  - Smart Viewで作成されたビューの場合は、Smart Viewで編集することも、BIアンサーで編集することも可能です。
- ビュー・デザイナーで作成されたビューのデータをリフレッシュできます。

「ビュー・デザイナー」で作成したアド・ホック・ビューはスナップショットとして残り、カタログに発行された分析との同期は維持されません。

- BIアンサーでビューに加えた変更は、Excelで表示するアド・ホック・ビューには反映されません。BIアンサーで加えた変更を表示するには、プレゼンテーション・カタログからSmart Viewの新しいシートにビューを再挿入する必要があります。

## 「ビュー・デザイナー」で作成したビューの編集

### サブトピック

- [ビューの編集について](#)
- [ビューの編集のガイドライン](#)
- [編集するビューへのアクセス](#)
- [ビューが作成された場所の特定](#)
- [ビューの編集](#)

## ビューの編集について

ビュー・デザイナーで作成または編集されたビューを編集するには、Smart Viewのビュー・デザイナーを使用します。

次の場合は、Smart Viewのビュー・デザイナーを使用しないでください:

- BIアンサーで作成されたビューを編集する場合
- Smart Viewで作成し、BIアンサーで編集したビューを編集する場合

ビューの編集のプロセス・フローには、次のタスクが含まれます:

- [241ページのビューの編集のガイドライン](#)の情報の確認

- [241ページの編集するビューへのアクセス](#)
- [242ページのビューが作成された場所の特定](#)
- [242ページのビューの編集](#)

## ビューの編集のガイドライン

ビュー・デザイナーを使用して編集できるのは、Smart Viewのビュー・デザイナーから作成および挿入されたビューのみです。

Smart Viewで作成されたビューは、BIアンサーでも編集できます。ただし、Smart Viewで作成し、BIアンサーで編集したビューは、ビュー・デザイナーで編集できなくなります。



注:

BIアンサーで作成されたビューを編集するには、BIアンサー・アプリケーションを使用します ([228ページのBIアンサーでの分析の編集](#)を参照してください)。

## 編集するビューへのアクセス

▶ 編集するビューにアクセスするには:

1. 次のいずれかの方法でビューにアクセスします:

- **設計セッション中** - たとえば、ビュー・デザイナーでビューを作成し、「OK」をクリックしてビューを挿入した後、Officeドキュメント内のビューを選択し、ビュー・デザイナー・アイコンをクリックして、編集するためのビュー・デザイナーを再起動します。
- **保存済のOfficeドキュメントのビューから** - Officeドキュメント内のビューを選択しビュー・デザイナー・アイコンをクリックして、編集するためのビュー・デザイナーを再起動します。
- **プレゼンテーション・カタログ内の発行済ビューから** - 「ビュー・デザイナーでのビューのロード」コマンドを使用して、カタログ・ツリーからSmart Viewのビュー・デザイナーにビューをロードします。ビューを選択する際は、「ビュー・デザイナーでのビューのロード」コマンドを、「アクション」パネルまたは右クリック・メニューから使用できます。

編集するビューをプレゼンテーション・カタログから選択するには、Officeドキュメントに最初に挿入しないでください。編集する際は、「ビュー・デザイナーでのビューのロード」コマンドを必ず使用してください。

2. [242ページのビューが作成された場所の特定](#)に説明されているプロセスを進め、ビュー・デザイナーでビューを編集する必要があるかどうかを特定します。



注:

BIアンサーで作成されたビューを編集するために、Smart Viewのビュー・デザイナーを使用しないでください。BIアンサーでビューを作成するために使用されたフォーマットおよび設計機能をビュー・デザイナーがサポートしていない場合、ビューをロードできません。このため、ビュー・デザイナーは、Smart Viewのビュー・デザイナーを使用して作成および挿入されたビューのみを編集するために使用してください。

## ビューが作成された場所の特定

Smart Viewでビューを編集する場合、Smart Viewのビュー・デザイナーでビューが作成されたかどうかを把握する必要があります。

シート上のビューがSmart ViewとBIアンサーのいずれで作成されたか不明な場合、「ドキュメント・コンテンツ」ペインでビューの作成元を確認できます。

▶ ビューの作成元を特定するには:

1. ビューを含むOfficeドキュメントを開きます。
2. 「ドキュメント・コンテンツ」ペイン内でビューを見つけ、ビュー名を右クリックして「プロパティ」を選択します。
3. 「ソースの表示」フィールドの値が**AdHocDesigner**であることを確認してください。

可能な値は次のとおりです:

- **AdHocDesigner** - ビューの作成元はSmart Viewのビュー・デザイナーです
- **Catalog** - ビューの作成元はBIアンサーのプレゼンテーション・カタログです
- **CopyFromAnswers** - ビューはBIアンサーからコピーされ、Smart View Officeドキュメントに貼り付けられました。

**AdHocDesigner**とマークされるビューは、ビュー・デザイナーで編集する必要のあるビューのみです。

場合によっては、BIアンサーで作成されたビューが、Smart Viewのビュー・デザイナーにロードされる場合があることに注意してください。ビュー・デザイナーでBIアンサーからのビューを操作する場合、自己責任で行ってください。ビュー・デザイナーでのこれらのビューの編集はサポートされていません。サポートされているのは、Smart Viewのビュー・デザイナーを使用して作成および編集されたビューの編集に対するビュー・デザイナーの使用のみです。

4. 「ソースの表示」プロパティが**AdHocDesigner**の場合、ビューはビュー・デザイナーで編集できます。 [242ページのビューの編集](#)で説明されている手順に進みます。

「ソースの表示」が **Catalog**または**CopyFromAnswers**の場合、BIアンサーでビューを編集します。

## ビューの編集

Smart Viewのビュー・デザイナーで作成されたビューを操作する場合は、次のいずれかの方法でビューを編集できます:

- [230ページのビュー・デザイナーの起動](#)または [240ページのビューの編集についての説明](#)に従って、編集するビューをSmart Viewのビュー・デザイナーにロードします。

ビューのレイアウトの編集(列の追加や削除など)、またはフィルタの変更を実行できます。Smart Viewでのビューの編集の詳細は、次のトピックを参照してください:

○ [233ページのビュー・レイアウトの定義](#)

○ [234ページの「ビュー・デザイナー」でのビューに対するフィルタ式の定義](#)

- BIアンサーで分析を開きます。詳細は、BIアンサーのドキュメントを参照してください。次に、更新されたビューをSmart Viewに挿入します。



---

注:

ビューをビュー・デザイナーで作成し、次にBIアンサーで編集した場合、それ以降はOracle Business Intelligence Answersでのみ編集することをお勧めします。ビューの編集にSmart Viewを使用しないでください。ガイドラインについては、[228ページの編集が可能および不可能な対象](#)を参照してください。

---

## 「ビュー・デザイナー」で作成したビューのデータのリフレッシュ

ビュー・デザイナーで作成したビューは、プレゼンテーション・カタログからOfficeアプリケーションに挿入したビューをリフレッシュするのと同じ方法でリフレッシュできます。

詳細は、[221ページのビューのリフレッシュ・プリファレンスの指定](#)および [221ページのビューのリフレッシュ](#)を参照してください。





# 16

## Smart Viewのオプション

この項の内容:

Smart Viewのオプションの設定 .....	245
グローバル・オプションとシート・レベル・オプション .....	245
メンバー・オプション .....	247
データ・オプション .....	252
詳細オプション .....	258
フォーマット・オプション .....	261
セルのスタイル .....	266
拡張機能 .....	268

### Smart Viewのオプションの設定

Smart Viewのリボンで「オプション」をクリックして開く「オプション」ダイアログ・ボックスで、Smart Viewのオプションを設定します。

### グローバル・オプションとシート・レベル・オプション

Smart Viewには、グローバル・オプションとシート・オプションの2つのタイプのオプションがあります。

- [245ページのグローバル・オプション](#)
- [246ページのシート・オプション](#)

### グローバル・オプション

グローバル・オプションは、現在のワークブック全体(現在のワークブックに追加された新しいワークシートを含む)、および今後作成されるワークブックに適用されるオプションです。

グローバル・オプションの設定を変更すると、既存のワークシートおよびワークブック、その他のOfficeドキュメントに影響があります。

グローバル・オプションは次のとおりです:

- [258ページの詳細オプション](#)
- [268ページの拡張機能](#)

- 266ページのセルのスタイル



注:

グローバル・オプションを保存する際には、「OK」ボタンを使用します。グローバル・オプションの変更は、すべての既存および新規のワークシートやワークブックのデフォルト設定となるため、これらのグローバル・オプションで、「デフォルト・オプションとして保存」またはすべてのワークシートに適用を使用する必要はありません。「デフォルト・オプションとして保存」およびすべてのワークシートに適用は、シート・レベルのオプション設定でのみ使用されます。

## シート・オプション

シート・レベル・オプションは、設定しているワークシートに固有のオプションです。シート・オプションは、Excelでのみ適用可能です。WordまたはPowerPointでは、シート・オプションを設定しません。

3つのオプションはシート・レベル・オプションの保存に使用できます:

- **OK** - シート・レベル・オプションの変更は、現在のワークブックの現行シートにのみ適用されます。変更内容は、現在のワークブックの既存シートまたは新規シートには適用されません。既存のワークブックや新しいワークブックにも影響しません。

PowerPointまたはWordでは、「OK」は、「詳細」タブで行った選択(グローバル・オプションであり、シート・オプションではありません)にのみ適用されます

- **デフォルト・オプションとして保存** - シート・レベル・オプションの変更は、現在のワークブックの新規ワークシート、新規ワークブック、およびその他の新規Officeドキュメントのデフォルトのオプション設定にもなります。シート・レベル・オプションの設定を変更しても、既存のワークシートまたはワークブックには影響しません。

たとえばExcelで、メンバー・オプションを変更し、「デフォルト・オプションとして保存」を選択したとします。ワークブック内の既存のワークシートにその変更を伝播する場合は、既存の各ワークシートに個別にアクセスし、同じ変更を行う必要があります。これにより、ワークシートごとに、異なるシート・レベル・オプションを使用できます。ただし、変更内容は、現在のワークブックに作成する新規ワークシート、新規ワークブックに自動的に伝播されます。



注:

PowerPointまたはWordでは、「デフォルト・オプションとして保存」オプションを使用できません。

- **すべてのワークシートに適用** - シート・レベル・オプションの変更は、現在のワークブックに存在する、Smart Viewコンテンツを含むすべての既存ワークシートに適用されます。現在のワークブック内の新規ワークシート、その他の既存ワークブック、または新規ワークブックには適用されません。

たとえば、メンバー・オプションを変更し、「すべてのシートに適用」を選択したとします。変更内容は、現在のワークブックに存在する、Smart Viewコンテンツを含むすべての既存ワークシートに伝播されます。これにより、現在のワークブックのシート・レベル・オプションのクイック更新が可能になります。ただし、それらの変更は、現在のワークブックの新規ワークシート、既存のワークブックまたは新規ワークブックには伝播されません。

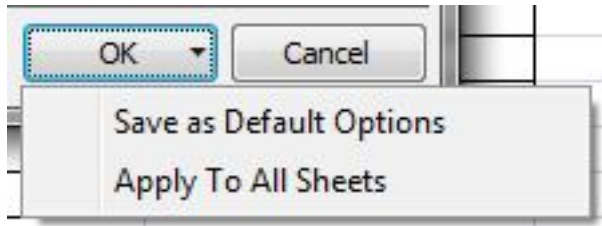


注:

PowerPointまたはWordでは、すべてのワークシートに適用オプションを使用できません。

「デフォルト・オプションとして保存」およびすべてのワークシートに適用には、Excelで「オプション」ダイアログ・ボックスにある「OK」ボタンの矢印をクリックしてアクセスします( 247ページの図 73を参照してください)。

図73 「OK」ボタンからアクセスした「デフォルト・オプションとして保存」



シート・レベル・オプションは次のとおりです:

- 247ページのメンバー・オプション
- 252ページのデータ・オプション
- 261ページのフォーマット・オプション

## メンバー・オプション

### サブトピック

- Planningフォームおよびアド・ホックでサポートされているメンバー・オプション
- Financial Managementフォームおよびアド・ホックでサポートされているメンバー・オプション
- Essbaseアド・ホックでサポートされているメンバー・オプション

「メンバー・オプション」はシート・レベルのオプションで、設定しているワークシートに固有です。



注:

すべてのデータ・プロバイダで、248ページの表 19にリストされているすべてのオプションがサポートされているわけではありません。特定のプロバイダでサポートされているオプションを見つけるには、上に示されているサブトピックを参照してください。

248ページの表 19に記載されているメンバー・セルの表示オプションを設定するには、Smart Viewのリボンで「オプション」をクリックし、左ペインで「メンバー・オプション」を選択します。終了したら、変更を保存するための選択を行います:

- OK
- デフォルト・オプションとして保存
- すべてのワークシートに適用



注:

PowerPointまたはWordでは、すべてのワークシートに適用オプションを使用できません。

これらのオプションに関する完全な説明は、[246ページのシート・オプション](#)を参照してください。

表19 メンバー・オプション

オプション	説明
一般	一般
ズーム・イン・レベル	<p>ドロップダウン・メニューから次のいずれかを選択し、アド・ホック分析のデフォルトのズーム・レベルを指定します:</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・「次のレベル」を選択すると、選択したメンバーの子のデータが取得されます</li><li>・「すべてのレベル」を選択すると、選択したメンバーのすべての子孫のデータが取得されます</li><li>・「最下位レベル」を選択すると、ディメンション内の最下位レベルのメンバーのデータが取得されます。</li><li>・「兄弟レベル」を選択すると、選択したメンバーと同一レベルのすべてのメンバーのデータが取得されます</li><li>・「同一レベル」を選択すると、選択したメンバーの兄弟のデータが取得されます</li><li>・「同世代」を選択すると、選択したメンバーと同じ世代のすべてのメンバーのデータが取得されます</li><li>・「式」を選択すると、選択したメンバーの式で定義されたすべてのメンバーのデータを取得できます。式は、親へのメンバー式あるいは集計でも可能です。</li></ul>
メンバー名の表示	<p>ドロップダウン・メニューから次のいずれかを選択し、セルのメンバー名の表示方法を指定します:</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・「メンバー名のみ」を選択すると、メンバー名が表示されます</li><li>・「個別のメンバー名のみ」を選択すると、完全修飾名が表示されます</li><li>・「メンバー名と別名」を選択すると、メンバー名とその別名が表示されます</li><li>・「説明のみ」を選択すると、別名が表示されます</li></ul>
インデント	<p>ドロップダウン・メニューから次のいずれかを選択し、階層レベルのインデント方法を指定します:</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・なし</li><li>・「サブアイテム」を選択すると、子孫がインデント表示されます。祖先は列内で左寄せになります。</li></ul>

オプション	説明
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「合計」を選択すると、祖先がインデント表示されます。子孫は列内で左寄せになります。</li> </ul>
祖先の位置	<p>ドロップダウン・メニューから次のいずれかを選択し、階層内の祖先の位置を指定します:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「最上位」を選択すると、最上位レベルから最下位レベルの順序で階層が表示されます。</li> <li>・「最下位」を選択すると、最下位レベルから最上位レベルの順序で階層が表示されます。</li> </ul> <p>注:</p> <p>Essbaseは、「祖先の位置」オプションをサポートしていません。</p>
メンバーの保持	メンバーの保持
選択を含める	選択したメンバーと、操作の結果として取得されたメンバーを表示します。
選択したグループ内	<p>選択したセル・グループでのみアド・ホック操作が実行され、選択していないセル・グループはそのまま残ります。この設定は、グリッドの下に行として、またはグリッドを超えて列として、複数のディメンションがある場合にのみ有効です。「ズーム」、「選択項目のみ保持」、および「選択項目のみ除去」で使用します。</p>
選択されていないグループの除去	<p>「ズーム・イン」または「ズーム・アウト」では、選択したメンバー、およびズームの結果として取得されたメンバーを除くすべてのディメンションとメンバーが除去されます。</p>
コメントと式	コメントと式
アドホック操作の式とコメントを保存(ピボットを除く)	<p>問合せ中に、グリッドに式とコメントが保存されます。このオプションをクリアにすると、問合せを高速で実行できますが、式とコメントは除去または無視されます。「式の充てん」または「拡張コメント処理を有効にする」が選択されている場合は、このオプションを選択する必要があります。</p> <p>注:</p> <p>このオプションは、メンバーとデータ・セルの両方の式に適用されます。</p>
式の充てん	<p>メンバー・セルに関連付けられている式を、ズーム・インの結果として取得されたメンバーに伝播します。「アドホック操作の式とコメントを保存(ピボットを除く)」と「Excelフォーマットの使用」の両方が選択されている場合、セルのフォーマットがズーム・インの結果として取得されたメンバーに伝播されます。</p>

オプション	説明
	注: このオプションは、メンバーとデータ・セルの両方の式に適用されます。
拡張コメント処理を有効にする	コメントが含まれているアド・ホック・グリッドでコメントとメンバー名をレビューし、修正できます。
POV変更時に式を保存	リフレッシュしたり、POVに変更を加えると、セルの式が保存されます。それ以外の場合、グリッドの式は失われます。

後に続く項では、プロバイダでサポートされているメンバー・オプションを示しています。

## Planningフォームおよびアド・ホックでサポートされているメンバー・オプション

表20 Planningフォームおよびアド・ホックでサポートされているメンバー・オプション

オプション	フォーム	アド・ホック
ズーム・イン・レベル: 次のレベル	いいえ	はい
ズーム・イン・レベル: すべてのレベル	いいえ	はい
ズーム・イン・レベル: 最下位レベル	いいえ	はい
ズーム・イン・レベル: 兄弟レベル	いいえ	いいえ
ズーム・イン・レベル: 同一レベル	いいえ	いいえ
ズーム・イン・レベル: 同一世代	いいえ	いいえ
ズーム・イン・レベル: 式	いいえ	いいえ
メンバー名の表示: メンバー名のみ	はい	はい
メンバー名の表示: 個別のメンバー名	いいえ	いいえ
メンバー名の表示: メンバー名と別名	いいえ	いいえ
メンバー名の表示: 説明のみ	いいえ	いいえ
インデント: なし	いいえ	はい
インデント: サブアイテム	いいえ	はい
インデント: 合計	いいえ	はい
祖先の位置: 上位	いいえ	はい
祖先の位置: 下位	いいえ	はい
選択を含める	いいえ	はい
選択したグループ内	いいえ	はい
選択されていないグループの除去	いいえ	いいえ
アドホック操作の式とコメントを保存 (ピボットを除く)	いいえ	サポートされています: アドホック操作の式とコメントを保存(ピボットを除く)



オプション	フォーム	アド・ホック
<ul style="list-style-type: none"> <li>式の充てん</li> <li>拡張コメント処理を有効にする</li> </ul>		サポートされていません: 式の充てん  サポートされています: 拡張コメント処理を有効にする
POV変更時に式を保存	はい	いいえ

## Financial Managementフォームおよびアド・ホックでサポートされているメンバー・オプション

表21 Financial Managementフォームおよびアド・ホックでサポートされているメンバー・オプション

オプション	フォーム	アド・ホック
ズーム・イン・レベル: 次のレベル	いいえ	はい
ズーム・イン・レベル: すべてのレベル	いいえ	はい
ズーム・イン・レベル: 最下位レベル	いいえ	はい
ズーム・イン・レベル: 兄弟レベル	いいえ	いいえ
ズーム・イン・レベル: 同一レベル	いいえ	いいえ
ズーム・イン・レベル: 同一世代	いいえ	いいえ
ズーム・イン・レベル: 式	いいえ	いいえ
メンバー名の表示: メンバー名のみ	はい	はい
メンバー名の表示: 個別のメンバー名	いいえ	いいえ
メンバー名の表示: メンバー名と別名	はい	はい
メンバー名の表示: 説明のみ	はい	はい
インデント: なし	いいえ	はい
インデント: サブアイテム	いいえ	はい
インデント: 合計	いいえ	はい
祖先の位置: 上位	いいえ	はい
祖先の位置: 下位	いいえ	はい
選択を含める	いいえ	はい
選択したグループ内	いいえ	はい
選択されていないグループの除去	いいえ	はい
アドホック操作の式とコメントを保存 (ピボットを除く)	いいえ	サポートされています: アドホック操作の式とコメントを保存(ピボットを除く)
<ul style="list-style-type: none"> <li>式の充てん</li> <li>拡張コメント処理を有効にする</li> </ul>		サポートされていません: 式の充てん  サポートされています: 拡張コメント処理を有効にする
POV変更時に式を保存	はい	いいえ

## Essbaseアド・ホックでサポートされているメンバー・オプション

表22 Essbaseアド・ホックでサポートされているメンバー・オプション

オプション	アド・ホック
ズーム・イン・レベル: 次のレベル	はい
ズーム・イン・レベル: すべてのレベル	はい
ズーム・イン・レベル: 最下位レベル	はい
ズーム・イン・レベル: 兄弟レベル	はい
ズーム・イン・レベル: 同一レベル	はい
ズーム・イン・レベル: 同一世代	はい
ズーム・イン・レベル: 式	はい
メンバー名の表示: メンバー名のみ	はい
メンバー名の表示: 個別のメンバー名	いいえ
メンバー名の表示: メンバー名と別名	はい
メンバー名の表示: 説明のみ	いいえ
インデント: なし	はい
インデント: サブアイテム	はい
インデント: 合計	はい
祖先の位置: 上位	いいえ
祖先の位置: 下位	いいえ
選択を含める	はい
選択したグループ内	はい
選択されていないグループの除去	はい  注: このオプションが有効になるのは、「アドホック操作の式とコメントを保存(ピボットを除く)」および「式の充てん」オプションが選択解除されている場合のみです。
アドホック操作の式とコメントを保存(ピボットを除く)  ・ 式の充てん ・ 拡張コメント処理を有効にする	はい
POV変更時に式を保存	いいえ

## データ・オプション

### サブトピック

- Planningフォームおよびアド・ホックでサポートされているデータ・オプション
- Financial Managementフォームおよびアド・ホックでサポートされているデータ・オプション
- Essbaseアド・ホックでサポートされているデータ・オプション

「データ・オプション」はシート・レベル・オプションで、設定しているワークシートに固有です。



注:

すべてのデータ・プロバイダで、253ページの表 23にリストされているすべてのオプションがサポートされているわけではありません。特定のプロバイダでサポートされているオプションを見つけるには、前に示されているサブトピックを参照してください。

253ページの表 23に記載されているデータ・セルの表示オプションを設定するには、Smart Viewのリボンで「オプション」をクリックし、左ペインで「データ・オプション」を選択します。終了したら、変更を保存するための選択を行います:

- OK
- デフォルト・オプションとして保存
- すべてのワークシートに適用



注:

PowerPointまたはWordでは、すべてのワークシートに適用オプションを使用できません。

これらのオプションに関する完全な説明は、246ページのシート・オプションを参照してください。

表23 データ・オプション

オプション	説明
行の抑制	グリッドを見やすくするために、表示する必要のないデータ・タイプを含む行を抑制できます。  注: 抑制行では、セルによるExcelの式の参照は更新されません。
データなし/欠落	データベース内にデータが存在しないセルを含む行が抑制されます(データなしはゼロとは異なります。ゼロはデータ値です)。後でデータなし/欠落の選択を解除すると、抑制されていた値は、その時点以降に入力された場合にのみ表示されます。このオプションを選択していた間に抑制されていた値を取得するためには、ズーム・アウトしてからズーム・インする必要があります。
ゼロ	ゼロのみを含む行が抑制されます。
アクセス権なし	行に含まれるデータを表示するためのセキュリティ・アクセスをユーザーが持っていない場合に、その行が抑制されます。

オプション	説明
	<p>注:</p> <p>このオプションがサポートされているのは、Financial Managementのみです。</p>
無効	無効な値のみを含む行が抑制されます。
アンダースコア文字	メンバー名にアンダースコア文字を含む行が抑制されます(スマート・スライス操作では使用不可)。
繰り返しメンバー	グリッドの方向にかかわらず繰り返されるメンバー名を含む行が抑制されます。
列の抑制	<p>グリッドを見やすくするために、表示する必要のないデータ・タイプを含む列を抑制できます。注意:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>抑制列では、セルによるExcelの式の参照は更新されません。</li> <li>「列の抑制」オプションは、Essbaseデータ・ソースに接続しているときには使用できません。</li> <li>「列の抑制」オプションは、Financial Managementデータ・ソースに対してアド・ホックを実行する際にはサポートされません。</li> </ul>
データなし/欠落	<p>データベース内にデータが存在しないセルを含む列が抑制されます(データなしはゼロとは異なります。ゼロはデータ値です)。</p> <p>後でデータなし/欠落の選択を解除すると、抑制されていた値は、その時点以降に入力された場合にのみ表示されます。このオプションを選択していた間に抑制されていた値を取得するためには、ズーム・アウトしてからズーム・インする必要があります。</p>
ゼロ	ゼロのみを含む列が抑制されます。
アクセス権なし	列に含まれるデータを表示するためのセキュリティ・アクセスをユーザーが持っていない場合に、その列が抑制されます。
置換	置換
#NoData/Missingラベル #NoAccessラベル #Invalid/#Meaningless	<p>データ・セルには、データが欠落している、または無効である、あるいは表示権限のないデータが含まれている場合があります。Smart Viewでは、このようなセルにはデフォルトで#Missing、#Invalid、#No Accessとそれぞれ表示されますが、これらのラベルの変更は可能です。変更するには、これらのフィールドで次のいずれかを入力します:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>任意のテキスト(またはデフォルトのまま)。テキスト・ラベルは説明的であるという利点がありますが、Excel関数の失敗の原因になります。</li> <li>#NumericZeroは、数値ゼロ(0)の置換ラベルを指定します。#NumericZeroとともに関数を使用できますが、「ゼロを送信」を選択しないかぎり、(ゼロが置換ラベルではなく実際のゼロである場合でも)データベースにゼロを送信することはできません。数値ゼロのラベルを含むセルに依存している計算が正しく行われ、セルの値がゼロとして使用されます。</li> </ul>

オプション	説明
ゼロを送信	上で#NumericZeroを入力し、データベースにゼロを送信できるようにする場合に選択します。
無効なデータを表示	実際のデータが無効な場合でも、「#Invalid/#Meaningless」やその他の置換テキストではなく、実際のデータを表示します。データが存在しない場合、セルは空白のままです。
Essbaseフォーマット文字列を有効にする	数値データを表示する特定のフォーマットを管理者が作成している場合、このフォーマットのデータを表示します。
モード	モード
セルの表示	<p>実際のデータを表示するかわりに、セルの計算またはプロセス・ステータスを表示できます:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「データ」を選択すると、実際のデータが表示されます。</li> <li>「計算ステータス」を選択すると、データの計算、変換、集計を行う必要があるかどうかが表示されます。</li> <li>「プロセス管理」を選択すると、プロセス・ユニットと呼ばれるデータの組合せに対するエンティティ・レベル(Financial Management)、または承認レベル(Planning)が表示されます。</li> </ul>
データなし操作	ナビゲート中にソース・データを計算しないようにしてピボット、ズーム、選択項目のみ保持、選択項目のみ除去などの操作を高速化します。データを取得する準備ができたなら、「データ無し操作」の選択を解除します。
欠落ブロックの抑制	データベースにデータが存在しないセルのブロックを抑制します。

後に続く項では、プロバイダでサポートされているデータ・オプションを示しています。

## Planningフォームおよびアド・ホックでサポートされているデータ・オプション

表24 Planningフォームおよびアド・ホックでサポートされているデータ・オプション

オプション	フォーム	アド・ホック
データなし/欠落	はい	はい
ゼロ	はい	はい
アクセス権なし	はい	はい
無効	いいえ	いいえ
アンダースコア文字	いいえ	いいえ
繰返しメンバー	いいえ	はい
データなし/欠落	はい	はい
ゼロ	はい	はい
アクセス権なし	はい	はい

オプション	フォーム	アド・ホック
#NoData/Missingラベル - #Missing	はい	はい
#NoData/Missingラベル - #NumericZero	はい	はい
#NoAccessラベル - #No Access	はい	はい
#NoAccessラベル - #NumericZero	はい	はい
#Invalid/ #Meaningless - #Invalid	いいえ	いいえ
#Invalid/ #Meaningless - #NumericZero	いいえ	いいえ
ゼロを送信	いいえ	いいえ
無効なデータを表示	いいえ	いいえ
Essbaseフォーマット文字列を有効にする	いいえ	いいえ
セルの表示	いいえ	いいえ
データなし操作	はい	はい
欠落ブロックの抑制	はい	はい

## Financial Managementフォームおよびアド・ホックでサポートされているデータ・オプション

表25 Financial Managementフォームおよびアド・ホックでサポートされているデータ・オプション

オプション	フォーム	アド・ホック
データなし/欠落	はい	はい
ゼロ	はい	はい
アクセス権なし	はい	はい
無効	はい	はい
アンダースコア文字	はい	はい
繰返しメンバー	いいえ	はい
データなし/欠落	はい	はい
ゼロ	はい	はい
アクセス権なし	はい	はい

オプション	フォーム	アド・ホック
#NoData/Missingラベル - #Missing	はい	はい
#NoData/Missingラベル - #NumericZero	はい	はい
#NoAccessラベル - #No Access	はい	はい
#NoAccessラベル - #NumericZero	はい	はい
#Invalid/ #Meaningless - #Invalid	はい	はい
#Invalid/ #Meaningless - #NumericZero	はい	はい
ゼロを送信	いいえ	いいえ
無効なデータを表示	はい	はい
Essbaseフォーマット文字列を有効にする	いいえ	いいえ
セルの表示 - データ	はい	はい
セルの表示 - 計算ステータス	はい	はい
セルの表示 - プロセス管理	はい	はい
データなし操作	はい	はい
欠落ブロックの抑制	いいえ	いいえ

## Essbaseアド・ホックでサポートされているデータ・オプション

表26 Essbaseアド・ホックでサポートされているデータ・オプション

オプション	アド・ホック
データなし/欠落	はい
ゼロ	はい
アクセス権なし	いいえ
無効	いいえ
アンダースコア文字	いいえ
繰返しメンバー	はい
データなし/欠落	いいえ
ゼロ	いいえ



オプション	アド・ホック
アクセス権なし	いいえ
#NoData/Missingラベル - #Missing	いいえ
#NoData/Missingラベル - #NumericZero	いいえ
#NoAccessラベル - #No Access	いいえ
#NoAccessラベル - #NumericZero	いいえ
#Invalid/#Meaningless - #Invalid	いいえ
#Invalid/#Meaningless - #NumericZero	いいえ
ゼロを送信	はい
無効なデータを表示	いいえ
Essbaseフォーマット文字列を有効にする	はい
セルの表示	いいえ
データなし操作	はい
欠落ブロックの抑制	いいえ

## 詳細オプション

詳細オプションはグローバル・オプションで、現在のワークブック全体(現在のワークブックに追加された新しいワークシートを含む)、および今後作成されるすべてのワークブックおよびワークシートに適用されます。グローバル・オプション設定への変更は、すべての既存および新規のMicrosoft Officeドキュメントのデフォルトになります。

これらのオプションで、すべてのワークシートに適用または「デフォルト・オプションとして保存」を使用する必要はありません。



注:

すべてのデータ・プロバイダで、表に表示されているすべてのオプションがサポートされているわけではありません。

258ページの表 27に記載されている管理タスクおよびその他の高度なタスクのオプションを設定するには、Smart Viewのリボンで「オプション」をクリックし、左ペインで「詳細」を選択します。完了したら、「OK」をクリックします。

表27 詳細オプション

オプション	説明
一般	一般
共有接続URL	すべての接続に対するデフォルトのURLを指定します。構文http://<server>:19000/workspace/SmartViewProvidersを使用します。

オプション	説明
	<p>注:</p> <p>Smart Viewのオンライン・ヘルプを使用できるようにするには、このフィールドにOracle Hyperion Enterprise Performance Management WorkspaceのURLを入力する必要があります。</p>
元に戻す処理の数	<p>1回の操作で許可される元に戻す処理とやり直し処理の数(0から100)。</p> <p><a href="#">93ページの「元に戻す」と「やり直し」の使用</a>方法を参照してください。</p>
最後に使用したアイテム数	<p>「Smart Viewホーム」、およびSmart Viewのリボンの「開く」メニューに表示される、最後に使用した接続の数(15以下)。</p>
すべてのMRUアイテムの削除	<p>最後に使用したアイテム・リストの全アイテム(リストに固定されたアイテムを含む)を削除します。</p>
ロギング	ロギング
ログ・メッセージ表示	<p>接続されたデータ・ソースからのすべてのエラー、警告および情報メッセージが、それぞれの発生時に表示されますが、どのメッセージ・レベルをログ・ファイルに記録するかを選択できます。表示および記録のメッセージ・レベルを選択します:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>情報:</b> 警告とエラーを含むすべてのメッセージ。これは、問題を診断する場合に推奨される選択です。パフォーマンスに悪影響を及ぼす可能性があります。</li> <li>• <b>警告:</b> 警告およびエラーのレベルのメッセージ。パフォーマンスに悪影響を及ぼす可能性があります。</li> <li>• <b>エラー:</b> エラー・メッセージのみ - 一般的な用途に推奨されます。パフォーマンスにわずかな影響があります。</li> <li>• <b>なし:</b> すべてのメッセージが抑制されます。</li> <li>• <b>拡張情報:</b> 情報レベル・メッセージおよびサーバーのすべてのレスポンスとリクエスト。パフォーマンスが低下します。</li> </ul>
メッセージをファイルに送る	<p>ログ・メッセージをファイルに保存します。ログ・ファイルの場所を変更するには、省略記号ボタンをクリックします。</p>
次回起動時にログ・ファイルをクリア	<p>Excelが閉じた後に表示される次のログ・メッセージの生成が開始されると、ログ・ファイルがクリアされます。</p>
Smart Viewリボンの診断グループを表示	<p>Smart Viewリボンの「診断」グループ・オプションを表示します。</p> <p>診断ツールの使用の詳細は、<a href="#">311ページの第19章「Smart View診断」</a>を参照してください。</p>

オプション	説明
表示	表示
言語	Smart Viewを表示する言語を選択します。言語を変更したら、Officeアプリケーションを再起動する必要があります。「デフォルト」は、Smart Viewのインストール時に指定した言語です。
Smart Viewショートカット・メニューのみを表示	ショートカット・メニューにSmart Viewのメニュー・アイテムのみを表示します。このオプションを設定しない場合、ショートカット・メニューにはExcelとSmart Viewの両方のアイテムが表示されます。
OutlookでSmart Viewを無効にする	OutlookでSmart Viewタスク・リストを使用しない場合に、OutlookでSmart Viewを使用不可にします。
リボン・コンテキストの変更を有効にする	Smart Viewのリボンのボタンを使用した後に、アクティブなデータ・プロバイダのリボンを自動的に表示します。
アクティブな接続に対して無効なオプションを使用不可にする	アクティブな接続に対して無効な「オプション」ダイアログ・ボックスのオプションを使用不可にします。
ドリル・スルー・レポートのツールチップの表示	セル上にマウスを移動したときに使用可能なドリルスルー・レポートのリストをデフォルトで表示します。
進捗情報を表示するまでの時間(秒)	操作が始まってから「 <b>Smart View進捗</b> 」ステータス・バーが表示されるまでの時間を秒単位で指定します。
互換性	互換性
Excelファイル・サイズの縮小	<p>Smart Viewのワークブックを含むExcelファイルに保持されているメタデータを圧縮します。</p> <p>注:</p> <p>このオプションは、Smart Viewの異なるバージョン間の相互運用性に関係します。組織のすべてのユーザーがSmart View 9.3.1.6以上の場合、このオプションは必ず選択する必要があります。次の状況では、このオプションを選択解除します:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• リリース9.3.1.6より前のSmart Viewのユーザー、またはSmart ViewのリリースにかかわらずMicrosoft Office 2002以前のユーザーにExcelワークブックを送信します。これらのワークブックでは: <ul style="list-style-type: none"> <li>○関数を含むグリッドは、データを表示する前にリフレッシュする必要があります。</li> <li>○アド・ホック・モードで、POV設定が失われます。この動作は、新規のアド・ホック・グリッドの動作と同じです。</li> </ul> </li> <li>• リリース9.3.1.6より前のSmart Viewのユーザー、またはSmart ViewのリリースにかかわらずMicrosoft Office</li> </ul>

オプション	説明
	2002以前のユーザーから送信されたワークブックを開きます。
向上したメタデータ・ストレージ	<p>内部データ構造のより効率のよい記憶域を使用できます。このオプションがオフの場合、Smart Viewは互換性の目的でメタデータのコピーを2つ保持します。その結果、全体的なパフォーマンスが低下する場合があります。</p> <p>注:</p> <p>このオプションは、Smart Viewの異なるバージョン間の相互運用性に関係します。</p> <p>組織のすべてのユーザーがSmart View 9.3.1.6以上の場合、このオプションは必ず選択する必要があります。次の状況では、このオプションを選択解除します:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>リリース9.3.1.6より前のSmart Viewのユーザー、またはSmart ViewのリリースにかかわらずMicrosoft Office 2002以前のユーザーにExcelワークブックを送信します。</li> <li>リリース9.3.1.6より前のSmart Viewのユーザー、またはSmart ViewのリリースにかかわらずMicrosoft Office 2002以前のユーザーから送信されたワークブックを開きます。</li> </ul>
選択した関数とその従属をリフレッシュ	選択した関数を実行する前に、従属関数を同じシートで実行します。
モード	モード
操作にダブルクリックを使用	<p>ダブルクリックすると空のワークシートにデフォルトのグリッドが取得され、セル・コンテンツがズーム・インまたはズーム・アウトされます。選択しない場合、ダブルクリックは標準のExcel機能のままで、セルは編集モードになります。</p> <p>Oracle Essbase Spreadsheet Add-inとSmart Viewが同じコンピュータにインストールされており、まだ <a href="#">340ページのSmart ViewおよびSpreadsheet Add-in</a>の手順を完了していない場合は、ダブルクリックすると、Spreadsheet Add-inにログインするようプロンプトが表示されます。</p>

## フォーマット・オプション

### サブトピック

- [Planningフォームおよびアド・ホックでサポートされているフォーマット・オプション](#)
- [Financial Managementフォームおよびアド・ホックでサポートされているフォーマット・オプション](#)
- [Essbaseアド・ホックでサポートされているフォーマット・オプション](#)

「フォーマット」オプションは、シート・レベル・オプションで、設定しているワークシートに固有です



注:

すべてのデータ・プロバイダで、[262ページの表 28](#)にリストされているすべてのオプションがサポートされているわけではありません。特定のプロバイダでサポートされているオプションを見つけるには、上に示されているサブピックを参照してください。

[262ページの表 28](#)に記載されているセル・フォーマットのオプションを設定するには、Smart Viewリボンの「オプション」をクリックし、左のパネルで「フォーマット」を選択します。終了したら、変更を保存するための選択を行います:

- OK
- デフォルト・オプションとして保存
- すべてのワークシートに適用



注:

PowerPointまたはWordでは、すべてのワークシートに適用オプションを使用できません。

これらのオプションに関する完全な説明は、[246ページのシート・オプション](#)を参照してください。

表28 フォーマット・オプション

オプション	説明
フォーマット	フォーマット
3桁ごとのセパレータの使用	数値データでカンマまたは他の3桁ごとのセパレータを使用します。Excelの「オプション」の「国際化」タブで、3桁ごとのセパレータとして#または\$を使用しないでください。
セルのスタイルの使用	「セルのスタイル」に定義されているフォーマット、またはデータ・プロバイダによって定義されているフォーマットを使用します。ユーザー・フォーマットをオーバーライドします。 <a href="#">266ページのセルのスタイル</a> を参照してください。
Excelフォーマットの使用	Smart ViewフォーマットではなくExcelフォーマットを使用して、アド・ホック操作にExcelフォーマットを保持します。 注: すべてのプロバイダのアド・ホック・グリッドでは、「元に戻す」を実行するとExcelフォーマットは保持されません。
操作時にフォーマットを移動	親セル・フォーマットをコピーしてセルでズームインし、操作後にセルの場所が変更された場合でもこのフォーマットを保持します。

オプション	説明
数値のフォーマットを保持	<p>ディメンションをドリル・ダウンする場合、「ホーム」リボン、「書式」、「セルの書式設定」の順に選択する際に、設定されているExcelのフォーマットが保持されます。たとえば、負数を赤で表示することを選択している場合、任意のメンバーをドリル・ダウンする際に負数は赤で表示されます。</p>
列幅の調整	<p>セルの内容に合わせて列の幅を自動的に調整します。</p>
スケール	<p>アド・ホックおよびフォームに適用されます。フォーム定義に定義されている設定をオーバーライドします。正または負のスケール・オプションを選択し、「リフレッシュ」をクリックします。正のスケール: 元の値を係数10で除算します。例:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1 - 元の値はすべて10で除算されます:   <math display="block">\text{cell value}/10</math> <p>たとえば、<math>100/10=10</math>では、10が表示されます。</p> </li> <li>• 2 - 元の値はすべて100で除算されます: <math>\text{cell value}/100</math>   <p>たとえば、<math>100/100=1</math>では、リフレッシュ後に1が表示されます。</p> </li> <li>• 3 - 元の値はすべて1000で除算されます:   <math display="block">\text{cell value}/1000</math> <p>たとえば、<math>100/1000=0.1</math>では、リフレッシュ後に0.1が表示されます。</p> </li> </ul> <p>パターンは、その他の正のスケール・オプションでも同様です。「小数点以下の桁数」オプションが「デフォルト」または0に設定されている場合は、0が表示されることに注意してください。ただし、表示する値が0.1などの場合は、「小数点以下の桁数」オプションを1に設定する必要があります。負のスケール: 元の値に係数10を乗算します。例:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• -1 - 元の値はすべて10で乗算されます:   <math display="block">\text{cell value}*10</math> <p>たとえば、<math>100*10=1000</math>では、1000が表示されます。</p> </li> <li>• -2 - 元の値はすべて100で乗算されます: <math>\text{cell value}*100</math>   <p>たとえば、<math>100*100=10000</math>では、リフレッシュ後に10000が表示されます。</p> </li> <li>• -3 - 元の値はすべて1000で乗算されます:   <math display="block">\text{cell value}*1000</math> </li> </ul>

オプション	説明
	<p>たとえば、100*1000=100000では、リフレッシュ後に100000が表示されます。</p> <p>パターンは、その他の負のスケール・オプションでも同様です。</p> <p>注:</p> <p>目的の表示結果を得られるように、「小数点以下の桁数」オプションを使用します。</p>
小数点以下の桁数	<p>アド・ホックおよびフォームに適用されます。フォーム定義に定義されている設定をオーバーライドします。データ値の小数点以下の桁数を指定します。たとえば、Smart Viewで、選択されている小数点のオプションが1だとします。すべての値で、右側の少数の桁が1つに変更されます。元の値が50.56の場合、リフレッシュ後の値は50.5と表示されます。同様に、選択されているオプションが3の場合、表示される値は50.560になります。フォームで「デフォルト」が選択されている場合、フォームの定義設定が適用されます。</p> <p>注:</p> <p>目的の表示結果を得られるように、「スケール」オプションを使用します。</p>
フォーム	フォーム
メンバー・ラベルの繰返し	<p>メンバー名を各データ行に表示することにより、PlanningおよびFinancial Managementフォームの読取りやすさが向上します。</p> <p>繰返しメンバーが1つのセルにマージされるフォームでは、メンバー名が画面表示外になり、メンバー名と行データの間でスクロールを繰り返す必要が生じることがあります。「メンバー・ラベルの繰返し」を選択すると、フォームをより簡単に読み取り、使用できます。</p>

後に続く項では、プロバイダでサポートされているフォーマット・オプションを示しています。

## Planningフォームおよびアド・ホックでサポートされているフォーマット・オプション

表29 Planningフォームおよびアド・ホックでサポートされているフォーマット・オプション

オプション	フォーム	アド・ホック
3桁ごとのセパレータの使用	はい	はい



オプション	フォーム	アド・ホック
セルのスタイルの使用	はい	はい
Excelフォーマットの使用 - 操作時にフォーマットを移動	いいえ	はい
数値のフォーマットを保持	はい	はい
列幅の調整	はい	はい
スケール	はい	はい
小数点以下の桁数	はい	はい
メンバー・ラベルの繰返し	はい	はい

## Financial Managementフォームおよびアド・ホックでサポートされているフォーマット・オプション

表30 Financial Managementフォームおよびアド・ホックでサポートされているフォーマット・オプション

オプション	フォーム	アド・ホック
3桁ごとのセパレータの使用	はい	はい
セルのスタイルの使用	はい	はい
Excelフォーマットの使用 - 操作時にフォーマットを移動	いいえ	はい
数値のフォーマットを保持	はい	はい
列幅の調整	はい	はい
スケール	はい	はい
小数点以下の桁数	はい	はい
メンバー・ラベルの繰返し	はい	はい

## Essbaseアド・ホックでサポートされているフォーマット・オプション

表31 Essbaseアド・ホックでサポートされているフォーマット・オプション

オプション	アド・ホック
3桁ごとのセパレータの使用	いいえ
セルのスタイルの使用	はい
Excelフォーマットの使用 - 操作時にフォーマットを移動	はい
数値のフォーマットを保持	いいえ

オプション	アド・ホック
列幅の調整	はい
スケール	はい
小数点以下の桁数	いいえ
メンバー・ラベルの繰返し	いいえ

## セルのスタイル

### サブトピック

- [Planning](#) フォームおよびアド・ホックでサポートされているセルのスタイル・オプション
- [Financial Management](#) フォームおよびアド・ホックでサポートされているセルのスタイル・オプション
- [Essbase](#) アド・ホックでサポートされているセルのスタイル・オプション

「セルのスタイル」オプションはグローバル・オプションで、現在のワークブック全体(現在のワークブックに追加された新しいワークシートを含む)、および今後作成されるすべてのワークブックおよびワークシートに適用されます。グローバル・オプション設定への変更は、すべての既存および新規のMicrosoft Officeドキュメントのデフォルトになります。

これらのオプションで、すべてのワークシートに適用または「デフォルト・オプションとして保存」を使用する必要はありません。

「セルのスタイル」ページで、特定のタイプのメンバーやデータ・セルを示すためのフォーマットを指定できます。1つのメンバー・セルが親と子の両方になれるなど、セルが複数のタイプに属する可能性があるため、セルのスタイルが適用される優先順位を設定することもできます。



注:

特定のプロバイダでサポートされているオプションを見つけるには、上に示されているサブトピックを参照してください。

#### ▶ スタイルを指定するには:

1. 使用可能なセル・タイプのリストを展開します。
2. セル・タイプを選択します。
3. 「プロパティ」を選択し、フォント、背景色、または枠線を指定します。

Smart Viewでは、セルのタイプごとに1つしかスタイルを設定できません。

たとえば、親メンバーについて背景スタイルまたはフォント・スタイルを設定できますが、親メンバーの背景とフォントの両方のスタイルを設定することはできません。

4. セルのスタイルの優先順位を変更するには、「上へ移動」および「下へ移動」ボタンを使用するか、セルのスタイルをドラッグ・アンド・ドロップします。
5. 「OK」をクリックします。この設定は、リフレッシュを行うか、ドリル操作を実行すると有効になります。
6. オプション: セルのスタイルまたは優先順位を、接続されたSmart Viewプロバイダのデフォルトのスタイルに戻すには、デフォルトのスタイルをクリックします。

7. オプション: このページで選択した内容をデフォルト設定として指定するには、「OK」ボタンの矢印をクリックして、「デフォルト・オプションとして保存」を選択します。

後に続く項では、プロバイダでサポートされているフォーマット・オプションを示しています。

## Planningフォームおよびアド・ホックでサポートされているセルのスタイル・オプション

表32 Planningフォームおよびアド・ホックでサポートされているセルのスタイル・オプション

オプション	フォーム	アド・ホック
メンバー・セル		
メンバー	はい	はい
式	はい	いいえ
データ・セル		
ロック済	はい	いいえ
サポート詳細	はい	はい
読取り専用	はい	はい
セル・テキスト	はい	はい
ドキュメントの添付	はい	はい
書込み可能(最も低い優先度を推奨)	はい	はい
ドリルスルー	はい	はい

## Financial Managementフォームおよびアド・ホックでサポートされているセルのスタイル・オプション

表33 Financial Managementフォームおよびアド・ホックでサポートされているセルのスタイル・オプション

オプション	フォーム	アド・ホック
メンバー・セル		
メンバーの追加	はい	いいえ
リンク・フォーム	はい	いいえ
メンバー	はい	はい
サーバーによる計算	いいえ	いいえ
クライアントによる計算	いいえ	いいえ
データ・セル		
ドリルスルー	はい	はい
計算結果	いいえ	はい
無効	はい	はい

オプション	フォーム	アド・ホック
ロック済	N/A	N/A
影響	はい	はい
読取り専用	はい	はい
セル・テキスト	はい	はい
書込み可能(最も低い優先度を推奨)	はい	はい
サーバーによる計算	いいえ	いいえ
クライアントによる計算	いいえ	いいえ
割当てをサポート	いいえ	いいえ

## Essbaseアド・ホックでサポートされているセルのスタイル・オプション

表34 Essbaseアド・ホックでサポートされているセルのスタイル・オプション

オプション	アド・ホック
メンバー・セル	
属性	はい
動的計算	はい
式を含む	はい
共有	はい
子	はい
親	はい
重複メンバー	はい
メンバーのドリル・スルー	はい
データ・セル	
ドリルスルー	はい
読取り専用	はい
書込み可能(最も低い優先度を推奨)	はい
リンク・オブジェクト	はい

## 拡張機能

拡張機能オプションは、Excel、WordまたはPowerPointで設定するグローバル・オプションであり、現在のドキュメントの全体(現在のワークブックに追加された新規ワークシート、現在のプレゼンテーションに追加された新規スライド、または現在のドキュメントに追加された新規ページを含む)と、今後作成されるExcelワークブックおよびワークシート、PowerPointプレゼンテーションおよびスライド、Word文書を含むすべてのMicrosoft Officeドキュメントに適用されます。グローバル・オプション設定への変更は、すべての既存および新規のMicrosoft Officeドキュメントのデフォルトになります。

ユーザーが「オプション」ダイアログ・ボックスの「拡張機能」タブを初めて開くと、他のOracle製品でSmart Viewの機能を利用するために現在インストールされている拡張機能がリストされています。サポートされている拡張機能の完全なリストは、[269ページのサポートされている拡張機能](#)を参照してください。ダウンロードおよびインストール可能なその他の拡張機能は、ダイアログ・ボックスの「更新のチェック」リンクを使用すると表示できるようになります。

「拡張機能」タブの次のタスクを完了します：

- [270ページの拡張機能の有効化および無効化](#)
- [270ページの使用可能な拡張機能の最初のチェック](#)
- [271ページの拡張機能のインストール](#)
- [271ページの拡張機能の更新](#)
- [272ページの拡張機能のインストールのログギングの有効化](#)
- [272ページの拡張機能のダウンロードのデフォルトURLのオーバーライド](#)
- [273ページの拡張機能のアンインストール](#)



注：

拡張機能の有効化と無効化、およびExcel、PowerPointまたはWordからの拡張機能オプションの設定を行うことができます。

これらのオプションで、すべてのワークシートに適用または「デフォルト・オプションとして保存」を使用する必要はありません。

## サポートされている拡張機能

Smart Viewにインストールできる拡張機能のタイプには、プロバイダの拡張機能とユーザーごとの拡張機能の2つがあります。

### プロバイダの拡張機能

プロバイダの拡張機能は、Oracle Enterprise Performance Management Systemサーバー・コンポーネントに依存しているか、サーバー・コンポーネントと統合されています。たとえば、Oracle Hyperion Disclosure ManagementおよびFinancial Reportingの拡張機能などです。

Smart Viewでは、次のEPM System製品のプロバイダの拡張機能をサポートしています：

- Disclosure Management
- Financial Reporting
- Oracle Hyperion Strategic Finance
- Planningの予測プランニング拡張機能
- Planningのプランニング管理拡張機能
- Oracle Crystal Ball Enterprise Performance Management

前述の拡張機能については、それぞれのOracle製品のガイドを参照してください。

Smart Viewには次の拡張機能が同梱されています:

- スマート・クエリー
- Oracle BI EE

上記の拡張機能は、このガイドで説明されています。

## ユーザーごとの拡張機能

ユーザーごとの拡張機能は、EPM Systemサーバー・コンポーネントに依存していません。ユーザーごとの拡張機能は、Smart View管理者が社内で作成した拡張機能、または管理者がOracleや別の組織から取得した拡張機能になります。

Smart Viewに同梱されているかどうかにかかわらず、インストールされているすべての拡張機能は、Smart Viewを起動すると自動的に使用可能になります。

ユーザーごとの拡張機能は、このガイドでは説明されていません。

拡張機能のインストール、更新およびアンインストールに関する情報は、後続の項を参照してください。

## 拡張機能の有効化および無効化

▶ 拡張機能を使用可能にするには:

1. Smart Viewリボンから、「オプション」、「拡張機能」の順に選択します。
2. リストで拡張機能を検索し、「使用可能」チェック・ボックスを選択します。

チェック・ボックスを選択すると、ラベルは「使用可能」に変更されます。

3. **オプション:** 拡張機能が無効にするには、リストで拡張機能を検索し、「使用可能」チェック・ボックスを選択解除します。

## 使用可能な拡張機能の最初のチェック

Smart Viewを最初にインストールした後、使用可能なすべての拡張機能をチェックするには、このトピックの手順を完了します。



---

注:

Smart Viewのシステム管理者は、インストール可能な拡張機能を制御します。

---

▶ Smart Viewの最初のインストール後に拡張機能をチェックするには:

1. Smart Viewリボンから、「オプション」、「拡張機能」の順に選択します。
2. 「更新のチェック」リンクをクリックします。

これは、Smart View管理者が使用可能にしたすべての拡張機能の初期チェックです。

3. プロンプトに従い、Officeアプリケーションを閉じて再度開きます。
4. [271ページの拡張機能のインストール](#)の手順に従います。

## 拡張機能のインストール

拡張機能のインストールが可能である場合、「オプション」ダイアログ・ボックスの「**拡張機能**」タブからインストールできます。




注:

Smart Viewのシステム管理者は、インストール可能な拡張機能を制御します。

▶ 拡張機能をインストールするには:

1. Smart Viewリボンから、「オプション」、「**拡張機能**」の順に選択します。
2. 「**更新のチェック**」リンクをクリックします。

Smart Viewでは、新規および更新された拡張機能、および必須の拡張機能をチェックします。

3. 拡張機能のリストおよび  **Install** の表示場所を確認し、「インストール」リンクをクリックしてインストーラを起動します。

必須のユーザーごとの拡張機能は次のように指定されます:



4. プロンプトに従い、拡張機能をインストールします。

## 拡張機能の更新

拡張機能の更新が可能である場合、「オプション」ダイアログ・ボックスの「**拡張機能**」タブから更新できます。



注:


Smart Viewのシステム管理者は、使用可能な拡張機能、および拡張機能の更新のためのオプションを制御します。

▶ 拡張機能の更新をチェックしてインストールするには:

1. Smart Viewリボンから、「オプション」、「**拡張機能**」の順に選択します。
2. 拡張機能を更新するには、次のいずれかのタスクを実行します:
  - 「**更新のチェック**」リンクをクリックして、使用可能なすべての拡張機能の更新と、新しい拡張機能をすぐにチェックします。
  - 「**Microsoft Officeの開始時に更新をチェック**」チェック・ボックスを選択します。

Officeアプリケーションを起動するたびに、Smart Viewでは拡張機能の更新のチェックを実行します。



3. 拡張機能のリストおよび  Update Available の表示場所を確認し、「使用可能な更新」リンクをクリックしてインストーラを起動します。
4. プロンプトに従い、拡張機能をインストールします。

更新が使用可能になり、拡張機能インストーラをダウンロードするよう求められたら、Officeアプリケーションを閉じて、インストーラを実行します。

Officeアプリケーションを再起動すると、拡張機能は、「オプション」ダイアログ・ボックスの「拡張機能」ページに「使用可能」として表示されます。

## 拡張機能のインストールのロギングの有効化

- ▶ 拡張機能のインストール・プロセスのログを作成するには:
  1. Smart Viewリボンから、「オプション」、「拡張機能」の順に選択します。
  2. 「拡張機能のインストールのロギングを使用可能にする」チェック・ボックスを選択します。
  3. 「オプション」ダイアログ・ボックスの「詳細」タブで、次の手順を完了します:
    - a. 「ログ・メッセージ表示」レベルが少なくとも「警告」に設定されていることを確認します。
    - b. 「メッセージをファイルに送る」チェック・ボックスを選択し、ログ・ファイルの場所を記録します。
  4. [271ページの拡張機能のインストール](#)および [271ページの拡張機能の更新](#)の説明に従って、拡張機能のインストールまたは更新に進みます。

## 拡張機能のダウンロードのデフォルトURLのオーバーライド

Smart View管理者は、デフォルト以外の場所に拡張機能インストーラを移動し、そのインストーラの場所を知らせることができます。これを行う場合、次の手順を完了します。



注:

拡張機能インストーラのデフォルト以外の場所には、URL、ローカル・フォルダまたはネットワーク・フォルダを指定できます。


- ▶ デフォルトのダウンロードURLまたはフォルダの場所をオーバーライドするには:
  1. Smart Viewリボンから、「オプション」、「拡張機能」の順に選択します。
  2. 「デフォルト・ダウンロードURLのオーバーライド」チェック・ボックスを選択します。

[272ページの図 74](#)に示すように、テキスト・ボックスおよび「参照」ボタンがアクティブになります。

図74 「デフォルト・ダウンロードURLのオーバーライド」チェック・ボックス




The screenshot shows a checkbox labeled 'Override default download URL' which is checked. Below it is a text input field with a small '...' button to its right.

3. URLをテキスト・ボックスに入力するか、 をクリックして、Smart View管理者が指定したローカル・フォルダまたはネットワーク・フォルダに移動します。

UpdateList.xmlファイルは、指定されたURLまたはフォルダのいずれかに自動的に追加されます。


## 拡張機能のアンインストール

アンインストールする権限のある拡張機能名の隣に、「削除」リンク  **Remove** が表示されます。

▶ 拡張機能をアンインストールするには:

1. Smart Viewリボンから、「オプション」、「拡張機能」の順に選択します。
2. 「更新のチェック」リンクをクリックします。

Smart Viewでは、削除できる拡張機能をチェックします。

3. 拡張機能リストで、アンインストールする拡張機能を検索し、「削除」リンク  **Remove** をクリックします。

Officeアプリケーションを再起動すると、拡張機能がアンインストールされることを知らせるメッセージが表示されます。



## この項の内容:

関数の使用方法 .....	275
関数の作成 .....	276
関数の実行 .....	285
関数内のリンクの修正 .....	285
HsGetValue関数のコピーと貼付け .....	285
関数の説明 .....	287
スマート・タグを使用した関数へのアクセス .....	297
一般的な関数エラー・コード .....	297

## 関数の使用方法



注:

この章において、Planningへの参照は、オンプレミスおよびOracle Planning and Budgeting Cloud ServiceバージョンのPlanningの両方に適用されます。

データベースの内容を詳しく把握している場合は、[275ページの表 35](#)に説明されているSmart Viewの関数を使用して、Excelのセルにある特定のデータを操作できます。



注:

[275ページの表 35](#)のSmart View関数を使用する場合、メンバー名、ディメンション名または変数名にハッシュ記号(#)やセミコロン(; )を使用しないでください。これらの文字は、この章に記載された関数のデリミタとして予約されています。

表35 Smart Viewの関数およびサポートされているプロバイダ

関数	説明	サポートされるプロバイダ
<a href="#">287ページのHsGetValue</a>	データ・ソースからデータを取得します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>Financial Management</li> <li>Essbase</li> <li>Planning</li> <li>Hyperion Enterprise (プライベート接続のみ)</li> </ul>

関数	説明	サポートされるプロバイダ
<a href="#">288ページのHsSetValue</a>	データ・ソースに値を送信します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>Financial Management</li> <li>Essbase</li> <li>Planning</li> <li>Hyperion Enterprise (プライベート接続のみ)</li> </ul>
<a href="#">289ページのHsGetSheetInfo</a>	現在のワークシートに関する詳細情報を取得します。	プロバイダ非依存
<a href="#">290ページのHsCurrency</a>	選択したメンバーのエンティティ通貨を取得します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>Financial Management</li> <li>Hyperion Enterprise (プライベート接続のみ)</li> </ul>
<a href="#">291ページのHsDescription</a>	デフォルトのメンバーの説明を表示します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>Financial Management</li> <li>Essbase</li> <li>Hyperion Enterprise (プライベート接続のみ)</li> </ul>
<a href="#">292ページのHsLabel</a>	デフォルトのメンバーのラベルを表示します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>Financial Management</li> <li>Hyperion Enterprise (プライベート接続のみ)</li> </ul>
<a href="#">293ページのHsGetText</a>	データ・ソースからセル・テキストを取得します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>Financial Management</li> <li>Hyperion Enterprise (プライベート接続のみ)</li> </ul>
<a href="#">295ページのHsSetText</a>	データ・ソースにセル・テキストを送信します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>Financial Management</li> <li>Hyperion Enterprise (プライベート接続のみ)</li> </ul>
<a href="#">296ページのHsGetVariable</a>	代替変数の関連する値を取得します。	Essbase

## 関数の作成

関数は手動で、または関数ビルダーを使用して作成できます。

### 関数ビルダーでの関数の作成

関数ビルダーで、関数を選択し、関数で使用する接続とメンバーを指定します。これにより、関数ビルダーが適切な構文を使用して関数を作成し、選択したセルにその関数を入力します。これらの関数は編集が可能です。

関数ビルダーの特定のフィールドで使用可能な選択内容は、関数ビルダーの他のフィールドでの選択内容によって限定されてきます。たとえば、選択した関数でサポートされる接続のみが表示され、選択した関数でサポートされるディメンションのみが表示されます。

各関数の引数でセル参照を選択できます。引数の入力値がわかる場合は、オフライン・モードで関数を作成できます。各引数でタイプ・イン機能を使用できます。



注:

リリース11.1.2.2.310より前のリリースの関数ビルダーで作成された関数を使用できます。ただし、リリース11.1.2.2.310以降の関数ビルダーでは、セミコロン(;)ではなくカンマ(,)がメンバー・リスト引数の区切りに使用されています。どちらの文字も新しい関数ビルダーでサポートされていますが、前のバージョンで作成された関数を変更しようとする、新しいカンマ区切り形式に変換するよう求められます。変換しないことを選択すると、関数に加えた変更は一切適用されません。

▶ 関数ビルダーを使用して関数を作成するには:

1. 適切なデータ・ソースに接続します。

関数ビルダーは、共有接続とプライベート接続をサポートします。

**Essbase:** プライベート接続を使用していて、関数が別名表を使用する場合、正しい別名表または"デフォルト"の別名表が接続に設定されていることを確認する必要があります。Smart Viewパネルで、データベース名を右クリックし、「別名表の設定」を選択します。正しい別名表が選択されていることを確認したら、シートをリフレッシュします。

2. シートで、関数を入力するセルを選択します。
3. 「Smart View」パネルで関数のベースにするデータベースに移動し、データベース名を右クリックして「関数の構築」を選択します。

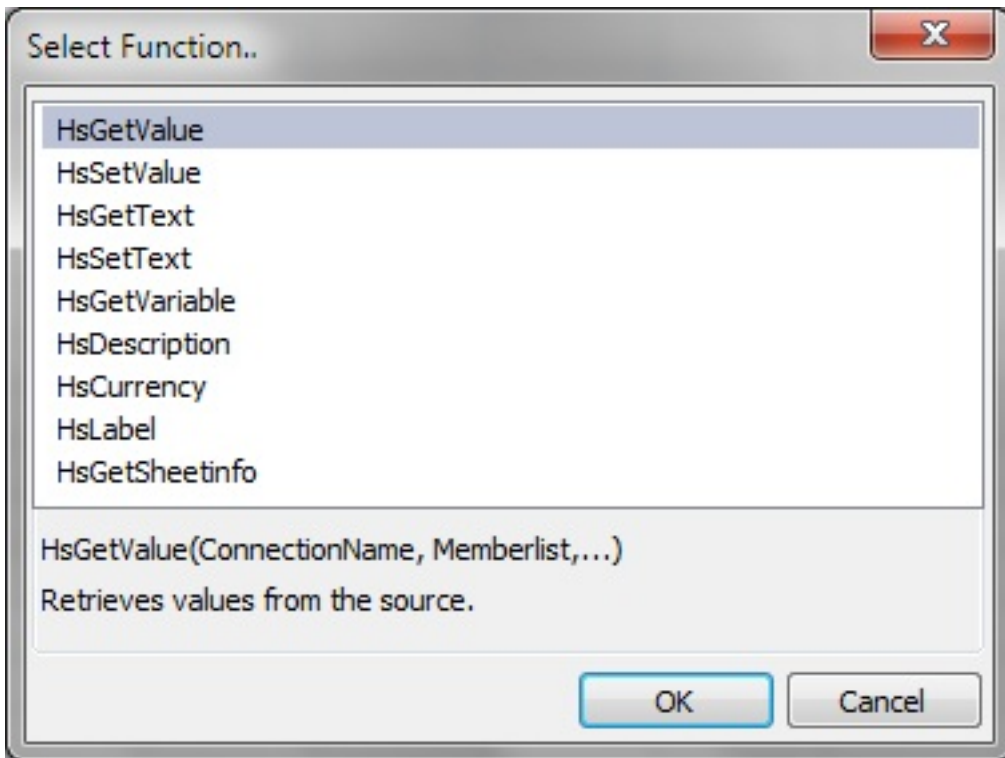
この方法で関数ビルダーにアクセスすると、[277ページのステップ 4](#)の説明に従って、「関数の引数」ダイアログ・ボックスの「接続」フィールドに特定の接続情報が事前移入されます。

または、Smart Viewのリボンから、「関数」、「関数の構築」の順に選択します。

この方法で関数ビルダーにアクセスした場合、「関数の引数」ダイアログ・ボックスの「接続」フィールドは空白です。[277ページのステップ 4](#)の説明に従って、接続情報を指定できます。または、シートにアクティブな接続がある場合は、ドロップダウン・リストからHSACTIVEを選択します。

4. 「関数の選択」で、リストから関数を選択し、「OK」をクリックします。

図75 関数ビルダー、「関数の選択」ダイアログ・ボックス



注:

すべてのプロバイダですべての関数を使用できるわけではありません。関数およびサポートされているプロバイダのリストについては、[275ページの表 35](#)を参照してください。

「関数の引数」ダイアログ・ボックスが表示されます。「接続」フィールドには、接続情報が次のフォーマットのいずれかで自動的に移入されています。

- 共有接続の場合:

```
WSFN |
ProviderType
|
Server
|
Application
|
Database
```

上記のWSFNパラメータは、この関数がWorkspace関数であり、共有接続を使用していることを示しています。




- ・プライベート接続の場合:

PrivateConnectionName

接続情報を手動で入力するには、上記の構文を使用してください。

5. 「関数の引数」で、選択した関数の各引数に対して、次のいずれかを実行します:

- ・ 右端のボタン  をクリックします。

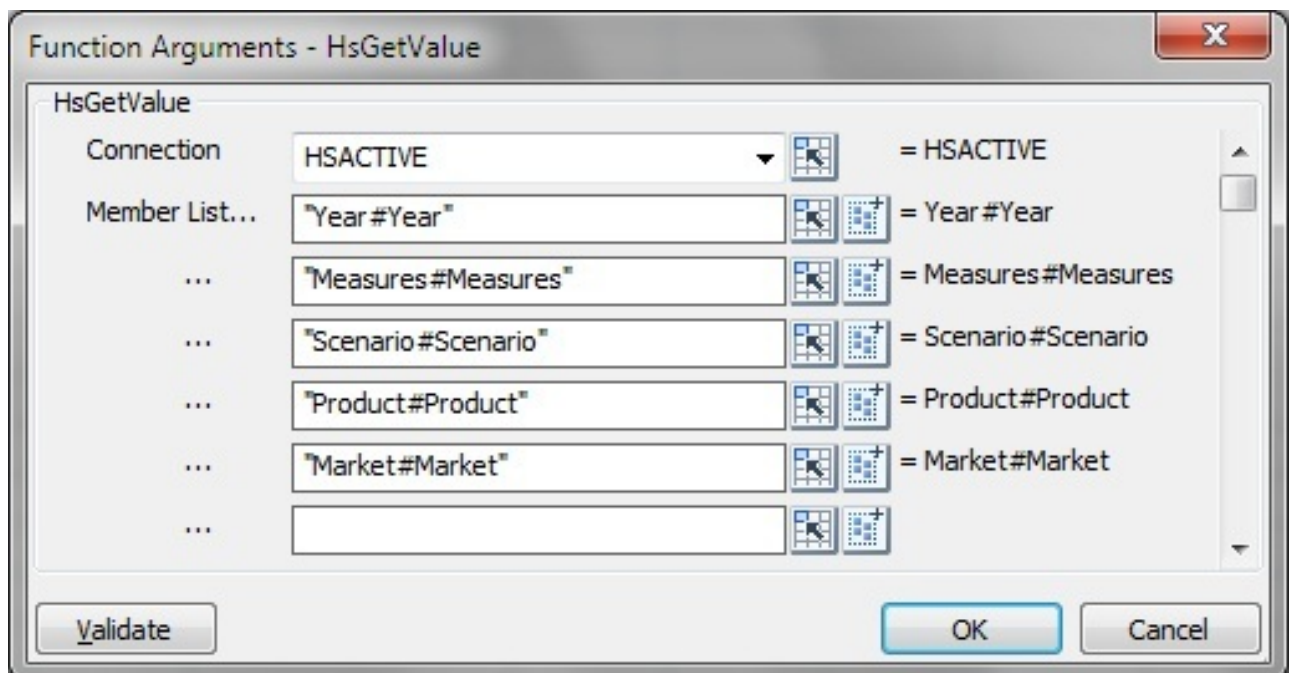
たとえば、HsGetValueの場合、 をクリックし、「メンバー選択」からメンバーを選択します; HsLabelおよびHsGetVariableの場合、ラベルまたは変数をドロップダウン・リストから選択します。

**Essbaseのみ:** 変数名が重複している場合、その完全修飾名がドロップダウン・リストに表示されることに注意してください。これは、グローバル、アプリケーションおよびデータベース・レベルで定義された変数の識別に役立ちます。

- ・ 引数を手動で入力するには、テキスト・ボックスに引数を入力します。たとえば、メンバーを入力するには、Year#Qtr1やYear#Janのように、dimension#memberというフォーマットを使用します。
- ・ セル参照を使用するには、[281ページのセル参照の使用](#)の手順に従います。

[279ページの図 76](#)に、HsGetValue関数の完了した「関数の引数」ダイアログ・ボックスを表示します。

図76 Essbase Sample Basicデータベースに基づくHsGetValueの関数ビルダー「関数の引数」ダイアログ・ボックス



「関数の引数」に表示される引数は、[277ページのステップ 4](#)で選択された関数によって非常に異なります。

## 注意:

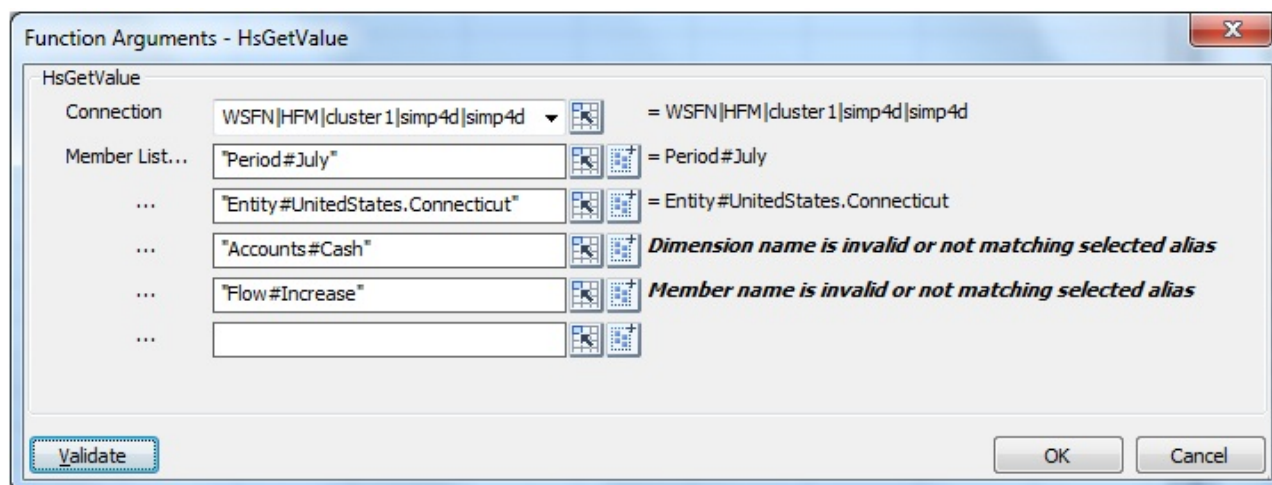
- HsGetSheetInfoでは、セル参照を使用してください。詳細は、[281ページのセル参照の使用](#)を参照してください。
  - HsSetValueの場合のみ:「データ」または「セル参照」を選択し、送信する値を入力します。
  - HsGetTextおよびHsSetTextの場合のみ:
    - 「コメント」または「セル参照」を選択し、送信するセル・テキストを入力します
    - 「セル・テキスト・ラベル」を選択して、ドロップダウン・メニューからラベルを選択します
  - アクティブなワークシート接続が使用可能な場合、「接続」ドロップダウン・リストから**HSACTIVE**を選択できます。
6. 「検証」をクリックして、記載されたエラーがあれば修正します。

表示される可能性のあるエラーを次に示します。

- 接続がオフラインまたは無効です
- 無効な選択
- メンバー名が無効か、選択した別名と一致しません
- デイメンション名が無効か、選択した別名と一致しません
- Dimension#Memberの組合せが不完全です
- 疑問符の欠落またはその他の微細な構文エラーによる、一般的なエラー

[280ページの図 77](#)に、「検証」ボタンをクリックした後の「関数の引数」ダイアログ・ボックスのエラーを示します。Financial Managementアプリケーションの次の例では、2つのDimension#Memberの組合せの構文にエラーがあります。最初のエラーは、デイメンション名が無効か、選択した別名と一致しないことです。2番目のエラーは、メンバー名が無効か、選択した別名と一致しないことです。

図77 関数ビルダー検証エラー



7. 関数の検証が完了したら、「OK」をクリックして、選択したセルに関数を挿入します。
8. 関数を実行するには、[285ページの関数の実行](#)の手順に従います。

## セル参照の使用

接続、ラベル、データ/テキストまたは変数の引数の単一セルへの参照を入力できます。ディメンション/メンバー参照の、2つの連続するセルまたは連続しないセルへの参照を入力することもできます。参照を3つ以上のセルのセル範囲にすることはできません。

▶ セル参照を使用するには:

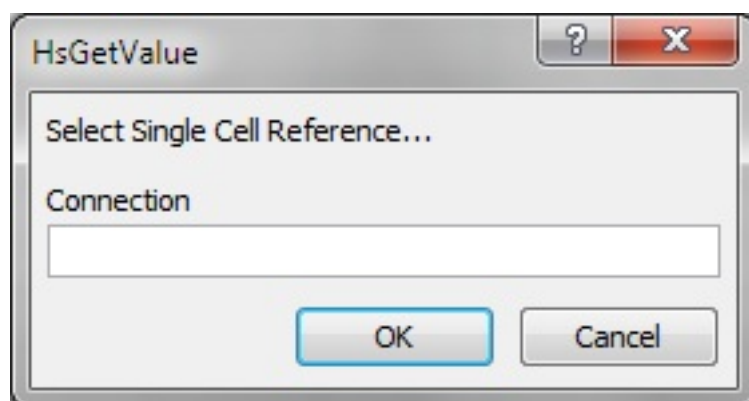
1. 前述の手順の [277ページのステップ 1](#)から [279ページのステップ 5](#)に従います。
- 2.

「関数の引数」ダイアログ・ボックスで、選択した関数の引数ごとに「セル参照」ボタン  をクリックします。

選択した引数のタイプに応じた「セル参照」ダイアログ・ボックスが表示されます。

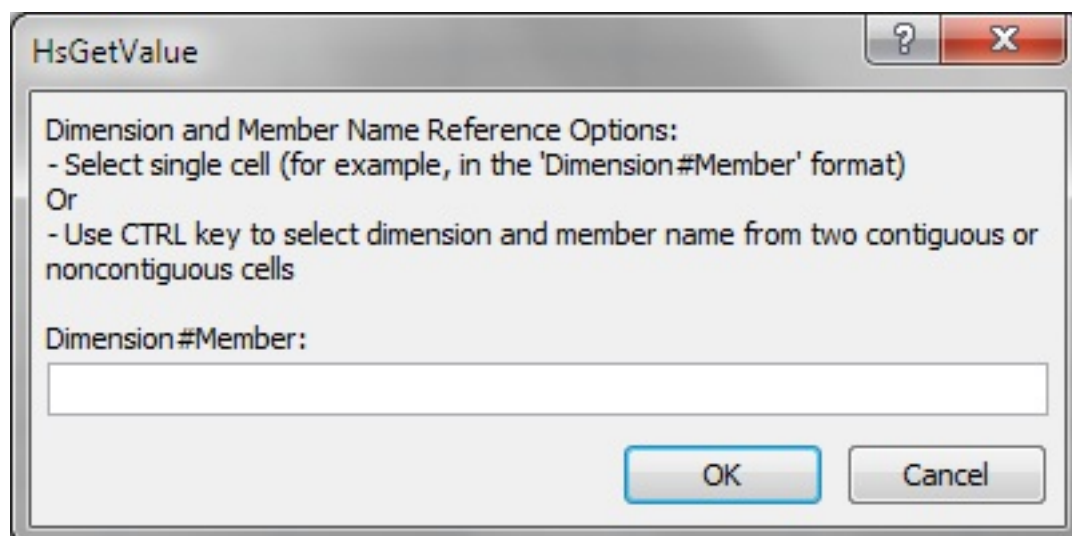
- 接続、ラベル、データ/テキスト、または変数引数を選択する場合は、「単一セル参照の選択」ダイアログ・ボックスを表示します。

図78 単一セル参照の選択ダイアログ・ボックス



- メンバー・リストの引数を選択した場合、ディメンションおよびメンバー名セル参照の「セル参照」ダイアログ・ボックスが表示されます。

図79 ディメンションおよびメンバー名のセル参照ダイアログ・ボックス

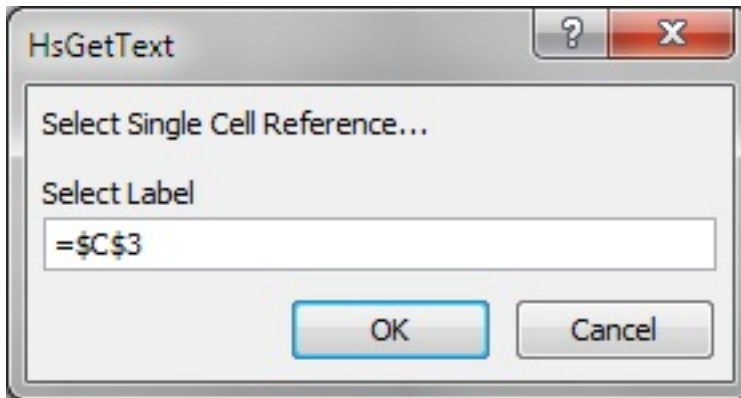


3. グリッドで、次の操作を実行します。

- 単一セル参照のダイアログボックスの場合、引数のタイプに応じて、参照する単一セル(変数を含むセルなど)をクリックします。

282ページの図 80は、ラベル引数にセルが選択されている単一セル参照ダイアログ・ボックスを示しています。

図80 ラベルの引数の単一セルが選択された「セル参照」ダイアログ・ボックス

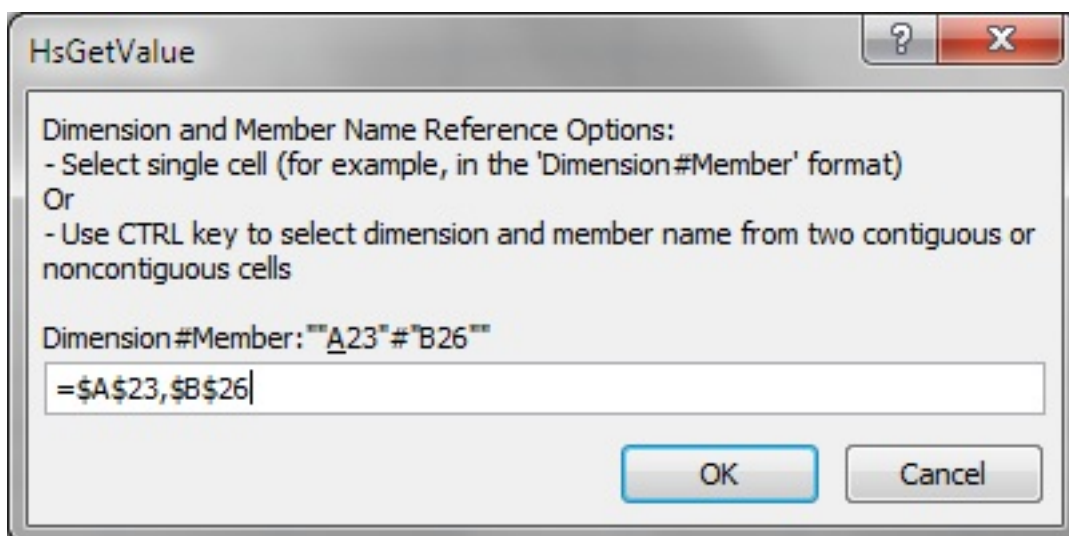


- デイメンションおよびメンバー名のセル参照のダイアログボックスで、次のいずれかの操作を行います。
  - 参照する単一セル(デイメンションとメンバー名の両方を含むセルなど)をクリックします。
  - [Ctrl]**キーを押して、2つの連続するセルまたは連続しないセル(デイメンションとメンバーのセルなど)を選択します。

**[Ctrl]**を押して、ワークシートの異なる領域の2つのセルまたは2つの隣接するセルをクリックできます。各セルの選択は、**[Ctrl]**キーを押しながら1回クリックして行います。

282ページの図 81は、2つの連続しないセルが選択されたデイメンションおよびメンバー名のセル参照のダイアログ・ボックスを示しています。

図81 2つの連続しないセルが選択された「セル参照」ダイアログ・ボックス



4. 「セル参照」ダイアログ・ボックスで「OK」をクリックします。

「関数の引数」の引数のテキスト・フィールドには、参照先のセルが [283ページの表 36](#)に示す形式で含まれます。

表36 セル参照の形式

セル参照	関数の引数のフォーム
単一セル	"&A3&" 詳しい説明は、この表の下にある「注意」を参照してください。
2つの連続するセル	"&A3&#"&B3&"
2つの連続しないセル	"&A5&#"&B9&"

**注意:**

- 単一セル参照の場合、[281ページのステップ 3](#)で選択したメンバー名がグリッド内で dimension#memberとして表示されていれば、引数の選択は完全です。たとえば、メンバーがグリッド内のセルA3にYear#Qtr 2と表示されている場合、"&A3&"は完全です。

グリッド内にメンバー名のみが表示されている場合、二重引用符の最初の2セットの間に、ディメンション名と#を続けて手動入力する必要があります。たとえば、メンバーがセルA3にQtr2として表示されている場合、次のように引用符の間にYear#と入力する必要があります: "Year#"&A3&"

- 引数テキスト・フィールドにテキストが含まれている状態で参照セルを選択すると、そのテキストに参照セルのテキストが追加されます。そのため、参照セルを選択する前に不要なテキストはフィールドから削除しておきます。
- 「OK」をクリックして、選択したセルに関数を挿入します。
  - リフレッシュします。

## 関数の手動作成

Excelの文字およびその他の機能の制限については、Microsoftのドキュメントとサポート・サイトを参照してください。

▶ 関数を手動で作成するには:

- Excelで、関数を入力するセルをクリックします。
- = (等号)を入力します。
- 関数名(HsSetValueなど)を入力します。
- [283ページの構文のガイドライン](#)で説明したルールに従い、[287ページの関数の説明](#)の各関数に特有の情報を使用して、関数のパラメータを入力します。
- ワークシートをリフレッシュするには、Smart Viewのメニューから「リフレッシュ」を選択します。

関数は、リフレッシュしたときに検証されます。

## 構文のガイドライン

個々の関数の構文は、[287ページの関数の説明](#)を参照してください。

- 共有接続で操作するには、Workspace関数を指定するWSFN識別子と接続文字列を関数に追加する必要があります。フォーマット:

```
WSFN |
ProviderType
|
Server
|
Application
|
Database
```

たとえば、Essbaseデータ・ソースへの共有接続に対するHsGetValue関数では、次のようなWSFN識別子および接続文字列が関数に追加されます:

```
=HsGetValue("WSFN|Essbase|myserver|Sample|Basic","Market#South")
```

ProviderTypeでは、次の大/小文字を区別する文字列のいずれかを使用します:

- Essbase
- HFM (Financial Management)
- HP (Planning)

Financial Managementの場合、Databaseパラメータは、省略するか、Applicationパラメータと同じにすることができます。一貫性を保つため、Databaseパラメータにアプリケーション名を入力することをお勧めします。

- プライベート接続パラメータには次の値を設定できます:

- 空: デフォルト接続
- HsActive**: 関連するアクティブな接続
- プライベート接続のユーザー定義名

プライベート接続を指定する場合は、POVの前に置く必要があります。

- POVは、*dimension#member*のペア(Entity#Connecticutなど)から構成されます。
- 親子関係は、ピリオドで指定します(Entity#UnitedStates.Maineなど)。
- 接続とPOVは1つのパラメータとしてグループ化できます。たとえば、"My\_connection;Entity#UnitedStates"です。

または、複数の関数パラメータに分割することもできます。たとえば、"My\_connection","Entity#UnitedStates","Account#Sales"です。

- 接続とPOVを同じパラメータに含める場合、「My\_connection;Entity#UnitedStates;Account#Sales」のように、接続と各*dimension#member*ペアをセミコロン(;)で区切ります。



## 関数の実行

保存された関数を含むワークシートが、そのワークシートを作成したコンピュータとは異なるコンピュータで開かれた場合、関数には元のコンピュータへのフルパスが含まれます。次の3つの条件をすべて満たしている場合、ワークシートを開いたときに、Smart Viewによってこれらの関数のパスが自動的に更新されます。条件を満たしていない場合は、Excelの「リンク」オプションを使用して関数を手動で更新する必要があります。

- ワークシートが保護されていない
- Excelのオプションで「リンクの自動更新前にメッセージを表示する」が選択解除されている
- ワークブックを開いて、リンクを自動的に更新するというプロンプトが表示された場合に、「続行」または「取消」を選択している。リンクの編集は選択しないでください。

▶ 関数を実行して値を取得するには:

1. 実行する関数を含むワークシートを開きます。
2. 次のいずれかの操作を行います:
  - HsSetValueの場合、Smart Viewのリボンから「データの送信」を選択します。
  - 他の関数の場合、いずれかを選択します。
    - 関数を実行し、ワークブックのすべてのワークシートを更新するには、Smart Viewのリボンから「すべてのワークシートのリフレッシュ」を選択します
    - 関数を実行してアクティブなワークシートのみを更新するには、「リフレッシュ」を選択します。

## 関数内のリンクの修正

あるドライブでSmart Viewをアンインストールして、別のドライブにインストールする場合、または別のドライブにインストールするユーザーにSmart Viewファイルを送信する場合は、関数内の破損リンクの修正が必要な場合があります。

▶ 関数内の破損リンクを修正するには:

1. Smart Viewのリボンから、「関数」の隣にある矢印を選択します。
2. ドロップダウン・メニューから、「リンクの修正」を選択します。

## HsGetValue関数のコピーと貼付け

OfficeアプリケーションからHsGetValue関数を含むセルやセル範囲をコピーし、Excel、Word、PowerPointに貼り付けることができます。

コピーと貼付け機能では、次のガイドラインに注意してください。

- HsGetValue関数を含むセルのみをコピーおよび貼り付けできます。その他の関数を含むセルはコピーおよび貼り付けができません。
- 生成されるデータ・ポイントは、接続レベルの別名を使用します。



- 関数のセル参照は、評価された値に置き換えられます。たとえば、関数にdim#memberの組合せとして"Year#"と"A2"が含まれ、セルA2に"Qtr2"が含まれている場合、生成される関数で抽出される値は"Year#Qtr2"になります。
- POVマネージャからデータ・ポイント問合せにPOVの変更が適用される場合、データ・ポイントに存在しないディメンションに対してのみ適用されます。
- 関数XMLがレガシー・アプリケーションからエクスポートされる場合があります。
- 次のコピー/貼付けシナリオがサポートされています:
  - セル参照がない、単一の接続からの関数。
  - セル参照がある、単一の接続からの関数。
  - 複数の接続からの関数
  - Excelでの視覚化 - この関数POVを使用すると、単一の交差があるグリッドが生成されます。
  - 接続名で大/小文字を区別しない関数
- 次のコピー/貼付けシナリオはサポートされていません:
  - アド・ホック・グリッドからの関数(静的な値として貼り付けられます)。
  - ネストされた式。
  - 除算や乗算などの算術演算を含む式。
  - IFやSUMなど、その他のExcel関数

▶ 関数をコピーして貼り付けるには:

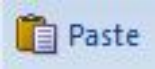
1. コピーするセルまたはセル範囲を選択し、次のアクションを実行します:

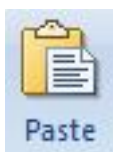
- Excelでは、 をクリックします
- WordおよびPowerPointでは、



をクリックします

2. コピーした関数セルを貼り付けるOfficeアプリケーションをまだ開いていない場合は、起動します。
3. 次のいずれかのアクションを行います:

- Excelでは、コピーした関数を貼り付けるセルを選択し、Smart Viewのリボンで  をクリックします。
- WordまたはPowerPointでは、ページまたはスライドで、コピーした関数を貼り付ける位置にカーソルを置き、Smart Viewのリボンで



をクリックします。

4. シート、ページ、またはスライドをリフレッシュします。

## 関数の説明

Smart Viewには、次の関数があります:

Oracle Smart View for Officeには、次の関数があります。説明、構文および例を参照するには、関数名をクリックしてください。

[287ページのHsGetValue](#): データ・ソースから特定の視点のデータを取得します。

[288ページのHsSetValue](#): 特定の視点の値をデータ・ソースに送信します。

[289ページのHsGetSheetInfo](#): 現在のワークシートに関する詳細情報を取得します。

[290ページのHsCurrency](#): 選択したメンバーのエンティティ通貨を取得します。

[291ページのHsDescription](#): デフォルトの視点メンバーの説明を表示します。

[292ページのHsLabel](#): デフォルトの視点メンバーのラベルを表示します。

[293ページのHsGetText](#): データ・ソースからセル・テキストを取得します。

[295ページのHsSetText](#): データ・ソースにセル・テキストを送信します。

[296ページのHsGetVariable](#): 代替変数の値を取得します。

## HsGetValue

**データ・ソース:** Financial Management, Essbase, Planning, Hyperion Enterprise (プライベート接続のみ)

HsGetValueは、選択したディメンションのメンバーのデータ・ソースからデータを取得します。

HsGetValueでデータが取得されない場合、#NoData/Missingラベル置換オプションで指定された値が使用されます( [253ページの表 23](#)を参照してください)。

ユーザーが「リフレッシュ」または「すべてリフレッシュ」を選択した場合は、HsGetValueのみ呼び出されます。ユーザーが「送信」を選択した場合は、最初にHsSetValueが呼び出され、HsSetValueが正常に戻った場合にのみHsGetValueが呼び出されます。

## 構文

プライベート接続:

```
HsGetValue("
PrivateConnectionName
", "
POV
")
```

共有接続:

```
HsGetValue("WSFN|
ProviderType
|
Server
|
Application
|
Database
", "
POV
")
```

## 例

次の例では、HsGetValueでデフォルトのPOVに関してHFM01アプリケーションから値を戻します。

プライベート接続:

```
HsGetValue("HFM01";"Scenario#Actual;Year#2004;Period#July;View#YTD;
Entity#UnitedStates.Connecticut;Value#USD;Account#Sales;ICP#[ICP
None];Custom1#GolfBalls;Custom2#Customer2;Custom3#[None];
Custom4#Increases")
```

共有接続:

```
HsGetValue("WSFN|HFM|hfm_svr|HFM01|
HFM01";"Scenario#Actual;Year#2004;Period#July;
View#YTD;Entity#UnitedStates.Connecticut;Value#USD;Account#Sales;ICP#[ICP
None];Custom1#GolfBalls;Custom2#Customer2;Custom3#[None];Custom4#Increases")
```

## HsSetValue

データ・ソース: Financial Management、Essbase、Planning。Hyperion Enterprise (プライベート接続のみ)

HsSetValueは、ディメンションの選択されたメンバーに対するデータ値をワークシートからデータ・ソースへ送信します。データ・ソースにデータを送信するには、データ・ソースに対する適切なロード規則と書込みアクセス権が必要です。

## 構文

プライベート接続:

```
HsSetValue (dollar amount, "
PrivateConnectionName
", "
POV
")
```

共有接続:

```
HsSetValue (dollar amount, "WSFN|
ProviderType
|
Server
|
Application
|
Database
", "
POV
")
```

## 例

次の例では、HsSetValueでセルH4からHFM01アプリケーションに値を送信します。

プライベート接続:

```
HsSetValue(H4, "HFM01", "Scenario#Actual;Year#2004;Period#"&B$2&";View#<Scenario
View>;Entity#UnitedStates.Connecticut;Value#<Entity Currency>;Account#"&
$A4&";ICP#[ICP None];Custom1#GolfBalls;Custom2#Customer2;Custom3#[None];Custom4#
Increases")
```

共有接続:

```
HsSetValue(H4, "WSFN|HFM|hfm_svr|HFM01|
HFM01", "Scenario#Actual;Year#2004;Period#"&B$2&";View#<Scenario
View>;Entity#UnitedStates.Connecticut;Value#<Entity Currency>;Account#"&
$A4&";ICP#[ICP None];Custom1#GolfBalls;Custom2#Customer2;Custom3#[None];Custom4#
Increases")
```

## HsGetSheetInfo

データ・ソース: プロバイダ非依存

HsGetSheetInfoは、[289ページの表 37](#)に説明されているように、現在のワークシートに関する詳細情報を取得します。

表37 HsGetSheetInfoの詳細

数値等価	文字列等価	シート情報
1	接続済	接続ステータス
2	シート・タイプ	アド・ホックまたはフォーム
3	サーバー	シートの接続先のサーバー

数値等価	文字列等価	シート情報
4	アプリケーション	シートの接続先のアプリケーション
5	キューブ	シートの接続先のキューブ
6	URL	シートの接続先のURL
7	プロバイダ	シートの接続先のデータ・ソース・タイプ
8	プロバイダURL	シートの接続先のプロバイダ; Oracle Hyperion Provider Services接続に適用されます
9	わかりやすい名前	データ・ソース接続名
10	別名表	現在の別名表
11	ユーザー	ユーザー名
12	説明	接続の説明

## 構文

```
HsGetSheetInfo("<string equivalent>")
```

```
HsGetSheetInfo("<numerical equivalent>")
```

## 例

この例では、HsGetSheetInfoにより、ワークシートにアド・ホック・グリッドまたはフォームが含まれるかどうかを示されます。

```
HsGetSheetInfo("Sheet Type")
```

## HsCurrency

データ・ソース: Financial Management, Hyperion Enterprise (プライベート接続のみ)

HsCurrencyは、指定されたディメンション・メンバーの通貨値を取得します。HsCurrency関数では、EntityおよびValueのみが有効なメンバーです。

## 構文

プライベート接続:

```
HsCurrency( "
```

```
PrivateConnectionName
/
Entity
;
Value
")
```

共有接続:

```
HsCurrency("WSFN|
ProviderType
|
Server
|
Application
|
Database
,Entity
Member
;Value
Member
")
```



注:

Hyperion Enterpriseでは、Valueディメンションは使用されません

## 例

次の例では、EastSalesエンティティの通貨がUSDで、UKSalesエンティティの通貨がGBRである場合に、HsCurrencyがエンティティ通貨を取得します。EastSalesエンティティはUSDを表示し、UKSalesはGBRを表示します。

プライベート接続:

```
HsCurrency("Comma","Entity#EastRegion.EastSales;Value#<Entity Currency>.")
HsCurrency("Comma","Entity#EastRegion.UKSales;Value#<Entity Currency>.")
```

共有接続:

```
HsCurrency("WSFN|HFM|hfm_svr|Comma|
Comma","Entity#EastRegion.EastSales;Value#<Entity Currency>.")
HsCurrency("Comma","Entity#EastRegion.UKSales;Value#<Entity Currency>.")
```

## HsDescription

データ・ソース: Financial Management, Essbase, Hyperion Enterprise (プライベート接続のみ)

HsDescriptionは、指定されたディメンション・メンバーの別名を表示します。

## 構文

プライベート接続:

```
HsDescription ("
PrivateConnectionName
", "
Dimension
#
Member
")
```

共有接続:

```
HsDescription ("WSFN|
ProviderType
|
Server
|
Application
|
Database
", "
Dimension
#
Member
")
```

## 例

次の例では、HsDescriptionでCustom 4の説明を表示します。

プライベート接続:

```
HsDescription("HFM01", "Custom4#Increases")
```

共有接続:

```
HsDescription("WSFN|HFM|hfm_svr|HFM01|HFM01", "Custom4#Increases")
```

## HsLabel

データ・ソース: Financial Management, Hyperion Enterprise (プライベート接続のみ)



HsLabelは、指定されたディメンション・メンバーのデフォルトのメンバー・ラベルを表示します。

## 構文

プライベート接続:

```
HsLabel ("
PrivateConnectionName
", "
Dimension
#")
```

共有接続:

```
HsLabel ("WSFN|
ProviderType
|
Server
|
Application
|
Database
", "
Dimension
#")
```

## 例

次の例では、HsLabel関数でCommaアプリケーションのScenarioディメンションのラベルを取得します:

プライベート接続:

```
HsLabel ("Comma", "Scenario#")
```

共有接続:

```
HsLabel ("WSFN|HFM|hfm_svr|Comma|Comma", "Scenario#")
```

## HsGetText

データ・ソース: Financial Management, Hyperion Enterprise (プライベート接続のみ)

HsGetTextは、ディメンション・メンバー、セル参照、デフォルトのPOV、またはこれら3つの組合せのデータ・ソースからセル・テキストを取得します。



注:

セル・テキストを取得するには、「リフレッシュ」をクリックする必要があります。

## 構文

プライベート接続:

```
HsGetText ("
PrivateConnectionName
", "
POV
", "
CellTextLabel
")
```

共有接続:

```
HsGetText ("WSFN|
ProviderType
|
Server
|
Application
|
Database
", "
POV
", "
CellTextLabel
")
```

## 例

次の例では、HsGetText関数でデフォルトのPOVに関してHFM01データ・ソースからセル・テキストを戻します。

プライベート接続:

```
HsGetText("HFM01", "Scenario#Actual;Year#2004;Period#"&B$2&";View#
<Scenario View>;Entity#UnitedStates.Connecticut;Value#<Entity Currency>;Account#"&
$A3&";ICP#[ICP None];Custom1#GolfBalls;Custom2#Customer2;Custom3#[None],Custom4#
Increases")
```

共有接続:

```
HsGetText("WSFN|HFM|hfm_svr|HFM01|HFM01", "Scenario#Actual;Year#2004;Period#"&B
$2&";View#
<Scenario View>;Entity#UnitedStates.Connecticut;Value#<Entity Currency>;Account#"&
$A3&";ICP#[ICP None];Custom1#GolfBalls;Custom2#Customer2;Custom3#[None],Custom4#
```

Increases")

## HsSetText

データ・ソース: Financial Management, Oracle Hyperion Enterprise® (プライベート接続のみ)

HsSetTextは、セル・テキストをデータ・ソースに送信します。すべてのディメンション・メンバー、セル参照、デフォルトのPOVを使用できます。また、これらすべてを組み合わせることもできます。



注:

セル・テキストを保存するには、「データの送信」をクリックする必要があります。

## 構文

プライベート接続:

```
HsSetText("
CellTextComments
", "
PrivateConnectionName
", "
POV
", "
CellTextLabel
")
```

共有接続:

```
HsSetText("
CellTextComments
", "WSFN|
ProviderType
|
Server
|
Application
|
Database
", "
POV
", "
CellTextLabel
")
```

## 例

次の例では、HsSetTextでセルH3からHFM01アプリケーションにテキストを送信します。

プライベート接続:

```
HsSetText("H3", "HFM01", "Scenario#Actual;Year#2004;Period#" & B$2&";View#<Scenario View>;Entity#UnitedStates.Connecticut;Value#<Entity Currency>;Account#" & A3&";ICP#[ICP None];Custom1#GolfBalls;Custom2#Customer2;Custom3#[None], Custom4#Increases")
```

共有接続:

```
HsSetText("H3", "WSFN|HFM|hfm_svr|HFM01|HFM01", "Scenario#Actual;Year#2004;Period#" & B$2&";View#<Scenario View>;Entity#UnitedStates.Connecticut;Value#<Entity Currency>;Account#" & A3&";ICP#[ICP None];Custom1#GolfBalls;Custom2#Customer2;Custom3#[None], Custom4#Increases")
```

## HsGetVariable

データ・ソース: Essbase

HsGetVariableは、代替変数の関連する値を取得します。

HsGetVariableはスマート・スライスで使用できません。

## 構文

HsGetVariableでは、次のように、デフォルト接続名、プライベート接続名、共有接続名、または複数の範囲のグリッドでのExcel名前付き範囲を使用できます:

- デフォルト接続: `HsGetVariable("代替変数名")`
- プライベート接続: `HsGetVariable("PrivateConnectionName", "代替変数名")`
- 共有接続: `HsGetVariable("WSFN|ProviderType|Server|Application|Database", "代替変数名")`
- 複数の範囲のグリッドでの名前付き範囲: `HsGetVariable("範囲名", "代替変数名")`

## 例

- デフォルト接続: `HsGetVariable("CurMonth")`
- プライベート接続: `HsGetVariable("stm10026_Sample_Basic", "CurMonth")`
- 共有接続: `HsGetVariable("WSFN|Essbase|esbsvr|Sample|Basic", "CurMonth")`
- 名前付き範囲: `HsGetVariable("stm10026_Sample_Basic", "CurMonth")`





注:

アンパサンド(&)は通常、代替変数への参照に使用されますが、この関数ではオプションです。

## スマート・タグを使用した関数へのアクセス

Microsoft Officeのスマート・タグを使用して、HsGetValue、HsGetText、HsCurrencyおよびHsDescription関数にアクセスできます(スマート・タグの詳細は、Microsoftのドキュメントを参照してください)。Smart Viewのスマート・タグはsmartviewです。

▶ スマート・タグを使用して関数にアクセスするには:

1. Excelでスマート・タグが使用可能であることを確認します。
2. データ・ソースに接続されていることを確認します。
3. 文書の任意の場所にsmartviewと入力し、その上にマウスを置くとスマート・タグ・アクション・アイコン  が表示されます。
4.  をクリックすると「Smart View」メニューが表示されます。
5. 「関数」、「接続名」、関数名の順に選択します。
6. [32ページのメンバー・セクタからのメンバーの選択](#)の説明に従って、「メンバー選択」からメンバーを選択します  
選択した関数の結果が表示されます。

## 一般的な関数エラー・コード

関数で表示される一般的なエラー・コードの一部を示します:

#NO CONNECTION - データ・ソースに接続されていないか、またはログオンしていません。

#INVALID - 無効なメタデータ。値を含む無効なセルで、値がゼロとして表示されます。

#LOCKED - セルがロックされています。

#NO ACCESS - このセルのアクセス権がありません。

#NO DATA - セルにNoDataが含まれています。NoDataのかわりに0と表示することもできます。セルには、「オプション」ダイアログ・ボックスで指定した置換テキストが表示されます。

#INVALID INPUT - テキスト文字列など、HsSetValueデータ値が有効ではありません。

#READ ONLY - セルが読み取り専用である場合にHsSetValue関数に対してのみ表示されます。

#NO ROLE ACCESS - Financial Management LoadExcelDataのセキュリティの役割を持っていません。

#NEEDS REFRESH - データをリフレッシュする必要があります。

#INVALID DIMENSION - 関数で指定されたディメンションが無効です。

#INVALID MEMBER - 関数で指定されたディメンション・メンバー名が無効です。

#NAME - Excelが式中のテキストを認識しません。関数を含むワークシートを、Smart Viewがインストールされていないユーザーに転送した場合、ユーザーは同じデータに関数としてワークシート上に表示できます。ユーザーが関数を編集またはリフレッシュすると、関数は#Nameに変わります。



# 18

## フリー・フォーム・モード

### この項の内容:

フリーフォーム・モードについて .....	299
フリーフォームのガイドライン .....	299
フリー・フォーム・グリッドの例 .....	300
フリーフォーム・グリッドのコメント .....	303
フリー・フォーム・グリッドの式 .....	306
フリー・フォーム・グリッドの属性ディメンション .....	307
フリー・フォーム・レポートの作成 .....	308
フリーフォーム・モードでの属性ディメンションの取得 .....	308
非対称レポートの作成 .....	309
予期しない動作の原因となるアクション .....	310

## フリーフォーム・モードについて

アド・ホック分析では、データベースのディメンションとメンバーを詳しく把握している場合に、ディメンション名とメンバー名を直接セルに入力することにより、フリーフォーム・モードを使用できます。POV、メンバー選択およびフリーフォーム・グリッドでのその他のアド・ホック操作も引き続き使用できます。

Smart Viewグリッドのコンポーネントについて [299ページの表 38](#)で説明します。

表38 Smart Viewのグリッド・コンポーネント

グリッド・コンポーネント	説明
行ディメンション	ワークシートの行にまたがって1列に配置されるディメンションまたはメンバー
列ディメンション	ワークシートの行にまたがって1列に配置されるディメンションまたはメンバー
ページ・ディメンション	ページ全体に適用されるディメンション(Essbaseのみ)
コメント	ユーザーが追加したテキスト
データ領域	ディメンションまたはメンバーのデータを含むグリッドの領域
空白領域	ワークシートでエントリを含まない領域

## フリーフォームのガイドライン

- グリッドは、セルA1で始まる必要はありません。



- グリッドには少なくとも1つの行ディメンションと1つの列ディメンションが必要です。
- 各行ディメンションは1つのディメンションのみのメンバーを含むことができます。各列ディメンションは1つのディメンションのみのメンバーを含むことができます。
- 1つのディメンションのメンバーは、次の領域のうちの1つのみに入力できます:
  - 同じ行
  - 同じ列
  - ページ・ディメンション領域の任意の場所(Essbaseのみ)
- ページ・ディメンション領域は異なるディメンションのメンバーを含むことができますが、ページ・ディメンション領域の2つのメンバーが同じディメンションに属することはできません(Essbaseのみ)。
- ページ・ディメンション領域に入力されたディメンションはページ・ディメンション領域で対応するデフォルトのディメンションまたは既存のディメンションをオーバーライドします。たとえば、ページ・ディメンションにYearディメンションが含まれている場合、Qtr1を入力すると、Qtrはページ・ディメンションのYearを置き換えます(Essbaseのみ)。
- Smart Viewオプションの「データ・オプション」ページで指定した置換ラベルはフリーフォーム・モードで適用されません。
- 数字エンタリはデータ領域ではデータとして、データ領域外ではコメントとして識別されます。数字をメンバー名として使用する場合は、前に一重引用符を付けます; たとえば'100のようにします。
- 単語間にスペースを含むメンバー名の前には一重引用符を付けます。
- 重複メンバーを持つEssbaseデータ・ソースに接続するときは、Smart Viewの「オプション」ダイアログ・ボックスの「メンバー・オプション」ページで「メンバー名のみ」を選択し、ワークシートで完全修飾名を表示します。重複メンバーを入力するには、修飾メンバー名に次のような構文を使用します:

```
[Income].[Other]
[Expenses].[Other]
```

- 現在の別名表からの別名はフリーフォーム・グリッドに使用できますが、その他の別名表からの別名はコメントとして扱われます。
- Hyperion Enterpriseデータ・ソースでは、フリーフォーム・グリッドにディメンション名を入力できません。メンバー名のみ入力できます。
- 動的時系列メンバー(Essbaseの場合)は、次のいずれかのフォーマットを使用する必要があります:
  - Q-T-D(1月)
  - Y-T-D(3月)
  - M-T-D(6月)

## フリー・フォーム・グリッドの例

### サブトピック

- [簡易グリッド](#)
- [列ディメンション](#)
- [スタック・ディメンション](#)

## 簡易グリッド

データ・ソース・タイプ: Essbase、Planning、Oracle Planning and Budgeting Cloud Service、Financial Management

301ページの図 82では、Yearが行ディメンション、Measuresが列ディメンション、Productがページ・ディメンションであるEssbaseの有効な簡易グリッドを示しています。

図82 Essbaseの簡易グリッド

	A	B	C	D	E
1				Product	
2		Profit	Inventory	Ratios	Measures
3	Qtr1				
4	Qtr2				
5	Qtr3				
6	Qtr4				
7	Year				

301ページの図 83では、Yearが行ディメンション、Accountが列ディメンションであるPlanningの有効な簡易グリッドを示しています。

図83 Planningの簡易グリッド

	A	B
1		Year
2	Account	3

301ページの図 84は、基本的な2行2列レイアウトで、最初の行と列にProductディメンションとMarketディメンションが、2番目の行と列にSalesとYearのメンバーが表示されています。

図84 2行2列レイアウト

	A	B	C	D	E	F
1			Product	Product	Product	Product
2			Profit	Inventory	Ratios	Measures
3	Market	Qtr1				
4	Market	Qtr2				
5	Market	Qtr3				
6	Market	Qtr4				
7	Market	Year				

## 列ディメンション

データ・ソース・タイプ: Essbase

## ページ・ディメンションと解釈される列ディメンション

最上位の同じ行に、1つの行ディメンションと複数のメンバー(すべて異なるディメンション)がある場合、行の一番左のディメンションが列ディメンションとして扱われ、その他はページ・ディメンションとして扱われます。302ページの図 85は、Yearが行ディメンション、Measuresが列ディメンション、ProductとMarketがページ・ディメンションである、有効なグリッドを示しています。

図85 1行目の列ディメンションおよびページ・ディメンション

	A	B	C	D
1		Measures	Product	Market
2	Year			

各列ディメンションの最初のメンバーは同じ列に配置し、各行ディメンションの最初のメンバーは同じ行に配置する必要があります。302ページの図 86では、セルB2が列ディメンションの最初の列にあり、Measuresディメンションのメンバーである必要があるにもかかわらず、コメントであるために無効になっています。

図86 列での無効な配置

	A	B	C	D
1		100-10	100-30	100
2		Comment	Measures	Measure
3	Year			

## スタック・ディメンション

データ・ソース・タイプ: Essbase

同じディメンションの複数のメンバーが含まれる最初の行は、列ディメンションです。この行の上に配置されたディメンションは、ページ・ディメンションのルールに従っていれば、すべてページ・ディメンション候補です。ただし、この列ディメンションの上にあるディメンションで、同じ列にあり(スタックされている)、かつ他のメンバーを持たないディメンションは、ページ・ディメンションではなく列ディメンションです。このようなグリッドは有効ではありません。

302ページの図 87において、ProductはProfitの上にスタックされた列ディメンションです; MarketはProfitの上にスタックされていないためページ・ディメンションです。Scenarioは、Profitの上にスタックされていますが、その行がページ・ディメンションの上にあるため、ページ・ディメンションになります。

図87 ページ・ディメンションとしてのスタック・ディメンション

	A	B	C	D	E
1		Scenario			
2			Market		
3		Product			
4		Profit	Inventory	Ratios	Measures
5	Year				

303ページの図 88では、ProductとMarketが列ディメンションの上にスタックされ、他のメンバーを持っていません。このため、このグリッドは有効ではありません。

図88 無効なスタック列

	A	B	C	D	E
1		Market			
2		Product			
3		Profit	Inventory	Ratios	Measures
4	Year				

## フリーフォーム・グリッドのコメント

### サブトピック

- 空白の行および列のコメント
- 複雑なコメントを含むグリッド
- コメントの無効な配置
- グリッドの境界の内側と外側のコメント

データ・ソース・タイプ: Essbase、Planning、Oracle Planning and Budgeting Cloud Service、Financial Management



注:

**Essbase:** 複数のグリッドで使用可能なワークシートに、コメントを追加することはできません。

コメントは次の場所に配置できます:

- 行ディメンションの間
- 列ディメンションの間
- ページ・ディメンションの間
- ディメンションとデータ・セルの間
- ページ・ディメンションのメンバーと交互に
- 行、列、ページの各ディメンションのメンバーと交互に

さらに、コメント行とコメント列は、行ディメンションおよび列ディメンションと交互に配置できます。

- グリッドの上下左右。

データ・セル、または行ディメンションと列ディメンションが交差する右上のセルには、コメントを配置できません。

コメントを使用する際には:

- Financial Managementでは、行であるか列であるかに応じて、コメントはズーム・イン操作とズーム・アウト操作でシフトします。
- PlanningまたはOracle Planning and Budgeting Cloud Serviceでは、コメントはグリッドの境界の内側と外側の両方でサポートされています。



注:

コメントは、フリーフォーム・ワークシートのプロバイダ・サーバーには保存されません。たとえば、Planningフリー・フォームまたはアド・ホック・グリッドで「アド・ホック・グリッドの保存」コマンドを使用した場合、式は保存されません。ただし、Excelで「保存」を実行してワークブックを保存すると、コメントをワークシートに保持できます。

発生する可能性がある予期しない動作の詳細は、[310ページの予期しない動作の原因となるアクション](#)を参照してください。

## 空白の行および列のコメント

データ・ソース・タイプ: Essbase, Financial Management

[304ページの図 89](#)は、セルA5、A6、C1、C2、C10、D1、D2、D10、H5およびH6にコメントのあるグリッドを示しています。このようなコメントは取得操作とズーム操作を実行しても保持されます。

図89 空白の行および列のコメント

	A	B	C	D	E	F	G	H
1			c1	d1				
2			c2	d2				
3				Product	Product	Product	Product	
4				Profit	Inventory	Ratios	Measures	
5	a5	Market	Qtr1					h5
6	a6	Market	Qtr2					h6
7		Market	Qtr3					
8		Market	Qtr4					
9		Market	Year					
10			c10	d10				

## 複雑なコメントを含むグリッド

データ・ソース・タイプ: Essbase

[305ページの図 90](#)は、1つのグリッドでページ領域、属性、コメントを組み合わせて使用した例を示しています。

図90 複雑なコメントを含むグリッド

	A	B	C	D	E	F	G	H
1	Pkg Type							
2	Budget							
3		B3	C3	D3				
4				Product	Product		Product	Product
5					E5	F5	G5	
6				Profit	Inventory		Ratios	Measures
7	Market		Qtr1					
8	Market		Qtr2					
9		B9			E9	F9	G9	
10	Market		Qtr3					
11	Market		Qtr4					
12	Market		Year					
13								
14				D14	E14	F14		

## コメントの無効な配置

データ・ソース・タイプ: Essbase

行と列のディメンション領域には、コメント行とコメント列を交互に配置できます。305ページの図 91は、セルC2のコメントがコメント行とコメント列のいずれにも属さないため無効なグリッドを示しています。(行2と列Cの両方がディメンション・メンバーを持っています。)

図91 コメントの無効な配置

	A	B	C	D
1		100-10	100-30	100
2		Measures	Comment	Measures
3	Year			

## グリッドの境界の内側と外側のコメント

データ・ソース・タイプ: Planning, Oracle Planning and Budgeting Cloud Service, Financial Management

306ページの図 92では、グリッドの境界の内側のセルB5にコメントのあるグリッドを示しています。これらのコメントは取得操作とズーム操作を実行しても保持されますが、Planningでは保存されません。

図92 グリッドの境界の内側にコメントのあるグリッド

	A	B	C	D
1				
2				FY15
3				Period
4		Entity	Account	#Missing
5		Comment Row		
6		Entity	Account	#Missing

306ページの図 93では、グリッドの境界の外側のセルA3およびC1にコメントのあるグリッドを示しています。これらのコメントは取得操作とズーム操作を実行しても保持されますが、Planningでは保存されません。

図93 グリッドの境界の外側にコメントのあるグリッド

	A	B	C
1		Year	Comment Column
2	Account	3	
3	Comment Row		

## フリー・フォーム・グリッドの式

データ・ソース・タイプ: Essbase、Planning、Oracle Planning and Budgeting Cloud Service、Financial Management

コメントを入力できるセルには、Excelの式を入力できます。



注:

Excelの式は、フリー・フォーム・ワークシートのプロバイダ・サーバーには保存されません。たとえば、Planningフリー・フォームまたはアド・ホック・グリッドで「アド・ホック・グリッドの保存」コマンドを使用した場合、式は保存されません。ただし、Excelで「保存」を実行してワークブックを保存すると、式をワークシートに保持できます。

307ページの図 94では、セルC8とF8にExcelの式が入力されているEssbaseデータ・ソースのグリッドを示しています。

図94 ExcelのEssbaseフリー・フォーム・グリッドの式

	A	B	C	D	E	F
1			Product	Product	Product	Product
2			Profit	Inventory	Ratios	Measures
3	Market	Qtr1				
4	Market	Qtr2				
5	Market	Qtr3				
6	Market	Qtr4				
7	Market	Year				
8			=SUM(C3:C6)			=SUM(F3:F6)

307ページの図 95では、セルB8とC7にExcelの式が入力されているPlanningデータ・ソースのグリッドを示しています。

図95 ExcelのPlanningフリー・フォーム・グリッドの式

	A	B	C
1		Product	Formula on Column
2		Entity Alias	
3		Version	
4		Scenario	
5		Period	
6		Year	
7	Account	3	=SUM(B7*10)
8	Formula On Row	=SUM(C7+B7)	

発生する可能性がある予期しない動作の詳細は、310ページの予期しない動作の原因となるアクションを参照してください。

## フリー・フォーム・グリッドの属性ディメンション

データ・ソース・タイプ: Essbase

308ページの図 96は、ページ領域と属性の使用方法の両方の例を示しています。この例では、Pkg Type (基本メンバーProductに添付されている属性ディメンション)とBudgetがページ・ディメンションです。Pkg Typeをドリルダウンすると、特定のProduct属性に関連する、属性を使用したMeasuresの分析ができます。さらにこれを使用して、属性別の製品在庫保管単位(SKU)のクロス集計分析を行うこともできます。



図96 フリー・フォーム・グリッドの属性ディメンション

	A	B	C	D	E	F
1	Pkg Type					
2	Budget					
3						
4			Product	Product	Product	Product
5			Profit	Inventory	Ratios	Measures
6	Market	Qtr1				
7	Market	Qtr2				
8	Market	Qtr3				
9	Market	Qtr4				
10	Market	Year				

## フリー・フォーム・レポートの作成

データ・ソース・タイプ: Essbase、Planning、Oracle Planning and Budgeting Cloud Service、Financial Management、Hyperion Enterprise

▶ フリーフォーム・レポートを作成するには:

1. ワークシートを開き、データ・ソースに接続します。
2. ワークシートで、[299ページのフリーフォームのガイドライン](#)に指定されたルールに従ってメンバー名を入力します。
3. メンバー名は重複している場合があります(たとえば、EastとWest両方のマーケットにPortlandという名前(MaineとOregon)が含まれる)。重複するメンバー名を入力するには:
  - Essbaseで、「メンバー選択」を使用してメンバーを選択します。
  - 入力したメンバーに重複がある場合、Financial Managementでメンバー名の解決ウィンドウが表示されます。ドロップダウン・リストから、入力したメンバーのディメンションを選択し、「OK」をクリックします。必要に応じて繰り返します。
4. グリッドをリフレッシュするか、または「アド・ホック分析」を選択します。
5. 必要に応じてアド・ホックの操作とフォーマットをさらに実行します。

## フリーフォーム・モードでの属性ディメンションの取得

データ・ソース・タイプ: Essbase

構造化グリッドが処理する操作では、属性ディメンションは表示されません。フリーフォームでは、グリッドに属性ディメンションのメンバーを入力して、処理し検証できます。処理と検証にあたっては、追加した属性ディメンションのメンバーのみが表示され使用されます。他の属性ディメンションのメンバーは対象になりません。このフリーフォーム要求の後、構造化グリッド操作を行っても、属性ディメンションのメンバーは保持されます。

ワークシートに基本ディメンションが存在する場合は、ワークシートに名前を直接入力して属性メンバーを取得することもできます。



注:

Hyperion Enterpriseは、属性ディメンションをサポートしません。

▶ メンバー選択機能を使用してフリーフォームで属性ディメンションを取得するには:

1. 空のワークシートで、セルを選択します。(ワークシートは空である必要があります。)
2. データ・ソースのリボンから、「メンバー選択」を選択します。
3. 「ディメンション名の解決」ダイアログ・ボックスで、属性ディメンションを選択します。
4. ワークシートでメンバーの向きを [309ページのステップ 3](#)で選択したセルから縦方向にするには、「垂直方向」チェック・ボックスを選択します。

このチェック・ボックスはデフォルトで選択解除されます。つまり、メンバーの向きは [309ページのステップ 3](#)で選択したセルから横方向になります。

5. 「OK」をクリックして、「メンバー選択」ダイアログ・ボックスを開きます。
6. ワークシートに配置するメンバーを選択します。



注:

シートに属性ディメンションおよびメンバーを追加することも可能です。

## 非対称レポートの作成

データ・ソース・タイプ: Essbase、Planning、Oracle Planning and Budgeting Cloud Service

レポートには、対称または非対称の列グループを含めることができます。選択したメンバーに基づいて、列グループの対称性が自動的に決定されます。

対称レポートは、[309ページの図 97](#)に示すように、同じメンバーのグループが繰り返されるのが特徴です。

図97 対称レポート

East						West					
Budget			Actual			Budget			Actual		
Qtr1	Qtr2	Qtr3	Qtr1	Qtr2	Qtr3	Qtr1	Qtr2	Qtr3	Qtr1	Qtr2	Qtr3

非対称レポートは、[309ページの図 98](#)に示すように、ネストしているグループのメンバーの内容が、少なくとも1つ異なることが特徴です。メンバーの数が異なる場合と、メンバーの名前が異なる場合があります。

図98 非対称レポート

East						West		
Budget			Actual			Budget		
Qtr1	Qtr2	Qtr3	Qtr1	Qtr2	Qtr3	Qtr1	Qtr2	Qtr3

非対称レポートは、次のようにして作成できます:

- フリー・フォーム・モードでメンバー名を入力します。
- 「オプション」ダイアログ・ボックスの「メンバー・オプション」ページで、「**選択したグループ内**」を選択した状態でズーム・インします。
- データ取得時に、#Missing値、ゼロ値またはアンダースコア文字を含む行を抑制します。



---

注:

データを非対称型レポートに取得する際、レポートが大きい場合には長時間かかることがあります。

---

## 予期しない動作の原因となるアクション

Smart Viewでは、コメント、式、カスタマイズしたレポート・レイアウトは極力保持されます。例外として、予想外の振る舞いをする可能性があるのは、次のアクションを実行した場合です:

- ページ・ディメンションにズーム・インする
- POVから行または列にディメンションをピボットする
- POVからワークシートにディメンションをドラッグ・アンド・ドロップする
- 行ディメンションを列ディメンションにピボットする
- 行ディメンションの位置を別の行に切り替える
- 列ディメンションの位置を別の列に切り替える
- 「別名表の変更」コマンドを使用してメンバーの別名を変更する
- EssbaseまたはHyperion Enterpriseデータ・ソースでは、Microsoft WordからExcelワークシートに切り取って貼り付けると、隠し文字が原因で予期しない動作をすることがあります。そのような場合は、ログから問題を特定できる管理者に連絡してください。

# 19

## Smart View診断

### この項の内容:

Smart View診断について .....	311
Smart Viewリボンの診断グループの表示 .....	311
診断機能のカスタマイズ .....	312
Smart View診断ツールの使用 .....	313
診断フォルダの消去 .....	315

## Smart View診断について

Smart Viewの使用中に問題が発生し、問題を自分で解決できない場合、Smart Viewリボンの「診断」グループにあるツールを使用して、ファイルおよびスクリーンショットを作成および収集し、Oracleサポートに送信できます。収集したファイルおよびスクリーンショットは、問題をトラブルシューティングおよび解決するためにOracleサポートで使用されます。

### 関連トピック:

[311ページのSmart Viewリボンの診断グループの表示](#)

[312ページの診断機能のカスタマイズ](#)

[313ページのSmart View診断ツールの使用](#)

[315ページの診断フォルダの消去](#)

## Smart Viewリボンの診断グループの表示

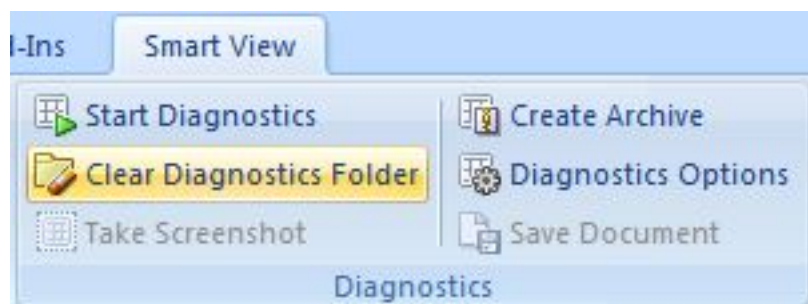
Smart Viewリボンの「診断」オプションを表示または非表示するように選択できます。Smart Viewの最初のインストール時には、「診断」オプションは表示されません。

▶ 「診断」オプションのグループを表示するには:

1. 問題が発生しているOfficeアプリケーションを開きます。
2. Smart Viewリボンから、「オプション」を選択し、「詳細」タブを選択します。
3. 「詳細」で、「**Smart Viewリボンの診断グループを表示**」を選択し、「OK」をクリックして「オプション」ダイアログ・ボックスを閉じます。

「診断」グループがSmart Viewリボンに自動的に表示されます( 312ページの図 99を参照してください)。Officeアプリケーションを再起動する必要はありません。

図99 Smart Viewリボンの診断グループのツール



4. 問題が発生している各Officeアプリケーションで、この手順を繰り返します。



注:

「診断」グループは、各Officeアプリケーションで個別に有効にする必要があります。「診断」グループは、有効にするまで他のOfficeアプリケーションでは表示されません。

5. オプション: 「診断」ツールの使用が終了したとき、Smart Viewリボンの「診断」グループを非表示にするには、「オプション」ダイアログ・ボックスの「詳細」タブで、「診断」リボン・タブの表示チェック・ボックスをクリアします。

## 診断機能のカスタマイズ

診断ツールの特定の機能をカスタマイズできます。このトピックの手順では、「診断オプション」ダイアログ・ボックスで使用可能な各オプションについて説明します



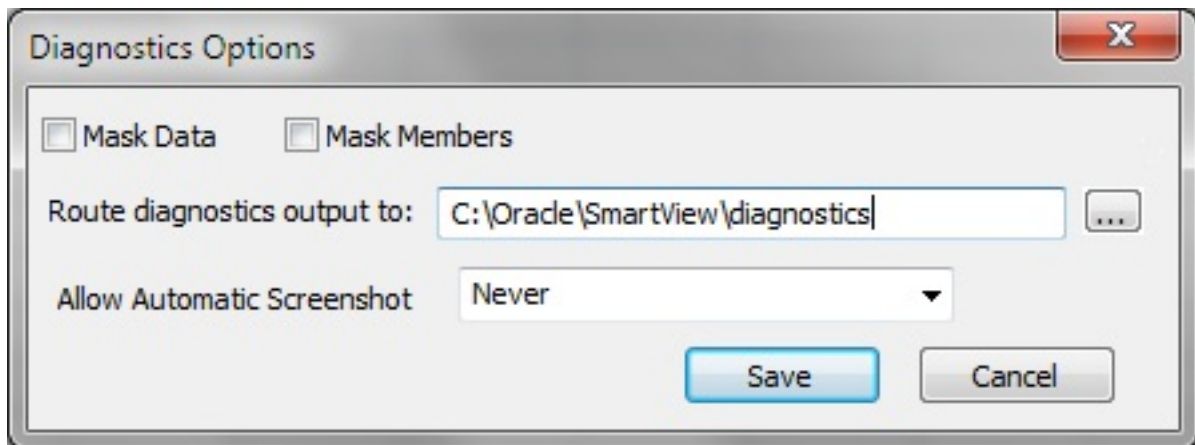
注:

次に示す手順のステップはすべてオプションです。

- ▶ 「診断」ツールをカスタマイズするには:
1. Smart Viewリボンの「診断」グループで、「診断オプション」を選択します。

313ページの図 100に示すように、「診断オプション」が表示されます。

図100 「診断オプション」ダイアログ・ボックス




2. Officeドキュメントのデータ値を非表示にするには、「データのマスク」を選択します。

機密保持の目的で出力内のデータ値を非表示にする必要がある場合、このオプションを選択します。

3. Officeドキュメントのメンバー名を非表示にするには、「メンバーのマスク」を選択します。

機密保持の目的で出力内のメンバー名を非表示にする必要がある場合、このオプションを選択します。

4. 診断出力ファイルをデフォルト以外のフォルダに送るには、「診断出力のルーティング先」で、をクリックし、ファイルを保管するフォルダの場所に移動します。

フォルダの場所を手動で入力することもできます。

デフォルトのフォルダの場所は次のとおりです:

```
C:\Users\  
username  
.  
domain  
\AppData\Roaming\Oracle\SmartView\Diagnostics
```

5. 表示される各警告またはエラー・メッセージで自動スクリーンショットを許可するには、次のオプションを選択します:

- エラー
- 警告

自動スクリーンショットを許可しない場合、「なし」(デフォルト)を選択します。

6. 「保存」をクリックして、オプションの選択を保存します。

## Smart View診断ツールの使用

Smart View診断ツールを使用して、ログ・ファイルおよびスクリーンショットの形式で問題に関するデータを収集します。収集したデータは、セッション・フォルダ(デフォルトの診断フォルダの場所または [312ページの診断機能のカスタマイズ](#)で指定した場所のいずれか)に保管されます。診断データの収集が終了したら、診断ツールを使用してファイルをzipフォーマットで圧縮します。その後、ZIPファイルを分析用にOracleサポートに送信します。

このトピックの手順では、診断データの収集、zipフォーマットでの圧縮、およびOracleサポートへの転送の方法について説明します。


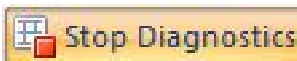
▶ Smart View診断ツールを使用するには:

1.  をクリックします。

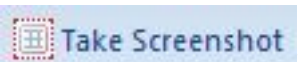
 をクリックすると、Microsoft Officeの再起動に関するメッセージが表示されます。Officeを再起動する必要はありませんが、再起動することをお勧めします。Officeを再起動すると、診断ツールでは、より多くの情報(発生する可能性がある問題の原因となる手順など)を収集できます。



注:

 をクリックすると、ボタンは  に切り替わります。


2. Officeを再起動した場合、診断している問題の原因となるSmart Viewで手順を実行します。

3.  をクリックして、問題と思われるスクリーンショットを取得すると、問題を文書化する際に役立ちます。



注:

スクリーンショットには、アプリケーションだけではなく、画面全体が含まれます。スクリーンに表示される可能性がある機密情報は、スクリーンショットに含まれないように、必ず最小限になるようにしてください。

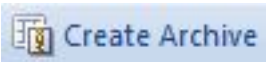
4.  をクリックして、現在開いているOfficeドキュメントを、現在のセッションの診断フォルダに保存します。

必要に応じて、ドキュメントの保存を複数実行できます。問題を最適に示し、表示するために、行っている作業中に様々なポイントでドキュメントを保存することをお勧めします。保存するたびに、Smart Viewでは、ファイル名に接尾辞を追加します((0)、(1)、(2)など)。ドキュメントは上書きされません。

ドキュメントは現在の診断セッション・フォルダに保管されます。デフォルトの場所は次のとおりです:

```
C:\Users\  
username  
.  
domain  
\AppData\Roaming\Oracle\SmartView\Diagnostics
```

5. Oracleサポートに対して問題を適切に文書化するために必要な診断の収集が終了した

 をクリックし、「アーカイブの作成」ダイアログ・ボックスで、アーカイブを保管するフォルダおよびファイル名を指定するか、デフォルトのフォルダの場所を使用します。



ファイルは、システムの「マイ ドキュメント」フォルダに次のように保管されます:

```
My Documents\Documents
```

ファイルは次のフォーマットで名前が付けられます:

```
SmartView_Diagnostics_  
ddmmyyyy  
.zip
```

6. 診断zipファイルをOracleサポート担当者に電子メール送信します。

## 診断フォルダの消去

診断zipファイルをOracleに送信したら、診断フォルダのファイルをクリアできます。




注:

診断の実行中に診断フォルダをクリアすると、現在開いているMicrosoft Officeアプリケーションの現在のセッション・フォルダを除くすべてのフォルダがクリアされます。診断が実行されていないときに診断フォルダをクリアすると、すべての最新のセッション・フォルダを含むすべての診断フォルダがクリアされます。

### 現在のセッション・フォルダを除くすべての診断フォルダのクリア

▶ 現在のセッション・フォルダを除くすべての診断フォルダをクリアするには:



1. 診断が実行中であることを確認します。
2. 

をクリックします。

このアクションによって、現在実行中のOfficeアプリケーション用に作成されたものを除くすべての診断フォルダがクリアされます。

### 最新のセッション・フォルダを含むすべての診断フォルダのクリア

▶ 最新のセッション・フォルダを含むすべての診断フォルダをクリアするには:

1.  Smart Viewリボンの「診断」グループで、 をクリックしていない場合はクリックします。
2. 問題が発生しているものも含み、開いているすべてのOfficeアプリケーションを閉じます。
3. Officeアプリケーションを開き、





をクリックします。

このアクションによって、Officeアプリケーションの最新のセッション・フォルダを含むすべての診断フォルダがクリアされます。



# Smart Viewの管理タスク

この項の内容:

拡張機能のインストールおよび更新の管理 .....	317
XMLファイルからの共有接続へのアクセス .....	325
ローカルで、またはWebサーバー上でのヘルプのインストールと構成 .....	333

Smart ViewまたはOracle Enterprise Performance Management System管理者は、この付録のタスクを完了する必要があります。

## 拡張機能のインストールおよび更新の管理

サブトピック

- [拡張機能のインストールおよび更新について](#)
- [手動更新の拡張機能の構成](#)
- [自動更新の拡張機能の構成](#)

このトピックで説明している拡張機能のインストールおよび更新プロセスによって、Smart Viewのエンド・ユーザーは、Smart View管理者がマニフェスト・ファイルUpdateList.xmlで設定したパラメータに基づいて、拡張機能をインストール、更新またはアンインストールできます。

## 拡張機能のインストールおよび更新について

### 自動更新と手動更新

Smart View 11.1.2.5.400より前のリリースでは、拡張機能は自動更新プロセスを使用して更新されていました。自動更新で拡張機能を更新するには、Smart Viewのエンド・ユーザーは、「オプション」ダイアログ・ボックスの「拡張機能」タブに移動し、「更新のチェック」リンクをクリックするか、または「Microsoft Officeの開始時に更新をチェック」チェック・ボックスを選択して、拡張機能の更新を開始できました。すべての拡張機能について、更新が入手可能な場合は、それが取得され、インストールが自動的に開始されました。

11.1.2.5.400以降のリリースでは、Smart Viewのエンド・ユーザーが拡張機能をインストール、更新および削除する際に制御できるように、拡張機能更新プロセスをカスタマイズできます。Smart View管理者は、UpdateList.xmlマニフェスト・ファイルで属性を構成して、ユーザーが使用可能なオプションを制御します。管

理者がUpdateList.xmlでこれらの属性を構成しない場合、既存の自動更新プロセスを使用して拡張機能の更新が続行されます。

## 拡張機能のタイプ

Smart Viewクライアント・マシンにインストールできる拡張機能のタイプには、次の2つがあります：

- **プロバイダの拡張機能。**Oracleコンポーネントに依存しているか、Oracleコンポーネントと統合されている拡張機能は、*プロバイダの拡張機能*です。たとえば、Oracle Hyperion Disclosure ManagementおよびOracle Hyperion Financial Reportingの拡張機能などです。プロバイダの拡張機能は、必須の拡張機能として構成できます。
- **ユーザーごとの拡張機能。**ユーザーのアプリケーション・データ・フォルダにインストールされる拡張機能です。この拡張機能は、Oracleコンポーネントに依存する場合と、依存しない場合があります。また、ユーザーごとの拡張機能は、必須の拡張機能として構成することもできます。

Smart View管理者は、UpdateList.xmlファイルを構成して、エンド・ユーザーが使用可能なプロバイダおよびユーザーごとの拡張機能のリストを、拡張機能のインストール、更新および削除のオプションとともに指定します。また、ユーザーごとの拡張機能は、必須の拡張機能のインディケータを表示するために構成することもでき、インストールを強制しません。Smart Viewのエンド・ユーザーは、「オプション」ダイアログ・ボックスにアクセスし、「拡張機能」タブで使用可能な拡張機能をインストール、更新またはアンインストールします。

プロバイダおよびユーザーごとの拡張機能のインストール、アンインストールおよび更新を構成するには、[318ページの手動更新の拡張機能の構成](#)の手順を完了します。

拡張機能更新プロセスへの変更を行わない場合、XMLの構造に関する情報および例については、[323ページの自動更新の拡張機能の構成](#)を参照できますが、これ以上のアクションを実行する必要はありません。

Smart Viewで拡張機能をインストール、更新および削除する手順については、エンド・ユーザーは、[245ページの第16章「Smart Viewのオプション」](#)の [268ページの拡張機能](#)で手順のトピックを参照できます。

## 手動更新の拡張機能の構成

### サブトピック

- [手動更新の定義されたXML](#)
- [手動更新のXMLの例](#)

Smart Viewのエンド・ユーザーが、ユーザーごとの拡張機能などの使用可能な拡張機能を表示し、「オプション」ダイアログ・ボックスの「拡張機能」タブからインストールできるように、UpdateList.xmlマニフェスト・ファイルの自動更新の拡張機能を構成できます。

2つの属性、visibleおよびallowUninstallをUpdateList.xmlマニフェスト・ファイルに追加して、拡張機能の動作を自動更新から手動更新に変更し、拡張機能が「オプション」ダイアログ・ボックスに表示されるようにできます：

- visible - 値"1"は、拡張機能が、Smart Viewの「オプション」ダイアログの「拡張機能」タブに表示され、自動更新プロセスに含まれないことを示します。

visible属性がないか、値が"1"ではない場合、拡張機能は自動更新プロセスに含まれています。

- allowUninstall - 値"1"は、ユーザーが、「削除」リンクを使用して、「オプション」ダイアログ・ボックスの「拡張機能」タブを介してアンインストールを開始できることを示します。

allowUninstall属性がないか、値が"1"ではない場合、ユーザーは、「拡張機能」インタフェースでアンインストールを開始できません(「削除」リンクは存在しません)。

この手順はオプションです。属性をUpdateList.xmlに追加しないよう選択した場合、拡張機能は11.1.2.5.400より前のリリースであったため、更新が続行されます。11.1.2.5.400より前のリリースでは、ユーザーは、「更新のチェック」リンクをクリックするか、または「Microsoft Officeの開始時に更新をチェック」チェック・ボックスを選択して、拡張機能の更新を開始します。

[321ページの手動更新の定義されたXML](#)および [322ページの手動更新のXMLの例](#)を参照してください。

▶ 拡張機能のためにUpdateList.xmlマニフェスト・ファイルに属性を追加するには:

1. 編集のためにUpdateList.xmlファイルを開きます。

マニフェスト・ファイルは次の2つの場所にあります:

- epmstatic:

```
http://
server
:
port
/epmstatic/smartview/Client/UpdateList.xml
```

- C:\Oracle\SmartView\cfg\properties.xmlの<extensionupdate>タグが指している場所

このタグに移入するには、管理者は、『Oracle Enterprise Performance Management Systemインストールおよび構成ガイド』のコマンド・ラインからのEPMシステム・クライアントのインストールに関する項の手順に従って、Smart Viewインストーラをepmstaticの静的な場所にダウンロードおよびインストールする必要があります。

2. オプション: 「オプション」ダイアログ・ボックスの「拡張機能」タブに拡張機能を表示し、自動更新プロセスから拡張機能を除外するには、visible="1"属性を拡張機能のXMLに追加します。例:

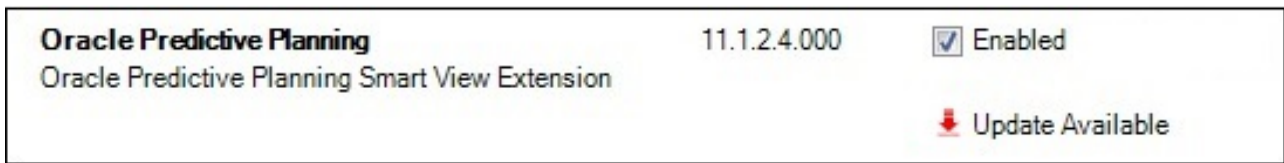
```
<update>
version="11.1.2.3.500.021"
extension id="Some.Unique.Id.That.Matches.Extension.Descriptor.Id"
location="/epmstatic/disclosure_mgmt/svext/DiscManSetup.msi"

    visible="1"


    allowUninstall="1">Oracle Disclosure Management
</extension>
```

[320ページの図 101](#)では、「拡張機能」タブに表示される拡張機能の例を示しています。

図101 「拡張機能」タブに表示される拡張機能



3.

オプション: 拡張機能の「削除」ボタン  **Remove** を表示するには、allowUninstall="1"属性を拡張機能のXMLに追加します。例:

```

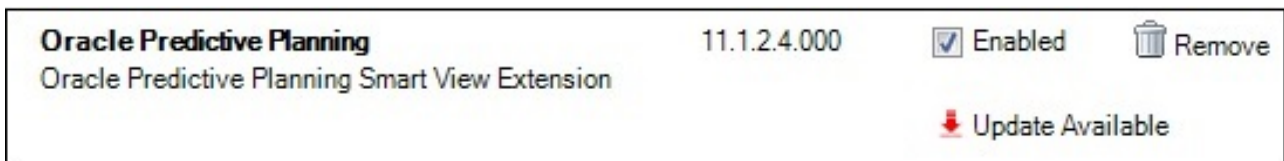
        <update>
        version="11.1.2.3.500.021"
        extension id="
            A.Unique.Id.That.Matches.Extension.Descriptor.Id
            "
        location="/epmstatic/disclosure_mgmt/svext/DiscManSetup.msi"
        visible="1"

        allowUninstall="1">Oracle Disclosure Management
    </extension>

```

320ページの図 102では、「拡張機能」タブに表示される拡張機能の例を示しています。

図102 「拡張機能」タブに表示される拡張機能



4. 要件に応じて、各プロバイダおよびユーザーごとの拡張機能に対して、319ページのステップ 2および 320ページのステップ 3を繰り返します。
5. オプション: UpdateList.xmlファイルの自動更新で使用可能な拡張機能のリストから単一の拡張機能を削除するには、<!--と-->の文字で拡張機能をコメントアウトする代替の方法を使用します。例:

```

        <!--
    <extension>
    location="/epmstatic/disclosure_mgmt/svext/DiscManSetup.msi" version="11.1.2.4.078"
    id="
        nnnnnnnn
        -
        nnnn
        -
        nnnn
        -
        nnnn
        -
        nnnnnnnnnnnn
        "> Oracle Disclosure Management
    </extension>

        -->

```

手動更新プロセスからすべての拡張機能を除外することが目標である場合、拡張機能のリスト全体をコメントアウトすることもできます。

## 手動更新の定義されたXML

- <update>

ルート・ノード。これはタグです。

- <extension>

<extension>属性の親ノード。これはタグです。

<extension>の属性は次のとおりです:

- id

拡張機能識別子。識別子は、拡張機能で定義されたSVExtensionDescriptor.GUIDに一致する必要があります。これはGUIDである必要はなく、一意であることのみが必要です。この名前はWindowsレジストリに表示されます。このため、読取り可能な識別子を使用することをお勧めします(例: Oracle.Disclosure.Management)。

- format

値"1"は、拡張機能のエントリが、Smart View 11.1.2.5.400で導入された手動更新のXMLフォーマットを使用していることを示します。このXMLフォーマットは、標準の自動更新フォーマットより多くのユーザー・インタフェース機能をサポートします。

- version

拡張機能のバージョン番号。バージョン番号は、拡張機能アセンブリでの拡張機能ディスクリプタのバージョンと完全に一致している必要があります。

- svVersion

拡張機能が機能するSmart Viewのバージョン。

- visible

拡張機能を「オプション」ダイアログ・ボックスの「拡張機能」タブに表示するには、この値を"1"に設定します。これを"1"に設定すると、拡張機能は自動更新プロセスに含まれません。

- manualUpdate

ユーザーがインストールの更新のためにExcelを閉じる必要がある場合、この値を"1"に設定します。更新インストーラ・ファイルがダウンロードされ、Officeの再起動が必要であることを示すメッセージが表示されます。また、ダウンロード・フォルダが開きます。

- manualInstall

ユーザーがインストールのためにExcelを閉じる必要がある場合、この値を"1"に設定します。インストーラ・ファイルがダウンロードされ、Officeの再起動が必要であることを示すメッセージが表示されます。ダウンロード・フォルダが開きます。

## ○allowUninstall

「削除」ボタンを「オプション」ダイアログ・ボックスの「拡張機能」タブに表示するには、この値を"1"に設定します。

## ○type

拡張機能のタイプ。有効な値は次のとおりです：

- 0 = オプションの拡張機能
- 1 = プロバイダの拡張機能
- 2 = Smart Viewクライアント

## ○required

拡張機能に「必須」または「推奨」アイコンを表示する場合に設定します。表示可能なアイコン以外、アクションは行われません。

### • <name>

拡張機能の名前。これはタグです。

### • <desc>

拡張機能の説明。これはタグです。

"default"属性を使用します。拡張機能のデフォルトの説明が、「拡張機能」タブに表示される説明になります。

### • owner

拡張機能の作成者または所有者(Oracleなど)。

### • location

拡張機能インストーラ・ファイルの場所およびファイル名。これには、msiまたはsvextを指定できます。exeはサポートされていません。

### • <uninstallMsg>

オプション: アンインストールの際に、ユーザーにカスタム・メッセージが表示されます。

"default"属性を使用します。uninstallMsgのデフォルトの説明が、アンインストール中に表示されるカスタム・メッセージになります。

### • <options>

オプション。msiのインストールの場合のみ。Microsoft Windowsインストーラ・ツールMsiexec.exeのすべてのオプションがサポートされます。

## 手動更新のXMLの例

```
<update>
<extension id="Oracle.SmartView.ExtensionSamples.PowerPack.AdjustData"
  format="1"
  version="1.1.3.0"
  svVersion="11.1.2.2.310"
```

```

visible="1" allowUninstall="1"
manualUpdate="0"
manualInstall="0"
type="0"
required="1">
<name>Adjust Data</name>
<desc default="Simple data adjustment panel for use with Smart View">
<owner>Oracle</owner>
<location>file://
    server_name
    /shared/ExtensionInstallers/AdjustDataInstaller.svext
</location>
<uninstallMsg default="This will remove the extension and all its components"
</uninstallMsg>
</extension>
</update>

```

## 自動更新の拡張機能の構成

### サブトピック

- [自動更新の定義されたXML](#)
- [自動更新のXMLの例](#)

visibleおよびallowUninstall属性をUpdateList.xmlマニフェスト・ファイルに追加して、自動更新プロセスに含まれる拡張機能の動作を変更できます。

属性をUpdateList.xmlに追加しない場合、既存の自動更新プロセスを使用して拡張機能の更新が続行されます。

visibleおよびallowUninstall属性を自動更新の拡張機能に追加するには、[318ページの手動更新の拡張機能の構成](#)の手順を完了します。

[324ページの自動更新の定義されたXML](#)および [325ページの自動更新のXMLの例](#)を参照してください。

<!--と-->の文字を使用して拡張機能をコメント・アウトすることによって、UpdateList.xmlファイルの自動更新で使用可能な拡張機能のリストから単一の拡張機能を削除することもできます。例:

```

<!--
<extension>
location="/epmstatic/disclosure_mgmt/svext/DiscManSetup.msi" version="11.1.2.4.078"
id="
    nnnnnnnn
    -
    nnnn
    -
    nnnn
    -
    nnnn
    -
    nnnnnnnnnnnn
    "> Oracle Disclosure Management
</extension>
-->

```



拡張機能のリスト全体をコメントアウトすると、すべての拡張機能が手動更新プロセスから除外されます。

## 自動更新の定義されたXML

- <update>

ルート・ノード。これはタグです。

- <extension>

拡張機能名が含まれるテキスト。これはタグです。拡張機能名は、「オプション」ダイアログ・ボックスの「拡張機能」タブに表示されます。拡張機能名の例は、Oracle 予測プランニング拡張機能、Disclosure Management、データの調整などです。

<extension>の属性は次のとおりです:

- id

拡張機能識別子。識別子は、拡張機能で定義されたSVExtensionDescriptor.GUIDに一致する必要があります。これはGUIDである必要はなく、一意であることのみが必要です。この名前はWindowsレジストリに表示されます。このため、読取り可能な識別子を使用することをお勧めします(例: Oracle.Disclosure.Management)。

- version

拡張機能のバージョン番号。

- location

拡張機能インストーラ・ファイルの場所およびファイル名。これには、msiまたはsvextを指定できます。exeはサポートされていません。

- operation

オプション。自動更新では、ユーザーがOfficeを開いたときアンインストールが自動的に開始するようにするには、この値を"delete"に設定します。



注:

ユーザーが初めてOfficeを開いたとき、Smart Viewで拡張機能をアンインストールする必要があると判断した場合、その後にOfficeを開くと、アンインストール・プロセスが開始します。

---

- オプション

オプション。msiのインストールの場合のみ。Microsoft Windowsインストーラ・ツールMsiexec.exeのすべてのオプションがサポートされます。

- visible

拡張機能を「オプション」ダイアログ・ボックスの「拡張機能」タブに表示するには、この値を"1"に設定します。これを"1"に設定すると、拡張機能は自動更新プロセスに含まれません。

- allowUninstall

「削除」ボタンを「オプション」ダイアログ・ボックスの「拡張機能」タブに表示するには、この値を"1"に設定します。

## 自動更新のXMLの例

```
<update>
<extension id="A.Unique.Id.That.Matches.Extension.Descriptor.Id"
  version="11.1.2.3.500.021"
  location="/epmstatic/disclosure_mgmt/svext/DiscManSetup.msi"
  visible="1"
  allowUninstall="1">Disclosure Management
</extension>

<extension id="Another.Unique.Id"
  version="11.1.2.3.300"
  location="/epmstatic/SomeSetup.msi"
  operation="delete">Crystal Ball EPM
</extension>

<extension id="And.Another.Unique.Id"
  version="11.1.2.3.300"
  location="/epmstatic/SomeSetup.msi"
  options="/promptrestart">Oracle Predictive Planning"
</extension>
</update>
```

## XMLファイルからの共有接続へのアクセス



注:

このトピックの手順は、共有接続にのみ適用されます。

XMLファイルの共有接続情報を使用して、Smart Viewプロバイダに接続できます。XMLファイルは、各Smart Viewクライアント・マシン上にローカルに、またはWebサーバー上に置くことができます。「オプション」ダイアログ・ボックスの「共有接続URL」フィールドでXMLファイルを指定し、アクセス権を持つその他の共有接続と同様に、使用可能な接続にアクセスします。

Smart Viewの「共有接続」パネルからOracle BI EEプロバイダに接続するには、このトピックの手順に従う必要が**ありません**。ただし、[22ページのプライベート接続の作成](#)に示されている手順を使用して、「プライベート接続」パネルからOracle BI EEのデータ・ソースに接続することもできます。



注:

このXMLファイルでは、ASCII文字のみがサポートされます。このファイルに作成するエントリでは、ASCII以外の文字を使用しないでください。



---

#### 注意

このトピックの手順はシステム管理手順であり、ご使用の環境のSmart Viewを管理している人が実行する必要があります。

---

▶ XMLファイルで共有接続を設定するには:

1. 任意のテキスト・エディタを使用して空のXMLファイルを作成し、Smart Viewクライアント・マシンに保存します。

ファイルにSmartViewProviders.xmlなどの意味のある名前を付け、拡張子を.xmlにします。



---

#### 注:

このXMLファイルでは、ASCII文字のみがサポートされます。このファイルに作成するエン트리では、ASCII以外の文字を使用しないでください。

---

2. ファイルの先頭に次の行を追加します:

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
```

3. 次に、res\_GetProvisionedDataSourcesの開始タグを追加します:

```
<res_GetProvisionedDataSources>
```

4. 適切なプロバイダに対するエントリを追加します。

Provider Services (Essbase)、Planning、Financial Management、Reporting and Analysis、Strategic FinanceおよびOracle BI EEのエントリを追加できます。

エントリを作成する際は、構文を正確にコピーし、それらの書き換えのみを行ってください:

- ProductタグのdisplayVersion属性:

version - 指定するプロバイダのバージョン番号。

- Serverタグのcontext属性:

webServerHost - Webサーバー・ホスト・マシン名。

19000|8900|9704 または構成済のwebServerPort番号 - Webサーバー・ポート番号。各プロバイダの構文にすでに記述されている、デフォルトのポート番号を使用してください。または、デフォルトとは異なるポート番号を使用してシステムを構成した場合は、それを指定してください。

各プロバイダ・タイプに対する構文を以下に示します。

Oracle Hyperion Provider Services (Oracle Essbase)

```
<Product id="APS" name="APS-11.1.2" displayVersion="
version
">
```

```
<Server name="Oracle Hyperion Provider Services" context="http://
webServerHost
:19000
or configured webServerPort number
/aps/SmartView"></Server>
</Product>
```

### Oracle Hyperion Planning

```
        <Product id="HP" name="HP-11.1.2" displayVersion="
version
">
<Server name="Oracle Hyperion Planning, Fusion Edition" context="http://
webServerHost
:19000
or configured webServerPort number
/HyperionPlanning/SmartView"></Server>
</Product>
```

### Oracle Hyperion Financial Management

```
        <Product id="HFM" name="HFM-11.1.2" displayVersion="
version
">
<Server name="Oracle Hyperion Financial Management, Fusion Edition"
context="http://
webServerHost
:19000
or configured webServerPort number
/hfmadf/./hfmoofficeprovider/HFMOfficeProvider.aspx"></Server>
</Product>
```

### Oracle Hyperion Reporting and Analysis

```
        <Product id="RAFramework" name="RAFramework-11.1.2" displayVersion="
version
">
<Server name="Reporting and Analysis Framework" context="http://
webServerHost
:19000
or configured webServerPort number
/raframework/browse/listXML"></Server>
</Product>
```

### Oracle Hyperion Strategic Finance

```
        <Product providerType="ExtensionProvider" id="HSF" name="HSF-11.1.2"
displayVersion="
version
">
<Server name="Oracle Hyperion Strategic Planning, Fusion Edition" context="
webServerHost
:8900
or configured webServerPort number
```

```
    /StrategicPlanning/SmartView"></Server>
</Product>
```

Oracle Business Intelligence Enterprise Edition

```
    <Product providerType="ExtensionProvider" id="27EE9B0D-D5F5-42c9-
AFC5-44FEA770C693" name="OBI EE-11.1.1.7" displayVersion="
    version
    ">
<Server name="Oracle BI, Fusion Edition" context="OBI:http://
    webServerHost
    :9704
    or configured webServerPort number
    /analytics/jbips"></Server>
</Product>
```

5. オプション: ローカルで、または内部URLからヘルプにアクセスする場合は、ヘルプを特定するエントリを追加します。

- ローカル・ドライブ上にインストールされているヘルプ:

```
<helpurlcontext>file:///
parent_language_folder_path
/</helpurlcontext>
```

例:

```
<helpurlcontext>file:///C:/Oracle/SmartView/smartview_help/</
helpurlcontext>
```

- Webサーバーにインストールされているヘルプ:

```
<helpurlcontext>http://
webServerHost
:
webServerPort
/
pathToHelpFiles
/smartview_help/</helpurlcontext>
```

例:

```
<helpurlcontext>http://abcxyzco.com:12345/user_documentation/
smartview_help/</helpurlcontext>
```

**注意:**

- この手順は、XMLファイルから共有接続にアクセスする予定があり、ローカル・ドライブまたは組織内のWebサーバーからヘルプにアクセスする必要がある場合にのみ実行します。ヘルプの設定手順については、[333ページのローカルで、またはWebサーバー上でのヘルプのインストールと構成](#)を参照してください。
  - <helpurlcontext>タグを使用すると、[337ページの共有接続XMLファイルによるオプションのローカル・ヘルプ構成](#)に従ってproperties.xmlファイルの<helpurlcontext>タグで指定したデフォルトの場所または変更した場所が、指定したヘルプの場所によってオーバーライドされます。
6. オプション: User Productivity Kit (UPK)に対するエントリを追加します:

```
<UPK>http://  
link to User Productivity Kit  
</UPK>
```

**例:**

```
<UPK>http://download.abcxyzco.com/ocomdocs/PlayerPackage/data/  
toc.html</UPK>
```

7. res\_GetProvisionedDataSources終了タグを追加してファイルを完成させ、保存します。

```
</res_GetProvisionedDataSources>
```

完全な構文とファイルをセットアップする方法の例については、[331ページの接続ファイルの構文と例](#)を参照してください。

8. ファイルをテストします。
- a. 次のいずれかのアクションを行います:
    - XMLファイルをローカル・ドライブにコピーする場合は、ファイルをSmart Viewクライアント・マシンのローカル・ドライブにコピーしてください。

たとえば、ファイルをSmartView\binディレクトリにコピーします。

  - ファイルをWebサーバーにコピーする場合は、XMLファイル名と.xml拡張子を含む完全修飾URLからファイルにアクセスできることを確認してください。
- b. Smart Viewを起動して、「オプション」ダイアログ・ボックスで共有接続URLを編集し、ファイル名の拡張子.xmlを含むファイルへのフル・パスまたはURLを追加します。



**注:**

ローカル・ドライブのパスまたはURLにファイル名の拡張子.xmlが含まれない場合、この機能は動作しません。

- ローカル・ドライブの例:

```
C:/Oracle/SmartView/bin/SmartViewProviders.xml
```

ファイル・パスではスラッシュ(/)をセパレータとして使用します。

ディレクトリ・パスとファイルが共有接続のリストですぐに使用可能になります。

- WebサーバーURLの構文:

```
http://  
webServerHost  
:  
webServerPort  
/  
pathToFile  
/  
filename  
.xml
```

WebサーバーURLの例:

```
http://abcxyzcowebserver:1234/SmartViewDataSources/  
SmartViewProviders.xml
```

URLが共有接続のリストで利用可能になります。

- c. [20ページのデータ・ソースへの接続](#)の説明に従って、Smart Viewパネルの「共有接続」オプションを使用してファイルに接続します。

プロバイダのエントリが「共有接続」ドロップダウン・リストにない場合、XMLファイルに構文の誤りか無効な文字が含まれている可能性があります。



ヒント:

XMLを検証するには、ファイルをInternet Explorerなどのブラウザで開きます。ブラウザによって無効な構文が指されます。XMLファイル・エディタでエラーを修正して保存し、ブラウザの表示をリフレッシュします。

9. XMLファイルが正しく、完了したら、次のいずれかの手順を実行します。

- XMLファイルをローカル・ドライブにコピーする場合は、次の指示とともにファイルをSmart Viewユーザーに配布します。
  1. このファイルは変更しないでください。
  2. このファイルをSmart Viewクライアント・マシンのローカル・ドライブにコピーしてください。

たとえば、ファイルをSmartView\binフォルダにコピーします。

3. Smart Viewを起動し、「オプション」ダイアログ・ボックスで、ファイル名および.xml拡張子を含むローカル・ドライブ上のファイルへのフル・パスで共有接続URLを編集します。例:

```
C:/Oracle/SmartView/bin/SmartViewProviders.xml
```

ファイル・パスではスラッシュ(/)をセパレータとして使用します。

ディレクトリ・パスとファイルが共有接続のリストですぐに使用可能になります。

4. [20ページのデータ・ソースへの接続](#)の説明に従って、Smart Viewパネルの「共有接続」オプションを使用してファイルに接続してテストします。

接続に問題がある場合は、Smart View管理者に連絡してください。

- XMLファイルをWebサーバーにコピーする場合は、次の指示をSmart Viewユーザーに通知します:

1. Smart Viewを起動して、「オプション」ダイアログ・ボックスで、ファイル名および.xml拡張子を含む指定されたURLで共有接続URLを編集します。例:

```
http://abcxyzcowebserver:1234/SmartViewDataSources/  
SmartViewProviders.xml
```

2. [20ページのデータ・ソースへの接続](#)の説明に従って、Smart Viewパネルの「共有接続」オプションを使用してこのURLに接続してテストします。

接続に問題がある場合は、Smart View管理者に連絡してください。

3. **Internet Explorerユーザー:** 手順aで指定されたURLを使用する場合は、Internet Explorerで次のオプションを設定することをお勧めします:
  - a. 「ツール」、「インターネット オプション」を選択します。
  - b. 「全般」タブの「閲覧の履歴」グループで「設定」を選択します。
  - c. 「保存しているページの新しいバージョンがあるかどうかの確認」セクションで「Webサイトを表示するたびに確認する」を選択して、「OK」をクリックします。
  - d. 「インターネット オプション」ダイアログ・ボックスで「詳細設定」タブを選択します。
  - e. 「セキュリティ」セクションで「ブラウザを閉じたとき、[Temporary Internet Files] フォルダーを空にする」オプションを選択します。
  - f. 「OK」をクリックして「インターネット オプション」を閉じ、ブラウザを再起動します。

## 接続ファイルの構文と例

以下に、完全なファイル構文を示します:

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>  
<res_GetProvisionedDataSources>  
<Product id="APS" name="APS-11.1.2" displayVersion="
```



```

        version
        ">
<Server name="Oracle Hyperion Provider Services" context="http://
    webServerHost
    :19000
    or configured webServerPort number
    /aps/SmartView"></Server>
</Product>
<Product id="HP" name="HP-11.1.2" displayVersion="
    version
    ">
<Server name="Oracle Hyperion Planning, Fusion Edition" context="http://
    webServerHost
    :19000
    or configured webServerPort number
    /HyperionPlanning/SmartView"></Server>
</Product>
<Product id="HFM" name="HFM-11.1.2" displayVersion="
    version
    ">
<Server name="Oracle Hyperion Financial Management, Fusion Edition" context="http://
    webServerHost
    :19000
    or configured webServerPort number
    /hfmadf/../hfmoofficeprovider/HFMOfficeProvider.aspx"></Server>
</Product>
<Product id="RAFramework" name="RAFramework-11.1.2" displayVersion="
    version
    ">
<Server name="Reporting and Analysis Framework" context="http://
    webServerHost
    :19000
    or configured webServerPort number
    /raframework/browse/listXML"></Server>
</Product>
<Product providerType="ExtensionProvider" id="HSF" name="HSF-11.1.2" displayVersion="
    version
    ">
<Server name="Oracle Hyperion Strategic Planning, Fusion Edition" context="http://
    webServerHost
    :8900
    or configured webServerPort number
    /StrategicPlanning/SmartView"></Server>
</Product>
<Product providerType="ExtensionProvider" id="27EE9B0D-D5F5-42c9-AFC5-44FEA770C693"
    name="OBI EE-11.1.1.7" displayVersion="
    version
    ">
<Server name="Oracle BI, Fusion Edition" context="OBI:http://
    webServerHost
    :9704
    or configured webServerPort number
    /analytics/jbips"></Server>
</Product>
<helpurlcontext>
    a valid entry as per optional step 5
</helpurlcontext>
<UPK>http://
    link to User Productivity Kit
</UPK>
</res_GetProvisionedDataSources>

```

次の例は、各プロバイダ・タイプのエントリ、および組織の内部Webサーバーからヘルプにアクセスするためのエントリを示しています。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<res_GetProvisionedDataSources>
<Product id="APS" name="APS-11.1.2" displayVersion="11.1.2.2.500">
<Server name="Oracle Hyperion Provider Services" context="http://
abcsvr.xyzco.com:19000/aps/SmartView"></Server>
</Product>
<Product id="HP" name="HP-11.1.2" displayVersion="11.1.2.2.000">
<Server name="Oracle Hyperion Planning, Fusion Edition" context="http://
abcsvr.xyzco.com:19000/HyperionPlanning/SmartView"></Server>
</Product>
<Product id="HFM" name="HFM-11.1.2" displayVersion="11.1.2.2.300">
<Server name="Oracle Hyperion Financial Management, Fusion Edition" context="http://
abcsvr.xyzco.com:19000/hfmadf/./hfmofficeprovider/HFMOfficeProvider.aspx"></Server>
</Product>
<Product id="RAFramework" name="RAFramework-11.1.2" displayVersion="11.1.2.2.000">
<Server name="Reporting and Analysis Framework" context="http://
abcsvr.xyzco.com:19000/raframework/browse/listXML"></Server>
</Product>
<Product providerType="ExtensionProvider" id="HSF" name="HSF-11.1.2"
displayVersion="11.1.2.2.00.2266">
<Server name="Oracle Hyperion Strategic Planning, Fusion Edition" context="http://
abcsvr.xyzco.com.com:8900/StrategicPlanning/SmartView"></Server>
</Product>
<Product providerType="ExtensionProvider" id="27EE9B0D-D5F5-42c9-AFC5-44FEA770C693"
name="OBI EE-11.1.1.7" displayVersion="11.1.1.7">
<Server name="Oracle BI, Fusion Edition" context="OBI:http://abcsvr.xyzco.com:9704/
analytics/jbips"></Server>
</Product>
<helpurlcontext>http://abcxyzcowebserver:12345/user_documentation/smartview_help/</
helpurlcontext>
<UPK>http://download.abcxyzco.com/ocomdocs/PlayerPackage/data/toc.html</UPK>
</res_GetProvisionedDataSources>
```

## ローカルで、またはWebサーバー上でのヘルプのインストールと構成

Smart Viewのインストール後、Oracle.com WebサイトでホストされているURLからオンライン・ヘルプが取得されます。これはSmart Viewのデフォルト動作であり、ヘルプを起動するのにユーザーが変更を加える必要はありません。

ただし、ヘルプをローカルで、または組織のWebサーバーでインストールする必要がある場合があります。Oracle.com以外の場所からヘルプにアクセスする必要がある例をいくつか示します。

- アクセシビリティ第508条のために、ヘルプ・ファイルを個人のコンピュータのローカル・ドライブにインストールする必要がある場合。
- インターネットのアクセス制限。たとえば、ユーザーが組織のイントラネットのURLにしかアクセスできない場合。

上記のようなケースに対処するには、ヘルプをMy Oracle Supportからダウンロードしてローカル・ドライブまたはWebサーバー上に配置し、Smart Viewのproperties.xmlファイルを変更する必要があります。



注:

要件に応じて、「XMLファイルからの共有接続へのアクセス」の [328ページのステップ 5](#)の説明に従って、共有接続XMLファイルで [325ページのXMLファイルからの共有接続へのアクセスタグ](#)を指定することもできます。詳細は、[337ページの共有接続XMLファイルによるオプションのローカル・ヘルプ構成](#)を参照してください。

▶ Smart Viewヘルプをローカルで、またはWebサーバーでインストールして構成するには:

1. My Oracle Supportから、このリリースのヘルプzipファイルを入手します。
2. Smart Viewがインストールされているコンピュータ上のローカル・フォルダか、組織のHTTP Webサーバー上のユーザーがアクセスできるフォルダに、ヘルプzipファイルのコンテンツを抽出します。

例:

- コンテンツを次の場所にローカルに抽出します。

```
C:\Oracle\SmartView\
```

抽出により、smartview\_helpという名前のフォルダが追加されます。結果は次のとおりです:

```
C:\Oracle\SmartView\smartview_help
```

- コンテンツをWebサーバーに抽出します。

```
http://  
webServerHost  
:  
webServerPort  
/  
pathToHelpFiles
```

抽出により、pathToHelpFilesの後にsmartview\_helpが追加されます。結果は次のとおりです:

```
http://  
webServerHost  
:  
webServerPort  
/  
pathToHelpFiles  
/smartview_help
```

smartview\_helpフォルダの下には、次のような28の言語フォルダがあります。

```
C:\Oracle\SmartView
  \smartview_help
    \ar
    \cs
    \da
    \de
    \el
    \en
    \es
    \fi
    \fr
    \fr_CA
    \he
    \hu
    \it
    \ja
    \ko
    \nl
    \no
    \pl
    \pt
    \pt_BR
    \ro
    \ru
    \sk
    \sv
    \th
    \tr
    \zh_CN
    \zh_TW
```

次の言語フォルダには、翻訳されたバージョンのSmart Viewヘルプが含まれます。

```
          \de
\es
\fr
\it
\ja
\ko
\nl
\pt_BR
\zh_CN
\zh_TW
```

残りの言語フォルダには、英語バージョンのヘルプが含まれます。これらのいずれかの言語(スウェーデン語など)でSmart Viewを実行する場合、ヘルプのボタンをクリックすると、英語のヘルプが表示されます。

また、英語フォルダには、PDF形式のヘルプのコピーが含まれます(smartview\_user.pdf)。

3. Smart Viewのproperties.xmlファイルでhelpurlcontextプロパティを変更します。

- a. Smart ViewインストールのSmartView\cfgフォルダに移動します。
  - b. 元のproperties.xmlファイルのバックアップ・コピーを作成します。
  - c. 編集のためにproperties.xmlを開きます。
  - d. 次の構文を使用し、言語フォルダの親フォルダのパスを指定して、helpurlcontextプロパティを変更します。
- ローカルでインストールする場合は、次の構文を使用して言語フォルダの親フォルダのパスを指定します。

```
<helpurlcontext>file:///
parent_language_folder_path
/</helpurlcontext>
```



---

ヒント:

構文にはスラッシュを使用し、指定した言語フォルダ・パスの後に、最後のスラッシュを入れてください。

---

334ページのステップ 2の例を使用すると、zipコンテンツをC:\Oracle\SmartViewに抽出した後、smartview\_helpフォルダが言語フォルダの親フォルダになります。したがって、parent\_language\_folder\_pathプレースホルダを次のように変更します。

```
<helpurlcontext>file:///C:/Oracle/SmartView/
smartview_help/</helpurlcontext>
```

- Webサーバー上でインストールする場合は、次の構文を使用して言語フォルダの親フォルダのパスを指定します。

```
<helpurlcontext>http://
webServerHost
:
webServerPort
/
pathToHelpFiles
/smartview_help/</helpurlcontext>
```



ヒント:

構文にはスラッシュを使用し、指定した言語フォルダ・パスの後に、最後のスラッシュを入れてください。

334ページのステップ 2の例を使用し、pathToHelpFilesをuser\_documentationで置換すると、zipコンテンツをhttp://abcxyzco.com:12345/user\_documentationに抽出した後、smartview\_helpフォルダが言語フォルダの親フォルダになります。例:

```
<helpurlcontext>http://abcxyzco.com:12345/  
user_documentation/smartview_help</helpurlcontext>
```

4. Microsoft Officeアプリケーションを再起動して、Smart Viewリボンからヘルプにアクセスします。
5. Smart Viewローカル・ヘルプが必要なコンピュータごとに、この手順を繰り返します。

## 共有接続XMLファイルによるオプションのローカル・ヘルプ構成

新しいインストールでは、Excelを起動するとすぐにSmart Viewヘルプを使用できます。ヘルプを表示するために、Smart Viewプロバイダに接続する必要はありません。ローカルで、またはWebサーバー上でのヘルプのインストールと構成の説明に従って [333ページのローカルで、またはWebサーバー上でのヘルプのインストールと構成](#)ファイルに変更を加えた後は、指定したヘルプの場所からヘルプにアクセスできます。

XMLファイルからも共有接続にアクセスする予定があり( [325ページのXMLファイルからの共有接続へのアクセス](#)の説明に従って)、ヘルプの代替の場所が必要な場合は、次の点に注意してください。

- <helpurlcontext>タグを共有接続XMLファイルに追加できます。Smart Viewパネルの「共有接続」ボタンをクリックすると、共有接続XMLファイルで指定したヘルプの場所により、properties.xmlで指定したヘルプの場所がオーバーライドされます。これは、properties.xmlで<helpurlcontext>タグを変更したかどうかにかかわらず当てはまります。
- <helpurlcontext>タグを共有接続XMLファイルに追加または指定しない場合は、常にproperties.xmlファイルで指定したローカル・ヘルプが使用され、Excelを起動後すぐに使用可能になります。



# B

## Smart Viewでの他のアプリケーションの使用方法

### この項の内容:

Crystal Ball EPM .....	339
Smart ViewおよびSpreadsheet Add-in .....	340
関数の移行 .....	341

適切なライセンスを保有している場合には、Smart Viewとともに次のアプリケーションを使用できます。

### Crystal Ball EPM



Crystal Ball EPM は、Smart Viewデータ・ソースのデータをシミュレーションおよび予測のワークブックで分析するために使用します。これはCrystal Ball EPMモデルを伴う1つ以上のワークシートで構成されるExcelワークブックであり、各ワークシートはサポートされている任意のデータ・ソースに接続することができます。これらはEPM Workspaceリポジトリに一元的に格納され、Smart Viewパネルを通じてアクセスと管理が可能です。

詳細は、Crystal Ball EPMのドキュメント・セットを参照してください。

### Crystal Ball EPMワークブックの操作

Smart Viewパネルから実行できるシミュレーションおよび予測のワークブックの操作は、EPM Workspace管理者が設定する権限によって異なります。

▶ Crystal Ball EPMワークブックのデータを操作するには:

1. Smart Viewのリボンで、「パネル」を選択します。
2. Smart Viewパネルで  をクリックし、「ワークブックのシミュレーション」を選択します。
3.  をクリックし、要求された場合にはCrystal Ball EPMリポジトリにログインします。そのユーザーが権限を持つワークブックのツリー・リストが表示されます。
4. ワークブックをダブルクリックして開きます。
5. Crystal Ball EPM製品ドキュメントでの説明に従って、Crystal Ball EPMの操作を実行します。

ワークシート上のOracle Crystal Ball Enterprise Performance Managementモデルは、データ・ソースのワークシートとは別に保管することをお勧めします。

6. 必要に応じて「データの送信」をクリックします。



## ツールバー操作

「ワークブックのシミュレーション」ツールバーのボタンを使用して、ツリー・リストのワークブックおよびフォルダに対して次の操作を実行します。

- リポジトリへの接続
- ワークブックの追加、保存、削除
- フォルダの追加と名前変更

340ページの表 39に示されている文字は、フォルダ名には使用できません。

表39 フォルダ名で制限されている文字のリスト

文字	説明
¥	円記号(バックスラッシュ)
/	スラッシュ
%	パーセント記号
?	疑問符
+	プラス符号
<	小なり記号
>	大なり記号
	縦棒
'	一重引用符
"	二重引用符
*	アスタリスク
:	コロロン

- ツリー・リストのリフレッシュ
- ワークブック・ファイルを格納する場所と、通信するEPM Workspaceエージェントを指定するオプションを設定します(これらのオプションは、サーバーで実行されるすべてのセッションにわたって適用されます)。これには、「オプション」をクリックして次の情報を入力します。
  - URL: Webサービス・エージェントのURL。次の構文を使用します: `http://<host>/raframework/services/BiPlus`
  - フォルダ: ワークブック・ファイルを保存するリポジトリ・フォルダの名前

## Smart ViewおよびSpreadsheet Add-in

Smart ViewおよびSpreadsheet Add-inの両方が同じコンピュータ上にインストールされている場合、マウス・アクションはSpreadsheet Add-inのコマンドと解釈されます。Smart Viewでマウス・コマンドを制御する場合は、Spreadsheet Add-inを介して確立されたEssbase接続でのみ、コマンドに対応するようSpreadsheet Add-inに指示できます。

- ▶ Smart Viewでマウス・コマンドを制御できるようにするには:

1. Excelを開きます。
2. 「Essbase」、「オプション」、「グローバル」の順に選択します。
3. 「接続されているシートに制限」を選択します。
4. 「OK」をクリックします。

Essbaseへの接続が、Smart ViewではなくSpreadsheet Add-inを介して確立されている場合以外、Smart Viewがマウス・コマンドを制御します。



注:

同じワークブック内でSmart ViewおよびOracle Essbase Spreadsheet Add-inからデータ・ソースに接続することは可能ですが、同じワークシート上では接続できません。

## 関数の移行

Financial ManagementとHyperion Enterpriseの関数は、移行ユーティリティを使用して現在のSmart View構文に変換することができます。

## ワークブックの変換

移行ユーティリティを使用すると、Financial Managementのデータ取得関数またはHyperion EnterpriseのHP取得関数およびVBA取得関数を含むワークブックを変換することができます。たとえば、HFMMVal、HFMLnk、HFMLab、HFMDesおよびHFMCurなどのFinancial Management関数や、HPVVal、HPLnk、HPCur、HPHea、HPCdeおよびHPFulなどのHyperion Enterprise関数を変換できます。

ユーティリティでは変換できない関数もあります。一部の関数は手動で調整する必要があります。

セル参照を使用する関数については、次の関数に変換されます。

- 関数のすべてのパラメータがセル参照である場合。たとえば、次のように指定できます: =HFMMVal(\$B\$1&\$C\$1&\$B\$2&\$C\$3&\$B\$5&\$C\$5&\$B\$6&\$C\$6)
- 関数でディメンション・パラメータが指定されていて、メンバーがセル参照で、ピリオド・セパレータがハード・コード化されている場合。たとえば、次のように指定できます: =HFMMVal("S#"&D2&".Y#"&D3&".VW#"&D5&".')

セル参照を使用する次の関数は変換されません。

- 関数でディメンション・パラメータが指定されていて、メンバーおよびピリオド・セパレータがセル参照である場合。たとえば、次のように指定できます: =HFMMVal("S#" &E2& "Y#"&E3& VW#" &E5), where E2=Actual, E3=2004, E5=<Scenario View>.
- 関数でディメンション・パラメータが指定されていて、メンバーがセル参照で、ピリオド・セパレータが個別のセル内にある場合、関数は変換されません。例: =HFMMVal("S#"&F2&C1&"Y#"&F3&C1&"VW#"&F5&C1), where C1=(ピリオド・セパレータ)
- 関数で指定されているアプリケーションがセル参照である場合。
- ワークブックのセルに1024文字を超える文字が含まれている場合、ワークブックは正しく変換されません。セルに含まれるデータのサイズを小さくするには、複数の関数を参照するか、バックグラウンドPOVで設定できるディメンションを除去します。

移行ユーティリティを実行する前に、パスが正しいことを確認します(デフォルト・パスはMIDDLEWARE\_HOME \EPMSysstem11R1\common\empstatic\wsspace\です)。移行中には、Excelによってアドイン・ファイルの元のパスが関数に挿入されます。そのため関数が長くなりすぎ、エラーになることがあります。Excelの制限上、Smart Viewの関数は256文字を超えることができません。

## 1つのワークブックの変換

データ・ソース・タイプ: Financial Management, Hyperion Enterprise

▶ ワークブックを変換するには:

1. Smart Viewのリボンから、「詳細」を選択し、「**アクティブ・ワークブックの移行(Financial Management)**」または「**アクティブなワークブックの移行(Hyperion Enterprise)**」を選択します。

関数にアプリケーション参照が含まれている場合は、アプリケーションを対応する接続にマップする必要があります。

2. 「**変換**」、「**OK**」の順にクリックします。
3. 移行結果が表示されます。これには、変換できなかった関数の一覧が含まれます。これらの関数は手動で調整できます。
4. 変換結果を保存するには、「**結果の保存**」をクリックします。
5. 結果ファイルの保管場所を選択し、「**保存**」をクリックします。
6. 「**閉じる**」をクリックします。

## 複数のワークブックの変換

データ・ソース・タイプ: Financial Management, Hyperion Enterprise

▶ 複数のワークブックを変換するには:

1. Smart Viewのリボンから「詳細」を選択し、「**移行のバッチ処理(Financial Management)**」または「**移行のバッチ処理(Hyperion Enterprise)**」を選択します。
2. 「移行ウィザード」で「**追加**」をクリックし、変換するワークブックを選択します。
3. 「**次**」をクリックします。関数にアプリケーション参照が含まれている場合は、アプリケーションを接続にマップする必要があります。

移行結果が表示されます。これには、変換できなかった関数の一覧が含まれます。これらの関数は手動で調整できます。

4. Oracle Hyperion Enterprise(R)の場合は、変換されたワークブックが自動的に元のワークブックの保存場所に保存されます。Financial Managementの場合は、「**結果の保存**」をクリックします。
5. 結果ファイルの場所を選択し、「**保存**」をクリックします。
6. 「**完了**」をクリックします。

## 関数の接続の移行

Financial Managementでは、Smart Viewに移行するときに、アプリケーション参照を含まない関数に対して接続または接続参照を選択できます。

▶ 関数の接続を移行するには:

1. Smart Viewのリボンから、「詳細」、アクティブ接続の移行の順に選択します。
2. 「関数移行 - アプリケーション参照」で、いずれかのオプションを選択します。
  - 関数を接続参照で更新しない。
  - 「接続名を既存関数に追加」を選択し、「接続名」リストから接続名を選択します。この場合、指定された接続名を使用するすべての関数が更新されます。
  - 「選択したワークシート内の接続リストを参照して関数を更新」を選択し、「セルの参照」で参照するセル(例: A2)を入力します。この場合、現在のワークシートのセルを参照するすべての関数が更新されます。
  - 「新ワークシートの接続リストを参照して関数を更新」を選択し、「ワークシート名」と「セルの参照」を入力します。この場合、ワークブック内の別のワークシートのセルを参照するすべての関数が更新されます。



---

ヒント:

関数で接続名を参照するためのドロップダウン・リストを任意のセルに作成できます。Smart Viewのリボンから、「詳細」、「接続リストの挿入」の順に選択すると、現在のセルで選択できる接続のリストが表示されます。

---

3. 「OK」をクリックします。





## 情報の検索

この項の内容:

Smart Viewのアクセシビリティ .....	345
Smart ViewのVBA関数 .....	345
データ・ソースおよびその他の製品 .....	345
Oracle User Productivity Kitの使用 .....	345

### Smart Viewのアクセシビリティ

Smart Viewのアクセシビリティ機能に関する情報は、*Oracle Smart View for Officeアクセシビリティガイド*にあります。このガイドは、EPMドキュメント・ライブラリにあります。このライブラリを開くには、Smart Viewのリボンから、「ヘルプ」の隣の矢印をクリックし、「**EPMドキュメント**」をクリックします。

### Smart ViewのVBA関数

Smart ViewのVBA関数に関する情報は、*Oracle Smart View for Office開発者ガイド*にあります。このガイドは、EPMドキュメント・ライブラリにあります。このライブラリを開くには、Smart Viewのリボンから、「ヘルプ」の隣の矢印をクリックし、「**EPMドキュメント**」をクリックします。

### データ・ソースおよびその他の製品

一般に、このガイドには、Oracle Smart View for Officeでサポートされるデータ・プロバイダの機能を使用するための手順情報のみが記載されています。データ・プロバイダおよび他の製品の詳細は、EPMドキュメント・ライブラリで入手可能な製品ドキュメントを参照してください。このライブラリを開くには、Smart Viewのリボンから、「ヘルプ」の隣の矢印をクリックし、「**EPMドキュメント**」をクリックします。

### Oracle User Productivity Kitの使用

Oracle User Productivity Kit (UPK)がデプロイされており、管理者によってEPM WorkspaceにUPK Playerパッケージの有効なURLが構成されている場合、ユーザーはEPM SystemのUPKコンテンツにアクセスできます。UPKの構成の詳細は、『*Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace管理者ガイド*』および*Oracle User Productivity Kitインアプリケーション・サポートガイドのWorkspaceサーバーの設定に関する項*を参照してください。



---

注:

事前構築済のUPKコンテンツ・モジュールが使用可能です。Oracle.com (<http://www.oracle.com/us/products/applications/tutor-upk/064788.html>)で入手可能なOracle Enterprise Performance Management SystemのUPKを含むデータ・シートを参照してください。Financial ManagementおよびPlanningモジュールには、Smart ViewおよびOracle Hyperion Financial Reporting Studioの該当するコンテンツが含まれます。Financial ManagementおよびPlanningでは、コンテキストに依存したUPKコンテンツの呼出しがサポートされています。Smart ViewまたはReporting Studioから起動されるUPKコンテンツでは、コンテキストでフィルタ処理されていない完全プレーヤ・パッケージのアウトラインが起動されます。Reporting StudioおよびSmart Viewのユーザーは、役割フィルタを使用して、Smart ViewまたはOracle Hyperion Financial Reporting Studioのコンテンツのみを表示できます。

---

UPKヘルプを開くには、Smart Viewのリボンで「ヘルプ」の隣にある矢印をクリックし、「**Oracle User Productivity Kit**」を選択します。



# 制限事項

## この項の内容:

全般 .....	347
Essbase .....	348
Planning .....	349
Financial Management .....	350
FDM .....	350

この付録では、Smart Viewの操作時に適用される制限事項を説明します。

## 全般

- PowerPointでは、Microsoftスマート・タグを介してSmart View関数にアクセスできない場合があります。

**回避策:**「smartview」(Smart Viewのスマート・タグ)と再入力して、PowerPointがスマート・タグを再ロードするようにします。

- 保存済のフリー・フォーム・ワークブックを開いて、リフレッシュする前に「オプション」ダイアログ・ボックスで「メンバー名のみ」または「メンバー名および説明」の設定を変更すると、メンバーの表示オプションが機能しません。

**回避策:**「メンバー名のみ」または「メンバー名および説明」設定を使用する前に、グリッドをリフレッシュします。

- Microsoft Wordの制約により、システム定義オプションであるリスト・セパレータの値が正規表現のアンカー文字(^および\$を含みますが、これに限定されません)のいずれかに設定されている場合、Wordが式タイプのフィールドを挿入できず、コピーと貼付けが失敗することがあります。

**回避策:**「コントロール パネル」、「地域と言語のオプション」、「地域オプション」、「標準と形式」、「カスタマイズ」、「数値」の順に選択して、リスト・セパレータのオプションを変更します。

- Smart Viewパネルでシミュレーション・ワークブックを介して取得された**Get**関数があるExcelワークブックを保存する場合、ファイル拡張子を変更しないでください。
- シート名が31文字を超える場合、シート名が切り捨てられる可能性があります。これはExcelの制約です。
- OutlookとともにSmart Viewを使用するには、Visual Basic Scripting Supportをインストールし、Outlookでマイ・コンピュータからの実行を選択しておく必要があります。詳細は、Outlook製品のドキュメントを参照してください。
- Microsoft Wordで、レポート・デザイナーで作成されたレポートのスライド・コントロールのサイズが変更される場合があります。
- Oracle Essbase StudioがソースのキューブからFDMへのドリルスルーを実行する場合、関係するすべての製品(Workspace、Provider Services、Essbase、Essbase Studio、FDM)のセッションが終了する前にEPM



Systemのシングル・サインオン(SSO)トークンの期限が切れると、次のメッセージが表示されます: シングル・サインオンを使用するシステムへのログオン中にエラーが発生しました。管理者に問い合わせてください。エラー: 2067 -- アプリケーションへのアクセス権がありません!

**回避策:** Smart ViewからEPM Workspaceに再度ログインしてください。

- スマート・スライス・レポートのスライダは、レポートを閉じて再度開いた後に正しく表示されません。このようになるのは、Office 2007のActiveXコントロールおよびOLEオブジェクトのMicrosoftセキュリティ設定のためです。この問題の解決策の詳細は、Microsoftサポート・サイトを参照してください。
- Internet Explorer 6から7または8にアップグレードすると、デフォルトのタイムアウトが3分から30秒に減ります。この設定がSmart Viewによって使用されると、長時間実行する問合せでタイムアウトの問題が発生することがあります。

**回避策:** Microsoftサポート・サイトの説明に従って、Internet Explorerのデフォルトのキープアライブのタイムアウト値を増やします。

- Microsoft COMまたは自動化アドインを使用してExcelを開くと、Smart ViewリボンまたはSmart Viewメニューが表示されず、Smart Viewを自動化できません。これは、自動化してSmart Viewをロードできないために発生します。

**回避策:** ExcelをOfficeインストール・フォルダ(通常、C:\Program Files\Microsoft Office\Office12)にあるEXCEL.EXEから開きます。この回避策が有効なのは、さらなる自動化が不要な場合のみです。詳細および完全な回避策は、[My Oracle Support](#)にあるナレッジ・ベース・ドキュメント1453237.1『SmartView Functionality Changed: Cannot Automate SmartView from Another Program』を参照してください。

- スマート・クエリーで、値に基づくフィルタ定義で等号(=)を使用すると、結果が戻されないことがあります。これは、Smart ViewでExcelの数値として表示される小数点桁数が、接続用にEssbaseで設定されている桁数と異なる場合に発生します。

**回避策:** ExcelとEssbaseの両方で、数値として表示される小数点桁数について同じ設定を使用します。

- スマート・スライスをレポートに挿入してシートをリフレッシュした場合、レポート表がリフレッシュされず、表データが表示されません。

**回避策:** データが表示されない場合、最初のいくつかの空のセルをクリックすると、データが表示されるようになります。

## Essbase

- クエリー・デザイナーで、名前にドット(.)が含まれるメンバーに対して子孫または最上位/最下位問合せを実行すると、Smart Viewによって構文エラーが生成されます。
- Essbaseから実行する計算スクリプトをSmart Viewから実行できないことがあります。これは、Smart Viewでの計算アクセス権が制限されているユーザーの場合に起きる可能性があります。計算スクリプトは、接続されているデータベースに対して実行されます。
- 「元に戻す」を実行する場合、以前選択したPOVのみが保存され、最近選択したメンバーは除去されます。

**回避策:** 「元に戻す」を使用せずに、「POVにピボット」を使用します。これにより、そのディメンションのメンバーがすべてPOVに置換されます。

- スマート・スライスでSmart Viewの操作を実行してリフレッシュを行う場合、右上隅のXボタンをクリックしてExcelを閉じようとする、アサーションに失敗したことを示すエラー・メッセージが表示されます。このメッセージが表示されても問題はなく、「OK」をクリックして閉じて差し支えありません。
- デイメンションに約100,000を超えるメンバーが含まれている場合、「メンバー選択」ダイアログ・ボックスで「検索」を使用すると、Excelのパフォーマンスが著しく低下したりフリーズする場合があります。
- マージされたセルを使用すると、次の問題が発生することがあります：
  - マージされたセルが行デイメンションに存在する場合、最も深い行デイメンションの一番上のセルにズーム・インすると、適切なマージが維持されません。
  - マージされたセルに行デイメンションで「式/フォーマットの充てん」オプションを使用する場合、最も深い行デイメンションにズーム・インすると、「式/フォーマットの充てん」によってセルが適切に充てんされません。

POVに複数のデイメンションを含める必要があります。POVにデイメンションが1つのみ存在する場合、リフレッシュするとグリッドにピボットされます。

- 関数ビルダーは、同じ名前を持つ代替変数どうしを区別できません。
- グリッドの外側のセルに入力された数値がリフレッシュ時に失われることがあります。
- 空白セルの列の左側にメンバーを追加すると、リフレッシュ後に新規メンバーが失われることがあります。これは、空白セルが有効な交差部ではないために発生します。
- 以前のバージョンのEssbaseに接続する場合、スマート・クエリー・ワークシートからアド・ホック分析に切り替えると、スマート・クエリーを使用して作成したカスタム・メンバーが適用されないことがあります。
- メンバー名にハッシュ記号(#)が含まれるとエラーが発生します。

**回避策:** メンバー名にハッシュ記号を使用しないでください。

- Smart Viewで、デュアル・モニター操作がサポートされません。たとえば、複数のモニターに接続している際、Microsoft WordおよびPowerPointでスマート・スライスのPOVコントロールが正しく表示されないことがあります。

## Planning

- 1つ以上の関数グリッドおよびコントロール(スライダまたはPOV)を含む新しいスマート・スライスから作成したレポートをExcelワークブック全体にカスケードしている場合、カスケードされたレポートを保存しないよう選択すると、Excelが異常終了することがあります。
- 変数が#Missingを許可するよう設定されている場合でも、Smart ViewではCalc Managerルールに#Missingを使用できません。
- Excelワークブックで前に保存したデータ・フォームで、メンバーを展開すると、データが誤ってゼロまたは「アクセス権なし」として表示されます。

**回避策:** 正しいデータを表示するには、ワークシートをリフレッシュするか、データを送信します。

- OutlookがOracle Beehive用として構成されている場合、Smart Viewを介してOutlookにインポートされたタスクが原因でエラーが発生する可能性があります。

**回避策:** Outlookの「送受信」設定で、タスク・リストのフォルダに対して「許可しない」を選択します。詳細は、Outlookのドキュメントを参照してください。

- 欠落の抑制オプションがtrueに設定されている場合、オフライン・データ・フォームで読取り専用動的計算セルが誤って書込み可能として表示されることがあります。

- Smart Viewで別の言語に変更しても、オフライン・ウィザードの表示が英語のままです。
- Smart Viewパネルから「新規サーバーの追加」を介して追加されたPlanningサーバーが、Outlook内のSmart Viewパネルに表示されません。
- Planningデータ・フォームで「**行の抑制**」が使用可能である場合、サーバーに戻って同期すると、ビジネス・ルールを使用してオフライン・モードで作成されたデータの新規行が保存されません。
- 「**オフライン・モードで行ったデータ変更を保存する**」が選択されていない場合、オフライン・データ・フォームで行った変更はリフレッシュ時にPlanning Webのデータによって置き換えられる必要があります。ただし、データ・フォームで「**値のない行の抑制**」が選択されている場合、リフレッシュ時にこれらの変更が保持されます。
- Outlook 2007のタスクのショートカット・メニューでは、タスクの割当ておよび完了としてマークのアイテムが断続的にのみ動作する場合があります。
- 大きいタスク・リストからタスクを開いた後、OutlookでSmart Viewパネルを閉じるのに時間がかかる場合があります。理由は、タスク・リストは閉じるときに常にリフレッシュされ、リフレッシュに必要な時間は、タスク・リストのタスクの数にある程度依存しているためです。
- リリース11.1.2.1以降、Smart Viewは、Provider Servicesを介してPlanningに接続できません。Oracle Hyperion Planningに直接接続することはできます。

## Financial Management

- レポートに含まれるドキュメントを閉じてから再度開くと、レポートに挿入されたPOVコントロールが無効になることがあります。これは、ActiveXコントロールが無効である場合に発生します。

**回避策:** Microsoft OfficeでActiveXコントロールを有効にします。

- Financial Managementのバージョン11.1.2に接続されている場合、Smart Viewの最新バージョンでリフレッシュを実行すると、接続タイムアウトが発生します。この問題は、Financial Management 11.1.2.2以降、対処されています。
- 列の抑制オプションの問題により、Financial Managementグリッドが「グリッドの形式が誤っています。」というエラーとともに開かれます。
- Oracle Hyperion Financial Managementデータ・ソースに接続している状態で、列の抑制オプション「データなし/欠落」および「ゼロ」を選択してアド・ホック分析を実行すると、「リフレッシュ」をクリックした後、対応する列が抑制されず、引き続きシートに表示されます。

## FDM

Oracle Hyperion Financial Data Quality Managementでは、Oracle Essbaseドリルスルーの別名表をサポートしていません。

# 用語集

アド・ホック・レポート	エンド・ユーザーが動的に作成するオンライン分析問合せです。
アプリケーション	1)特定のタスクまたはタスクのグループを実行するために設計されたソフトウェア・プログラムです(スプレッドシート・プログラム、データベース管理システムなど)。2)必要とされる特定の分析またはレポート、あるいはその両方に対応するために使用される、ディメンションおよびディメンション・メンバーの関連するセットです。
基本ディメンション	1つ以上の属性ディメンションに関連付けられている標準ディメンションです。たとえば、製品に味があるとすると、ProductディメンションがFlavors属性ディメンションの基本ディメンションとなります。
キューブ	3つ以上のディメンションを含むデータのブロックです。Essbaseデータベースはキューブです。
兄弟	他の子メンバーと同世代で、すぐ上に同じ親を持つ子メンバーです。たとえば、メンバーFloridaとメンバーNew YorkはメンバーEastの子であり、互いの兄弟です。
行の抑制	欠落値を含む行を除外し、スプレッドシート・レポートからの文字にアンダースコアを付ける設定です。
欠落データ(#MISSING)	ラベル付けされた場所のデータが存在しないか、値が含まれていないか、データが入力されていないか、またはロードされていないことを示すマーカーです。たとえば、勘定科目に当期ではなく過去または将来の期間のデータが含まれている場合は、欠落データが存在します。
最新	最新の期間として定義されたメンバーからデータ値を取得するために使用される、スプレッドシートのキーワードです。
サポート詳細	セルの値を算出した計算および仮定です。
式の保持	データ取得中にワークシート内に保持される、ユーザーが作成した式です。
子孫	データベース・アウトラインで親の下に位置するメンバーです。たとえば、年、四半期および月を含むディメンションでは、メンバー第2四半期およびメンバー4月がメンバー年の子孫となります。
実行時プロンプト	ビジネス・ルールが実行される前にユーザーが入力または選択する変数です。
シナリオ	データを分類するためのディメンションです(実績、予算、予測1、予測2など)。
修飾名	定まったフォーマットのメンバー名です。重複メンバーのアウトラインにおいて、重複メンバー名を区別します。([Market].[East].[State].[New York],[Market].[East].[City].[New York]など。)
重複メンバー名	データベース内に複数存在する、それぞれ異なるメンバーを表す同一のメンバー名です。たとえば、ニューヨーク州を示すメンバーとニューヨーク市を示すメンバーが存在する場合、データベースにNew Yorkという名前のメンバーが2つ含まれることがあります。データベースにNew Yorkという名前のメンバーが2つ含まれることがあります。
スマート・スライス	Smart Viewで、データ・ソースの再利用可能なパースペクティブです。ディメンションまたはディメンション・メンバーの限定的なセットを含みます。
スマート・タグ	「スマート・タグ」メニューで使用可能な、事前定義されたアクションに関連付けられたMicrosoft Officeアプリケーションのキーワードです。Oracle EPM

System製品でも、スマート・タグを使用してReporting and AnalysisのコンテンツのインポートやFinancial ManagementおよびEssbaseの機能へのアクセスが可能です。

世代	データベースにおけるメンバーの関係を定義する階層ツリー構造内のレイヤーです。各世代は、ディメンションの最上位メンバー(世代1)から子メンバーへと1世代ずつ下に配置されていきます。一意の世代名を使用すると、階層ツリー内のレイヤーを特定できます。
セル	1)マルチディメンショナル・データベースのディメンションの交差を表すデータ値です; ワークシート上の行および列の交差を指します; 2)管理ドメインに属するノードの論理グループです。
セル・ノート	Essbaseデータベースでセルに付けられるテキスト注釈です。セル・ノートはLROの一種です。
属性	ディメンション・メンバーの特性です。たとえば、従業員ディメンション・メンバーには、名前、年齢、または住所の各属性があります。製品ディメンションのメンバーはサイズ、味などの複数の属性を持つ可能性があります。
属性ディメンション	ディメンションの一種です。ディメンションのメンバーの属性や特質に基づいて分析できます。
属性レポート	基本ディメンション・メンバーの属性に基づくレポート作成プロセスです。「基本ディメンション」も参照してください。
祖先	その下にメンバーを含む分岐メンバーです。たとえば、メンバーQtr2とメンバー2006はメンバーAprilの祖先です。
タスク・リスト	特定のユーザーについて、タスクの詳細ステータスを示すリストです。
ディメンション	ビジネス・データを整理して値の取得や保持のために使用されるデータ・カテゴリです。通常、ディメンションには関連するメンバーをグループ化した階層が含まれます。たとえば、年ディメンションには、四半期や月など期間ごとのメンバーが含まれています。
データ・フォーム	Webブラウザなどのインターフェースからデータベースにデータを入力でき、データまたは関連テキストを表示して分析できるグリッド表示です。一部のディメンション・メンバー値は固定され、データが特定の視点から表示されます。
動的時系列	ブロック・ストレージ・データベースで、期間累計のレポート作成を実行するプロセスです。
時系列レポート	カレンダーの日付(年、四半期、月、週など)に基づくデータのレポート作成プロセスです。
ドリルスルー	あるデータ・ソースの値から別のソースの対応するデータに移動することです。
ネスト列見出し	複数のディメンションからのデータを表示するレポート列の列見出しのフォーマットです。たとえば、YearとScenarioのメンバーが含まれる列ヘッダーはネスト列です。ネスト列ヘッダーでは、ヘッダーの一番上の行のQ1 (Yearディメンション)が、ヘッダーの一番下の行のActualおよびBudget (Scenarioディメンション)で修飾されます。
ビジネス・ルール	期待される一連の結果値を生成するためにアプリケーション内に作成される論理式または式です。
ピボット	取得したデータのパーспекティブを変更します。Essbaseでは、まずディメンションが取得され、データが行に展開されます。その後、データのピボット(並べ替え)を行うことにより、異なる視点を得られます。

フリーフォーム・グリッド	動的計算のために、複数のソースからのデータを提示、入力、および統合するためのオブジェクトです。
フリーフォーム・レポート作成	ワークシートにディメンション・メンバーまたはレポート・スクリプト・コマンドを入力することにより、レポートを作成することを指します。
ページ	グリッドまたは表での情報表示の一種です。しばしばZ軸により示されます。ページには、1つのフィールドからのデータ、計算により得られるデータまたはテキストを含めることができます。
ページ見出し	レポートの現在のページで表示されているメンバーをリストした、レポート見出しの一種です。ページ上のすべてのデータ値には、ページ見出し内のメンバーが共通属性として適用されています。
ページ・メンバー	ページ軸を決定するメンバーです。
メタデータ	データベースに保管された、またはアプリケーションにより使用されるデータのプロパティと属性を定義および説明するデータ・セットです。メタデータには、ディメンション名、メンバー名、プロパティ、期間およびセキュリティなどが含まれます。
メンバー	ディメンション内の個別のコンポーネントです。メンバーにより、類似する単位の集まりが個別に特定および区別されます。たとえば、時間ディメンションには1月、2月、および第1四半期などのメンバーが含まれることがあります。
ユーザー変数	ユーザーのメンバー選択に基づいてデータ・フォームを動的に配置し、指定されたエンティティのみを表示する変数です。たとえば、Departmentというユーザー変数を使用すると、特定の部署および従業員を表示できます。
リンク・パーティション	データ・セルを使用して2つのデータベースをリンクするための共有パーティションです。ワークシートのリンク・セルをクリックすると、リンク・データベースのディメンションを示す新しいシートが開きます。これにより、表示されるディメンションをドリル・ダウンできます。
ルート・メンバー	ディメンション分岐における最上位のメンバーです。
レベル	階層ツリー構造において、データベース・メンバーの関係を定義するレイヤーです。レベルは一番下のディメンション・メンバー(レベル0)から上位の親メンバーへと並べられます。
レベル0のメンバー	子の存在しないメンバーです。
レポート・オブジェクト	レポートの設計において、テキスト・ボックス、グリッド、イメージ、チャートなどの動作や外観を定義するプロパティを持つ基本要素です。
MDX (マルチディメンショナル式)	マルチディメンショナル準拠データベースで問合せと計算に使用される言語です。
POV (視点)	行、列またはページ軸に割り当てられていないメンバーを選択することにより、データ・フォーカスを設定する機能です。たとえば、FDMでのPOVの選択項目には、場所、期間、カテゴリ、およびターゲット・カテゴリが含まれる可能性があります。また、Smart ViewでPOVをフィルタとして使用すると、通貨ディメンションをPOVに割り当て、ユーロのメンバーを選択できます。データ・フォームでこのPOVを選択すると、ユーロの値にデータが表示されます。

